

講 義 概 要

シラバス

共通科目	P. 139
専門科目(英語観光学科・英語キャリア学科)	P. 175
専門科目(観光ホスピタリティ学科)	P. 239
専門科目(心理こども学科)	P. 245
教職に関する科目(英語観光学科・英語キャリア学科)	P. 299

現代人間学部
共通科目

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教入門	ET/PC	11101	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹田 文彦	必修	2			

授業の到達目標

本学の建学の精神でもあり、また世界に20億人以上の信者を有し、西洋文明の源泉として人類の歴史と文化に多大な影響を与えてきたキリスト教について学び、理解することを目的とする。この授業を通して、KAISEIパーソナリティの異文化理解のIn(国際性)とキリスト教が説く他者に対する隣人愛、K(思いやり)の心を養います。

授業の概要

本講座は、キリスト教とはいったいかなる宗教であるかを、その成立の過程を歴史的、文献的に検討することを通して明らかに使用とするものである。キリスト教の中心的使信であるイエス・キリストの福音への信仰は、いかにして生まれ、形成されていったかを聖書ならびにキリスト教成立に関わる古代諸文書を読み解きながら探ってみたい。最初に宗教としてのキリスト教の特質について言及したあと、キリスト教誕生の過程を聖書の叙述をもとに考察する。キリスト教誕生の母胎となった古代イスラエルの信仰、ナザレのイエスの生涯と教え、エルサレム原始教団の成立と信仰、使徒パウロの宣教などを論じる。

授業計画

1. 序論 ― キリスト教を学ぶ意味
 - I. イエス・キリストの信仰
2. II. キリスト教の聖典としての聖書 ― 聖書とはいかなる書物か
3. III. 古代イスラエルの信仰 ― キリスト教への道備え
 - ① 族長時代 信仰の父アブラハム 1. 旅立つ人
 4. " 信仰の父アブラハム 2. イサク奉獻と神の計画
 5. ② 出エジプト モーセ 1. 神の名前
 6. " モーセ 2. 「十戒」
 7. ③ カナン定着と戦う神
 8. ④ 王国の発展 ― 古代イスラエルの歴史叙述と申命記史観
 9. ⑤ 王国の分裂と預言者の活躍
 - ― アモス、ホセア、第一イザヤ、エレミヤ、ヨナ
 10. ⑥ バビロン捕囚の体験 ― 神の不在から神の再発見へ
 11. ⑦ ユダヤ教の成立とメシア待望 ― 第二イザヤ
 12. IV. ナザレのイエス ― その生涯と教え
 - ① 史的イエスと信仰のキリスト ― イエスについての資料
 13. ② イエスの宣教活動

14. ③ イエスの裁判、十字架上の死と復活
15. V. エルサレム原始教団と使徒パウロ
 - まとめ ― 生き方としてのキリスト教

授業の方法

※必ずご記入ください

準備学修

講座全体を通して受講生には、キリスト教の聖典であり、人類の古典である聖書を読み、その内容に親しんでもらいたい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

最低でも3分の2以上の出席が必要である。

テキスト

『聖書』（新共同訳（旧約統編つき）） 日本聖書協会（新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書

荒井章三『ユダヤ教の誕生 ― 「一神教」成立の謎』講談社学術文庫。
加藤隆『一神教の誕生 ― ユダヤ教からキリスト教へ』講談社現代新書。
A. ノーラン『キリスト以前のイエス』新世社。
C. Rowland, Christian Origins. SPCK.

留意事項

この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、真にキリスト教を理解するためにはただ単にキリスト教に関する知識を頭に入れるだけではなく、学生一人一人が「信じる」という人間の生き方に主体的な関心を抱き、人間の苦悩とキリスト教の説く神の救いの意味について深く考えることが必要である。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書概論	ET/PC	11105	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石丸 脩子	必修	2			

授業の到達目標

聖書の基本的な思想、本格的な内容を形作っている要素を探求し、その思想や概念が人類の歴史・文化の中にどのように現れているかを参照し、知的満足のためではなく、心を開き、人間として真実に生きるための光とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)、I(知性)とE(倫理)を目指す。

授業の概要

神と人間の歴史における出会いの物語である旧約聖書・新約聖書全般についての基礎知識を得て、具体的に聖書の箇所を読み、質問、分かち合いを含めながら聖書に親しむ。聖書記者が当時の世界像から取った題材としてこれを用い、彼らが言おうとしていること、その教えの内容を受け止められるようにする。それが単なる知識にとどまらず、人間とは何か、神とは何か、そして人間と神との関係は何かを一人一人の人生の中で味わう。

授業計画

1. 聖書を読むということ ― 聖書について
2. イエスの告げた福音
3. イエスのもたらした解放 ― 新たな出発
4. イエスの人との接し方 ― 一人を立ち上がらせる
5. リフレクション
6. ゆるしと愛 ― 神の心
7. 神の国(天の国) ― 山上の説教
8. 祈り ― 「主の祈り」
9. イエスの力ある業 ― 悪の克服
10. リフレクション
11. 最後の晩餐 ― 永遠のいのち ― いのちの糧
12. イエスの誕生 ― クリスマス(降誕祭)
13. イエスの苦しみと死 ― 受難と十字架の死
14. エマオの弟子たち ― 復活 ― 希望の保証
15. リフレクション ― 全体のまとめ

授業の方法

講義形式と小グループで話し合う。リアクション・ペーパーを提出する。

準備学修

『聖書』（新共同訳）の最初、創世記1章～11章までを読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点減点とする。

テキスト

『聖書』旧約聖書統編つき 新共同訳 日本聖書協会 発行
イエス登場！(気合の入ったキリスト教入門) 来住英俊著 ドン・ボスコ新書

参考図書

『旧約聖書』図解雑学 雨宮慧著 ナツメ社
『聖書 Q & A』和田幹男監著 女子パウロ会
『聖書読解へのアクセス 50のポイント』湯浅俊治著 教友社

留意事項

聖書とルーズリーフ形式のノート(大きさは自由)を毎時間持参すること。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教海外研修			11109	I	集	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標
 本学と深い関係のあるアシジの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アシジを訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力をもつ。この授業では1（国際性）に重点を置く。

授業の概要
 中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアシジを中心に8泊9日の研修の旅を実施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、観賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

授業計画

1. 研修に出る前の準備のクラス 第1回 ―イエスの生涯を中心に―
2. 研修に出る前の準備のクラス 第2回 ―フランシスコの生涯と思想―
3. 研修に関する具体的な準備の集まり
4. 研修の日程1日目: 関西空港から出発ミラノ着
5. 研修の日程2日目: ミラノにて大聖堂、聖アンブロジーオ教会等を訪問
6. 研修の日程3日目: フィレンツェにて聖マルコ修道院、大聖堂を訪問
7. 研修の日程4日目: アシジの聖フランシスコ大聖堂、クララ教会等を訪問
8. 研修の日程4日目: マリアでデリアンジェリ教会へ
9. 研修の日程5日目: アシジにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
10. 研修の日程5日目: サンダミアノ修道院へ
11. 研修の日程6日目: ローマのフォロロマーノ、ラテラノ教会等を訪ねる
12. 研修の日程7日目: バチカン美術館、特にシステリーナ礼拝堂を訪ねる
13. 研修の日程7日目: サンピエトロ大聖堂
14. 研修の日程8日目: 日本に向けて出発

15. 研修の日程9日目: 関西空港着

授業の方法
 事前の講義と研修旅行。

準備学修
 アシジの聖フランシスコやイタリアについて書物や映像資料などで調べておくこと。

課題・評価方法
 事前の講義の出席、研修旅行での態度、事後のレポートなどを総合的に評価。

テキスト
 川下勝『アッシジのフランシスコ』清水書院、2004

参考図書
 J.ヨルゲンセン著、佐藤要一訳『アシジの聖フランシスコ』ドン・ボスコ社、1988
 チェラノのトマス著、石井健吾訳『聖フランシスコ第一伝記』あかし書房、1989

留意事項
 研修はフランシスコをよりよく理解するためなので、他者と協力し、助け合う精神をもつこと。たま、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に関心をもって望んでほしい。また、視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、観賞したりする努力をしてほしい。

教員連絡先
 ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書と現代	ET/PC		11113	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹田 文彦	必修	2				

授業の到達目標
 現代社会が抱えている様々な問題を取り上げ、それらに対する聖書の教え、キリスト教の教説、歴史的取り組みなどを紹介しながら、受講生一人一人が、主体的に考え、行動できる力を養うことを目標としている。この授業は、KAISEIパーソナリティのI(知性)とS(奉仕)を学ぶクラスである。

授業の概要
 現代は、科学技術が急速な進歩を遂げる一方で、様々な既存の価値が崩壊し、ますます多様化、多元化する社会の中で人々が自分にとって最も大切なものは何か、また、自分はどうのように生きていけるのかを見つけているのが、大変困難な時代となっている。一般にポスト・モダンと呼ばれるこのような社会状況の中で長い歴史をもつ伝統宗教としてのキリスト教もその対応と存在意義が改めて問われている。キリスト教は、現代社会が直面する様々な問題にどのように取り込み、答えようとしているのか。本講座では、現代社会との関わりにおいて21世紀におけるキリスト教のメッセージを読み解こうとする試みである。

授業計画

1. 序 ―現代を生きるキリスト教
2. I. 人間 ―真に人間らしく
 - ①「男と女」―新しい関係を求めて
 - ②「家庭」―危機と再生
 - ③「生と死」―生命倫理をめぐって
3. ④リフレクション①
4. II. 社会 ―価値多様化と多文化共生を目指して
 - ④「戦争と平和」―平和の作り方
 - ⑤「民族主義と差別」
 - ⑥「宗教多元主義の問題」
5. ⑦リフレクション②
6. III. 世界 ―グローバル化の進退の中で
 - ⑦「富・貧・欲望」
 - ⑧「環境破壊とエコロジー」
7. ⑧リフレクション③
8. IV. 将来への展望 ―希望を抱いて
 - ⑨「不幸・不公平」―人間の苦しみと神の義の問題

14. ⑩「世の終わりと希望」
 15. リフレクション④

授業の方法
 講義と受講生によるディスカッションを組み合わせで行う。

準備学修
 現代社会が抱えている様々な問題を取り上げるので、日頃から問題意識をもって、自ら考える習慣を身につけて欲しい。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 授業の中でリアクション・ペーパーを書いてもらったり、ディスカッションを行う。それらへの積極的参加も平常点の一部として扱うので最低でも3分の2以上の出席がなければ学期末レポートを提出する資格を失う。

テキスト
 『聖書』（新共同訳（旧約統編つき）） 日本聖書協会（新規に購入するならN143DCH-APを勧めるが、新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書
 芦名定道、土井健司、辻学 『現代を生きるキリスト教 ―もう一つの道から』 教文館。
 教皇庁正義と平和協議会 『教会の社会教説綱要』 カトリック中央協議会。

留意事項
 テキストの『聖書』を教室に持参すること。遅刻や早退は、明確な理由のない限り、欠席と見なす。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②	11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
尾崎 秀夫	選択	2			

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教にканしても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

1. 導入
2. 聖書と歴史
3. 出エジプトと歴史研究(1)
4. 出エジプトと歴史研究(1)
5. 古代における宇宙観
6. 古代における天動説と地動説
7. 中世における天動説
8. コペルニクス(1)
9. コペルニクス(2)
10. ジョルダーン・ブルーノの地動説
11. ガリレオ・ガリレイ(1)
12. ガリレオガリレイ(2)
13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めない。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ		11201	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
各学科教員	必修	1			

授業の到達目標

大学生としての姿勢、本学の学生としての姿勢をまず理解し、大学共同体の一員としての立場を確認していく。また、大学生としての最低限の基礎学力を身につけることと、学習に必要な基礎的なスタディスキルの獲得をめざす。この授業ではA（自律）に重点を置く。

授業の概要

授業の前半に、習熟度別リメディアル学習をおこなう。基本的な言語、社会、数学の能力を問題演習を多く取り入れながらこの順に養成していく。後半には、大学の年間行事についてなど理解することと、大学において、学習・生活するためのスタディスキルを、各担任による少人数演習形式で学んでいく。

授業計画

1. (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
2. (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
3. (1)言語3
(2)クラスでの自己紹介
4. (1)言語4
(2)資料の探し方(図書館の利用法)
5. (1)社会1
(2)授業の受け方
6. (1)社会2
(2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会3
(2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会4
(2)学生生活(課外活動2)
9. (1)数学1
(2)理解と表現(作文など)
10. (1)数学2
(2)理解と表現(比較分析)
11. (1)数学3
(2)リサーチの方法(情報の集め方)
12. (1)数学4

(2)リサーチの方法(レポート作成)

13. (1)基礎確認演習1
(2)簡単なプレゼンテーション
14. (1)基礎確認演習2
(2)マナー
15. (1)基礎確認演習3
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストの流れを見ておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回につき、5点引きとする。また前半については基礎確認演習の試験の合格点を2点上げる。

テキスト

・大学・短大・専門学校生のためのマンツーマンリメディアルテキスト(育伸社)
・大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の基礎確認演習において、原則として全科目(言社数)合計で80点以上を取らなければ不合格とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ			11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

大学生としての姿勢、本学の学生としての姿勢をまず理解し、大学共同体の一員としての立場を確認していく。また、大学生としての最低限の基礎学力を身につけることと、学習に必要な基礎的なスタディスキルの獲得をめざす。この授業ではA（自律）に重点を置く。

授業の概要

授業の前半に、習熟度別リメディアル学習をおこなう。基本的な国語、社会、数学の能力を問題演習を多く取り入れながらこの順に養成していく。後半には、大学の年間行事についてなど理解することと、大学において、学習・生活するためのスタディスキルを、各担任による少人数演習形式で学んでいく。

授業計画

1. (1)言語1
(2)オリエンテーション
2. (1)言語2
(2)資料の探し方(情報検索の収集)
3. (1)言語3
(2)レポートの書き方1
4. (1)言語4
(2)レポートの書き方2
5. (1)社会1
(2)レポートの書き方3
6. (1)社会2
(2)プレゼンテーションの方法1
7. (1)社会3
(2)プレゼンテーションの方法2
8. (1)社会4
(2)プレゼンテーション1(個人発表)
9. (1)数学1
(2)プレゼンテーション2(個人発表)
10. (1)数学2
(2)プレゼンテーション3(個人発表)
11. (1)数学3
(2)プレゼンテーション4(個人発表)
12. (1)数学4

- (2)ディスカッションの進め方(個人発表)
13. (1)基礎確認演習1
(2)ディスカッション1
 14. (1)基礎確認演習2
(2)ディスカッション2
 15. (1)基礎確認演習3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式。

準備学修

テキストの流れを見ておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回につき、5点引きとする。また前半については基礎確認演習の試験の合格点を2点上げる。

テキスト

- ・大学・短大・専門学校生のためのマンツーマンリメディアルテキスト(育伸社)
- ・大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の基礎確認演習において、原則として全科目(言社数)合計で80点以上を取らなければ不合格とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ			11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の精神や歴史についての理解を深め、本学の学生としての自覚を深める。人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目について各自の考えをもつ。それに加えて社会に向かう姿勢としてキャリアについて学ぶ。

授業の概要

本学の出発点であるマリアの宣教師フランシスコ修道会の理解を含め、本学の建学の精神とその歴史等について学ぶ。KAISEIパーソナリティの6つの言葉をグループでの討論や研究をとおして理解し、自分の言葉で表現する力を身につける(クラスでのプレゼンテーションをする)。具体的にはコミュニケーション力を養いながら、他者と協力する力、チームでひとつのことを作り上げること、それを発信していく力をつけていく。同時に他者の意見に耳を傾ける力(傾聴力)を養い、新しい世界を共に発見することを目指す。また、社会の動きを知ることで、キャリアの一端を学ぶ。

授業計画

1. 海星の歴史 真理と愛に生きる
2. 設立母体「マリアの宣教師フランシスコ会」キリスト教との関係
3. 海星の建学の精神、マリアの姿、アッシジのフランシスコの存在
4. 海星の教育目標 大学は何をすることか 人間としての成長
5. 校歌と聖堂
6. KAISEIパーソナリティと社会人基礎力、学力との関係
7. 思いやり 人との共感
8. 自律 これまでの自己の歴史をとおして
9. 知性 耳を傾け、自ら考える
10. 奉仕 他者と自己との関係
11. 倫理 現代の日本社会を考える
12. 国際性 ポーダレスの世界 前に踏み出す力
13. 就業システムと生涯賃金(社会を知る3回)
14. 世の中の動きを知る①重大ニュース
15. 世の中の動きを知る②新聞・ニュースの見かた

授業の方法

講義と個人作業、グループディスカッション、プレゼンテーション

の2つの方法をとる。

準備学修

KAISEIパーソナリティの6つの言葉と関連のある新聞記事、エッセイ、書物等を読むこと。また、ある時はそれについて自分の意見を1000字程度にまとめる作業もすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅱ			11207	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

本学の建学の精神と歴史を土台としてKAISEIパーソナリティの6つの言葉について理解し、同時に社会との関係についても学んだ（春学期）。このクラスではその6つの言葉と関連のある課題を見つけ、自分で考え人と意見を交わし、調べて発表することでKAISEIパーソナリティの理解を一層深める。

授業の概要

最初に企業研究をすることで社会との関係について一層の自覚をもつ。KAISEIパーソナリティの6つの言葉についてすでに一応の理解をしているが、ここでは各自が6つの言葉と関係のある課題を見つけ、いくつかの方法（書籍、インターネット等）を使って調べ研究し、自分の言葉でまとめる。その個人作業をもとに、同じ課題研究の人とチームを組み、発表の枠組みを構築していく。図表や、パワーポイント等を使いながら、研究発表をする。この方法をいくつかの課題について繰り返す。最終的に全科の学生の前で研究を発表する（段階的にまとめたものでも一番良いと思うものでもよい）。

授業計画

1. 企業研究①調査
2. 企業研究②発表
3. 卒業生によるピア・サポート
4. 海星についての理解を振り返る
5. KAISEIパーソナリティの研究項目の選択とチーム確認
6. テーマについての確認と個人作業
7. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告
8. グループのプレゼンテーションの準備作業と発表
9. テーマについての確認と個人作業
10. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告
11. グループのプレゼンテーションの準備作業と発表2
12. プレゼンテーションの修正とディスカッション
13. 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
14. 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
15. クラスでの振り返りとまとめ

授業の方法

個人作業とチームでの作業を重視し、グループでひとつの課題を研

究し、発表することでプレゼンテーションの力をつける。

準備学修

6つの言葉と関連のある課題を発見するために本を読むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学Ⅰ	ET/PC		11209	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	必修	2				

授業の到達目標

本学では、キリスト教的人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしている。本講義は、現在人間が置かれている歴史的位置を考察するため、フランス革命以降の歴史、とくに20世紀の歴史を概観する。また時事問題についても適時解説する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

本学はキリスト教的人間教育を目指している。では人間とは何か。人間はいかに生きるべきなのか。このような問題はあまりにも大きく、とても語り尽くせるものではない。そこで本講義は、現在、人間がその歴史においてどのような位置にあるかを考える手がかりを提供することを目的とする。毎回、授業の始めに新聞記事を読ませて感想を書かせたり、時事問題についての問題を解かせて簡単に解説する予定。

授業計画

1. フランス革命
2. ナポレオン
3. 産業革命
4. ウィーン体制とヨーロッパの諸革命
5. 自由主義と国民主義
6. 帝国主義
7. 第1次世界大戦とロシア革命
8. 大戦間期
9. 第2次世界大戦
10. 冷戦(1)
11. 冷戦(2)
12. 冷戦後の世界
13. パレスチナ問題
14. 21世紀の世界
15. まとめ

授業の方法

講義、演習、発表形式。

準備学修

高校の世界史の教科書で、アメリカ独立戦争やフランス革命以降を讀んでおくこと

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

特に定めなし

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学 2	EC/PC		11213	Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
岡村 祥子	必修	2				

授業の到達目標

キリスト教的価値観を土台とした本学での学びの中で、人格的に成長していくため、人間としての営みをさまざまな角度から理解し、深めていく。KAISEIパーソナリティの要素もてがかりに、人間として、女性としての存在を認識していく。このクラスではKAISEIパーソナリティ全体についての理解を深める。

授業の概要

まず、人間存在について地球上の空間的な存在と、過去からの遺産を受け継ぐ歴史上の時間的な存在を確認する作業からはじめていく。次に人間を取り巻く環境を、家族、地域社会、国家等との関係で理解を深めていく。さらに、生きることは何か、人間らしい人間とは何かなどを自らに問いかけることによって、人生の旅を探求していく。知的な問いかけだけではなく、内的な精神の営み、超越的な存在への問いかけをとりあげていく。

授業計画

1. 序 人間学について
2. 自己への問いかけ
3. 他者との関わり
4. KAISEIパーソナリティとの関係
5. 自然との関係
6. 地球上での存在
7. 地球環境の意識
8. 歴史の中の人間(人類の遺産) 1
9. 歴史の中の人間(人類の遺産) 2
10. 家族、社会の中で(国際社会)
11. 人間存在の神秘
12. 人間らしい人間とは
13. 超越者との出会い
14. 再びKAISEIパーソナリティとの関係
15. あらためて人間とは

授業の方法

講義とディスカッションを土台とする。討論に基づいた発表の時間もとる。

準備学修

各時間に配布または指示されるテーマについて資料を集めて調べ、まとめる作業をする。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%とする。平常点には出席点と毎週提出するレポートあるいは授業内での提出物、発表も含む。

欠席について

出席点(100点満点)を全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点する。

テキスト

プリントを使用する。

参考図書

加賀乙彦『不幸な国の幸福論』集英社新書
 姜尚中『あなたは誰、私はどこにいる』、『悩む力』集英社新書
 野田正彰『共感する力』みすず書房

留意事項

自己と他者に関心を持ち、世界の出来事に興味を持ち、現代社会を注視すること。また人生に対する自らの姿勢について自覚をもつこと。

教員連絡先

okamura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	ET/PC		11301	I	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

学びの中で就業力をあげる。コミュニケーション能力の育成を行い、共同作業・発表の機会を通し対人関係の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とを養う。

授業の概要

コミュニケーション能力の育成を重視する。グループワークの時間を多く設け、各自のライフデザインを構築する時間とする。キャリアを考えるとは、今を生きる力を身につけるということである。この問題を、キャリアセンターの教員と職員、外部講師が協力して発信、提案していく。

授業計画

1. SPTコミュニケーション① (サブパーソナリティランプを使った自己理解)
2. SPTコミュニケーション② (サブパーソナリティランプを使った他者理解)
3. 適性検査「キャリアマップ」実施
4. 「キャリアマップ」ライフデザイン解説&ワーク
5. 「キャリアマップ」言語、数理論理問題の解説
6. 人との関係づくり(コミュニケーションの取り方)
7. 自分との出会い(最も大切にしている価値観は?)
8. キャンパスライフを考える(行動目標をたてよう)
9. ウエディングプラン 冠婚葬祭の基礎知識と理想の友人x4
10. フィールドワーク 街を知る、地域を知る、自分を知る。
11. グループワーク 情報を整理して伝える。
12. グループワーク 自分の意見を発表する。
13. ディベートとは何か。理解と練習、題材の選び方。
14. ディベートを行う。判定の仕方。
15. 学びのデザインシート

授業の方法

ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

常に、自分と向き合う時間を設けるように。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
文学入門			11309	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本の文学に登場する異界について考察する。日本の古典も参考にしながら、近代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文学へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面に注目する。

授業計画

1. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1)
神隠しとは。
2. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2)
タブーをおかす。異界をひらく道。
3. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3)
山姫と山爺。異界をつくる者たち。
4. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4)
異界からの帰還。現実との接点。
5. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1)
迷信の近世。
6. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2)
文明の近代。
7. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その3)
神殺しとこどもの自立。
8. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」「ハウルの動く城」
止まった時間、固定されぬ空間。
9. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その1)
語られぬ自己。
10. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その2)
男装の麗人。東洋における女性の地位。
11. 梶井基次郎「Kの昇天」と「シラノ・ド・ベルジュラック」
ドッベルゲンゲル。肉体と魂。
12. 夢野久作「瓶詰の地獄」
トリック。

13. 太宰治「魚服記」
他者を求める。
14. 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」
猫になる人間たち。錯覚と理想郷。
15. 井伏鱒二「へんろう宿」
旅することと留まること

授業の方法

作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

準備学修

あらかじめ作品を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う

テキスト

東郷克美編『近代小説【異界】を読む』（双文社出版）

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

授業中に鑑賞する映像は、あくまで、近代文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では、一部のみしか鑑賞しない。近世・近代の文学に興味がある学生の受講を望む。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報活用の基礎知識			11313	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらいます。さらに、本講義は、自らを律して積極的に授業を受講することにより、情報活用の基礎知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティ」の知性と自立を身につけてもらうことを目標とします。

授業の概要

パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがそろったからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これらから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

授業計画

1. 情報活用に必要な数学1～N進法
2. 情報活用に必要な数学2～割合
3. 情報活用に必要な数学3～統計
4. 表計算のしくみ1～計算式
5. 表計算のしくみ2～論理式
6. 表計算のしくみ3～相対参照と絶対参照
7. 情報検索の基礎1～ITに関する基礎知識
8. 情報検索の基礎2～一次情報と二次情報
9. 情報検索の基礎3～情報管理の方法
10. 情報検索の基礎4～基礎知識のまとめ
11. ビジネスとコンピュータ1～文書作法
12. ビジネスとコンピュータ2～簿記
13. 有価証券報告書の読み方1
14. 有価証券報告書の読み方2
15. 有価証券報告書の読み方3

授業の方法

講義と授業内容の理解を深めるための発表を取り入れる。

準備学修

初回の授業が始まる前までに、テキストの前半部分を簡単に眺めておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

『これならわかる！情報活用の基礎知識』、樋口勝一著、ノア出版

留意事項

本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学概論			11317	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

心理学とは何を学ぶ学問であるか、また、どのように研究され、現在の形になったのか、実験心理学から社会的行動、臨床的問題に至る歴史について概観し基礎的な理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要

ヴントを祖とする科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような研究が課題であったか、それは同様に学習や認知の研究においてはどのような展開を見せてきたのか、思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉える上で、そのような知見は十分であったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすとはどのような事であるのか、また現在の心理学が抱える課題について、具体的な資料を挙げながら外観する。

授業計画

1. オリエンテーション 心理学が誕生するまで
2. 行動主義と学習理論 1
3. 行動主義と学習理論 2
4. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 1
5. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 2
6. 発達心理学
7. 認知心理学 1
8. 認知心理学 2
9. 動機付け・常道
10. 社会的行動理論
11. 人格の形成
12. 人格の評価
13. 臨床心理学 1
14. 臨床心理学 2
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容(実験・行動・学習・ゲシュタルト・発達・認知・社会的行動理論・人格・臨床)に相応した課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修

心や脳に関する話題は、新聞、テレビ等でよく話題にされるので関連特集などに注目して視聴してください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は1回につき3点の減点の対象とします。欠席5回を超えた場合は不合格となります。

テキスト

末田啓二編著『心理学の最先端』あいり出版 2013

参考図書

授業中に適宜紹介する。

留意事項

授業中に配布する「学習のまとめ」や小テストをしっかりと復習しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
統計学入門			11321	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

基本的な統計的手法を理解することを目標とする。具体的には、代表値、分散、標準偏差、統計的推定の内容を理解し、統計量を計算できるようになることである。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

情報化が進むいま、テレビの視聴率や世論調査など様々な場面において統計データが利用されている。最近ではコンピュータの普及によって、統計計算は容易に実行され、意味を理解していなくても結果だけは得られるようになってきた。しかし、意味を分からずに結果を出しても、それらを正しく利用することはできないし、また、場合によっては誤った判断を下す危険がある。本講義では、はじめに基本的な統計量について概観する。さらに、実際に統計量を計算することで理解を深める。

授業計画

1. 割合の学習
2. 割合の学習
3. 1次元データの統計基礎①～代表値
4. 1次元データの統計基礎②～分散・標準偏差
5. 1次元データの統計①～度数分布表とヒストグラム
6. 1次元データの統計②～度数分布表における代表値
7. 1次元データの統計③～度数分布表における分散・標準偏差
8. 1次元データの統計④～総合練習
9. 2次元データの統計基礎①～クロス集計表
10. 2次元データの統計基礎②～散布図と相関係数
11. 2次元データの統計基礎③～総合練習
12. 正規分布表の読み方
13. 正規分布表の利用
14. 統計的推定・検定
15. まとめ

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、統計量を計算することで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学修

いままで学習した簡単な割合の内容を理解していることが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

落合史夫・樋口克一著『大学生のための統計学ドリル』（晃洋書房）

留意事項

数学が苦手な人も安心して受講してほしい。また、心理分野に興味がある人は本講義終了後、心理統計学を選択することが望ましい。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ジェンダー論			11325	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

あたりまえとされている社会生活の諸側面を、ジェンダーの視点からとらえ直すことができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

生物的差異にもとづく性差・性別に対して、社会的文化的につくられた性差・性別をジェンダー（gender）という。この授業では、社会の様々な制度、慣習、政策、教育、メディア、文学、歴史など人間の諸活動を、ジェンダーの視点でとらえ直す。とくに日本において、これまで見過ごされがちだった社会現象や社会問題を、ジェンダーとの関連において考察したい。また、これまでの女性学や男性学が、何をどのように問題にしてきたかを概観する。

授業計画

1. ジェンダーとは
2. 「女らしさ」と性別役割
3. 「男らしさ」と性別役割
4. 教育とジェンダー
5. 労働とジェンダー
6. ライフコースの多様化
7. 結婚・離婚とジェンダー 1
8. 結婚・離婚とジェンダー 2
9. 主婦と家事
10. 子育てとジェンダー
11. ケアとジェンダー
12. 暴力とジェンダー
13. ジェンダー政策
14. 国際化の中の女性問題・男性問題
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、グループディスカッションやプレゼンテーションをとり入れる。

準備学修

テキストを読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

伊藤公雄ほか『女性学・男性学 ジェンダー論入門』有斐閣

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

様々な立場からの様々な意見を紹介するので、批判的に摂取し、自分の意見をまとめてほしい。

教員連絡先

yumi@kaisei.sc.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本国憲法			11329	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	2				

授業の到達目標

今日では、日本国憲法制定時には考えも及ばなかった人権条約が誕生し、飛躍的にその数を増加させてきているので、日本国憲法の人権条項をこれら人権条約との比較の上で検討して、今日的な憲法の意味を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

最初の数回を日常生活や国家社会、国際社会との関連を概観する。続いて、憲法というものがどのようなものか、国際条約がどのようなものかを明らかにし、特の人権について講義する。その際、社会的に弱者と考えられる人たちに光を当てて、具体的な状況を指摘しながら、論じていく。

授業計画

1. 日常生活と法と常識と
2. 社会と法・権利
3. 国際社会と法
4. 憲法というもの一人権と統治
5. 憲法と人権条約
6. 人権の基礎—個人の尊重と人間の尊厳
7. 人間は「商品」ではない—奴隷貿易と近代人権宣言
8. 世界人権宣言—「国民」の権利から「人間」の権利へ
9. 自由権規約について
10. 社会権規約について
11. 人種差別撤廃条約について
12. 女性差別撤廃条約について
13. 子どもの権利条約(子ども兵士禁止条約、子どもポルノ禁止条約を含む)について
14. 障害者権利条約について
15. 難民条約

授業の方法

原則として講義、時に質疑応答

準備学修

日常生活を意識的に分析し、ひとつひとつの行動の意味を、歩いたり、電車に乗ったりするとき、これは法的にはどのような意味をもつのかを考える。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う。

テキスト

芹田健太郎編集代表『コンパクト学習条約集（第2版）』（信山社、2014）

参考図書

芹田・葉師寺・坂元共著『ブリッジブック国際人権法』（信山社、2008）
 芹田健太郎『国際人権法I』（信山社、2011）
 同 『国際人権法II』（信山社、近刊）

留意事項

上述準備学修参照。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康科学			11333	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	選択	1				

<p>授業の到達目標</p> <p>現代社会において健康への関心は高まっているが、多くの健康阻害要因が存在し、生活習慣病や心の病が大きな社会問題の一つになっている。自己管理ができ、心身ともに健康に日々の生活を送るための基礎知識を習得することを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）・A（自律）・I（知性）を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>まず「健康」とはということなのかを考え、そして健康に必要な要素について学ぶ。具体的には、健康に影響を及ぼす生活習慣病の知識を学び、また、栄養・睡眠・運動・心が健康に与える影響についても学ぶ。そして飲酒・喫煙などの身近な健康阻害要因についての基本的な知識を習得し、自らの健康について何が必要であるのかを考えていく。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 健康とは 3. 栄養と健康 4. 運動と健康 5. 睡眠と健康 6. 心と健康 7. 飲酒・喫煙が体に及ぼす影響 8. まとめ <p>授業の方法</p> <p>ディスカッションを取り入れる。</p> <p>準備学修</p> <p>健康とはどのような状態をいうのか、また健康を阻害する要因にはどのようなものが挙げられるかについて簡単に学習しておくこと。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p>
--

<p>欠席について</p> <p>規則に従う。</p> <p>テキスト</p> <p>『これならわかる！健康科学入門』竹安知枝著 開成出版</p> <p>留意事項</p> <p>授業時に指示する。</p> <p>教員連絡先</p> <p>takeyasu@kaisei.ac.jp</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。</p>
--

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康スポーツ 1	①/②		11337	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	選択	1				

<p>授業の到達目標</p> <p>生涯スポーツであるテニス・卓球などを通して、スポーツを身近に感じ、関心を深め、日常化することで、健康増進・体力向上を目指し、肥満・生活習慣病などの予防に対する意識を高めることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）・A（自律）を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>硬式テニスについてルールを学び、基本練習から入り、最終的にはゲームを行う。具体的には、グリップの握り方やフットワークなど基本的なことから学び、段階的にフォアハンドストローク・バックハンドストローク・ボレー・サーブなどの技術を学び、ゲーム練習に入る。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フォアハンド・バックハンドの基本(グリップ・打点など) 2. フォアハンドストローク基本・ラリー 3. バックハンドストローク基本・ラリー 4. サーブの基本・ラリー 5. フォアボレー基本・ラリー 6. バックボレー基本・ラリー 7. フットワーク(ステップ)基本・ラリー 8. ルール説明・ラリー 9. ダブルス形式 10. ゲーム 11. ゲーム 12. 卓球(ルール説明、基本練習) 13. 基本練習・サーブ 14. ゲーム 15. ゲーム <p>授業の方法</p> <p>テニス・卓球の実技を中心に行う。</p> <p>準備学修</p> <p>テニスのルールについて簡単に学習しておくこと。</p>
--

<p>課題・評価方法</p> <p>平常点70%、定期試験30%</p> <p>欠席について</p> <p>規則に従う。</p> <p>留意事項</p> <p>体操服・テニスシューズもしくは運動靴を持参。雨天時は、2号館体育室（体育館シューズ持参）で卓球を行うが、実施場所は毎回掲示板で確認すること。</p> <p>教員連絡先</p> <p>takeyasu@kaisei.ac.jp</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。</p>
--

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史			11353	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。
このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

1. 神々の歴史 「古事記」と萩原規子『空色勾玉』を読む
2. 縄文時代・弥生時代 たつみや章『月神の統べる森で』を読む
3. 邪馬台国・古墳時代 横光利一『日輪』を読む
4. 邪馬台国のあった頃の中国(魏) 吉川英治『三国志』を読む
5. 飛鳥時代 池田理代子『聖徳太子』を読む
6. 大化の改新から 里中満智子『天上の虹』を読む
7. 奈良時代 手塚治虫『火の鳥』を読む
8. 平安時代 大和和紀『あさきゆめみし』を読む
9. 年中行事(正月について) 「枕草子」を読む
10. 年中行事(節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂(葵)祭)
11. 年中行事(夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭)
12. 年中行事(7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三)
13. 鎌倉時代 平家滅亡 「平家物語」・小泉八雲「耳なし芳一」を読む
14. 鎌倉時代 義経逃亡 斎藤洋『白狐魔記・源平の風』を読む
15. 室町時代 三島由紀夫『金閣寺』を読む

授業の方法

講義中心の授業である。各時代ごとに小レポートの提出を課す。

準備学修

取り上げる図書はすべて、図書館の指定図書コーナーでも閲覧できる。あらかじめ読んでおくことが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
簿記会计学			11357	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明します。到達目標は、日本商工会議所簿記検定3級の基本部分を習得することです。さらに、この授業は、自らを律して積極的に受講することにより、全世界で使用されている簿記の知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティー」の知性と国際化と自立を身につけてもらうことを目標とします。

授業の概要

簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することです。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか、また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明します。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になります。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義します。

授業計画

1. 簿記の基礎
2. 仕訳①～商品売買
3. 仕訳②～現金・当座預金・当座借越・小口現金
4. 仕訳③～手形
5. 仕訳④～貸付金・借入金他・有価証券
6. 仕訳⑤～その他の債権債務
7. 仕訳⑥～消耗品の処理・固定資産と減価償却
8. 仕訳⑦～租税公課と資本金
9. 仕訳⑧～費用・収益の繰延べと見越し
10. 決算①～帳簿への記入
11. 決算②～試算表の作成
12. 決算③～伝票制度
13. 決算④～精算表と財務諸表
14. 決算⑤～帳簿の締め切り
15. まとめと確認

授業の方法

講義と演習問題を多く取り入れて授業をする。

準備学修

授業の始まる前には、必ず予習をしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

「スッキリわかる 日商簿記3級」 TAC出版
「段階式 日商簿記ワークブック3級」 税務経理協会

留意事項

電卓は必要なので持参してください。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
現代家族関係論			11365	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得し、現代社会における家族関係の問題に科学的に接近できるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題を取りあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画

1. 家族とは
2. 家族関係の基礎的概念 1
3. 家族関係の基礎的概念 2
4. 配偶者の選択
5. 結婚と夫婦関係
6. 離婚・再婚と家族関係
7. ライフコースと家族の危機
8. 家族の内部構造
9. 子どもの養育と家族関係
10. 中年期の家族関係
11. 高齢期の家族関係
12. 家族に関する政策と法
13. 家族と社会的ネットワーク
14. 家族の変動
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れる。

準備学修

テキストを読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会福祉論			11369	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
加藤 雅典	選択	2				

授業の到達目標

高齢化と少子化が同時に進行している状況にあって、保育、介護、医療の問題には誰もが直面することとなる。専門分野に携わる人材として、時代の要請に応え得る、社会福祉の理念、制度や援助技術に関わる資質を広い視野から育む。同時に、これからの社会福祉を主体的に考える機会とする。このクラスでは、主にKAISEIパーソナリティのI(知性)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

社会福祉の概論だけでなく、わが国の社会福祉の動向と課題等を、最新のデータや資料によって、身近なテーマとして理解をする。指定する教科書の構成に従って講義を進めるが、考えるべきことやキーワードとなる内容については、討議を活用しながら深めていく。積極的に社会福祉の実施に関わる基盤を身に付けることを目指す。

授業計画

1. 私たちの生活と社会福祉＝社会福祉とは＝
2. 社会福祉の成り立ちと発展＝わが国と欧米の歴史＝
3. 社会福祉の仕組み
4. 社会福祉の分野 その1 公的扶助
5. 社会福祉の分野 その2 こども家庭福祉(1)
6. 社会福祉の分野 その3 こども家庭福祉(2)
7. 社会福祉の分野 その4 障害者福祉(1)
8. 社会福祉の分野 その5 障害者福祉(2)
9. 社会福祉の分野 その6 高齢者医療福祉
10. 介護保険制度
11. その他の福祉＝地域福祉、医療福祉＝
12. 社会福祉の専門職
13. 社会福祉の援助技術 その1
14. 社会福祉の援助技術 その2
15. まとめ

授業の方法

講義を主体としながらディスカッションを取り入れる。

準備学修

小林育子著「保育者のための社会福祉」を事前に読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

履修要項による

テキスト

小林育子著「保育者のための社会福祉」 萌文書林2013年改訂版

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人権教育論			11373	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
丸岡 幸一	選択	2				

授業の到達目標

人権問題の歴史と現状を踏まえて、人権教育の必要性を認識する。そして、様々な人権問題について具体的な事象をとらえて理解を深めることができる。この授業ではK A I S E I パーソナリティのK（思いやり）とI n（国際性）を目指します

授業の概要

本講義では、まず人権とは何か、人権教育はなぜ必要なのかを考察する。そして、人権意識の発展の歴史を踏まえた上で、様々な人権問題について理解する。また、身の周りにおける人権問題に関わりのある事例や、新聞報道などを取り上げ議論することを通して、自らの人権感覚を深めていきたい。

授業計画

1. はじめに 一人権・人権教育とは一
2. 世界における人権拡張の歴史
3. 日本における人権拡張の歴史
4. 同和問題と人権教育
5. 子どもの人権 一子どもの権利条約一
6. 社会における人権問題① 一女性の人権一
7. 社会における人権問題② 一障害児(者)・高齢者の人権一
8. 社会における人権問題③ 一在日外国人の人権一
9. 教育における人権問題① 一教育権・学習権をめぐる問題一
10. 教育における人権問題② 一いじめ・不登校をめぐる問題一
11. 教育における人権問題③ 一懲戒・体罰をめぐる問題一
12. 教育における人権問題④ 一校則をめぐる問題一
13. 学校教育における人権教育
14. 社会教育における人権教育
15. まとめと人権教育の今日的課題

授業の方法

講義を中心にディスカッションや発表も取り入れる。

準備学修

自ら体験した人権教育について思い返しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定等に準じる。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

日頃から、新聞・テレビ等の人権関連報道等に常に関心を持ち、授業に臨むこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会科学概論			11377	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

学習指導要領が示す小学校の社会科の内容を、日本史を中心に講義する。歴史を学ぶことによって現代のさまざまな問題について考える力をつけてもらいたい。この授業ではK（知性）に重点を置く。

授業の概要

時間が非常に限られているので、まず日本史の流れをおさえることを主眼とする。それとともに主要事項を確認していく。歴史はすべてのことにかかわるので、さまざまな問題に言及しながら授業を進めたい。政治、経済についても時間を割きたいと思う。また、内容の定着をはかるため、随時小テストを行う。常識を身につけるために、教職を目指す学生だけでなく、一般企業などを目指す学生にも受講してもらいたい。

授業計画

1. 縄文・弥生時代
2. 古墳時代と大和政権の成立
3. 律令制の成立
4. 平城京と平安京
5. 鎌倉時代
6. 室町時代と千石時代
7. 江戸時代(前期)
8. 江戸時代(後期)
9. 開国と明治維新
10. 日清戦争から第2次世界大戦
11. 戦後
12. 日本の議会制民主主義
13. 為替相場
14. 株価の変動
15. まとめ

授業の方法

講義、討論、演習形式。

準備学修

次回の講義の内容を高校の日本史の教科書等で復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。

テキスト

随時プリントを配布する予定。

参考図書

とくに指定しない

留意事項

日本史を中心にかなり大まかに講義するので、時代の流れとともに主要事項をしっかりと頭に入れて出席すること。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目 < 総合科目 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家政学概論			11381	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標
 学問としての家政学を理解する。家政学の各分野を学ぶことを通じて、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
 「家政学はどのような学問か」については、諸説が林立している。経済・社会の変化にともなって、家族や生活のあり方が変化し、家政学自体も改革が続いている。この講義では、家政学についての様々な主張を解説し検討することを通して、家政学とは何かにアプローチしたい。さらに、家庭経営、家庭経済、消費者問題、家族関係、食生活、衣生活、住生活、生活情報、生活環境などの各論・各分野についても学ぶこととする。家政学、生活科学、生活環境学などを網羅し概観することで、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身につけ、実践的能力を養う。

授業計画

1. 様々な家政学
2. 家政学の定義、目的、対象、方法
3. 家政学の発展過程と改革
4. 家庭生活と生活経営
5. 家庭経済・消費者問題
6. 家族関係
7. 食生活 1
8. 食生活 2
9. 衣生活 1
10. 衣生活 2
11. 住生活 1
12. 住生活 2
13. 生活情報
14. 生活環境
15. まとめ

授業の方法
 講義に加えて、プレゼンテーションをとり入れる。

準備学修
 高等学校までの家庭科を復習する。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席1回につき3点減点する。

テキスト
 実教出版編集部『生活学Navi』実教出版

参考図書
 授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先
 yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

日本語 < 日本語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標
 日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要
 基本的な日本語の知識や文章の書き方を習得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感覚を磨くために、詩や格言等の学習を取り入れていく。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. スピーチの仕方
3. 話し方の基本
4. 挨拶と敬語
5. 敬語の使い方 自己紹介の仕方
6. 話し方①
7. 話し方②
8. 文章の書き方①
9. 文章の書き方②
10. 文章の書き方③
11. 文章の書き方④
12. 文章の書き方⑤
13. 書写(毛筆習字)①
14. 書写(毛筆習字)②
15. まとめ

授業の方法
 書く活動や発表を多く取り入れる。

準備学修
 復習テストを適宜実施する。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト
 田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

参考図書
 必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項
 出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。毎時間、国語辞典を持参する。
 書写の持ち物：半紙、大筆、小筆、墨汁、硯、文鎮、下敷き、新聞紙等。その他必要な物は事前に連絡する。

教員連絡先
 ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

日本語 <日本語>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	ET	11401	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
箕野 聡子	必修	2			

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するということは、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画

1. 「文章入門」書き言葉の決まり事を学ぶ。ノートの取り方を学ぶ
2. 「敬語」尊敬語と謙譲語(その1)プリント配布。
3. 「敬語」尊敬語と謙譲語(その2) 「敬語表小テスト」
4. 「敬語」まちがいやすい敬語 「敬語小テスト」
5. 「敬語」待遇表現(その1) 「敬語小テスト」
6. 「敬語」待遇表現(その2) 「敬語小テスト」
7. 「修辭法と慣用句」比喩法・変化法、慣用句ことわざ 「敬語まとめテスト」
8. 「文中の誤りを正す」推敲の仕方を学ぶ。「冠婚葬祭」の常識 「敬語総まとめテスト」
9. 「メールの書き方」プリント配布 「比喩法・変化法テスト」
10. 「履歴書とエントリーシート」 「慣用句・ことわざテスト」
11. 「手紙とはがき」一般的な形式と表現 「履歴書の書き方テスト」
12. 「手紙とはがき」礼状 「手紙の一般的な形式についての小テスト」
13. 「案内状の作成」種類と内容 「礼状を書く小テスト」
14. 「誤用文と推敲」修飾句の位置・副詞の呼応 「案内状作成についての小テスト」
15. 「文章の構成」 「正しい叙述の照応についてのテスト」

授業の方法

演習中心の授業である。

準備学修

敬語は使わなければ身に付かない。日頃から意識して正しい敬語を使う努力をする。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

テストやレポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典を持参すること。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

日本語 <日本語>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法		11405	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
箕野 聡子	選択	2			

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は公表する。

授業計画

1. <評論文> (1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
2. <評論文> (2) 映画評を書く。アウトラインのたてかたを学ぶ。
3. <評論文> (3) 文中の誤りを正す。推敲の仕方を学ぶ。
4. <評論文> (4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
5. <評論文> (5) 書評を書く。序論・本論・結論の順に記述を進める。引用の規則を守る。
6. <新聞検索> 新聞記事の検索を行い、次回にレポートを書く資料準備を行う。
7. <意見文> 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。特に自説の証明を学ぶ。客観的根拠を3例以上あげ、自説を証明する。
8. <意見文・説得文> 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
9. <意見文・説得文> 新聞投稿を行う。結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
10. <小説> 語り手の位置を学ぶ。
11. <小説> テーマにそった短編小説を書く。
12. <エントリーシート> キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
13. <エントリーシート> ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
14. <エントリーシート> 標語の作り方を学ぶ。プレーンライティング法を学ぶ。
15. <エントリーシート> 「10年後の私」という題で自分について

て書く。起・承・転・結の四段構成の方法を学ぶ。

授業の方法

演習が中心の授業となる。新聞投稿などをおして、社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修

漢字のテストを毎回行う。課題をあたえるので、復習をしておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

レポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典を持参すること。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 1	ET・PC		11501	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
米田 里香／武田 春美	必修	2				

授業の到達目標
 情報に関する基礎的な知識と技術を修得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用し、さまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
 ハード、ソフト、ネットワークなどのコンピュータの基礎知識を学習し、実技においては、マイクロソフトワードの基本操作を学習する。さらにプレゼンテーションソフトの簡単な操作方法も学習する。学習の動機付けとして、日本語ワープロ技能標準試験 2、3級の資格取得を目指す。

授業計画

1. コンピュータの基礎知識／ウィンドウズの基本操作
2. コンピュータの基礎知識／文字入力、編集
3. コンピュータの基礎知識／ワード基本操作
4. コンピュータの基礎知識／ワード基本操作
5. ワード基本操作
6. ワード基本操作
7. 日本語ワープロ技能標準試験 3級対策
8. 日本語ワープロ技能標準試験 3級対策
9. 日本語ワープロ技能標準試験 3級対策
10. 日本語ワープロ技能標準試験 3級対策
11. 日本語ワープロ技能標準試験 2級対策
12. 日本語ワープロ技能標準試験 2級対策
13. 日本語ワープロ技能標準試験 2級対策
14. プレゼンテーションソフトの基本
15. 確認演習

授業の方法
 知識学習と実技とを並行しながら学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修
 入力練習をしておくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

テキスト
 繰り返し慣れる！Word&Excel2010 noa出版
 日本語ワープロ技能標準試験過去問題集 noa出版

留意事項
 テキストは必ず持参すること。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 2	ET/ET・PC		11505	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
武田 春美／米田 里香	必修	2				

授業の到達目標
 現代ビジネス社会に必要なとされるパソコンとビジネスデータを活用し、問題解決や発表、経営上の意思決定ができる能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
 はじめに、データ処理に必要な数学を割合を中心に学習し、表計算ソフトを利用したデータ処理のために必要な数式を立てる練習をおこなう。また、ビジネスにおいて必要となるデータ処理の手法について簡単に学ぶ。その後、表計算ソフトの基本操作を習得し、グラフなどで適切なビジュアル化がおこなえるように指導する。学習の動機付けとして、表計算技能標準試験 2、3級の取得を目指す。

授業計画

1. 割合の計算
2. 割合の計算
3. エクセル基本操作
4. エクセル基本操作
5. エクセル基本操作
6. エクセル基本操作
7. 表計算技能標準試験 3級対策
8. 表計算技能標準試験 3級対策
9. 表計算技能標準試験 3級対策
10. 表計算技能標準試験 3級対策
11. 表計算技能標準試験 2級対策
12. 表計算技能標準試験 2級対策
13. 表計算技能標準試験 2級対策
14. 表計算技能標準試験 2級対策
15. 演習確認

授業の方法
 実技中心で学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修
 小学校の算数を復習しておくこと。（特に割り算）

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 通常欠席が5回を超える場合は不可とする。

テキスト
 繰り返し慣れる！Word&Excel2010 noa出版

留意事項
 テキストは必ず持参すること。
 情報リテラシー1と共通なので、情報リテラシー1を受講した人は新たに購入する必要はなし。

情報<情報>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 1	①/②	11509	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
米田 里香/武田 春美	選択	2			

授業の到達目標

ビジネス文書をワープロソフトで作成する能力を養成すること、入力技術だけでなく、ビジネス文書作法、コンピュータのしくみなどの理解することを目標とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

近年、我々の生活の中に、パソコンが急速に普及してきた。それにとともに、ほとんどビジネス文書など公式文書の多くはパソコンを使って作成されるようになり、手書きのものはほとんど見られなくなっている。本講義では、ワープロソフトを使って、表、流れ図、案内文、地図の作成などの応用操作を学ぶ。なお、学習の動機付けとして日商PC検定3級文書作成の対策を行い、資格取得を目指す。

授業計画

1. コンピュータ基礎知識/ワードの基本操作確認 書式設定
2. ネットワーク/ワードの基本操作確認 書式設定
3. ネット社会の到来/ワードの基本操作確認 表作成
4. ビジネス文書作法/ワードの基本操作確認 表作成
5. コンピュータ基礎知識復習/ワードの基本操作確認 表作成
6. 図形演習
7. ワード基本操作まとめ
8. 日商PC検定3級文書作成対策
9. 日商PC検定3級文書作成対策
10. 日商PC検定3級文書作成対策
11. 日商PC検定3級文書作成対策
12. 日商PC検定3級文書作成対策
13. 日商PC検定3級文書作成対策
14. 日商PC検定3級文書作成対策
15. 演習確認

授業の方法

実技中心で学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修

情報リテラシー1の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は不可とする。

テキスト

日本商工会議所 日商PC検定試験（文書作成）3級完全マスター FOM出版
これでバッチリ！ドリルで学ぶ日商PC検定3級文書作成対策テキスト noa出版

留意事項

テキストを必ず持参すること。

情報<情報>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 2		11513	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
米田 里香	選択	2			

授業の到達目標

ビジネス実務に必要なとされる基本的なデータ処理能力を養成することを目標とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

情報リテラシー2で学習したことを元にさらに応用的なデータ処理を学習する。学習の動機付けとして、日商PC検定3級（データ活用）の取得を目指す。

授業計画

1. エクセルの基本操作確認
2. エクセルの関数応用1
3. エクセルの関数応用2
4. エクセル応用操作1ーデータ集計
5. エクセル応用操作2ーピボットテーブル
6. エクセル応用操作3ーグラフ
7. 総合復習
8. 日商PC検定3級データ活用対策
9. 日商PC検定3級データ活用対策
10. 日商PC検定3級データ活用対策
11. 日商PC検定3級データ活用対策
12. 日商PC検定3級データ活用対策
13. 日商PC検定3級データ活用対策
14. 日商PC検定3級データ活用対策
15. 確認演習

授業の方法

日商PC検定3級（データ活用）の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

準備学修

エクセルの基本をもう一度学習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

日商PC検定3級完全マスターデータ活用 FOM出版

留意事項

情報リテラシー2とオフィス情報処理1を受講していること。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 1	a/b	11601	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
入江 和子／千葉 奈乙江	選択	1			

授業の到達目標

英語の基本的な文法事項を確実に習得し、読む、聞く、書く、話すの四技能の実用能力を総合的に向上させることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養い、K(思いやり)を考える。

授業の概要

保育園での春夏秋冬の生活を描いたストーリーを読み、保育の現場に欠かせない語彙や表現を学んで内容を理解する。また説明したり、頼んだり、お礼を言ったり、注意したり、謝ったりというような保育者と子供や保護者との会話や連絡帳のやり取り、電話での応対などのタスクを通して園生活の具体的な場面でのコミュニケーションの取り方を学ぶ。

授業計画

1. The School Year Begins
2. Arrival
3. Playtime in the Classroom
4. In the Sandbox
5. In the Playground, Grammar 1
6. Lunch Time, Grammar 1
7. Changing Clothes and Story Time
8. Nap Time
9. Blowing Bubbles, Grammar 2
10. A Sick Child, Grammar 2
11. Preparation for the Sports Day
12. The Sports Day
13. Going for a Walk, Grammar 3
14. Discovering Autumn, Grammar 3
15. Drawing & Letter Writing

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

本文は必ず声に出して読む練習をし、分からない単語の意味を調べ

ておく。指示されたところまでの練習問題は必ず準備して授業に臨むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って行う。

テキスト

森田和子 『新保育の英語』 *English for Nursery Schools and Kindergartens*[Revised] 三修社

参考図書

授業中、必要に応じて指示する。

留意事項

毎回復習テストを行い、結果を平常点に組み入れる。英語辞書必携。座席指定。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 2	a/b	11605	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
千葉 奈乙江／釜須 久夫	選択	1			

授業の到達目標

将来、保育士を目指す学生に必要とされる語彙と知識を学習する。保育園の一日の様々なシーンを英文で読みながら、読む、書く、話す、聞く、の4技能の実用能力の向上も図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

テキストに沿って、保育園を初めて訪問するところから卒園する場面までの様々なシーンを一回1ユニットずつ読み進めてゆく。毎回キーワードの小テストを実施し、確実に語彙を増やしてゆく。

授業計画

1. UNIT 1 First Step to Childcare English
2. UNIT 2 Welcome to Minato Nursery School!
3. UNIT 3 Time and Numbers
4. UNIT 4 Directions
5. UNIT 5 Davy Meets his Classmate Takashi
6. UNIT 6 Dropping Davy Off and Picking Him Up
7. UNIT 7 Jobs at Nursey School
8. UNIT 8 Lunchtime
9. UNIT 9 Toilet Dialog
10. UNIT 10 Fighting
11. UNIT 11 Injuries and Illnesses
12. UNIT 12 Telephone Calls
13. UNIT 13 Field Trip
14. UNIT 14 Baby Care
15. UNIT 15 Graduation Day

授業の方法

テキストに沿って毎回1ユニットずつ進めてゆく。

準備学修

必ず指定された箇所を予習してくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

『保育の英会話』赤松直子著 萌文書林

教員連絡先

alohasam@y7.dion.ne.jp

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 3	a/b		11609	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子 / 入江 和子	選択	1				

授業の到達目標

英語の基本的な文法事項を確実に習得し、四技能の実用能力を総合的に向上させることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養い、K(思いやり)を考える。

授業の概要

文法事項のポイントを200語前後の文脈の中で確認し、次にさまざまな練習問題を通して断片的な文法知識を組織的に再構築し、要点が理解できているかを再確認する。

授業計画

1. Unit 1 Water, Please [現在時制]
2. Unit 2 The Magic of Disney [過去時制と肯定文]
3. Unit 3 Balancing Studies and a Part-Time Job [命令文]
4. Unit 4 Convenience Store [名刺]
5. Unit 5 Japanese Loan Words [代名詞]
6. Unit 6 Cherry Blossoms in Japan [形容詞と副詞]
7. Unit 7 Diet and Health [比較級と最上級]
8. Unit 8 Sensory Branding [状態動詞]
9. Unit 9 Time to Take a Nap [助動詞]
10. Unit 10 Artificial Intelligence [willとbe goin to]
11. Unit 11 Campus Life in the U.S. [動名詞と不定詞]
12. Unit 12 Cosmetic Surgery [現在進行形]
13. Unit 13 Great Inventions [過去進行形]
14. Unit 14 The Titanic [過去時制と否定]
15. Unit 15 Brain Training [現在完了]

授業の方法

演習を通してさまざまな角度から文法事項を確認し、読解力を向上させる。

準備学修

中学校・高等学校で学習した文法事項や単語を復習しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って行う。

テキスト

Robert Hickling, 市川泰弘 『Get Reading! 一大学生のための読解演習』 金星堂

参考図書

授業中、必要に応じて指示する。

留意事項

毎回復習テストを行い、結果を平常点に組み入れる。指示されたところまでは必ず単語を調べ、練習問題をして授業に臨むこと。英語辞書必携。座席指定。

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 4	a/b		11613	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子 / 千葉 奈乙江	選択	1				

授業の到達目標

世界で古くから親しまれてきた物語を通して物語そのものの面白さを発見するとともに、英語に慣れ親しんで自然に英語を身につけ、異文化との出会いによって多様なものの見方ができるようになることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養い、K(思いやり)を考える。

授業の概要

子供のころに言葉を吸収したように、物語を聴いて、読んで、音読し、関連するさまざまなtaskをしながら語彙や内容を理解し、物語に対する関心を高めていく。

授業計画

1. オリエンテーション
Pre-Unit Jack and the Beanstalk
2. Unit 1 Sindbad and the Sailor
3. Unit 2 Hansel and Gretel
4. Unit 3 Puss in Boots
5. Unit 4 Sleeping Beauty
6. Unit 5 The Three Spinners Part 1
7. Unit 6 The Three Spinners Part 2
8. Unit 7 Alice in Wonderland Part 1
9. Unit 8 Alice in Wonderland Part 2
10. Unit 9 Aladin and the Lamp Part 1
11. Unit 10 Aladin and the Lamp Part 2
12. Unit 11 Ali Baba and the Forty Thieves Part 1
13. Unit 12 Ali Baba and the Forty Thieves Part 2
14. Unit 13 Pinocchio Part 1
15. Unit 14 Pinocchio Part 2

授業の方法

原則テキストに沿って進め、発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

本文の音読練習、指定された箇所の予習。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って行う。

テキスト

Atsuko Uemura *English Cradle Classic Tales from around the World* CENGAGE Learning

参考図書

授業中、必要に応じて指示する。

留意事項

毎回復習テストを行い、結果を平常点に組み入れる。英語辞書必携。座席指定。

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 5	a		11617	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	1				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Life
3. Unit 1: continued
4. Unit 2: Work
5. Unit 2: continued
6. Unit 3: Time Out
7. Unit 3: continued
8. Review
9. Unit 4: Great Minds
10. Unit 4: continued
11. Unit 5: Travel
12. Unit 5: continued
13. Unit 6: Fitness
14. Unit 6: continued
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 5	b		11617	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	選択	1				

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable the students to move from high-beginner and progress towards English at a pre-intermediate level. They will also have developed their sense of Internationality.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

- | | |
|-----------------|---|
| 1. Introduction | |
| 2. Unit 1. | 1 |
| 3. Unit 1. | 3 |
| 4. Unit 1. | 4 |
| 5. Unit 2. | 1 |
| 6. Unit 2. | 3 |
| 7. Unit 2. | 4 |
| 8. Review | |
| 9. Unit 3. | 1 |
| 10. Unit 3. | 3 |
| 11. Unit 3. | 4 |
| 12. Unit 4. | 1 |
| 13. Unit 4. | 3 |
| 14. Unit 4. | 4 |
| 15. Review | |

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking

the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary, Eales and Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6	a		11621	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	1				

授業の到達目標

日本および国際的なテーマの英文を Critical Thinking の観点から読み、それらを要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティの1(知性、国際性)を学ぶ。

授業の概要

英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writing のみならず、Culture, Critical Thinking の観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentation を通して各自の意見交換を行う。

授業計画

1. Introduction
2. The Beauty of the Seasons
3. Continued
4. The Importance of English
5. Continued
6. How the Internet Evolved
7. Continued
8. Travel in Japan
9. Continued
10. The Secret of Happiness
11. Continued
12. Secondhand Smoke
13. Continued
14. Review
15. Conclusion

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the text before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Takashi Shimaoka et al., Life Topics: A Critical-Thinking Approach to English Proficiency. Nan'un-do

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6	b		11621	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	選択	1				

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information and write effective paragraphs. They will also have a greater sense of Internationality.

授業の概要

Students will advance from an beginning proficiency level to a pre-intermediate proficiency level in reading and writing.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Names Reading 1
3. Unit 1: Reading 2
4. Unit 1: Writing
5. Unit 2: Work Reading 1
6. Unit 2: Reading 2
7. Unit 2: Writing
8. Review
9. Unit 3: Long Distance Reading 1
10. Unit 3: Reading 2
11. Unit 3: Writing
12. Unit 4: Positive Thinking Reading 1
13. Unit 4: Reading 2
14. Unit 4: Writing
15. Review

授業の方法

Students will work individually and in pairs and small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the text before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

留意事項

This course will be taught entirely in English.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6	c		11621	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	1				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Students will advance from an beginning proficiency level to a pre-intermediate proficiency level in reading and writing.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6 Reading 1
3. Unit 6 Reading 2
4. Unit 6 Writing
5. Unit 7 Reading 1
6. Unit 7 Reading 2
7. Unit 7 Writing
8. Review
9. Unit 8 Reading 1
10. Unit 8 Reading 2
11. Unit 8 Writing
12. Unit 9 Positive Thinking Reading 1
13. Unit 9 Reading 2
14. Unit 9 Writing
15. Review

授業の方法

Students will work individually and in pairs and small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the text before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

This course will be taught entirely in English.

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 7	a		11625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	選択	1				

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from an elementary level of English and progress towards English at a pre-intermediate level. They will also have developed their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication, working in pairs, groups and as a whole class.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 5. 1
3. Unit 5. 3
4. Unit 5. 4
5. Unit 6. 1
6. Unit 6. 3
7. Unit 6. 4
8. Unit 7. 1
9. Unit 7. 3
10. Unit 7. 4
11. Unit 8. 1
12. Unit 8. 3
13. Unit 8. 4
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法

Students will work in pairs, in groups and as a class.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking

the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 7	b		11625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	1				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication, working in pairs, groups and as a whole class.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7: Holidays
3. Unit 7: continued
4. Unit 8: Present Tenses
5. Unit 8: continued
6. Unit 9: Transport
7. Unit 9: continued
8. Review
9. Unit 10: Future Forms 1
10. Unit 10: Future Forms 2
11. Unit 11: Health
12. Unit 11: continued
13. Unit 12: Present Perfect 1
14. Unit 12: Present Perfect 2
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary, Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8	a		11629	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	1				

授業の到達目標

Reading/WritingIII で学んだ英語力をさらに磨く。日本および国際的なテーマの英文をCritical Thinking の観点から読み、それらを要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティの1(知性、国際性)を学ぶ。

授業の概要

英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writing のみならず、Culture, Critical Thinking の観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentation を通して各自の意見交換を行う。

授業計画

1. Introduction
2. What Color Tell about You
3. Continued
4. Free Music
5. Continued
6. Fast Food and Health
7. Continued
8. The Dangers of Credit Cards
9. Continued
10. Old Media and New Media
11. Continued
12. Women in College
13. Continued
14. Review
15. Conclusion

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Takashi Shimaoka et al., Life Topics: A Critical-Thinking Approach fo English Proficiency. Nan'un-do

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語 <外国語>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8	b		11629	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	選択	1				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Students will develop the necessary skills to read texts for information and write effective prose on a variety of topics.

授業計画

1. Unit 5: Reading 1
2. Unit 5: Reading 2
3. Unit 5: Writing
4. Unit 5: Unit Assignment
5. Unit 6: Reading 1
6. Unit 6: Reading 2
7. Unit 6: Writing
8. Unit 6: Unit Assignment
9. Unit 7: Reading 1
10. Unit 7: Reading 2
11. Unit 7: Writing
12. Unit 7: Unit Assignment
13. Review and Prepare Final Project
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups, and alone.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading Writing 1 by Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語 <外国語>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8	c		11629	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	1				

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of different texts for information and write effective academic prose about a variety of topics.

授業の概要

Students will develop the necessary skills to read texts for information and write effective prose on a variety of topics.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 5 Reading 1
3. Unit 5 Reading 2
4. Unit 5 Writing
5. Unit 6 Reading 1
6. Unit 6 Reading 2
7. Unit 6 Writing
8. Review
9. Unit 7 Reading 1
10. Unit 7 Reading 2
11. Unit 7 Writing
12. Unit 8 Reading 1
13. Unit 8 Reading 2
14. Unit 8 Writing
15. Final Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups, and alone.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading Writing 1, Sarah Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 1			11633	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションに慣れ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聴き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。日常よく使用される会話文を通して単語や文型を習得、更に数字の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、フランス語やフランス文化の一端を知る手掛かりとする。

授業計画

1. オリエンテーション、教室で使う表現、alphabetの読み方、挨拶
2. 【挨拶、自己紹介、名前、職業、国籍】(会話文の理解・文法・activités)
3. 【挨拶、自己紹介、名前、職業、国籍】(練習問題・会話文の暗記)
4. 【人を描写する、住んでいる場所を言う、年齢を言う】(会話文の理解・文法・activités)
5. 【人を描写する、住んでいる場所を言う、年齢を言う】(練習問題・会話文の暗記)
6. 【疑問文、否定文、-er動詞】(会話文の理解・文法・activités)
7. 【疑問文、否定文、-er動詞】(練習問題・会話文の暗記)
8. 【好きなものを言う、尋ねる、動詞(複数形)】(会話文の理解・文法・activités)
9. 【好きなものを言う、尋ねる、動詞(複数形)】(練習問題・会話文の暗記)
10. 【家族について話す、月の名前、形容詞】(会話文の理解・文法・activités)
11. 【家族について話す、月の名前、形容詞】(練習問題・会話文の暗記)
12. 【名詞、位置関係、所有】(会話文の理解・文法・activités)
13. 【名詞、位置関係、所有】(練習問題・会話文の暗記)
14. 【色、～があります】(会話文の理解・文法・activités)
15. 【色、～があります】(練習問題・会話文の暗記) 映画鑑賞(フランス語)

授業の方法

数字、時間の聞き取りと理解、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、会話を理解するための必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

Méthode de français (駿河台出版社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語1とフランス語2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いついておかねばならない。聴き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキストに付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けること。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 2			11637	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションに慣れ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聴き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。日常よく使用される会話文を通して単語や文型を習得、更に数字の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、フランス語やフランスの文化の一端を知る手掛かりとする。

授業計画

1. オリエンテーション、教室で使う表現、alphabetの読み方、挨拶
2. 【挨拶、自己紹介、名前、職業、国籍】(会話文の理解・文法・activités)
3. 【挨拶、自己紹介、名前、職業、国籍】(練習問題・会話文の暗記)
4. 【人を描写する、住んでいる場所を言う、年齢を言う】(会話文の理解・文法・activités)
5. 【人を描写する、住んでいる場所を言う、年齢を言う】(練習問題・会話文の暗記)
6. 【疑問文、否定文、-er動詞】(会話文の理解・文法・activités)
7. 【疑問文、否定文、-er動詞】(練習問題・会話文の暗記)
8. 【好きなものを言う、尋ねる、動詞(複数形)】(会話文の理解・文法・activités)
9. 【好きなものを言う、尋ねる、動詞(複数形)】(練習問題・会話文の暗記)
10. 【家族について話す、月の名前、形容詞】(会話文の理解・文法・activités)
11. 【家族について話す、月の名前、形容詞】(練習問題・会話文の暗記)
12. 【名詞、位置関係、所有】(会話文の理解・文法・activités)
13. 【名詞、位置関係、所有】(練習問題・会話文の暗記)
14. 【色、～があります】(会話文の理解・文法・activités)
15. 【色、～があります】(練習問題・会話文の暗記) 映画鑑賞(フランス語)

授業の方法

数字、時間の聞き取りと理解、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、会話を理解するための必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業。

準備学修

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

Méthode de français (駿河台出版社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語 1 とフランス語 2 はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず 1 科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いついておかねばならない。聴き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキストに付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けること。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 3			11641	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1 と 2 で暗記習得した会話文をもとに、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。これからの予定や過去にしたことなど、幅広い会話を楽しめるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して単語や表現、文型を習得し、数字の読みと聞き取り、多様なフランス語の歌は毎回の課題とする。基本的な文法事項を確認しながら練習問題に取り組むと同時に文化にも触れ、フランス語やフランスという国についての理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション、既習事項の総復習
2. 【場所】(単語や会話文の理解・文法・activités)
3. 【場所】(練習問題・文化・会話)
4. 【買い物をする】(単語や会話文の理解・文法・activités)
5. 【買い物をする】(練習問題・文化・会話)
6. 【量について言う】(単語や会話文の理解・文法・activités)
7. 【量について言う】(練習問題・文化・クイズ)
8. 【国について話す】(単語や会話文の理解・文法・activités)
9. 【国について話す】(練習問題・文化・天気に関する表現)
10. 【行く、乗り物】(単語や会話文の理解・文法・activités)
11. 【行く、乗り物】(練習問題・文化・道を尋ねる表現)
12. 【時刻、チケットを買う】(単語や会話文の理解・文法・activités) 映画鑑賞(フランス語)
13. 【時刻、チケットを買う】(練習問題・文化)
14. 【日常生活について話す】(単語や会話文の理解・文法・activités)
15. 【日常生活について話す】(練習問題・文化)

授業の方法

数字、時間の聞き取りと理解、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業。

準備学修

常日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

Méthode de français（駿河台出版社）

参考図書

必要がある場合は授業中に紹介する。

留意事項

当該科目履修に関しては、フランス語 1 若しくはフランス語 2 を履修しているか、それと同様な能力を有することが必要である。また、フランス語 3 とフランス語 4 はタイアップしている授業であるため同時に履修すること。聴き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキスト付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けることが望ましい。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 4			11645	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1 と 2 で暗記習得した会話文をもとに、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。これからの予定や過去にしたことなど、幅広い会話を楽しめるようにする。このクラスではKAISEI パーソナリティのIn (国際性) を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して単語や表現、文型を習得し、数字の読みと聞き取り、多様なフランス語の歌は毎回の課題とする。基本的な文法事項を確認しながら練習問題に取り組むと同時に文化にも触れ、フランス語やフランスという国についての理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション、既習事項の総復習
2. 【場所】(単語や会話文の理解・文法・activities)
3. 【場所】(練習問題・文化・会話)
4. 【買い物をする】(単語や会話文の理解・文法・activities)
5. 【買い物をする】(練習問題・文化・会話)
6. 【量について言う】(単語や会話文の理解・文法・activities)
7. 【量について言う】(練習問題・文化・クイズ)
8. 【国について話す】(単語や会話文の理解・文法・activities)
9. 【国について話す】(練習問題・文化・天気に関する表現)
10. 【行く、乗り物】(単語や会話文の理解・文法・activities)
11. 【行く、乗り物】(練習問題・文化・道を尋ねる表現)
12. 【時刻、チケットを買う】(単語や会話文の理解・文法・activities) 映画鑑賞(フランス語)
13. 【時刻、チケットを買う】(練習問題・文化)
14. 【日常生活について話す】(単語や会話文の理解・文法・activities)
15. 【日常生活について話す】(練習問題・文化)

授業の方法

数字、時間の聞き取りと理解、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業。

準備学修

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に始めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

Methode de français (駿河台出版社)

参考図書

必要がある場合は授業中に紹介する。

留意事項

当該科目履修に関しては、フランス語 1 若しくはフランス語 2 を履修しているか、それと同様な能力を有することが必要である。また、フランス語 3 とフランス語 4 はタイアップしている授業であるため同時に履修すること。聞き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキスト付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けることが望ましい。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 5			11649	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1～4 で暗記習得した会話文をもとに、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。文法事項を確認しながら同時に文化にも触れ、フランス語やフランス語についての理解を深める。このクラスではKAISEI パーソナリティのIn (国際性) を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を講読、暗記する中で、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。会話内容に関するフランス語による質疑応答、文法の解説、教える歌、数字や時間の読みと聞き取りなど、総合的に学習する。希望者には仏検指導(4級及び5級レベル)も行う。

授業計画

1. オリエンテーション【挨拶と買い物】(冠詞・名詞の性と数)
2. 【女たちを紹介する】(主語人称代名詞・前置詞と定冠詞)
3. 語彙と表現、基本的文法事項の確認、発音の基礎
4. 【第三者について話す】(動詞avoir・形容詞・人称代名詞強勢形)
5. 【第三者について話す】(否定文)
6. 語彙と基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
7. 【郵便局に行く】(第一群規則動詞・指示形容詞)
8. 【衣服を褒める】【一緒に昼食を取る】(第二群規則動詞・所有形容詞・部分冠詞)
9. 語彙と基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
10. 【タクシーに乗る】(不規則動詞の活用・近接未来、近接過去)
11. 【タクシーに乗る】(命令法・序数)
12. 語彙と基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
13. 【レストランに行く】(直接目的補語人称代名詞・比較級)
14. 【レストランに行く】(間接目的補語人称代名詞・最上級)
15. 映画鑑賞(フランス語)、基本的文法事項の確認

授業の方法

数字や時間、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス文化の理解

を含む総合的実践授業

準備学修

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicalement 駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 5 と 6 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業で進行したところを自分で学習する必要がある。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 6			11653	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1～4 で暗記習得した会話文をもとに、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。文法事項を確認しながら同時に文化にも触れ、フランス語やフランスについての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常生活でよく使用される会話文を講読、暗記する中で、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。会話内容に関するフランス語による質疑応答、文法の解説、数え歌、数字や時間の読みと聞き取りなど、総合的に学習する。希望者には仏検指導（4級及び5級レベル）も行う。

授業計画

1. オリエンテーション【挨拶と買い物】(冠詞・名詞の性と数)
2. 【友だちを紹介する】(主語人称代名詞・前置詞と定冠詞)
3. 語彙と表現、基本的文法事項の確認、発音の基礎
4. 【第三者について話す】(動詞avoir・形容詞・人称代名詞強勢形)
5. 【第三者について話す】(否定文)
6. 語彙と表現、基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
7. 【郵便局に行く】(第一群規則動詞・指示形容詞)
8. 【衣服を褒める】【一緒に昼食を取る】(第二群規則動詞・所有形容詞・部分冠詞)
9. 語彙と表現、基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
10. 【タクシーに乗る】(不規則動詞・近接未来、近接過去)
11. 【タクシーに乗る】(命令法・序数)
12. 語彙と基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
13. 【レストランに行く】(直接目的補語人称代名詞・比較級)
14. 【レストランに行く】(間接目的補語人称代名詞・最上級)
15. 映画鑑賞(フランス語)、基本的文法事項の確認: 人称代名詞のまとめ・語順

授業の方法

数字や時間、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教

員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス文化の理解を含む総合的実践授業。

準備学修

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicalement 駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 5 と 6 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業で進行したところを自分で学習する必要がある。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 7			11657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 5 と 6 で学習したことを継続する。暗記習得した会話文をもとに、より複雑な文章の理解や口頭表現の使用を目指す。文化にも触れフランスについてより一層の理解を深め、フランス渡航時にも使える程度の語学力を身に付けたい。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。仏検問題（5級及び4級レベル）、数え歌、数字の読みと聞き取り、会話文の暗記、会話作成などは毎回の課題とする。また時間の許す限り、個別にフランス関連の調べ学習をし発表する機会を設ける。

授業計画

1. オリエンテーション【インタビューする】(代名動詞)
2. 【スポーツクラブに登録する】(不定法の表現・疑問形容詞)
3. 語彙と表現、文法事項の確認とまとめ
4. 確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
5. 【映画館にて】(複合過去 1)
6. 【映画の後で】(複合過去 2)
7. 語彙と表現、文法事項の確認とまとめ
8. 確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
9. 【家族との会話】(半過去・関係代名詞)
10. 【メール】(受動態・接続詞を使った表現)
11. 【訪問計画】(単純未来)
12. 語彙と表現、文法事項の確認とまとめ 映画鑑賞(フランス語)
13. 【家族との夕食】(ジェロンディフ・感嘆文・中性代名詞)
14. 【招待】(条件法)
15. 【ヴァカンスの終わり】(接続法)

授業の方法

数字や時間、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語 5～6 で学習したことを復習しておくこと。また平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたすことになりかねないので留意すること。

テキスト

bis Amicalement 駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 7 と 8 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業の進行に合わせて各自の補習が必要である。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 8			11661	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 5 と 6 で学習したことを継続する。暗記習得した会話文をもとに、より複雑な文章の理解や口頭表現の使用を目指す。文化にも触れフランスについてより一層の理解を深め、フランス渡航時にも使える程度の語学力を身に付けたい。このクラスではKAISEI パーソナリティのIn (国際性) を養う。

授業の概要

計画に記したテーマに沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。仏検問題 (5 級及び 4 級レベル)、数え歌、数字や時間の読み・聞き取り、会話文の暗記、会話作成などは毎回の課題とする。また時間の許す限り、個別にフランス関連の調べ学習をし発表する機会を設ける。

授業計画

1. オリエンテーション【インタビューする】(代名動詞)
2. 【スポーツクラブに登録する】(不定法の表現・疑問形容詞)
3. 語彙と表現、文法事項の確認とまとめ
4. 確認テスト(オーラル、筆記、聴取弁別)
5. 「映画館にて」複合過去 1
6. 「映画の後で」複合過去 2
7. 語彙と表現、文法事項の確認とまとめ
8. 確認テスト(オーラル、筆記、聴取弁別)
9. 【家族との会話】(半過去・関係代名詞)
10. 【メール】(受動態・接続詞を使った表現)
11. 【訪問計画】(単純未来)
12. 語彙と表現、文法事項の確認とまとめ、映画鑑賞(フランス語)
13. 【家族との夕食】(ジェロンディフ・感嘆文・中性代名詞)
14. 【招待】(条件法)
15. 【ヴァカンスの終わり】(接続法)

授業の方法

数字や時間、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語 5 ～ 6 で学習したことを復習しておくこと、また平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点 50%、定期試験 50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたすことになりかねないので留意すること。

テキスト

bis Amicalement 駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 7 と 8 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業の進行に合わせて各自の補習が必要である。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 1	①/②		11665	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

国際化社会になり、中国語は益々重要になっているので、中国語ができることはいろんな面において役に立つと考えられる。本授業では、まず、発音から始まり、次に重要な語彙の使い方や語順を説明し、さらにこれらを実用的に使えるように多くの短文を読み書きしていく。このクラスではKAISEI パーソナリティのA(自律) とIn(国際性) を養います。

授業の概要

基礎を確実に習得できるよう、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順をゆっくり指導し、各単元で習ったことを身につけるために問題練習をさせる。

授業計画

1. 発音、子音と母音(それぞれの発音をしっかり練習する)
2. 発音、音節(子音と母音、さらに声調を付け加えた発音の練習)
3. 日常よく使われる挨拶と数字(ピンインから発音の仕方を覚える練習)
4. 第一課 こんにちは！ 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
5. 第二課 お名前は。 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
6. 第三課 郵便局 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
7. 第四課 おはよう！ 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
8. 第五課 お元気ですか。 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
9. 第六課 ご家族は何人ですか。 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
10. 第七課 いくらですか。 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
11. 第八課 おいくつですか。 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
12. 第九課 アルバイト 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
13. 第十課 マンガ 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習

14. 第十一課 両替 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
15. 総復習

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認した上で発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順を説明し訳をする他に、その応用と会話の練習もする。

準備学修

習った単元の単語や会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみる

課題・評価方法

平常点 30%、定期試験 70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

授業中は、発音の仕方に注意を向け、声を出して練習する。私語は慎んでほしい。授業以外でも、各自テープなどを繰り返し聴き、重要な語彙・文章などを暗記するように心がけてほしい。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 2	①		11669	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

今日、中国は最も目覚ましい発展を遂げている国の一つである。中国語を話すことができれば、自分の可能性が広がると考えられる。本授業では、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず発音から始まり、次に単元ごとに重要な語彙の使い方や語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。さらに実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 導入・発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 1. あなたは中国人ですか。
6. 1. あなたは中国人ですか。
7. 1. あなたは中国人ですか。
8. 2. これは何ですか。
9. 2. これは何ですか。
10. 2. これは何ですか。
11. 3. あなたはどこに行きますか。
12. 3. あなたはどこに行きますか。

13. 3. あなたはどこに行きますか。
14. 4. このバッグはいくらですか。
15. 4. このバッグはいくらですか。

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめての一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 2	②		11669	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

今日、中国は最も目覚ましい発展を遂げている国の一つである。中国語を話すことができれば、自己の可能性が広がると考えられる。本授業では、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深める。

授業の概要

まず発音から始まり、次に単元ごとに重要な語彙の使い方や語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。さらに実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 導入・発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 1. あなたは中国人ですか。
6. 1. あなたは中国人ですか。
7. 1. あなたは中国人ですか。
8. 2. これは何ですか。
9. 2. これは何ですか。
10. 2. これは何ですか。
11. 3. あなたはどこに行きますか。
12. 3. あなたはどこに行きますか。

13. 3. あなたはどこに行きますか。
14. 4. このバッグはいくらですか。
15. 4. このバッグはいくらですか。

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめての一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 3			11673	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

本授業は、「中国語1」において基礎を学んだ者が、実用的な文章の読解力を磨き、それを会話や作文に応用できる能力を養うことを目的とする。そのため、中国語の文の構造や表現の仕方を正しく理解し、できるだけそれを丸暗記した上で、実際に話したり書いたりする練習を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

本授業でも、重要な語彙の発音をよく練習したうえで、使い方や語順を説明し、実用的な短文を丸暗記することを求める。それによって、授業中、友達同士や先生との会話の練習ができ、充実した授業を行うことができる。

授業計画

- 第十二課 風邪 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
- 第十三課 眠くなった。単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
- 第十四課 万里の長城 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
- 第十五課 誕生日 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
- 第十六課 料理作り 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
- 第十七課 趣味 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
- 第十八課 電話を掛ける。単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
- 第十九課 料理の注文 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
- 第二十課 携帯電話 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
- 第二十一課 タクシー 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
- 第二十二課 展覧会 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
- 第二十三課 サッカー試合 単語や会話と文法の説明をした上、

- 会話の練習をする
- 第二十四課 トレーニングジム 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
 - 第二十五課 グッドニュース
 - 総復習

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順を説明し訳する他に、その応用と会話の練習もする。

準備学修

習った単元の単語と会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみる

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

- 常にテープを聴き、文章を読むこと。
- 会話をする機会を逃さず、積極的に話してみるようこころがけること。
- 分からないところがあったら、すぐに辞書で調べる習慣を身につけること。
- 私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 4			11677	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

本授業は「中国語2」に続き、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

単元ごとに、発音の仕方や重要な語彙の使い方、語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。その上、実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

- 復習・5. あなたは夜用事がありますか。
5. あなたは夜用事がありますか。
5. あなたは夜用事がありますか。
6. あなたは食事をしましたか。
6. あなたは食事をしましたか。
6. あなたは食事をしましたか。
7. あなたの家族は何人ですか。
7. あなたの家族は何人ですか。
7. あなたの家族は何人ですか。
8. あなたは何時からアルバイトを始めますか。
8. あなたは何時からアルバイトを始めますか。
8. あなたは何時からアルバイトを始めますか。
9. あなたはアメリカに行ったことがありますか。
9. あなたはアメリカに行ったことがありますか。
9. あなたはアメリカに行ったことがありますか。

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめての一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 5			11681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

今まで培った基礎力をさらに高めることを目標とする。そのために、文章を丁寧に読み、正しく書けるように鍛える。また、常にリスニング練習をし、問答により話す習慣を身につけるようにさせる。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

授業前に予習してもらおう。授業後熟読した上、同じテーマについての自分の実際の状況で会話の文章を書く練習させる。添削された会話を発表してもらおう。このように同じテーマでも異なった内容のものをいくつも聞くことができ、話すこともできる。会話に求められる聞く力と話す力を養う。

授業計画

1. 第一課 再会
2. 第二課 入学手続き
3. 第三課 リスニングの授業
4. 第四課 朝市
5. 第五課 動物園
6. 第六課 中秋の名月
7. 第七課 建国記念日
8. 第八課 京劇の鑑賞
9. 第九課 本の貸し出し
10. 第十課 助け合い
11. 第十一課 ホテル探し
12. 第十二課 端午の節句
13. 第十三課 日の出
14. 第十四課 ボランティア
15. 復習

授業の方法

新出単語の発音を読めるかどうかを確認した後、その意味と使い方を説明する。文についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認し会話を練習する。

準備学修

習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。
積極的に授業に参加し、聞ける、話せるように努力すること。
分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。
私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 6			11685	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 導入・復習
2. 1. 中国に行こう!
3. 1. 中国に行こう!
4. 1. 中国に行こう!
5. 2. ジャスミン茶を飲もう!
6. 2. ジャスミン茶を飲もう!
7. 2. ジャスミン茶を飲もう!
8. 3. 友だちをつくろう!
9. 3. 友だちをつくろう!
10. 3. 友だちをつくろう!
11. 4. 長城に登ろう!
12. 4. 長城に登ろう!
13. 4. 長城に登ろう!
14. 5. 卓球を楽しもう!
15. 5. 卓球を楽しもう!

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

尹景春・竹島毅著『中国語つぎへの一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 7			11689	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

自信を持ってもっと読める、書ける、聞ける、そして話せるようになることを目標とする。そのために、授業中により多くの中国語を使い、聞いて分かるように、さらに答えられるように鍛える。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

内容に基づいてもっと多くの質問をし答えてもらうように、聞くことと話すことの練習をさせる。また、書いた作文を添削してもらった後、丸暗記して発表してもらう。他に多くの練習問題をし翻訳の力を養う。

授業計画

1. 第十五課 運動会
2. 第十六課 孔子寺へ
3. 第十七課 スピーチコンテスト
4. 第十八課 農家を訪問する
5. 第十九課 試験
6. 第二十課 コートを買う
7. 第二十一課 懇親会
8. 第二十二課 道を尋ねる
9. 第二十三課 名勝地
10. 第二十四課 兵馬俑
11. 第二十五課 仕事探し
12. 第二十六課 カラオケ
13. 第二十七課 お祝い
14. 第二十八課 見送り
15. 総復習

授業の方法

新出単語の発音を読めるかどうかを確認した後、その意味と使い方を説明する。文についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認し会話を練習する。

準備学修

習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。
積極的に授業に参加し、もっともっと聞ける、話せるように努力すること。
分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。
私語に慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 8			11693	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 復習
2. 6. 漢字を覚えよう！
3. 6. 漢字を覚えよう！
4. 6. 漢字を覚えよう！
5. 7. 街を歩こう！
6. 7. 街を歩こう！
7. 7. 街を歩こう！
8. 8. 中国映画を見よう！
9. 8. 中国映画を見よう！
10. 8. 中国映画を見よう！
11. 9. チャイナドレスを買おう！
12. 9. チャイナドレスを買おう！
13. 9. チャイナドレスを買おう！
14. 10. 中華を食べよう！
15. 10. 中華を食べよう！

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

尹景春・竹島毅著『中国語つぎへの一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

現代人間学部 英語観光学科・英語キャリア学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そして、それを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

社会言語学の演習である。多言語社会における言語の選択と言語変異について概観した後、単一言語社会における言語変異について詳しく学ぶ。ダイグロシヤ（二言語変種使い分け）、ビジンとクレオール、地域方言と社会方言、ことばと性差・年齢差等のテーマを取り上げる。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、全員でディスカッションを行う。

授業計画

1. Introduction
2. Language choice in multilingual communities (1)
3. Language choice in multilingual communities (2)
4. Linguistic varieties and multilingual nations (1)
5. Linguistic varieties and multilingual nations (2)
6. レポート・論文の書き方
7. National and official languages
8. Regional and social dialects (1)
9. Regional and social dialects (2)
10. Regional and social dialects (3)
11. Regional and social dialects (4)
12. Gender and age (1)
13. Gender and age (2)
14. Gender and age (3)
15. Gender and age (4)

授業の方法

発表とディスカッションを中心とする。

準備学修

1年次の「ことばと社会」（テキスト及びハンドアウト）を復習しておくこと。

次回発表者の担当箇所を全員読んで授業に出席すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Janet Holmes. *An Introduction to Sociolinguistics*. Fourth edition. (Pearson Education)

参考図書

東照二著『社会言語学入門（改訂版）—生きて言葉のおもしろさに迫る』（研究社）
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』（南雲堂）

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、出席状況、日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

日本語の音声的特徴について理解する／音声学の基礎を確認する／テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する

授業の概要

演習Iでは日本語音声を中心に、音声学の基本的な事項を理論的・実践的に学び、その知識を基にさまざまな音声現象を観察・分析する。さらに第二言語として英語を学習する際に、母語である日本語の音声体系がどのように弊害となり得るかを考察する。あわせて、ことばに関連するテーマについて各自が調査した結果をまとめ、発表・ディスカッションをする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業計画

1. 日本語なまりとは1)
2. 日本語なまりとは2)
3. 発声・発音器官
4. 日本語の音と音声学の基礎1)
5. 日本語の音と音声学の基礎2)
6. 日本語の音と音声学の基礎3)
7. 日本語の音と音声学の基礎4)
8. 復習
9. プレゼンテーション1)
10. プレゼンテーション2)
11. 日本語の音と音声学の基礎5)
12. 日本語の音と音声学の基礎6)
13. 日本語の音と音声学の基礎7)
14. 日本語の音と音声学の基礎8)
15. まとめ

授業の方法

講義とディスカッション形式で行う

準備学修

発音を客観的に観察する目と耳を準備しておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)、2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること、3) 欠席日の提出物は、当該週中に提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する

テキスト

神山孝夫著、『脱・日本語なまり』（大阪大学出版会）
テッド寺倉・上原ちとせ著、『TOEICテストやたらと出る英単語クイックマスター』（アルク）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

現在の航空業界を広く把握する。演習では各自テーマを見つけ順次発表を行い全員でそのテーマについて討議する。テーマは日本のみならず世界の国際情勢にも注意を払い、春学期では課題テーマの見つけ方と発表演習の基礎力をつける事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

航空産業全般と現代のツーリズムの現状を調べていく。その一環として世界の代表的な航空会社や成長著しいLCC、世界の空港事情、航空業界のホスピタリティなどから各自がテーマを見つけ出し発表を行う。航空とツーリズムの現状や異文化理解、ホスピタリティ産業全体に関するテーマも含めて、春学期は課題テーマの見つけ方と発表演習の基礎に力点を置く。

授業計画

1. ガイダンス。
2. オーストラリア研修からの報告。オーストラリアのツーリズム。
3. グループテーマについて
4. 各自のテーマ設定について
5. テーマ発表と質疑応答
6. テーマ発表と質疑応答
7. テーマ発表と質疑応答
8. テーマ発表と質疑応答
9. テーマ発表と質疑応答
10. フィールドワークについて
11. フィールドワーク
12. 各自のテーマ発表と質疑応答
13. 各自のテーマ発表と質疑応答
14. 各自のテーマ発表と質疑応答
15. 夏休みの課題とまとめ

授業の方法

グループテーマと各自テーマを見つけ出し、それを調査し発表演習・質疑応答を中心にする。

準備学修

日本と世界の航空業界・ツーリズム産業・ホスピタリティ産業全体のニュースに常時注目しておく。図書館で日本経済新聞に目を通す。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は1回5点の減点。発表担当日は正当な理由のない欠席は認めない。その他は大学の学則に従う。

テキスト

適宜指示する。

参考図書

『図解これからの航空ビジネス早分かり』戸崎 肇 （2010）中経出版
『航空産業入門』（株）ANA総合研究所編（2012）東洋経済新報社

留意事項

発表当日は必ず出席の事。ゼミでは自発性、積極性、協調性などが重要事項になり、担当課題の発表とそれに対する参加者の意見発表などを評価する。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

ホスピタリティ産業（宿泊業・飲食業・プライダル事業・その他）における過去、現在そして未来を考察していく。「疑問に思う」「調べる」「考える」「伝える」＝問題解決能力、調査能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上を目的とし、総合力を高める。このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養います。

授業の概要

演習は各自がテーマを設けることから始まります。ゼミ生は積極的に課題に取り組無ことが求められます。演習での発表とディスカッションで自らのテーマを深く研究します。また、合同でのフィールドワークを取り入れチームワーク力を養います。その他、毎回社説、コラムを取り上げ意見交換を実施します。

授業計画

1. ガイダンス・・・自己紹介
2. テーマの設定
3. テーマの設定
4. 発表と質疑応答
5. 発表と質疑応答
6. 発表と質疑応答
7. 発表と質疑応答
8. 発表と質疑応答
9. 発表と質疑応答
10. フィールドワーク
11. フィールドワーク
12. 発表と質疑応答
13. 発表と質疑応答
14. 発表と質疑応答
15. まとめ

授業の方法

個人発表を中心に行います。積極的な参加が求められます。

準備学修

新聞を読むこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席者は必ず連絡をすること。

テキスト

なし

参考図書

適宜紹介

留意事項

パワーポイントで発表ができること。土日にフィールドワークを行うことがあります。また、国内外へフィールドワークも検討しています。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語変種やそれらを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

単一言語社会における言語変異について焦点をあてる。ことばと民族性、社会ネットワーク、言語変化、アコモデーション理論、様式とレジスター等のテーマを取り上げる。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、全員でディスカッションを行う。また、演習Ⅱの最後に、各々の研究について発表を行う。

授業計画

1. Introduction
2. Ethnicity and social networks (1)
3. Ethnicity and social networks (2)
4. Ethnicity and social networks (3)
5. Ethnicity and social networks (4)
6. Language change (1)
7. Language change (2)
8. Language change (3)
9. Language change (4)
10. Style, context, and register (1)
11. Style, context, and register (2)
12. Style, context, and register (3)
13. Style, context, and register (4)
14. 個人研究発表(1)
15. 個人研究発表(2)

授業の方法

発表とディスカッションを中心とする。

準備学修

参考図書『社会言語学入門』の第3章と第4章を読んでおくこと。次回発表者の担当箇所を全員読んで授業に出席すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Janet Holmes. *An Introduction to Sociolinguistics*. Fourth edition. (Pearson Education)

参考図書

東照二著『社会言語学入門（改訂版）—生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』（南雲堂）

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

日本語及び英語の音声の特徴を学ぶ／日本語話者が話す英語音声の特徴について研究し、レポートにまとめる／テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する

授業の概要

演習Ⅰに引き続き、日本語と英語の音声を対象とした研究を行うと同時に、各自が研究したことについてレポートにまとめる方法を学ぶ。発表や討論を通して自分で考え、それを自分のことばで表現する力を伸ばしてほしい。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をし、レポートにまとめる方法を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業計画

1. 課題発表
2. 母音挿入
3. 英語の子音と日本語なまり1)
4. 英語の子音と日本語なまり2)
5. 英語の子音と日本語なまり3)
6. 英語の子音と日本語なまり4)
7. 英語の子音と日本語なまり5)
8. 復習
9. プレゼンテーション1)
10. プレゼンテーション2)
11. 英語の母音と日本語なまり1)
12. 英語の母音と日本語なまり2)
13. 英語の母音と日本語なまり3)
14. まとめ1)
15. まとめ2)

授業の方法

講義とディスカッション形式で行う

準備学修

普段から日本語話者、英語話者の発音を客観的に観察すること

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)、2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること、3) 欠席日の提出物は、当該週中に提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する

テキスト

神山孝夫著、『脱・日本語なまり』（大阪大学出版会）
テッド寺倉・上原ちとせ著、『TOEICテストやたらと出る英単語クイックマスター』（アルク）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

基本的には演習Ⅰをベースにして演習Ⅱでは特に自分が興味を持った分野のテーマについて演習発表をする。夏休みに新しくテーマ設定をした人はその分野の演習発表ができるようにする。演習発表時はコミュニケーション能力とプレゼンテーション技術の向上も図りながら、4年次の卒業研究のテーマ設定に向けての方向性を確立する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

航空業界、ホスピタリティ産業、異文化理解に関する事項を中心に各自の興味のあるテーマを設定し発表していく。演習発表では特にコミュニケーション能力とプレゼンテーション技術の向上を目指す。同時に発表者のテーマについても質疑応答ができるように各自の積極的な討議参加が求められる。なお演習の一環として都合が付き限り空港などの学外調査・見学なども実施する予定である。(学外調査・見学は土曜日・日曜日になることもある)。

授業計画

1. ガイダンス。各自の夏期課題テーマの発表(その1)
2. 各自の夏期課題テーマの発表(その2)
3. 卒業研究論文の書き方・参考文献収集について
4. 各自の研究テーマのアウトライン設定
5. 個人テーマの方向性について
6. 各自のテーマ課題演習と質疑応答
7. 各自のテーマ課題演習と質疑応答
8. 各自のテーマ課題演習と質疑応答
9. 各自のテーマ課題演習と質疑応答
10. フィールドワークについて
11. フィールドワークについて
12. 各自のテーマ課題演習と質疑応答
13. 各自のテーマ課題演習と質疑応答
14. 研究テーマの調整と絞込み
15. まとめ

授業の方法

各自の研究計画のアウトラインを設定しテーマ課題演習の発表と質

疑応答を中心にする。

準備学修

日本と世界の航空業界・ツーリズム産業・ホスピタリティ産業全体のニュースに常時注目しておく。図書館で日本経済新聞に目を通す。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は1回5点の減点。発表当日は正当な理由のない欠席は認めない。その他は大学の学則に従う。

テキスト

特に指定しない。各自の研究テーマに沿って適宜紹介する。

参考図書

『航空産業入門』(株)ANA総合研究所(2010)東洋経済新報社
『航空グローバル化と空港ビジネス』野村宗訓・切通堅太郎(2010)同文館出版

留意事項

発表当日は必ず出席の事。ゼミでは自主性・積極性・協調性を重視し、各自のテーマ発表内容とそれに対する質疑などを評価する。円滑なゼミ運営に協力する態度が望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

ホスピタリティ産業(宿泊業・飲食業・プライダル事業・その他)における過去、現在そして未来を考察していく。「疑問に思う」「調べる」「考える」「伝える」=問題解決能力、調査能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上を目的とし、総合力を高める。このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養います。

授業の概要

演習は各自がテーマを設けることから始まります。ゼミ生は積極的に課題に取り組むことが求められます。演習での発表とディスカッションで自らのテーマを深く研究します。また、合同でのフィールドワークを取り入れチームワーク力を養います。その他、毎回社説、コラムを取り上げ意見交換を実施します。

授業計画

1. ガイダンス…演習Ⅰ(春学期)の総括と演習Ⅱの取り組みについて
2. 個人研究の発表・討論・講評
3. 個人研究の発表・討論・講評
4. 個人研究の発表・討論・講評
5. 個人研究の発表・討論・講評
6. 個人研究の発表・討論・講評
7. 個人研究の発表・討論・講評
8. 個人研究の発表・討論・講評
9. 個人研究の発表・討論・講評
10. フィールドワーク
11. フィールドワーク
12. 個人研究の発表・討論・講評
13. 個人研究の発表・討論・講評
14. 個人研究の発表・討論・講評
15. まとめ

授業の方法

パワーポイントにて発表すること。土日にフィールドワークを行うことがあります。また、国内外へフィールドワークも検討しています。

準備学修

社会に関心を持ち、新聞を読むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席者は必ず連絡すること

テキスト

なし

参考図書

適宜紹介

留意事項

積極的な参加が求められる

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

日本語音声と英語音声の特徴を学ぶ／日本語話者の英語音声の特徴について研究し、レポートにまとめる／各自の卒業研究のテーマに沿った調査を進める
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰ、Ⅱに引き続き、日本語音声を中心に、音声特に韻律的項目について研究する。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をし、レポートにまとめる。さらに卒業研究執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集をする。

授業計画

1. 音節 1)
2. 音節 2)
3. リズム
4. アクセント 1)
5. アクセント 2)
6. イントネーション 1)
7. イントネーション 2)
8. イントネーション 3)
9. 日本語話者の英語を観察する 1)
10. 日本語話者の英語を観察する 2)
11. 日本語話者の英語を観察する 3)
12. 日本語話者の英語を観察する 4)
13. 日本語話者の英語を観察する 5)
14. まとめ 1)
15. まとめ 2)

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

発音を客観的に観察する目と耳を準備しておくこと。日本語話者の英語の特徴について観察しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

- 1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。
- 3) 欠席日の提出物は、当該週（金）までに提出の場合100%で採点、翌週提出の場合10%引きで採点する。

テキスト

鹿島央著、『基礎から学ぶ音声学』、スリーエーネットワーク、神崎正哉著、『新TOEIC TEST出る順で学ぶボキャブラリー990』、講談社。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そしてそれらを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

社会言語学のテーマを扱う。ことばと性差・年齢差、アコモデーション理論、様式とレジスター、ことばの機能とポライトネスについて学ぶ。

毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、討論を行う。また、演習Ⅲの最後に、各々の卒業研究について発表を行う。

授業計画

1. Introduction
2. Gender and age (1)
3. Gender and age (2)
4. Gender and age (3)
5. Gender and age (4)
6. Style, context, and register (1)
7. Style, context, and register (2)
8. Style, context, and register (3)
9. Style, context, and register (4)
10. Speech functions and politeness (1)
11. Speech functions and politeness (2)
12. Speech functions and politeness (3)
13. Speech functions and politeness (4)
14. 研究発表(1)
15. 研究発表(2)

授業の方法

発表とディスカッションを中心とする。

準備学修

参考図書『社会言語学入門』の第3章と第4章及び『社会言語学への招待』の66～107ページを読んでおくこと。

次回発表者の担当箇所を全員読んで授業に出席すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Janet Holmes. *An Introduction to Sociolinguistics*. Fourth edition. (Pearson Education)

参考図書

東昭二著『社会言語学入門（改訂版）—生きて言葉のおもしろさに迫る』（研究社）
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』（南雲堂）

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

日本語音声と英語音声の特徴を学ぶ／日本語音声または英語音声の特徴について研究し発表する／各自の卒業研究のテーマに沿った調査を進める
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

日本語音声を中心に、音声特に韻律的項目について研究する。文献その他から得られた情報を基に、日本語の特徴について分析・考察をする。さらに卒業研究執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集を進めながら、発表および討論を通して、自分で考え、それを自分のことばで表現する練習をする。

授業計画

1. 復習
2. ポーズとテンポ
3. イントネーションのはたらき 1)
4. イントネーションのはたらき 2)
5. アクセント1)
6. アクセント2)
7. アクセント3)
8. アクセント4)
9. 復習 1)
10. 復習 2)
11. 卒業研究に関する発表 1)
12. 卒業研究に関する発表 2)
13. まとめ
14. 卒業研究口頭試問 1)
15. 卒業研究口頭試問 2)

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

日本語話者の英語について発表する準備をしておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

- 1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。
- 3) 欠席日の提出物は、当該週（金）までに提出の場合100%で採点、翌週提出の場合10%引きで採点する。

テキスト

鹿島央著、『基礎から学ぶ音声学』、スリーエーネットワーク。
神崎正哉著、『新TOEIC TEST出る順で学ぶボキャブラリー990』、講談社。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する関心を高め、様々な言語や言語変種、そしてそれらを使う人々に対する正しい態度を育てるとともに、学問への探究心を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

社会言語学のテーマを扱う。女性のことば、男女の会話スタイル、会話の原則とポライトネス、会話分析、言語態度等について学ぶ。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、ディスカッションを行う。また、各々の卒業研究についての発表も行う。

授業計画

1. Introduction
2. Gender, politeness and stereotypes (1)
3. Gender, politeness and stereotypes (2)
4. Gender, politeness and stereotypes (3)
5. Gender, politeness and stereotypes (4)
6. Analysing discourse (1)
7. Analysing discourse (2)
8. Analysing discourse (3)
9. Analysing discourse (4)
10. Attitudes and applications (1)
11. Attitudes and applications (2)
12. 研究発表 1 (1)
13. 研究発表 1 (2)
14. 研究発表 2 (1)
15. 研究発表 2 (2)

授業の方法

発表とディスカッションを中心とする。

準備学修

参考図書『社会言語学への招待』の125～140ページ及び159～189ページを読んでおくこと。
次回発表者の担当箇所を全員読んで授業に出席すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Janet Holmes. *An Introduction to Sociolinguistics*. Fourth edition. (Pearson Education)

参考図書

東昭二著『社会言語学入門（改訂版）一生涯の言葉のおもしろさに迫る』（研究社）
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』（南雲堂）

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication I	a	13201	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	必修	1			

授業の到達目標

At the end of this course, students will be able to communicate in English at an elementary proficiency level. Students will be able to introduce themselves, talk about nationalities, friends, and daily routines.

授業の概要

Students will be able to communicate freely in English with their peers through the aid of a textbook and supplemental materials provided by the instructor. Students will participate in group and pair work and will be expected to perform monthly presentations using the language skills they learn each week. To this end, students will have ample opportunity to use their language skills to communicate as often as possible in class.

授業計画

1. Unit 1
2. Unit 1 Continued
3. Unit 1
4. Unit 2
5. Unit 2 Continued
6. Unit 2
7. Unit 3
8. Unit 3 Continued
9. Unit 3
10. Unit 4
11. Unit 4 Continued
12. Unit 4
13. Review and Prepare for Final Project
14. Review and Prepare for Final Project
15. Review and Prepare for Final Project

授業の方法

Students will learn communicative and listening activities in this class.

準備学修

Students must be able to read and write in English and understand basic grammar.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Listening and Speaking 1

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

This class and the course materials will be conducted entirely in English.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication I	b	13201	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 part one
3. Unit 1 part two
4. Unit 2 part one
5. Unit 2 part two
6. Unit 3 part one
7. Unit 3 part two
8. Mid-term review
9. Unit 4 part one
10. Unit 4 part two
11. Unit 4 part three
12. Unit 5 part one
13. Unit 5 part two
14. Unit 5 part three
15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook (especially units 1-6) before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success Listening and Speaking Intro, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication I	c		13201	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Maidhc Ó CATHAIL	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 part one
3. Unit 1 part two
4. Unit 2 part one
5. Unit 2 part two
6. Unit 3 part one
7. Unit 3 part two
8. Mid-term review
9. Unit 4 part one
10. Unit 4 part two
11. Unit 4 part three
12. Unit 5 part one
13. Unit 5 part two
14. Unit 5 part three
15. Final Review

授業の方法

Students are expected to actively participate in communicative activities.

準備学修

Students are required to have a basic understanding of English grammar.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success Listening and Speaking Intro, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

ocathail@gmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication II	a		13205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6 part one
3. Unit 6 cont.
4. Unit 7 part one
5. Unit 7 cont.
6. Unit 8 part one
7. Unit 8 cont.
8. Review
9. Unit 9 part 1
10. Unit 9 cont.
11. Unit 9 cont.
12. Unit 10 part one
13. Unit 10 cont.
14. Unit 10 cont.
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook (especially units 6-10) before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success Listening and Speaking 1, Scanlon, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication II	b		13205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Maidhc Ó CATHAIL	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7-Holidays
3. Unit 7, cont.
4. Unit 8-The Present
5. Unit 8, cont.
6. Unit 9-Transport
7. Unit 9, cont.
8. Review
9. Unit 10-The Future
10. Unit 10, cont.
11. Unit 11-Health
12. Unit 11, cont.
13. Unit 12-Present Perfect 1
14. Unit 12-Present Perfect 2
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working individually and in pairs.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook (especially units 1-6) before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Listening and Speaking Intro

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication II	c		13205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	必修	1				

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from a basic level of English and progress towards English at an elementary level. They will deepen their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 5
3. Unit 5 continued
4. Unit 5
5. Unit 6
6. Unit 6 continued
7. Unit 6
8. Review
9. Unit 7
10. Unit 7 continued
11. Unit 7
12. Unit 8
13. Unit 8 continued
14. Unit 8
15. Review

授業の方法

Students will work in pairs and small groups.

準備学修

Review the material you learned from Oral Communication I.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Listening and Speaking Intro

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing I	a/b	13210	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD/Maidhc Ó CATHAIL	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this class is to develop students abilities in both of these skills and to develop their awareness that reading and writing are inextricably linked to each other.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 1:continued
4. Unit 2:
5. Unit 2:continued
6. Unit 3:
7. Unit 3:continued
8. Review
9. Unit 4:
10. Unit 4:continued
11. Unit 5:
12. Unit 5:continued
13. Review and prepare for Final Project
14. Review and prepare for Final Project
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working individually and in pairs.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q:Skills for Success Reading and Writing 1, Lynn, Oxford(L'Shawn M. HOWARD)

Q:Skills for Success Reading and Writing Intro(Maidhc Ó CATHAIL)

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing I	c	13210	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子	必修	1			

授業の到達目標

At the end of this course it is expected that the students will be able to write coherent sentences and paragraphs and will have developed their competencies in the various reading styles.They will also have developed their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this class is to develop students abilities in both of these skills and to develop their awareness that reading and writing are nextricably linked to each other.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1:People
3. Unit 1:continued
4. Unit 1: Continued
5. Unit 2:Friendship
6. Unit 2: continued
7. Unit 2:continued
8. Review
9. Unit 3:Education
10. Unit 3:continued
11. Unit 3:continued
12. Unit 4:Food
13. Unit 4: continued
14. Unit 4: continued
15. Review

授業の方法

Students will do individual, pair, and group work activities provided by the course textbook.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q:Skills for Success Reading and Writing INTRO, Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing II	a/b		13214	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD/Maidhc Ó CATHAIL	必修	1				

授業の到達目標

At the end of this course it is expected that the students will have further developed their abilities to write coherent sentences and paragraphs and in using the various reading styles. They will also have developed their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this class is to continue to develop students abilities in both of these skills and to develop their awareness that reading and writing are inextricably linked to each other.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6:
3. Unit 6:continued
4. Unit 7:
5. Unit 7:continued
6. Effective paragraph writing 1
7. Effective paragraph writing 2
8. Review
9. Unit 8:
10. Unit 8:continued
11. Unit 9:
12. Unit 9:continued
13. Unit 10:
14. Unit 10:continued
15. Review

授業の方法

Students will work in pairs and groups as well as individually.

準備学修

Familiarize yourself with Units 1 to 5, before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q:Skills for Success Reading and Writing 1, Lynn, Oxford(L'Shawn M. HOWARD)

Q:Skills for Success Reading and Writing Intro(Maidhc Ó CATHAIL)

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing II	c		13214	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this class is to continue to develop students abilities in both of these skills and to develop their awareness that reading and writing are inextricably linked to each other.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6: Who makes you laugh?
3. Unit 6:continued
4. Unit 7: How does music make you feel?
5. Unit 7:continued
6. Effective paragraph writing 1
7. Effective paragraph writing 2
8. Review
9. Unit 8: Is it ever OK to lie?
10. Unit 8:continued
11. Unit 9: How are children and adults different?
12. Unit 9:continued
13. Unit 10: What are you afraid of?
14. Unit 10:continued
15. Review

授業の方法

Students will be working individually and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook, especially Units 1 to 5, before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q:Skills for Success Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar I	a/b/c	13225	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL／小野 礼子／平野 真理子	必修	1			

授業の到達目標

英語の話し方や書き方の一般的なきまりを学ぶことにより、自分の考え等を正確かつ適切な英語で表現するとともに、話し手や書き手の意向等を的確に把握することができるようにする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語のコミュニケーション能力を向上させるには、文法規則の習得が不可欠である。授業ではまず、英語の基礎をしっかりと固めるために、中学校・高等学校で習った文法事項を一から復習する。次に、それらの文法事項が実際のコミュニケーションにおいてどのように使われるかを学ぶ。

授業計画

1. Section 1 be動詞とhave
2. Section 1 be動詞とhave
3. Section 2 現在時制
4. Section 2 現在時制
5. Section 3 未来を表す表現
6. Section 3 未来を表す表現
7. Section 4 過去時制
8. Section 4 過去時制
9. Section 5 完了形
10. Section 5 完了形
11. Section 5 完了形
12. Section 5 完了形
13. Section 6 助動詞
14. Section 6 助動詞
15. Section 6 助動詞

授業の方法

文法事項の解説と練習問題の解答を中心とするが、コミュニケーション活動も多く取り入れる。

準備学修

毎回、宿題を課す。

中学校・高等学校で習った文法事項をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の10%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法 パートA：動詞と時制』（オックスフォード大学出版局・旺文社）

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

- ・平常点には、小テスト、宿題、出席状況、日頃の学習態度、TOEICの評価が含まれる。
- ・欠席や遅刻により受けなかった小テスト等は原則として0点とする。
- ・テキストは参考書・自習用教材として本科目以外でもどんどん活用してほしい。

教員連絡先

ocathail@gmail.com（O CATHAIL）、onoreiko@kaisei.ac.jp（小野）、hirano@kaisei.ac.jp（平野）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar II	a/b/c	13229	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL／平野 真理子／小野 礼子	必修	1			

授業の到達目標

英語の話し方や書き方の一般的なきまりを学ぶことにより、自分の考え等を正確かつ適切な英語で表現するとともに、話し手や書き手の意向等を的確に把握することができるようにする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語のコミュニケーション能力を向上させるには、文法規則の習得が不可欠である。授業ではまず、英語の基礎をしっかりと固めるために、中学校・高等学校で習った文法事項を一から復習する。次に、それらの文法事項が実際のコミュニケーションにおいてどのように使われるかを学ぶ。

授業計画

1. パートA Section 7 受動態
2. パートA Section 7 受動態
3. パートA Section 8 疑問文と否定文
4. パートA Section 8 疑問文と否定文
5. パートA Section 9 不定詞と-ing形
6. パートA Section 9 不定詞と-ing形
7. パートA Section 10 動詞を用いた様々な表現
8. パートA Section 10 動詞を用いた様々な表現
9. パートB Section 1 冠詞
10. パートB Section 1 冠詞
11. パートB Section 2 限定詞
12. パートB Section 2 限定詞
13. パートB Section 2 限定詞
14. パートB Section 3 人称代名詞
15. パートB Section 4 名詞

授業の方法

文法事項の解説と練習問題の解答を中心とするが、コミュニケーション活動も多く取り入れる。

準備学修

毎回、宿題を課す。

Grammar Iの復習をしておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の10%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法 パートA：動詞と時制』（オックスフォード大学出版局・旺文社）
- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法 パートB：修飾と接続』（オックスフォード大学出版局・旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

- ・平常点には、小テスト、宿題、出席状況・日頃の学習態度、TOEICの評価が含まれる。
- ・欠席や遅刻により受けなかった小テスト等は原則として0点とする。
- ・テキストは参考書・自習用教材として本科目以外でもどんどん活用してほしい。

教員連絡先

ocathail@gmail.com（O CATHAIL）、hirano@kaisei.ac.jp（平野）、onoreiko@kaisei.ac.jp（小野）

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation I	a/b		13233	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	1				

授業の到達目標

母音：英語特有の母音を認識し、日本語の類似音・英語の類似音との違いを理解する／リズム：英語のリズムと日本語のリズムとの違いを認識する、英語のリズムで語・句・文章を読む
このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養います。

授業の概要

実践的に英語の発音訓練を行う。「伝える」ための英語の習得、および聴解力の向上を目指し、相手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦勞しがちな英語の音声的特徴を、耳・目・口を使って練習する。会話形式、ペア・グループワークなどの練習、L.L.教室の個人ブースでの練習を通して、一人ひとりの苦手な部分を確認、克服できるようにしたい。特にPronunciation Iでは、日本語よりもはるかに種類の多い母音の区別の仕方、類似した音（日本語を含む）との違い、「内容を伝える」ために重要な役割を持つリズムを体得する訓練を重点的に行う。

授業計画

1. Introduction
2. Spelling and Pronunciation
3. Pure Vowels and Word Stress 1)
4. Pure Vowels and Word Stress 2)
5. Pure Vowels and Word Stress 3)
6. Pure Vowels and Word Stress 4)
7. Pure Vowels and Word Stress 5)
8. Review
9. Diphthongs and Rhythm 1)
10. Diphthongs and Rhythm 2)
11. Diphthongs and Rhythm 3)
12. Review
13. Summary 1)
14. Summary 2)
15. Summary 3)

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と理論的学習

準備学修

発音やアクセントが不明瞭な単語がある際に辞書で確認をする習慣をつけておくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）、2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること、3) 欠席日に実施のquizは、翌授業日までの間に限り、受けることが可能（-20%）

テキスト

Jonathan Marks, *English Pronunciation in Use (Elementary)*, CUP.

留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation II	a/b		13237	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	1				

授業の到達目標

子音：英語特有の子音を認識し、日本語の類似音・英語の類似音との違いを理解する／リズム・イントネーション：英語特有のリズム・イントネーションの特徴（意味）を理解し、文章を読む
このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養います。

授業の概要

Pronunciation Iに引き続き、「伝える」ための英語の習得、および聴解力の向上を目指し、相手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦勞しがちな英語の音声的特徴を、耳・目・口を使って実践的に訓練する。特に、英語特有の子音や類似した子音について理論的・実践的に修得する。また、文脈や前後関係、話し手の感情・意図により変化するイントネーションの特徴を学び、練習する。

授業計画

1. Review from Pronunciation I
2. Consonants and Rhythm 1)
3. Consonants and Rhythm 2)
4. Consonants and Rhythm 3)
5. Consonants and Rhythm 4)
6. Consonants and Rhythm 5)
7. Review
8. Consonants and Rhythm 6)
9. Consonants and Rhythm 7)
10. Consonants and Rhythm 8)
11. Consonants and Rhythm 9)
12. Consonants and Rhythm 10)
13. Review
14. Summary 1)
15. Summary 2)

授業の方法

実践的に英語の発音訓練を行い、理論的にその特徴を学修する

準備学修

発音やアクセントが不明瞭な単語がある際に辞書で確認をする習慣をつけておくこと／Pronunciation Iを通して、英文の音読に慣れていること

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）、2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること、3) 欠席日に実施のquizは、翌授業日までの間に限り、受けることが可能（-20%）

テキスト

Jonathan Marks, *English Pronunciation in Use (Elementary)*, CUP.

留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication III	a	13241	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標

In this class will strengthen the students' sense of internationality.

授業の概要

Students will continue to improve upon their English communication skills and progress from an elementary level of proficiency to a pre-intermediate level of proficiency.

授業計画

1. Unit 1. 1
2. Unit 1. 3 continued
3. Unit 1. 4
4. Unit 2. 1
5. Unit 2. 2
6. Unit 2. 4
7. Unit 3. 2
8. Unit 3. 3
9. Unit 3. 4
10. Unit 4. 1
11. Unit 4. 3
12. Unit 4. 4
13. Review and prepare for Final Project
14. Review and prepare for Final Project
15. Review and prepare for Final Project

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups.

準備学修

Be familiar with the material in Speakout Elementary.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speakout Pre-intermediate by Clare and Wilson Pearson/Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication III	b	13241	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Welcome Part 1
3. Unit 1 Welcome Part 2
4. Unit 2 Lifestyles Part 1
5. Unit 2 Lifestyles Part 2
6. Unit 3 People Part 1
7. Unit 3 People Part 2
8. Mid-term Review
9. Unit 4 Places Part 1
10. Unit 4 Places Part 2
11. Unit 5 Food Part 1
12. Unit 5 Food Part 2
13. Unit 6 The Past Part 1
14. Unit 6 The Past Part 2
15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary Students' Book, Frances Eales, Steve Oakes, Pearson

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication IV	a		13245	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7 Changes 1
3. Unit 7 Changes 2
4. Unit 8 Money 1
5. Unit 8 Money 2
6. Unit 9 Nature 1
7. Unit 9 Nature 2
8. Mid-term Review
9. Unit 10 Society 1
10. Unit 10 Society 2
11. Unit 11 Technology 1
12. Unit 11 Technology 2
13. Unit 12 Fame 1
14. Unit 12 Fame 2
15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate Students' Book, Antonia Clare, J.J. Wilson, Pearson

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication IV	b		13245	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	必修	2				

授業の到達目標

Students will continue to progress from an elementary level of proficiency to a pre-intermediate level of proficiency in English.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to talk about a variety of topics in English.

授業計画

1. Unit 5. 1
2. Unit 5. 3
3. Unit 5. 4
4. Unit 6. 2
5. Unit 6. 3
6. Unit 6. 4
7. Unit 7. 1
8. Unit 7. 3
9. Unit 7. 4
10. Unit 8. 2
11. Unit 8. 3
12. Unit 8. 4
13. Review and Prepare Final Project
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法

Students will work individually, in pairs, groups, and as a

class.

準備学修

Be familiar with the material in Speakout Elementary.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speakout Elementary by Eales and Oakes Pearson/Longman

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing III	a		13250	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	必修	2				

授業の到達目標

日本および国際的なテーマの英文を Critical Thinking の観点から読み、それらを要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティの1(知性、国際性)を学ぶ。

授業の概要

英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writing のみならず、Culture, Critical Thinking の観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentation を通して各自の意見交換を行う。

授業計画

1. Introduction
2. The Beauty of the Seasons
3. Continued
4. The Importance of English
5. Continued
6. How the Internet Evolved
7. Continued
8. Travel in Japan
9. Continued
10. The Secret of Happiness
11. Continued
12. Secondhand Smoke
13. Continued
14. Review
15. Conclusion

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学修

Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Takashi Shimaoka et al., *Life Topics: A Critical-Thinking Approach to English Proficiency*. Nan'un-do

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing III	b		13250	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this course is for students to move from a beginning proficiency level of reading/writing to a pre-intermediate level.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Names
3. Unit 1: continued
4. Unit 1: continued
5. Unit 2: Work
6. Unit 2: continued
7. Unit 2: continued
8. Review
9. Unit 3: Long Distance
10. Unit3:continued
11. Unit 3: continued
12. Unit 4: Positive Thinking
13. Unit 4: continued
14. Unit 4:continued
15. Review

授業の方法

Students will engage in individual, pair, and group activities provided by the textbook.

準備学修

Students should review the material they learned in Reading/Writing II.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q:Skills for Success: Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing III	c	13250	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this course is for students to move from a beginning proficiency level of reading/writing to a pre-intermediate level.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Names
3. Unit 1: continued
4. Unit 1: continued
5. Unit 2: Work
6. Unit 2: continued
7. Unit 2: continued
8. Review
9. Unit 3: Long Distance
10. Unit 3: continued
11. Unit 3: continued
12. Unit 4: Positive Thinking
13. Unit 4: continued
14. Unit 4: continued
15. Review

授業の方法

Students will engage in individual, pair, and group activities provided by the textbook.

準備学修

Students should review the material they learned in Reading/Writing II.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q:Skills for Success: Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing IV	a	13254	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
惣谷 美智子	必修	2			

授業の到達目標

Reading/WritingIIIで学んだ英語力をさらに磨く。日本および国際的なテーマの英文を Critical Thinking の観点から読み、それらを要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性、国際性)を学ぶ。

授業の概要

英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writing のみならず、Culture, Critical Thinking の観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentation を通して各自の意見交換を行う。

授業計画

1. Introduction
2. What Colors Tell about You
3. Continued
4. Free Music
5. Continued
6. Fast Food and Health
7. Continued
8. The Dangers of Credit Cards
9. Continued
10. Old Media and New Media
11. Continued
12. Women in College
13. Continued
14. Review
15. Conclusion

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学修

Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Takashi Shimaoka et al., *Life Topics: A Critical-Thinking Approach to English Proficiency Nan'un-do*

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/WritingIV	b		13254	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Students will be able to read a variety of texts for different kinds of information and will be able to write effective prose about a variety of different topics.

授業計画

1. Unit 5: Reading 1
2. Unit 5: Reading 2
3. Unit 5: Writing
4. Unit 5: Unit Assignment
5. Unit 6: Reading 1
6. Unit 6: Reading 2
7. Unit 6: Writing
8. Unit 6: Unit Assignment
9. Unit 7: Reading 1
10. Unit 7: Reading 2
11. Unit 7: Writing
12. Unit 7: Unit Assignment
13. Review and Prepare Final Project
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法

Students will focus on vocabulary acquisition and writing about a variety of topics.

準備学修

Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 1, by Lynn Oxford

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/WritingIV	c		13254	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Students will be able to read a variety of texts for different kinds of information and will be able to write effective prose about a variety of different topics.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6: Reading 1
3. Unit 6: Reading 2
4. Unit 7: Writing
5. Unit 7: Reading 1
6. Unit 8: Reading 2
7. Unit 8: Writing
8. Review
9. Unit 9: Reading 1
10. Unit 9: Reading 2
11. Unit 9: Writing
12. Unit 10: Reading 1
13. Unit 10: Reading 2
14. Unit 10: Writing
15. Review

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学修

Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 1, Sarah Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar III	a/b	13265	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／惣谷 美智子	必修	2			

授業の到達目標

実際のコミュニケーションにおいて、文法の知識を有効に用いて自分の考え等を正確かつ適切に表現するとともに、話し手や書き手の意向等を正しく理解することができるようにする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性、国際性）を養う。

授業の概要

中学校・高等学校で習った文法事項を復習する。また、言語使用に焦点を当て、それらの文法事項が実際のコミュニケーションやエッセイなどの書き言葉においてどのように使われるかを解説と練習を通して学ぶ。

授業計画

1. Section 5 形容詞と副詞
2. Section 5 形容詞と副詞
3. Section 5 形容詞と副詞
4. Section 6 接続詞
5. Section 6 接続詞
6. Section 7 ifを使った文、仮定法
7. Section 7 ifを使った文、仮定法
8. Section 8 関係代名詞
9. Section 8 関係代名詞
10. Section 8 関係代名詞
11. Section 9 話法
12. Section 9 話法
13. Section 10 前置詞
14. Section 10 前置詞
15. Section 11 話し言葉の文法

授業の方法

講義の他に発表を多く取り入れる。

準備学修

中学校・高等学校で習った文法事項をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートB：修飾と接続（旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートB：修飾と接続（旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

留意事項

- ・平常点には、小テスト、宿題、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・欠席や遅刻により受けなかった小テスト等は原則として0点とする。
- ・テキストは参考書・自習教材として本科目以外でもどんどん活用してほしい。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp（惣谷）、hirano@kaisei.ac.jp（平野）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation III	a/b	13269	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子/L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標

Practice and learn the aspects of English sounds through practical and theoretical study.

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養います。

授業の概要

This course will help the students learn how to pronounce the sounds of English more clearly so they can be understood and will also help them understand what other people say to them in English. The main focus will be put on the melody of English; stress, rhythm and intonation. In order to achieve the goal, the students will repeatedly listen to the classmates, material and the instructor's English and practice reading sentences. All of this will help them to communicate more easily and more clearly in English.(共通)

授業計画

1. Sentence Focus 1)
 2. Sentence Focus 2)
 3. Consonants 1)
 4. Consonants 2)
 5. Consonants 3)
 6. Consonants 4)
 7. Consonants 5)
 8. Review
 9. Thought Groups 1)
 10. Thought Groups 2)
 11. Project 1)
 12. Project 2)
 13. Project 3)
 14. Project 4)
 15. Summary
- (石原 敬子)

1. Review and Introduction
 2. Suprasegmental Features 1)
 3. Suprasegmental Features 2)
 4. Suprasegmental Features 3)
 5. Suprasegmental Features 4)
 6. Suprasegmental Features 5)
 7. Review
 8. Segmental Features 1)
 9. Segmental Features 2)
 10. Segmental Features 3)
 11. Segmental Features 4)
 12. Segmental Features 5)
 13. Summary 1)
 14. Summary 2)
 15. Summary 3)
- (L'Shawn M. HOWARD)

授業の方法

Students will practice various pronunciation techniques.

準備学修

Familiarize yourself with the concepts covered in Pronunciation I and II.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) As continual efforts are essential, four points are subtracted per absence. 2) When you are absent, it is your

responsibility to check whether there is any assignment given.(石原 敬子)

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.(L'Shawn M. HOWARD)

テキスト

Judy B. Gilbert, *Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension*, 4th ed. CUP.

留意事項

You need to repeatedly listen to and read out the materials in order to improve your English. Do not be shy.

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp(石原 敬子)

howard@kaisei.ac.jp(L'Shawn M. HOWARD)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英語Ⅰ	a/b	13270	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
入江 和子／平野 真理子	必修	1			

授業の到達目標

語彙力・文法力、文の論理的な関係を把握し内容を理解する力が英文を読みながら少しずつ自然に身につくように、DVDを使いながら学習する。トピック関連の重要単語は書けるように、また、聞いても理解できるようにリスニングにも重点を置く。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。同時に、観光英検3級に合格することを目標とする。

授業の概要

毎回、一つのユニットを読み進める。英語でキーワードが書けるように毎回小テストを実施する。各国の文化的、言語的な理解を深めてゆく。並行して観光英検3級の対策も行う。

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
A Real Winner: Part 1
3. Unit 2
A Real Winner: Part 2
4. Unit 3
Zoo Dentists: Part 1
5. Unit 4
Zoo Dentists: Part 2
6. Unit 5
Solar Cooking: Part 1
7. Unit 6
Solar Cooking: Part 2
8. Unit 7
Bird Girl: Part 1
9. Unit 8
Bird Girl: Part 2
10. Unit 9
Beagle Patrol: Part 1
11. Unit 10
Beagle Patrol: Part 2
12. Unit 11
Polar Bears in Trouble: Part 1

13. Unit 12
Polar Bears in Trouble: Part 2
14. Unit 13
Aquarium on Wheels: Part 1
15. Unit 14
Aquarium on Wheels: Part 2

授業の方法

テキストに沿って、毎回一章ずつ進めてゆく。

準備学修

毎回必ず指示された箇所の予習をしてこよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき2点減点とする

テキスト

Snapshots from the Globe, Cengage Learning
第24回・25回観光英語検定試験解説書

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp (平野)

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英語Ⅱ	a/b	13271	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／入江 和子	必修	1			

授業の到達目標

観光分野に必要な知識と言える各地の世界遺産について、英文で読み進める。各地の名称や歴史的背景だけではなく、観光に関する語彙や慣用表現も確実に習得することを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

テキストを読み進めながら、各地の世界遺産に関して学ぶ。DVDを通じて実際の世界遺産を目にすることでより理解が深まり、興味が増すと言える。毎回の授業では、読む、聞く、話す、書く、の4技能の習得を目指す。

授業計画

1. introduction
2. UNIT 1 Statue of Liberty, USA
3. UNIT 2 Forbidden City, China
4. UNIT 3 Bath, England
5. UNIT 4 Canadian Rockies, Canada
6. UNIT 5 The Pyramids, Egypt
7. UNIT 6 Ayutthaya, Thailand
8. UNIT 7 Edinburgh Castle, Scotland
9. UNIT 8 Machu Picchu, Peru
10. UNIT 9 Taj Mahal, India
11. UNIT 10 Te Wahipounamu, New Zealand
12. UNIT 11 Shirakawa-go, Japan
13. UNIT 12 Cappadocia, Turkey
14. UNIT 13 Blue Mountains, Australia
15. UNIT 14 Persepolis, Iran

授業の方法

毎回の授業では、テキストに沿って一章ずつ進めてゆく。

準備学修

毎回必ず指示された箇所の予習をしてこよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき2点減点とする

テキスト

World Heritage on DVD, NAN'UN-DO

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp (平野)

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石丸 脩子	必修	2				

授業の到達目標

ホスピタリティは「もてなし」「気配り」「歓待」という言葉で説明される。それは人間精神にかかわるもので、単なるマナーや知識、技能ではなく、人に幸せを与えるもので、その真髄は、自分と他者を尊重し、大切にするという人間愛が基本にある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を目指します。

授業の概要

最初に「ホスピタリティ」という言葉の意味、語源とそのキリスト教の起源について学ぶ。次にこの概念の東西文化圏における考え方や実践について概観する。授業の中盤に入って、ホスピタリティを日常生活の中で生きる私たちに視点を移して考察し、日本におけるホスピタリティの伝統を、「もてなし」、慣習、茶道という局面から学ぶ。最後に現代のホスピタリティ産業の代表であるディズニーランドにおけるホスピタリティの実践を検討する。

授業計画

1. ホスピタリティの多様な意味
2. ホスピタリティの語源と聖書における起源
3. 聖書に見られるホスピタリティ精神
4. 古代西洋、キリスト教、イスラム教のホスピタリティ文化
5. 古代東洋のホスピタリティ文化—儒教とヒンドゥー教
6. 私はホスピタリティをどのように生きるか
7. 日常生活におけるホスピタリティ—親と子の関係
8. 「おくりびと」に見るホスピタリティ
9. 日本のホスピタリティ文化 「もてなし」の語源
10. 日本のホスピタリティ文化 茶道
11. 日本のホスピタリティ文化 もてなし文化の歴史
12. 日本の慣習とホスピタリティ 慶事におけるホスピタリティ
13. 日本の慣習とホスピタリティ 葬儀および祭りにおけるホスピタリティ
14. ディズニーランドにおけるホスピタリティ
15. ホスピタリティ精神論のまとめ

授業の方法

講義形式と授業中に小グループで話し合うなど、作業を行う。DVD

も2回見る。

準備学修

旧約聖書の創世記18章を読んでくる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の通常欠席につき、5点減点する。

テキスト

授業中にプリントを配布する。

参考図書

ヘンリ・J. M. ナウウェン『差し伸べられる手』（女子パウロ会、2006年）
服部勝人『ホスピタリティ学のおすすめ』（丸善株式会社、2008年）
藍江隆『ホスピタリティと観光産業』（文理閣、2008年）

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論			13273	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)とI(知性)とを養う。

授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

1. 落語(前座の役割「寿限無」「芝浜」)
2. 落語(海外へ:英語落語の可能性「驚取り」)
3. 落語(女性落語家の活躍 ドラマ「ちりとてちん」と創作落語)
4. 能楽(狂言:「附子」大蔵流茂山狂言と和泉流野村狂言)
5. 能楽(狂言: 東と西の芸風の違いをみる 「棒縛」「末広がり」)
6. 能楽(能:野村萬斎主演映画「陰陽師」と丑の刻詣り)
7. 能楽(能:シテ方・ワキ方・狂言方「鉄輪」)
8. 歌舞伎(江戸荒事 「勸進帳」)
9. 歌舞伎(現代歌舞伎:野田秀樹による新しい脚本 市川染五郎・中村勘九郎の「研辰の討たれ」)
10. 歌舞伎(日本作品を海外へ:和事歌舞伎の新演出 故中村勘九郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演)
11. 歌舞伎(海外作品を日本へ:NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」)
12. 文楽「夏祭浪花鑑」大阪と文楽
13. 文楽(世界で紹介された杉本文楽「曾根崎心中」と三谷幸喜による「其成礼心中」)
14. 文楽(人形浄瑠璃における太夫、語り)の役割:技芸員豊竹咲寿大夫氏に聞く)
15. 文楽劇場鑑賞

授業の方法

講義が中心となるが、その他に劇場で実際に古典芸能を鑑賞する。また、現役の演者の方との対話形式の講義も行う。

準備学修

歴史において、それぞれがどの時代にどのように発展したかを確認しておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

7月20日(日曜日)の国立文楽劇場での文楽鑑賞への参加は絶対条件である。(指定日に参加できないときは、別日に個人で鑑賞することになる。)

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

留意事項

国立文楽劇場(大阪市中心区日本橋)へ文楽鑑賞に行く。(午前11時開演、午後1時終演予定。全員参加。)

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
翻訳・通訳論入門			13301	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

日本語から英語、あるいは英語から日本語への翻訳・通訳のプロセスを通して、二言語間に特徴的な表現や発想を具体的に比較、対照しながら、翻訳・通訳の理論と実践を学ぶ。授業では、単なる語彙の置き換えではなく、多文化間コミュニケーションとしての翻訳・通訳の理論と実践的スキルの練磨を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

翻訳論では、翻訳はクリエイティブな作業であるという認識のもと、従来の「英文和訳」と「翻訳」の違い、また翻訳する場合、必要になる発想の転換のしかたを具体的に学ぶ。講義の実践として授業計画に沿ってさまざまな課題の演習を行う。

授業計画

1. introduction
2. Lesson 1&2
3. Lesson 3
4. Lesson 4
5. Lesson 5
6. Lesson 6
7. Lesson 7
8. Lesson 8
9. Lesson 9
10. Lesson 10
11. Lesson 11
12. Lesson 12
13. Lesson 13
14. Lesson 14
15. Lesson 15

授業の方法

毎回の授業では、各章のテーマに沿って学生一人一人の意見を聞きながら進めてゆく。解答は一つではないため、しっかりと考えてもらうことに重点が置かれる。

準備学修

授業で、次回までの課題を指示するので、必ず準備学習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席重視。一貫性をもった授業であるので、必ず毎回出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

The Art of Translation, Nan'un-do

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

授業時に指示する。

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Small Group Communication			13305	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	選択	2				

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to become communicative in discussing a range of issues at an intermediate level of English, and to develop students'sense of Internationality.

授業の概要

Students will be able to engage with a variety of issues and work in small groups to respond to various points of view and communicate their own opinions coherently.

授業計画

1. First Impressions
2. Traffic Jam
3. Who Needs the Local Language?
4. Getting Ahead
5. Forever Single
6. What Are Friends For?
7. What's For Dinner?
8. Cyber Bullying
9. Taking Care of Father
10. Why Go to School?
11. An International Relationship
12. Too Little, Too Late
13. Ben and Mike
14. Government Control
15. Living Together

授業の方法

Students will discuss textbook topics in weekly discussion groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence." If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Impact Issues 2 (New Edition), Day/Shaules/Yamanaka, Pearson/Longman

参考図書

To be announced as and when required

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 1	a	13309	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	選択	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from pre-intermediate and progress towards English at an intermediate level. Students will also develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Identity 1.
3. Unit 1.
4. Unit 1.
5. Unit 1.
6. Unit 2: Tales 2.
7. Unit 2.
8. Unit 2.
9. Unit 3: Contact 3.
10. Unit 3.
11. Unit 3.
12. Unit 3.
13. Unit 4: Jobs 4.
14. Unit 4.
15. Unit 4.

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 1	b	13309	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Life
3. Unit 1: continued
4. Unit 2: Work
5. Unit 2: continued
6. Unit 3: Time Out
7. Unit 3: continued
8. Review
9. Unit 4: Great Minds
10. Unit 4: continued
11. Unit 5: Travel
12. Unit 5: continued
13. Unit 6: Fitness
14. Unit 6: continued
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 2	a		13313	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7 Part 1
3. Unit 7 Part 2
4. Unit 8 Part 1
5. Unit 8 Part 2
6. Unit 9 Part 1
7. Unit 9 Part 2
8. Review
9. Unit 10 Part 1
10. Unit 10 Part 2
11. Unit 11 Part 1
12. Unit 11 Part 2
13. Unit 12 Part 1
14. Unit 12 Part 2
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 2	b		13313	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	選択	2				

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to continue to hone their skills at the pre-intermediate level. They will also continue to develop a sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. Unit 6: Fitness: 6. | 2 |
| 2. Unit 6. | 3 |
| 3. Unit 6. | 4 |
| 4. Unit 7: Changes 7. | 1 |
| 5. Unit 7. | 3 |
| 6. Unit 7. | 4 |
| 7. Unit 8: Money: 8. | 1 |
| 8. Unit 8. | 3 |
| 9. Unit 8. | 4 |
| 10. Unit 9: Nature 9. | 1 |
| 11. Unit 9. | 3 |
| 12. Unit 9. | 4 |
| 13. Unit 10 Society: 10. | 1 |
| 14. Unit 10. | 3 |
| 15. Unit 10. | 4 |

授業の方法

Students will complete textbook activities through pair and group work.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading/Writing 1	a	13318	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	選択	2			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics.

授業の概要

Students will continue to work on their academic reading and writing skills.

授業計画

1. Introduction
2. Lesson 1
3. Lesson 2
4. Lesson 3
5. Lesson 4
6. Lesson 5
7. Lesson 6
8. Mid-term Review
9. Lesson 7
10. Lesson 8
11. Lesson 9
12. Lesson 10
13. Prepare for Final Review
14. Prepare for Final Review
15. Final Review

授業の方法

Students will be encouraged to read texts critically and to practice writing as much as possible.

準備学修

Review concepts covered in previous Reading and Writing courses.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 3 by Gamer and Ward Oxford

参考図書

To be announced.

留意事項

Students are expected to prepare for class and to participate actively during classes.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading/Writing 1	b	13318	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL	選択	2			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics.

授業の概要

Students will continue to work on their academic reading and writing skills.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 1 continued
4. Unit 2
5. Unit 2 continued
6. Unit 3
7. Unit 3 continued
8. Mid-term Review
9. Unit 4
10. Unit 4 continued
11. Unit 5
12. Unit 5 continued
13. Unit 6
14. Unit 6 continued
15. Final Review

授業の方法

Review concepts covered in previous Reading and Writing courses.

準備学修

Review concepts covered in previous Reading and Writing courses.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 2 by Gamer and Ward Oxford

参考図書

To be announced.

留意事項

Students are expected to prepare for class and to participate actively during classes.

基幹科目〈基幹科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading/Writing 2	a	13322	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	選択	2			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics.

授業の概要

Students will continue to work on their academic reading and writing skills.

授業計画

1. Unit 5 Reading 1
2. Unit 5 Reading 2
3. Unit 5 Writing
4. Unit 5 Unit Assignment
5. Unit 6 Reading 1
6. Unit 6 Reading 2
7. Unit 6 Writing
8. Unit 6 Unit Assignment
9. Unit 7 Reading 1
10. Unit 7 Reading 2
11. Unit 7 Writing
12. Unit 7 Unit Assignment
13. Review and Prepare Final Project
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法

Students will focus on vocabulary acquisition and writing.

準備学修

Review concepts covered in previous Reading and Writing courses.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 3 by Gamer and Ward Oxford

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading/Writing 2	b	13322	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL	選択	2			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics.

授業の概要

Students will continue to work on their academic reading and writing skills.

授業計画

1. Unit 5 Reading 1
2. Unit 5 Reading 2
3. Unit 5 Writing
4. Unit 5 Unit Assignment
5. Unit 6 Reading 1
6. Unit 6 Reading 2
7. Unit 6 Writing
8. Unit 6 Unit Assignment
9. Unit 7 Reading 1
10. Unit 7 Reading 2
11. Unit 7 Writing
12. Unit 7 Unit Assignment
13. Unit 7 Unit Assignment
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法

Students will be encouraged to read texts critically and to practice writing as much as possible.

準備学修

Review concepts covered in previous Reading and Writing courses.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 2 by Gamer and Ward Oxford

参考図書

To be announced.

留意事項

Students are expected to come to class prepared and to participate actively during class.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Public Speaking and Oral Interpretation			13333	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Through classroom activities in which students actively use their language skills, especially listening and speaking, students will learn how to give a speech in English. Students will also practice critical thinking skills, share information, and explore speech techniques.

授業計画

1. The Three Messages in Speech and The Physical Message
2. Informative Speech Presentations
3. Gestures and Layout Speech
4. Layout Speech Presentation and Voice Inflection
5. Voice Inflection and Demonstration Speech
6. The Story Message
7. The Introduction
8. The Body
9. The Body continued
10. The Body
11. The Conclusion
12. The Conclusion continued
13. The Visual Message
14. The Visual Message continued
15. Review for final presentation

授業の方法

Students will be working individually and making presentations to small groups.

準備学修

There are no prerequisites for this course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

This course will be taught entirely in English.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading 3	a		13337	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Maidhc Ó CATHAIL	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The goal of the course is to continue teaching reading skills and general English usage by reading an adapted version of the book 'Rabbit-proof Fence'. By listening to the accompanying CD while reading the book, students will be able to improve reading and listening skills at the same time.

授業計画

1. Introduction
2. Discuss Chapters 1 & 2
3. Discuss Chapters 3 & 4
4. Discuss Chapters 5 & 6
5. Discuss Chapters 7 & 8
6. Discuss Chapters 9 & 10
7. Review
8. Midterm Exam
9. Discuss Chapters 11 & 12
10. Discuss Chapters 13 & 14
11. Discuss Chapters 15 & 16
12. Discuss Chapters 17 & 18
13. Discuss Chapters 19 & 20
14. Discuss Chapters 21 & 22
15. Prepare for Final Exam

授業の方法

Students will be working individually and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Ireland, Oxford University Press

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading 3	b	13337	IV	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The goal of the course is to continue teaching reading skills and general English usage by reading Rabbit-proof Fence. This text has been taught in many American junior high school English classes as well as in adult English language programs designed to prepare international students for study in American colleges and universities. By listening to the accompanying CD while reading the book, students will be able to improve reading and listening skills at the same time.

授業計画

1. Introduction
2. Discuss Chapters 1 & 2
3. Discuss Chapters 3 & 4
4. Discuss Chapters 5 & 6
5. Discuss Chapters 7 & 8
6. Discuss Chapters 9 & 10
7. Review
8. Midterm Exam
9. Discuss Chapters 11 & 12
10. Discuss Chapters 13 & 14
11. Discuss Chapters 15 & 16
12. Discuss Chapters 17 & 18
13. Discuss Chapters 19 & 20
14. Discuss Chapters 21 & 22
15. Prepare for Final Exam

授業の方法

Students will be working individually and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking

the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Rabbit-proof Fence, Doris Pilkington-Garimara, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Writing 3	a	13341	IV	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The objective of this course is to further develop students' abilities in the academic writing process. Students will produce several types of academic writing, including comparison and cause and effect essays.

授業計画

1. Introduction: Unit 1 Exploring the Essay 1
2. Unit 1: Exploring the Essay 2
3. Unit 1: The Five-Paragraph Essay
4. Writing Comparison Essays 1
5. Writing Cause and Effect Essays 1
6. Writing Argumentative Essays
7. Writing the Introduction
8. Writing the Main Body and Conclusion of an Essay
9. Review
10. Unit 2: Narrative Essays 1: Introduction
11. Unit 2: Narrative Essays 2
12. Unit 3: Comparison Essays 2
13. Unit 3: Comparison Essays 3: Development
14. Unit 4: Cause-Effect Essays 2:
15. Unit 4: Cause-Effect Essays 3: Development

授業の方法

Students will mostly be working individually and in pairs.

準備学修

Review the first chapter of the text book.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Great Writing 4 Great Essays: Folse, Muchmore-Vokoun, Solomon, Heinle Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

This course is taught entirely in English.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Writing 3	b		13341	IV	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The objective of this course is to further develop students' abilities in the academic writing process. Students will produce several types of academic writing, including comparison and cause and effect essays.

授業計画

1. Introduction: Exploring the Essay 1
2. Exploring the Essay 2
3. The Five-Paragraph Essay
4. Writing Comparison Essays 1
5. Writing Cause and Effect Essays 1
6. Writing Argumentative Essays
7. Writing the Introduction
8. Writing the Main Body and Conclusion of an Essay
9. Review
10. Narrative Essays 1: Introduction
11. Narrative Essays 2
12. Comparison Essays 2
13. Comparison Essays 3: Development
14. Cause-Effect Essays 2:
15. Cause-Effect Essays 3: Development

授業の方法

Students will mostly be working individually and in pairs.

準備学修

Review the first chapter of the text book.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Great Writing 4 Great Essays: Folse, Muchmore-Vokoun, Solomon, Heinle Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

This course is taught entirely in English.

教員連絡先

hall@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Debating and Persuasion	a		13345	IV	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Autonomy.

授業の概要

The objectives of the course are to enable students to engage with a variety of issues and working in small groups to critically analyse these and to respond with effective arguments and counter-arguments.

授業計画

1. Introduction
2. Conspiracy Theories
3. Do We Need Royals?
4. Bad Manners in Public
5. Bullying
6. Gambling
7. Alcohol and drugs
8. Review
9. Sexual harassment
10. Smacking Kids
11. The Death Penalty
12. Stalkers
13. Religion
14. Racism
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Taboo Talk, Lynch, Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Debating and Persuasion	b		13345	IV	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Autonomy.

授業の概要

The objectives of the course are to enable students to engage with a variety of issues and working in small groups to critically analyse these and to respond with effective arguments and counter-arguments.

授業計画

1. Introduction
2. Conspiracy Theories
3. Do We Need Royals?
4. Bad Manners in Public
5. Bullying
6. Gambling
7. Alcohol and drugs
8. Review
9. Sexual harassment
10. Smacking Kids
11. The Death Penalty
12. Stalkers
13. Religion
14. Racism
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Taboo Talk, Lynch, Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばと社会			13405	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばと社会の関係を学び、ことばの使われ方やことばを使う人々に対する関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティの(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

多言語社会に暮らす人々は、日常どのようにして言語を使い分けるのか、共通の言語をもたない人同士がコミュニケーションを図ろうとすると、どのようなことばが生まれるのか、ことばの標準変種と非標準変種に対して人々はどのような価値観をもつのか、ことばと地域差・社会階級差・性差・年齢差は、どのように関係しているのかなどについて学ぶ。

授業計画

1. 社会言語学とは何か
2. 言語の選択(1): 多言語社会、ダイグロッシア
3. 言語の選択(2): ドメイン
4. 言語の選択(3): 二言語話者とコードスイッチング
5. 言語の選択(4): ビジンとクレオール(1)
6. 言語の選択(5): ビジンとクレオール(2)
7. 言語のバリエーション(1): ウィリアム・ラボフの古典的研究
8. 言語のバリエーション(2): ことばの標準変種と非標準変種
9. 言語のバリエーション(3): 地域方言とはなにか
10. 言語のバリエーション(4): 国際英語と英語の国際化
11. 言語のバリエーション(5): 社会方言とはなにか(1)
12. 言語のバリエーション(6): 社会方言とはなにか(2)
13. 言語のバリエーション(7): 黒人英語
14. 言語のバリエーション(8): ジェンダーと言語
15. 言語のバリエーション(9): 年齢と言語

授業の方法

教員・学生間のコミュニケーションを通してワークシートを完成させたり、自分の考え等を発表したりする。

準備学修

履修者は全員、次回のテーマについて、テキストの該当箇所を読む

で出席すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

東照二著 『社会言語学入門(改訂版)―生きた言葉のおもしろさに迫る』(研究社)
毎回ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、ワークシート、出席状況、日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・授業終了時に提出するワークシートの場合、当該授業終了時に提出されたもののみを評価の対象とする。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
異文化理解			13409	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

現代社会は多様な文化を持つ人たちとの国際交流社会と言える。しかし時として文化情報の不足のため考え方や感じ方の違いが異文化間の相互理解を難しくしている。こうした文化摩擦をさけるための異文化理解の基礎と異文化間コミュニケーションの留意点を学ぶ。また異文化理解の比較として日本の文化をよりよく知ることも重要である。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

この授業では西洋文化、特に欧米の文化理解を中心にして「目に見える文化」から「見えない文化」、つまり習慣や行動の仕方の背景にある価値観などの由来をテキストを中心に解説する。よく誤解を生む「しぐさ」やジェスチャーなども取り上げる。また後半の講義時間内では欧米の主要国について担当グループを決め、国別の発表をしながら国際理解を促進する。なお毎回の授業にあたりテキストの内容を十分予習しておくことが望まれる。

授業計画

1. ガイダンス。異文化理解とカルチャー・ショック
2. 文化摩擦を生む原因、異文化理解の知識 1. 文化とは何か
3. 異文化理解の知識 2. 価値観の理解
4. 異文化間コミュニケーション
5. 衣食住の文化（国別の担当グループ決めあり）
6. 人間関係の文化
7. 遊びと仕事の文化
8. 世界史の中の英語と文化 その1
9. 世界史の中の英語と文化 その2
10. 文化の基礎 その1
11. 文化の基礎 その2
12. 日本文化の将来
13. 英語授業外の活動と国際理解・国別グループ発表①
14. 異文化教育の手法と国際理解・国別グループ発表②
15. 異文化教育の評価と国際理解・国別グループ発表③

授業の方法

主要国についてグループに分け異文化理解の課題を討議し発表する時間を取り入れる。

準備学修

毎回授業で取り上げる範囲のページを事前にテキスト精読の事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

特別の理由のない欠席1回につき5点減点する

テキスト

『異文化理解のストラテジー』 佐野正之・水落一朗・鈴木龍一著
大修館書店

参考図書

『しぐさの比較文化』 リージャー・プロズナハン著 岡田 妙/斉藤紀代子 訳 大修館書店
『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』 久米昭元・長谷川典子著 有斐閣選書
『実例で見る日米コミュニケーション・ギャップ』 西田ひろ子 大修館書店

留意事項

出席と授業態度、国別の担当課題についてのチームワークと発表も重視する。
異文化理解の比較として日本の文化を英語で伝えられる勉強が望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学入門			13413	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	必修	2				

授業の到達目標

ギリシア・ラテン文学およびキリスト教に深いかかわりを持つイギリス文学と歴史的に若いアメリカ文学それぞれの社会的背景を理解し、代表的作家の主要作品を鑑賞して人間の生きる世界の多様性を学び、異文化に対する複合的な視点を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

イギリス文学とアメリカ文学の歴史的、文化的背景を概観してそれぞれの文学の特色や要点を理解し、詩や演劇、小説、随筆を通して表出される豊かな人間の想像力や内面の世界に触れ、英米文学作品の魅力を体験する。

授業計画

1. 序論：ギリシア・ラテン文学とキリスト教
2. 古英語・中英語の文学
3. ルネサンスの散文と詩
4. シェイクスピア
5. シェイクスピア
6. 小説の誕生と成長
7. 小説の誕生と成長
8. ロマン主義時代の詩
9. ヴィクトリア朝時代の小説
10. ヴィクトリア朝時代の小説
11. 20世紀の詩と小説
12. アメリカ・ロマンティシズム時代の文学
13. アメリカ・ロマンティシズム時代の文学
14. アメリカ・リアリズム時代の文学
15. アメリカ・リアリズム時代の文学

授業の方法

講義を中心に、レポート提出や課題発表を多く取り入れる。

準備学修

各自積極的に多くの文学作品を鑑賞するよう心がける。課題は必ず準備して授業に臨むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

原則、講義要項に沿って行う。

テキスト

内田能嗣『イギリス文学史』 大阪教育図書 他にハンドアウトを配布する。

参考図書

寺門泰彦編著他『アメリカ文学案内』朝日出版、野町二著他『イギリス文学案内』朝日出版、中村邦生他編著『楽しく読めるイギリス文学』ミネルヴァ書房、高田賢一他編著『楽しく読めるアメリカ文学』ミネルヴァ書房、大岡信也編『世界文学のすすめ』岩波文庫、高津春繁他著『ギリシア・ローマ古典文学案内』岩波文庫、小川正廣著『アエネーイスー神話が語るヨーロッパ世界の原点』岩波書店、丸谷オ一著『文学のレッスン』新潮社、池澤夏樹著『世界文学を読みほどこく』新潮選書

留意事項

課題のレポート提出は期日厳守。遅れた場合には受け付け不可。座席指定

基幹科目〈言語文化科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの意味・文化			13417	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
服部 幸正	必修	2				

授業の到達目標

国際化とかグローバル化という波が我々日本人の生活にも押し寄せていることをみなさんも実感していることと思う。授業では「ことばの意味・文化」の視点から、異文化理解へのアプローチの一端を学び、他文化への関心を深める一助としたい。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を考える。

授業の概要

英文のテキストを使って授業をする。しかし、英文講読のクラスではないので、英文の読解力強化や向上が第一の目的ではない。目的はテキストの著者が「ことばの意味・文化」について、何を主張しようとしているのかを読み取り、その内容を議論することである。教師主体の講義形式ではなく学生主体の演習形式で授業を行う。

授業計画

1. Language Supports Culture
2. Expressing Our Cultural Identity
3. Language Takes Us Beyond Our Culture
4. Social Harmony
5. Soothing Language
6. Language Complicates Culture
7. Social Discrimination And Language
8. Language Threatens Culture
9. The Threat Of English
10. Linguistic Arrogance
11. Linguistic Imperialism
12. Language And Culture In The 21st Century
13. Language For Everyone
14. Balancing Language(s) And Culture(s)
15. English Education In The 21st Century

授業の方法

学生主体の演習形式の授業方法をとるので、クラスでは各人指示された自分の責任を果たしてほしい。これはKAISEIパーソナリティE（倫理）を養うことにもなる。

準備学修

日本語と日本文化についての本を読むことをすすめる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席して授業に参加することを評価する。

テキスト

LANGUAGE and CULTURE in the 21st CENTURY by Joan McConnell
SEIBIDO

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

授業中に指示する。

教員連絡先

yyhattori1106@yahoo.co.jp

基幹科目〈言語文化科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Japanese Culture			13425	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	選択	2				

授業の到達目標

Students will develop a sense of Internationality in this course.

授業の概要

Students will learn how to share their culture with the international community.

授業計画

1. Unit 1
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 2
5. Unit 3
6. Unit 3
7. Unit 4
8. Unit 4
9. Unit 5
10. Unit 5
11. Unit 6
12. Unit 6
13. Unit 7
14. Unit 7
15. Reveiw

授業の方法

Students will write articles about various aspects of Japanese culture for a class blog.

準備学修

Students must have access to a personal computer and an e-mail address.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

This is Japan, by Simon Capper Macmillan

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	選択	2				

授業の到達目標

キーワード：「観光とは」「観光の展開（観光史）」「観光の背景（観光文化）」
観光交流時代を迎えて、国際的に「観光」の認識が高まっている。この授業では「観光立国」を目指すわが国の現状理解と、観光史・観光文化地理など「観光学」に関する基本的なことを学習する。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養います。（開講時期は「春学期」）

授業の概要

この授業では、国際人として訪日する外国人観光客にも対応できるわが国の「観光事情」をさまざまな角度から歴史的、文化的に学ぶこととする。内容は、「物見遊山」から「観光旅行」に関わるわが国の観光事情の流れを学ぶこと、「観光sightseeing」から「観光tourism」への認識をさらに深めることで、「国際観光交流時代」に生きる基礎学力を高める。

授業計画

1. 観光とは
2. 国内観光交流の現状
3. 国際観光交流の現状
4. 「交流」の発展と観光
5. 「旅」「宿」の発展と観光
6. 「めぐり」と「もうで」（周遊型観光の発展）
7. 「まち」のにぎわいと観光
8. 「遊覧」と観光 I
9. 「遊覧」と観光 II
10. 「遊覧」と観光 III
11. 「温泉」と観光
12. 「食」と観光
13. 「みやげ」と観光
14. 国際交流時代の「観光」
15. 「観光概論」のまとめ

授業の方法

テキストに添って進める。OHCを使用して板書、ビデオ学習、小レポートを課す。

準備学修

テキストに従って進めるので、事前によく読んでおくことで成果が上がる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点（出席・課題評価・小レポート）が50%あるので、欠席が多いとこの評価が低くなり、定期試験の成績が良くても授業評価が得られなくなる可能性があるので充分注意しておくこと

テキスト

「観光・旅の文化」北川宗忠著 ミネルヴァ書房

参考図書

「観光・旅行用語辞典」北川宗忠編著 ミネルヴァ書房

教員連絡先

kitagawa@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

観光先進国フランスを学ぶことにより日本の観光行政、観光資源・宿泊・交通・見本市・国際会議場・エンタテインメントなどの各インフラの問題点を探る。国際観光機関や国土交通省・観光庁の観光データをもとにフランス、イタリア、スペイン、アメリカなどの先進事例を研究し日本の今後の歩むべき方向を考える。

授業の概要

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養います。視座をフランスに定め日本の観光資源・観光行政・観光産業を俯瞰する。世界観光機構（UNWTO）、OECDなどの客観的データを基に日本の観光政策、国際観光、Two-way Tourismの意味、Outbound、inboundの健全なバランス、Tourism Exchangeの実例、国際交流の意義などを理解する。

授業計画

1. 国際観光交流論概要、シラバス概要、教科書、評価方法
2. 観光立国の実現、日本の観光政策、現状と今後の方向
3. フランスの政府観光局から学ぶ 観光庁とJNTO
4. 欧米人からみた日本の魅力
5. パカンス観、先進国の余暇事情、日本の余暇事情
6. 交流とはなにか。国内、海外、交流の形態、交流の意義日本の観光政策
7. ホスピタリティ（おもてなし）のあり方
8. 交流の場、日本の国際交流、過去のとりくみ
9. マルチメディアとツーリズム、日本の国際交流、現状と今後の方向
10. 国際観光交流と観光産業、イベント・コンベンション事業、Two-way tourism
11. 国際観光交流と観光産業、旅行業、宿泊業、輸送業、国際会議場
12. ケーススタディ、世界の国際交流 クラブメッド
13. ケーススタディ、世界の国際交流 フランスのキャンピング
14. ケーススタディ、世界の国際交流 音楽祭、映画祭、フェスティバル
15. 国際観光交流論のまとめ

授業の方法

教科書は最初に一読しておくことが必須。国際性を養うため海外から日本を見るスタンスでシラバスの各テーマについて考える。

準備学修

各種メディアを通じて日ごろから世界や日本の動きなど情報収集すると楽しく学ぶことができる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない欠席以外は認めない。

テキスト

観光大国フランス一ゆとりとパカンスの仕組みー（現代図書）青木幹生著
教室で直接販売する。割引価格2000円

参考図書

「平成23、24、25年度版観光白書」国土交通省編
「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

留意事項

各自が見聞きした情報を教室で発表してもらうことを歓迎する。双方向の裏りある授業を目指したい。

教員連絡先

aokimikio@aol.com

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーションⅠ			13428	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
若生 茂嗣／岩橋 博子	選択	1				

授業の到達目標

- ・外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
 - ・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
 - ・手話で自己紹介が出来るようにする
 - ・簡単な会話が出来るようにする
- このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

- ・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・聴覚障害者の聞こえのしくみと制度を学ぶ。
- ・手話で自己紹介する。
- ・基本的な会話手話を習得する。
- ・レクリエーション

授業計画

1. オリエンテーション「聞こえないこととは」「コミュニケーションとは」/手話表現/指文字
2. 実技(伝え合ってみよう)
3. DVD映画「ゆずり葉」鑑賞
4. 実技(名前)
5. 聴覚障害者の課題1
6. 実技(趣味)
7. 実技(仕事)
8. 聴覚障害者の課題2
9. 実技(家族)
10. 実技(地図1)
11. 聴覚障害者の課題3
12. 実技(地図2)
13. 実技(自己紹介しましょう)
14. 実技試験
15. まとめ

授業の方法

DVDを使って進める。
視覚的ゲーム
手話実技・講義

準備学修

単語学習

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

手話奉仕員養成テキスト“手話を学ぼう 手話で話そう”

参考図書

日本語・手話辞典

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーションⅡ			13429	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
若生 茂嗣／岩橋 博子	選択	1				

授業の到達目標

- ・外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
 - ・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
 - ・手話で会話が出来るようにする。
 - ・講師の手話が理解でき、聴覚障害者と交流が出来るようにする
 - ・全国手話検定5級取得
- このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

- ・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・手話の基本的な会話を習得する。
- ・障害者福祉の基礎を学ぶ。
- ・レクリエーション

授業計画

1. 春学期の復習(夏休みの報告)
2. 実技(1日のこと)
3. 実技(1ヶ月のこと)
4. 聴覚障害者の課題4
5. 実技(1年のこと)
6. 実技(行事のお知らせ)
7. 聴覚障害者の課題5
8. 実技(会話してみましよう1)
9. 実技(会話してみましよう2)
10. 聴覚障害者の課題
11. 実技(会話してみましよう3)
12. 実技(応用編1)
13. 実技(応用編2)
14. 実技試験
15. まとめ

授業の方法

※

準備学修

※

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

手話奉仕員養成テキスト“手話を学ぼう 手話で話そう”

参考図書

日本語・手話辞典

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
環境ツーリズム論			13430	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

近代になり産業文明の発達と同時に自然環境にも影響を与え、さらに地球規模での温暖化が進行している。この授業ではまず地球温暖化の原因とその影響を考察し、温暖化防止のための「京都議定書」の意義を考える。次にツーリズム分野での地球環境保全への世界での取り組みの歴史を考え、近年世界各地で環境を保全する「持続可能なツーリズム」が実践されていることを代表的な事例を参考に理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

まず現在の地球温暖化傾向の原因を理解しながら、これまでの世界的な環境保全運動と国連会議で採択された「持続可能な開発」即ちサステイナブル・デベロップメントの基本概念を理解する。これを受けて世界各地で環境保全と観光の視点から新たなツーリズム、即ちエコツーリズムに代表される持続可能なツーリズムが実践されていることを紹介する。その代表的な国別の事例をグループ別に課題研究し発表する時間も設ける。

授業計画

1. ガイダンス
2. 地球温暖化と京都議定書
3. 地球環境保全へのながれ、その1
4. 地球環境保全へのながれ、その2
5. 近代観光の発達とマストツーリズム
6. エコツーリズムとエコツアー
7. 日本におけるエコツーリズム その1
8. 日本におけるエコツーリズム その2
9. アメリカの自然保護と国立公園制度
10. イギリスのナショナルトラスト運動
11. 環境ツーリズムの先進事例研究 その1
12. 環境ツーリズムの先進事例研究 その2
13. 環境ツーリズムの先進事例発表 その3
14. 環境ツーリズムの先進事例発表 その4
15. 環境ツーリズムのまとめ

授業の方法

先進事例は学生が国別に課題研究し発表を行う。

準備学修

エコツーリズムや地球温暖化についてポスト京都議定書の動向などの新聞報道にも注目しておく事。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。

テキスト

特に指定しない。随時プリントを配布する。講義内容によりDVDなどで映像でも紹介する。

参考図書

『観光学入門』 岡本伸之著 有斐閣アルマ、『ナショナル・トラスト（新版）』 木原啓吉著 三省堂、『エコツーリズムってなに？』 小林寛子著 河出書房新社、『アメリカの環境保護運動』 岡島成之著 岩波新書

留意事項

欠席した授業内容は友人と確認しておくこと。普段から環境問題に意識を持ちエコロジーについて考える習慣を持つ事。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

観光の全体像を理解し観光事業におけるリレーションを把握する。将来観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。全体像を理解した上で、より専門知識の習得を目指す。このクラスはKAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を目指します。

授業の概要

観光とは何か。その成り立ちと観光を具体的に解説する。国家戦略としての観光事業を法律と行政面から理解します。観光を支える宿泊業、旅行業、航空業、鉄道におけるリレーションを学びます。

授業計画

1. ガイダンス
2. 観光と観光事業
3. 観光立国と観光政策
4. 国内観光振興事業
5. 国際観光事業
6. イベントコンベンション事業
7. イベントコンベンション事業
8. テーマパーク事業
9. テーマパーク事業
10. 旅行事業
11. 旅行事業
12. ホテル・旅館事業
13. ホテル・旅館事業
14. 航空運送事業・鉄道事業
15. まとめ

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグループに分け課題に取り組み発表し、学生によるディスカッションを行います。

準備学修

旅行関連の雑誌等を図書館で読むこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は平常点からの減点となります。

テキスト

『現代の観光事業』 ミネルヴァ書房

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

現在、世界には980以上の世界遺産が登録されている。我国も昨年「富士山」が世界文化遺産に登録され現在登録数は17になった。この授業では世界遺産の概念から登録までの過程、世界遺産の種類別の地理的分布と現状を危機遺産を含め確認する。その上で観光資源と環境保全の両立を図る世界遺産のあり方を顕著な事例を参考に考察する。世界遺産検定合格も念頭に置く。またこのクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

近年になり世界中で環境と開発の両立が求められ、1992年のリオ・デ・ジャネイロで開かれた国連の「地球サミット」以来、観光の分野に於いても「持続可能な観光」の方針が打ち出された。一方では世界遺産登録後の観光客の増加が深刻な環境問題を起こしている例もある。今や国際観光の中心的存在である世界遺産をいかに保全し、同時に観光との両立をはかっているのか、日本と世界の主要な世界遺産を事例研究で把握していく。対象となる世界遺産を各自が調べ事例発表する時間を設ける。

授業計画

1. 講義のガイダンス・国際観光の現状と世界遺産の意義
2. 世界遺産条約と世界遺産登録の仕組み
3. 世界遺産登録後の日本の観光事例
4. 世界遺産登録後の海外の観光事例
5. 日本の世界遺産「富士山」
6. 日本の世界遺産(自然遺産)
7. 日本の世界遺産(文化遺産)
8. 世界の顕著な世界遺産を調べる その1
9. 世界の顕著な世界遺産を調べる その2
10. 世界の顕著な世界遺産の発表 その1
11. 世界の顕著な世界遺産の発表 その2
12. 危機遺産と課題を調べる
13. 世界遺産と巡礼の事例
14. 世界遺産とエコツーリズムの事例
15. 観光と世界遺産のまとめ

授業の方法

顕著な世界遺産の事例を各自が担当し、事例研究後発表する機会を取り入れる。

準備学修

世界遺産についてのニュース、新聞記事などに日頃から注目し、観光との関わりを常に考えておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

理由のない欠席は1回につき5点減点する。その他は学則に準じる。

テキスト

『はじめて学ぶ世界遺産100、世界遺産検定3級公式テキスト』、NPO法人 世界遺産アカデミー（2013年12月 最新版）

参考図書

『ユネスコ世界遺産年報（各年次）』、平凡社
『死ぬまでに絶対行きたい世界遺産300』 小林克己 PHP

留意事項

世界遺産のニュースには特に留意する事。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光文化地理論			13433	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

海外旅行地理の基礎と海外の国々の観光と文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自立）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

海外の国々を、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア、太平洋の島、中東、アフリカに分けて、世界の国、都市、地域、島、観光ポイントなどの必修知識を学習する。また同時にインターネットの関連サイトで地図や写真などのビジュアルから現地情報を学習する。

授業計画

1. 「世界の地勢」1. 大陸と大洋 2. 各地域の地勢
2. 「アジア」韓国 台湾 中国
3. 「アジア」香港 マカオ フィリピン
4. 「アジア」ベトナム カンボジア マレーシア
5. 「アジア」シンガポール インドネシア タイ インド ネパール
6. 「ヨーロッパ」イギリス、オランダ、ベルギー
7. 「ヨーロッパ」北欧4国 ドイツ
8. 「ヨーロッパ」スイス オーストリア フランス
9. 「ヨーロッパ」イタリア スペイン ポルトガル ギリシャ
10. 「ヨーロッパ」チェコ ハンガリー ポーランド ロシア連邦
11. 「南北アメリカ」アメリカ ハワイ
12. 「南北アメリカ」カナダ メキシコ キューバ バハマ ベルギー ブラジル アルゼンチン
13. 「オセアニア 太平洋の島」オーストラリア ニューゼaland グアム サイパン 南太平洋の島々
14. 「中東 アフリカ」トルコ イスラエル エジプト ケニア タンザニア
15. 「総括」世界の都市・観光 祭り イベント 伝統工芸

授業の方法

学習内容とリンクして、インターネットの関連サイトで地図や写真などのビジュアルを通して現地情報を学習する。

準備学修

事前に指示された箇所を予習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は減点の対象とする。

テキスト

『すぐ役に立つ海外地理ベーシック400』ジェイティービー能力開発

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

alohasam@y7.dion.ne.jp

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正／有村 理	選択	2				

授業の到達目標

この授業では観光ビジネスの中核をなす3つの業界である旅行業界、ホテル業界、航空業界での実務に必要な基本用語、業界の常識などを解説する。観光立国を目指すこれからの日本の観光業界で活躍するための基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

3つの観光関連業界を2名の教員が担当し解説する。それぞれの業界の仕組み、基本用語、業務の流れ、業界の常識などを中心に学習する。内容によりテキストやDVDなどの映像も使用し理解を深め、観光分野の基本的な仕事の流れと業界の基礎知識を学ぶ。

授業計画

1. 講義概要とガイダンス。
2. 旅行業の実務(国内旅行 その1)
3. 旅行業の実務(国内旅行 その2)
4. 旅行業の実務(海外旅行 その1)
5. 旅行業の実務(海外旅行 その2)
6. ホテルの実務・フロント業務
7. ホテルの実務・フロント業務
8. ホテルの実務・フロントサービス業務
9. ホテルの実務・ハウスキーピング業務
10. ホテルの実務・ハウスキーピング業務・まとめ
11. 航空業界の仕組みと基礎知識
12. 航空業界の実務とサービス
13. エアポートの実務 その1
14. エアポートの実務 その2
15. エアポートの実務 その3・まとめ

授業の方法

二人の教員が3つの業界を分担しそれぞれ解説する。学生は課題に対してグループで討論し、発表する時間を取り入れる。

準備学修

旅行業界・ホテル業界・航空業界の最新ニュースや新聞記事に日頃から注意をし関心をもつこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

理由のない欠席は1回に付き5点減点する。また1つの業界での授業において3回の欠席は履修単位を与えない。その他、学則に準じる。

テキスト

旅行業界は適宜プリントを配布する。
ホテル業界は『ホテルの基本サービス・フロント編』・『ホテルの基本サービス・ハウスキーピング編』（日本ホテル協会発行）をテキストとする。
航空業界は『エアポートビジネス入門（第2版）』（株）JTB総合研究所

参考図書

『観光概論』・『旅行業概説』・『観光学基礎』（いずれもジェイティービー能力開発）、『よくわかる航空業界』（日本実業出版社）

留意事項

観光ビジネス実務士資格を取得するための必修科目の一つ。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp
ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語入門Ⅰ			13435	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋 京珠	選択	2				

授業の到達目標

韓国語入門Ⅰでは、初めて韓国語を学習する学生が、ハングル（韓国語を表現する文字）及び韓国語の文型と語彙を習い、それを活用して簡単な日常会話が可能になることを授業の目標とする。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「課題の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。更に、授業では現在の韓国の横顔についても紹介する。

授業計画

1. 授業の概要説明と韓国語についての基本的な説明
2. ハングルの基本母音について
3. ハングルの基本子音について
4. ハングルの合成母音(複合母音)について
5. ハングルのパッチムについて
6. ハングルの基本のまとめ
7. 辞典の引き方、発音変化について、『中間テスト』
8. 会話中心の基本表現-1:『～は、～です。』表現を中心に
9. 会話中心の基本表現-2:『～が、～ですか?』表現を中心に
10. 会話中心の基本表現-3:『～ではありません。～ではありませんか?』表現を中心に
11. 会話中心の基本表現-4:『います/あります。いません/ありません。』表現を中心に
12. 会話中心の基本表現-5:『～します/しますか? 何?』表現を中心に
13. 会話中心の基本表現-6:『ヘヨ体(します/しますか?)』、『ヨ体(あります/ありません)』表現を中心に
14. 場面会話演習
15. 授業のまとめ

授業の方法

出席重視。補助資料視聴（DVD映像など）。ペアでの会話練習。

準備学修

テキストの予習

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト

基礎から学ぶ韓国語講座・初級（改訂版） / 木内明 著 / 国書刊行会

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（反復練習は重要）。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語入門Ⅱ			13436	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋 京珠	選択	2				

授業の到達目標

韓国語入門Ⅱでは、同入門Ⅰで学習した内容を踏まえた上で、更に韓国語の表現方法を学習し、韓国語によるコミュニケーション力を高め、日常会話の幅を広げることを授業の目標とする。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「学習表現の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 授業の概要説明と韓国語入門Ⅰの復習および会話中心の基本表現-7:『～です/ます』表現を中心に(1/2)
2. 会話中心の基本表現-7:『～です/ます』表現を中心に(2/2)
3. 会話中心の基本表現-8:『ヨ体:～です/ます』、『～しに』表現を中心に
4. 会話中心の基本表現-9:『ヨ体:～です』、『漢数詞』表現を中心に
5. 会話中心の基本表現-10:『いくつ』、『〇時△分』表現を中心に
6. 会話中心の基本表現-11:『敬語』、『ヨ体敬語』、『敬語の特殊例』表現を中心に
7. 会話中心の基本表現-12:『用言の否定』、『～するといいです』表現を中心に
8. 『中間テスト』、会話中心の基本表現-13:『過去』表現を中心に
9. 会話中心の基本表現-14:『～しましょう/～しよう/何の～』表現を中心に
10. 会話中心の基本表現-15:『～しています/～してください(1)』表現を中心に
11. 会話中心の基本表現-16:『～できる/～できない』表現を中心に
12. 会話中心の基本表現-17:『～したい/～してください(2)』表現を中心に
13. 会話中心の基本表現-18:『～してもいい/～しないでください』表現を中心に
14. 会話中心の基本表現-19:『～しなければならぬ』、『意志をこめる』表現を中心に

15. 会話中心の基本表現-20:『～と思います/～するつもりです』表現を中心に、『授業のまとめ』

授業の方法

出席重視。補助資料視聴（DVD映像など）。ペアでの会話練習。

準備学修

韓国語入門Ⅰ（または韓国語学習経験者）、テキストの予習

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト

基礎から学ぶ韓国語講座・初級（改訂版） / 木内明 著 / 国書刊行会

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（反復練習は重要）。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理/一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。今や世界を代表する企業も多数存在する。社会はグローバルになっていく。企業が生まれ、成長し、発展する。企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献など営利目的以外にも焦点を当て企業を理解し、社会を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A)自律と(In)国際性を養います。

授業の概要

企業をより深く知ることから始まる。企業とは何か。企業が生き残るために何が必要なのか。成長分野であるのか。差別化はできているのかなどをポイントに講義は展開される。対象は国内企業である。講義の主な業種はホスピタリティ産業である。同業種や他産業の比較の中で企業の姿を明らかにしていく。企業だけでなく業界研究も講義の内容に含まれる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 事例研究(宿泊産業・飲食業など)
3. 事例研究
4. 事例研究
5. 事例研究
6. 事例研究
7. 事例研究
8. 事例研究・まとめ
9. 事例研究(航空業・運輸業など)
10. 事例研究
11. 事例研究
12. 事例研究
13. 事例研究
14. 事例研究
15. 事例研究・まとめ

授業の方法

企業研究は2名の教員によって行われる。講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。

準備学修

新聞をよく読み、社会に関心を持つこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は平常点に反映する。

テキスト

日経業界地図（日本経済新聞出版社）

参考図書

会社四季報

留意事項

適宜アドバイスする。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp
arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修			13445	Ⅱ	集	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正／有村 理	選択	2				

授業の到達目標

観光先進国オーストラリア研修では以下の4点を修得することを目標とする。

1. 訪問地での観光資源と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
2. 海外支店業務をJTB支店での業務視察で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
3. グループワーク課題を実践し、合わせて異文化体験をする。
4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。

このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）、I（知性）、S（奉仕）、I（国際性）を養います。

授業の概要

観光立国を目指す日本が昨年ようやく訪日外国人旅行者1000万人を達成した。世界の先進国と比較するとまだまだ開きがあり今後はいかにインバウンド旅行を促進するかが課題になっている。その中で1年次、2年次に履修した観光の基礎知識と異文化理解を基に2年次の春休みを利用して観光先進国のオーストラリアを訪問する。2都市を訪問しリゾート地と都市の観光形態の違いを学ぶ。現地ではJTB支店の協力を得ながらそれぞれの観光資源、異文化体験、ホテル視察、インバウンド観光の実情視察を行う。また現地調査のグループワークを実践し参加者は役割分担によって添乗員業務、行程管理などの実務も経験する。

授業計画

1. オリエンテーション・事前準備の確認
2. 事前研修・オーストラリアのツーリズム・JTB支店の海外組織と役割
3. 事前研修・オーストラリアの世界遺産と地域研究
4. 事前研修・グループワークの準備
5. 事前研修・グループワークの準備
6. 海外実地研修 1日目:関空 - ケアンズ
7. 海外実地研修 2日目:ケアンズ研修
8. 海外実地研修 3日目:ケアンズ研修
9. 海外実地研修 4日目:ケアンズ研修
10. 海外実地研修 5日目:ケアンズ - シドニー移動・シドニー研修
11. 海外実地研修 6日目:シドニー研修
12. 海外実地研修 7日目:シドニー - 関空
13. グループワーク事後発表の準備
14. グループワーク事後発表
15. 総括

授業の方法

現地オーストラリアで事前研修のグループワーク課題を実践し、添乗員業務・行程管理などの実務を体験する。

準備学修

事前研修のグループワーク課題と地域研究をオーストラリア政府、州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

課題・評価方法

事前研修への出席・グループワークの準備・研修中の態度・協調性・課題の達成度と事後研修発表の成果を総合して評価する。

欠席について

参加登録者は突発的で正当な事由がない限り欠席不可。

テキスト

JTB配布資料を参考にする。

参考図書

事前研修時に適宜指示する。

留意事項

研修中は参加者全員が各自の役割分担に責任を持ちグループ行動が円滑に遂行されるように協力する態度が求められる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	EC	13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子／箕野 聡子	選択	2			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。（福智 佳代子）

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とIn（国際性）を養う。（箕野 聡子）

授業の概要

（日本児童文学）近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。（箕野 聡子）

（西洋児童文学）児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。リズムカルな伝承詩・ナーサリーライム（マザーグース）、児童が主人公として体験できる夢と冒険のファンタジーの世界、歴史小説としても価値のある日常・家族を描いた作品などを取り上げる。（福智 佳代子）

授業計画

1. 巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」(箕野)
2. 小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルマーメイド」(箕野)
3. 浜田広介「泣いた赤鬼」とあまんきみこ「おにたのぼうし」(箕野)
4. 宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」(箕野)
5. 千葉省三「拾った神様」と映画「憑神」(箕野)
6. 坪田譲治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」(箕野)
7. 棕鳩十「山の太郎熊」と斉藤洋「ルドルフ ともだち ひとりだち」(箕野)
8. 松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいもうと」(箕野)
9. 日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム（マザーグース）の世界(福智)
10. 「ブラウン・ベア」とエリック・カールの絵本の世界(福智)
11. プレゼンテーション「心に残った物語」読み聞かせ(福智)
12. 「不思議の国のアリス」ルイス・キャロルのファンタジーの世界(福智)
13. 「大草原の小さな家」少女が見た開拓者生活の自然と日常の世界(福智)
14. 「ガリバー旅行記」 J.スウィフト(福智)
15. 「星の王子様」サン・テグジュペリ(福智)

授業の方法

児童文学とされている作品の内容、作者と社会の背景などを理解し、その価値などを他者に自ら発信する。（福智 佳代子）
作品の講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。（箕野 聡子）

準備学修

作品をあらかじめ読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

大藤幹夫『展望日本の児童文学』（双文社）（箕野）

本田英明、桂宥子、小峰和子『英米児童文学』（ミネルヴァ書房）（福智）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp(福智 佳代子)

mino@kasei.ac.jp(箕野 聡子)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Cross-cultural Communication		13505	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	選択	2			

授業の到達目標

Students will develop a sense of Internationality in this course.

授業の概要

Students will have a greater understanding and insight into how different cultures communicate.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Review and Prepare Final Project
15. Review

授業の方法

Students will work in pairs and groups.

準備学修

Familiarize yourself with the course material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected

for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

This is Culture by Asako Kajiura and Gregory Goodmacher Nan'Un Do

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English/American Culture		13513	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	選択	2			

授業の到達目標

This course will develop a sense of Internationality.

授業の概要

Students will gain a better understanding and insight into American culture through an analysis of several films in American cinema.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法

Students will work in pairs and groups.

準備学修

Familiarize yourself with the course material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

American Society in Focus by Hiromi Akimoto Macmillan

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学研究			13521	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

対立概念とは、たとえばフランスの文学者ロラン・バルトの言葉を借りれば、「意味のスペクタクル」を展開しうる重要なものであるが、講義においては、「小説」という、もっともポピュラーな文学形態に巧みに仕組まれた、そうした対比の構造を通して、文学を読み解く方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性、国際性）とE（倫理）を考える。

授業の概要

授業では、英文学を代表するジェイン・オースティンのシンデレラ・アーキタイプの小説『分別と多感』を取り上げて研究する。この小説は、「分別」(sense)をもつ理性的な姉と、「多感」(sensitivity)気質で、感受性の強い妹という、好対照をなす姉妹の恋愛を核にしているが、授業では文学を通して古くて新しいテーマである「理性」と「感情」の対立について、また、自己に誠実に、真摯に生きるとはどういうことなのか等について考えてみる。この講義に併行してRapid Readingの訓練も行う。またこの小説のCD,DVDも用いて「読み、聴き、話す、書く」の英語の4分野のスキルを養成する。

授業計画

1. 総論
2. 「対立」の時代的文化的背景
3. Jane Austen and *Sense and Sensibility*
4. Introduction
5. The language of Jane Austen's time
6. People and places
7. Love or money?
8. The London season
9. Rapid Reading (1) 研究発表
10. Rapid Reading (2) 研究発表
11. Rapid Reading (3) 研究発表
12. Rapid Reading (4) 研究発表
13. オースティンの心理的リアリズム
14. 『分別と多感』の意味
15. まとめ 文学における「対立」の構図

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

講義では、レポート課題もあるので、日ごろから自己表現、日本語表現力を磨いておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席重視。一貫性を持った授業であるので、毎回、必ず出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

Jane Austen, *Sense and Sensibility* CD付. London: Mary Glasgrov Magazines (Scholastic Ltd.)

参考図書

Sense and Sensibility (『分別と多感』)の翻訳書として、現在、入手可能なものは、以下の2点がある。
ジェイン・オースティン『知性と感性』工藤政司訳(近代文芸社)
ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』真野明裕訳(キネマ旬報社)
その他の参考図書については、授業で随時、指示する。

留意事項

授業で取り上げる『分別と多感』は、上の「参考図書」に記したような翻訳書があるので、できれば予め読んでおくこと。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
女性と社会			13525	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

「ジェンダー論」の目標と同様に、ジェンダーの視点から現代社会の問題を読み解くことができるようにする。国内外の社会事象とそこに生きる女性について、総合的にとらえ、自分の意見をもつことができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養い、A（自律）やIn（国際性）を考える。

授業の概要

日本だけでなく海外も含めた女性に関する諸問題について、様々な研究分野の蓄積を学ぶ。社会的文化的性差・性別（ジェンダー）のもたらす現実や課題は、どのようにとらえられ解決されているか、解説する。そして、男女共同参画社会、少子高齢社会、国際化・情報化社会と女性の生き方について考える。

授業計画

1. 文化と歴史の中の女性
2. 女性のライフコース
3. 女性と教育
4. 女性と労働・女性のキャリア形成
5. 女性と結婚・離婚
6. 女性と出産・子育て
7. ワークライフバランス
8. 女性と暴力
9. 女性とメディア・表現
10. 女性と階層
11. 女性と加齢
12. 女性と病
13. 女性とケア
14. 女性と社会参画・社会政策
15. 女性と国際社会

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

テキストを読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

伊藤公雄ほか『女性学・男性学 ジェンダー論入門』有斐閣

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
American Studies in U.S.A.			13529	I	夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

雄大なロッキー山脈のふもとにある緑豊かなアメリカのコロラド州立大学。細かくレベル別に分けられたクラスで英語を徹底的に学ぶ。同時に、寮生活やさまざまなアクティビティによる文化交流を通して実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週約2.5時間の授業。通常授業の中に以下のような内容を含む。
 ・Conversation Partner：Native speaker の学生をクラスに招き、ディスカッションを行う。
 ・卒業プロジェクト：グループごとに題材を決め、図書館や街でのリサーチをもとに発表する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communication における能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Australian Studies in Australia			13537	I	夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

亜熱帯気候で冬でも暖かく過ごしやすく、かつ大自然が身近にあるオーストラリアの都市ブリスベンにあるグリフィス大学への短期留学により、英語を集中的に学習する。同時にアクティビティによる文化交流を通して実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週約2.5時間の授業。希望者を対象に、授業のない金曜の午後にパーティ、ダンスレッスン、スポーツ、美術館訪問などのアクティビティが予定される。また、週末にもビーチ、テーマパークやハイキングへ行く遠足がある。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者によって決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communication における能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Canadian Studies in Canada			13539	I	夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

留学先はカナダ人の将来住みたい街第一位に選ばれ続けている、ブリティッシュ・コロンビア州バーノンにあるオカナガン・カレッジ。この大学は語学教育に実績があり、初級から上級まですべてのレベルで学習ができる。またボランティア活動など他大学にはないユニークなプログラムも含まれている。のどかな住宅地バーノンにて、カナダ人ファミリー宅に滞在し、カナダの大自然を体験しながら学習する。同時にアクティビティによる文化交流を通じて実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週15時間の授業、5時間のオーラルプレゼンテーション、5時間のランゲージラボでの自習（インストラクターの補佐あり）、5時間のボランティアワーク。滞在中2回のフィールドトリップ（例：乗馬、農場・産業見学、ハイキング、ホッケー観戦など）が含まれている。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communication における能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English I	EC		13605	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

ネイティブ・スピーカー吹き込みのCDまたはカセットを利用し実用的なオフィス英語、ビジネスコミュニケーションの基本を学ぶ。TOEIC受検対策としても有益である。

授業の概要

このクラスではKAISEIパーソナリティの国際性を養います。教科書の教材に加え英語のビジネスレターの読み書き、封筒の宛名の書き方、社内連絡のメモ・FAX、e-mail、サンプルレターのファイリングと活用方法、レジュメ、カバーレターの書き方、など基本的なことを学ぶ。またあわせて社会、企業での常識、習慣、ビジネスで使われる日本語についても学ぶ。

授業計画

1. 講義概要、評価方法、教科書、シラバス（講義計画）、ビジネスイングリッシュとは何か。
2. Unit 1 Job Hunting(1) Writing a resume
3. Unit 2 Job Hunting(2) Writing an application letter
4. Unit 3 Job Hunting(3) Arranging an interview
5. Unit 4 Job Hunting(4) A job interview
6. Unit 5 Job offer
7. Unit 6 The first day at work
8. Unit 7 Preparing to work
9. Unit 8 Telephoning(1) Answering
10. Unit 9 Telephoning(2) Taking a message
11. Unit 10 Telephoning(3) Making an appointment
12. Unit 11 Visiting a client
13. Unit 12 Receiving a visitor (1) Preparation
14. Unit 13 Receiving a visitor (2) Meeting at Narita Airport
15. Unit 14 Receiving a visitor (3) A business lunch

授業の方法

各ユニットともCDまたはカセット活用したりスニング、語彙強化、標準的な会話のロールプレイ、書きとり、英訳などバランスよく4技能を修得する。

準備学修

特になし

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない場合以外の欠席は認めない。普段の授業に重きを置いているので、遅刻、欠席、不真面目は減点の対象となる。

テキスト

Business Englishやさしいオフィス英語 成美堂 城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer著

参考図書

「国際秘書英語」 亀山和夫、成美堂「国際ビジネスコミュニケーション入門」 亀山和夫、八尾晃共著、成美堂「英文履歴書の書き方」 有元美津世 ザ・ジャパンタイムズ

留意事項

英語だけでなく社会で使われる正しい日本語も勉強するので目についた印刷物に書かれた表現についても普段から関心をもつこと。

教員連絡先

aokimikio@aol.com

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English II	EC		13609	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティの国際性を養う。グローバル社会といわれる今、日本企業といえども英語が必要になってきた。この授業を通じて社会、企業に必要な英語の基礎知識と基本的なコミュニケーションスキルを修得する。入社後、会社ですぐに役立つ実践英語の学習方法を修得する。

授業の概要

国際的な企業や外資系企業に入社したらどのようなか教科書の中で疑似体験することにより必要な知識、コミュニケーションスキルを修得する。

授業計画

1. 講義概要、教科書とシラバス概要、評価方法、
2. 英語での自己紹介(入社時、配属先)
3. 会議での自己紹介
4. 人を紹介する、取引先の方を同僚に紹介する、など
5. 留守番電話、Voice Mailに英語メッセージを入れる。
6. 英語での電話対応、英文メモの書き方
7. 出張、空港でのチェックイン
8. 空港出入国手続き
9. ホテルチェックイン
10. 会議でのコミュニケーションスキル
11. 商用アポイントを取る
12. 同僚とのビジネスコミュニケーション
13. ビジネスe-mailの書き方
14. インフォーマルなe-mailの書き方
15. まとめ

授業の方法

教科書には自習用のCDがついているのいるので各自予習、復習をすることが望ましい。授業中にわからないことは自由に質問できる。

準備学修

進むペースが速い(シラバス通り)なので予習・復習が必要。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない欠席以外は認めない。

テキスト

[Business English as Usual] Todd Jay Leonard著、成美堂

参考図書

「最新ビジネス英語」成美堂、「国際ビジネスコミュニケーション」成美堂、「商業英語(国際ビジネスコミュニケーション)問題集」日本商工会議所

留意事項

国際企業、貿易商社、貿易、海上火災保険、銀行などに就職する学生に最適

教員連絡先

aokimikio@aol.com

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス翻訳			13621	III	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
榎本 雄三	選択	2				

授業の到達目標

文芸翻訳とは違う実務翻訳の特徴を理解し、ビジネス文書、業務資料、観光パンフレットなどの英文和訳および和文英訳ができるようになるための、訳文作成技術と背景知識を取得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とI(国際性)を目指す。

授業の概要

和文英訳および英文和訳の技術を説明し、新聞や雑誌などの記事や実際のビジネス文書を使って演習を行う。翻訳に必要な背景知識の調査方法の習得も行う。

授業計画

1. 実務翻訳の特徴
2. 英文和訳の基本技術/自然な文章表現
3. 適語を探す/単語のニュアンスをつかんで訳す
4. 品詞の転換/無生物主語の処理
5. 順送りの訳、逆送りの訳
6. 分詞構文、関係詞構文、挿入構文
7. 長文の攻略
8. ライティングの3C/シンプリファイド・イングリッシュ
9. 和文英訳の基本技術/英文作成時のよくある間違い
10. 可算名詞、不可算名詞/定冠詞、不定冠詞/前置詞
11. 適語を探す/単語のニュアンスをつかんで訳す
12. 長い修飾語の処理
13. 無生物主語構文
14. 英文マニュアルの表現
15. 翻訳関連の検定試験問題に挑戦

授業の方法

訳文作成実習と翻訳内容の検討を中心とする。

準備学修

パソコンを用いた文書作成およびインターネット検索ができること。電子メールが使えること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

テキスト

特定のテキストを使用せず、英字新聞や英文雑誌の記事を教材にする。

参考図書

The Elements of Style, Strunk and White, Longman Publishers
技術英文の書き方 55のルール、片岡英樹、創元社
プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社

留意事項

毎回課題を出すので、自分の訳文を作成して授業に臨むこと。授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

教員連絡先

yzkashimoto@hop.ocn.ne.jp

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際マネジメントと英語			13625	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティの国際性を養う。グローバル化に伴い日本の国際企業の職場では外国人スタッフと仕事をしたり、海外支店の外国人スタッフと連絡が日常業務になった。現在の企業はバイリンガル人材が求めている。この授業を通じて国際企業でも勤務できる語学能力と社会常識を学ぶ。

授業の概要

授業は英語で行う予定であるが学生の理解度を考慮し、日本語で補足することもある。TOEIC受検対策として開発されたCDを利用して練習する。TOEIC教材（750-800点目標）を使用するので過去問の傾向を把握することができる。

授業計画

1. 講義概要、シラバス説明、教科書について、評価方法
2. Airport Security
3. Weekend Activities
4. Ecology
5. Housing and Property
6. Health and Welfare
7. Communications
8. Careers and Employment
9. Office Procedures and Protocol
10. Current Events and Public Affairs
11. Marketing and Sales Campaigns
12. Complaints and Troubleshooting
13. Innovations and Technology
14. Interoffice Communications
15. Social Functions

授業の方法

TOEIC、STEP受検対策の実践的授業。CDを聞き4技能の向上を図る。

準備学修

教科書にはCDが付いているので予習、復習が望ましい。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業出席に重点をおいているので欠席すると大きな減点になる。試験での取り返しはできない。

テキスト

TOEIC Test: On Target Book2 (TOEIC TEST:オンターゲットブック2) 南雲堂

留意事項

教科書にはCDがついているので自宅でも何回も聴くこと。

教員連絡先

aokimikio@aol.com

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ1			13631	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理／一尾 敏正／平田 淳子	選択	2				

授業の到達目標

観光関連企業（旅行代理店、宿泊業、航空関連企業、ウェディング業、海外インターンシップ他）で就業体験をすることにより自己の適正を知り、職業観を築くことを目的とする。実際の現場経験で仕事、社会を理解する。このクラスではKASISEIパーソナリティのS(奉仕)とA(自律)を養う。

授業の概要

オリエンテーションから始まるインターンシップは事前研修と就業体験、事後研修の3部構成からなる。事前研修では外部から招へいする特別講師によるマナーや言葉遣いなど社会人として最低限必要な訓練を実施する。就業体験は夏期（夏休み）に実施される。次実施期間はインターンシップ受け入れ先により5日～1か月となる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 事前研修 業界別受け入れ企業の説明
3. 事前研修 学生と受け入れ企業のマッチング
4. 特別講師によるマナー講習1
5. 特別講師によるマナー講習2
6. 特別講師によるマナー講習3
7. 事前レポート提出・直前説明会
8. インターンシップ
9. インターンシップ
10. インターンシップ
11. インターンシップ
12. インターンシップ
13. インターンシップ
14. インターンシップ
15. 事後レポート提出・成果発表

授業の方法

キャリアセンターと合同プログラムである。

準備学修

社会常識的なマナーを身につけておくこと。実習先企業についてよ

く調べておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

事前研修の欠席者は単位認定がなされない。また、インターンシップ先が取り消されることがある。

テキスト

なし

参考図書

会社四季報など

留意事項

インターンシップ先では大学を代表していることの自覚を持つこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童英語教育概論			13701	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

2013年度、小学校英語教科化の方針が打ち出され、ヨーロッパや隣のアジア諸国の小学校からの外国語教育に15年以上遅れを取っていた日本の小学校外国語（英語）教育が、ようやく動き出そうとしている。本講義では、今や、多言語・多文化社会から複言語・複文化社会と言われる世界の中での外国語教育の現状と、児童期からの外国語教育のあり方の理論を学び、将来の児童期外国語（英語）教育の指導者としての素養を育成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

授業では、これら諸問題に関する適切な文献を読んで、多言語多文化社会における外国語教育の意義と目的を考える。次に、教育現場での実践のあり方をふまえて、児童期からの学習者の特性、児童英語教育のあり方そのもの、児童の特性を活かした授業法の理論と実際を討議できるように指導する。

授業計画

1. ガイダンス
『世界の言語政策事情と日本の小学校英語活動の現状』
2. 小学校英語教育と国際理解
3. 児童期における第2言語教育(1)
『ことばの習得VS.ことばの学習』
4. 児童期における第2言語教育(2)
『イマージョン・プログラムとバイリンガル教育』臨界期
5. ディベート(1)『イマージョンプログラムと児童期における第2言語教育のあり方』
6. 児童の特性を活かした授業法(1) 『チャンツ・ライム・歌で知る英語のリズム』
7. 児童の特性を活かした授業法(2)『TPR、ゲームを活かした効果的な教授法』
8. 児童が楽しむ英語活動(1)『絵本・物語が育むことばの世界』
9. 児童が楽しむ英語活動(2)『スキット、ロールプレイングで体験することばの使用を楽しむ活動』
10. ディベート(2)『小中連携は機能するかー小学校英語活動の授業法と中学校英語教育』
11. 児童が興味を持って取り組む活動(1)『タスク型、プロジェクト型

英語活動』

12. 児童が興味を持って取り組む活動(2)『クリル学習法研究』
13. 児童期英語教育のゴールと4技能の到達点「年間カリキュラム作成」
14. 評価の在り方「指導目標、年間カリキュラム、授業、評価目標と評価の一体化」
15. まとめ 「ポートフォリオ作成」

授業の方法

理論を理解し、ディベート、プレゼンテーションなどで、主体的・創造的に理論を実践に活かす方法を発信する。

準備学修

各回の課題について調べ、レポートを仕上げる。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う。必ず出席し、討議に参加すること

テキスト

ハンドアウト配布

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法 I			13705	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力を向上させながら、第二言語習得のプロセスや運用のメカニズムに関する基礎知識を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性、国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

教師にとってもっとも重要なのは、自分に与えられた実際の「教育の場」という現実から最善の方策を生み出す能力であると思われるが、そのためには、実際の英語学習指導にどのようなファクターがどのように作用しているかを見極めることができないといけない。

それぞれの生徒に各自の持っている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが教師にとって重要課題になるが、そのためにこの授業では、教師が一方向的に講義するのではなく、学生に問題提起し、資料を提供し、それに基づいて積極的に考え、実践してもらう予定である。

授業計画

1. Introduction
2. 英語教育の基本問題
3. 英語教育の目的
4. 英語の指導目標
5. 英語教育の環境的要因
6. 学習者の要因
7. 教師の役割とよい教師の条件
8. 言語習得の理論上の諸問題
9. 英語スキルの習得と指導
10. 発音の指導
11. 文字と綴り字の指導
12. 語彙の指導
13. 文法の指導
14. リスニングの指導
15. まとめ

授業の方法

講義のほか発表を多く取り入れる。

準備学修

必ず、あらかじめテキストを読み、予習して授業に臨むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『新英語科教育法入門』研究社

参考図書

授業時に随時、指示、紹介する。

留意事項

授業中の意欲、積極的学習態度を評価する。課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅱ			13709	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力に関する知識を深め、指導法の基礎知識を学ぶ。後半は語彙指導・文法のレッスンプランを立て、模擬授業を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性、国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

教師は、生徒が各自もっている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが、重要課題となるが、そうした各教育現場に応じた柔軟な適応能力を養うためには、知識の詰め込みだけでは十分ではない。この授業では、教師から学生への一方的な知識の伝授ではなく、以下の授業計画のリストにある各項目に関して、それぞれに研究テーマを課し、授業中の口頭発表、レポート提出を通して、学生が自発的に英語教育における諸問題に取り組む双方向性の授業を予定している。

授業計画

1. 英語スキルの習得と指導
2. ライティングの指導
3. オーラル・コミュニケーションの指導
4. 指導法の諸問題
5. 英語指導の原理
6. 教材研究と授業の準備
7. 授業案の作成と授業の進め方
8. テストと評価
9. 教育機器の活用
10. ネイティブ・スピーカーの活用
11. 教育実習に向けて
12. Lesson Plan
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. まとめ

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

必ず予習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『新英語科教育法入門』（研究社）

参考図書

授業時に、随時、指示および紹介する。

留意事項

- ① 課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。
- ② 課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語学概論			13713	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
服部 幸正	選択	2				

授業の到達目標

英語を学習したり教えたりするために、英語についての知識を蓄えることが大切である。つまり、英語の構造やしくみはどのような規則と約束ごとから成り立っているかを知ることである。この授業では、みなさんが今までに蓄積してきた英語の知識を再整理し、さらに深めてもらうことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を考え、学生間の協力を勧めてK（思いやり）を養いたい。

授業の概要

英語という“ことば”の諸相について「英語学」の分野で取り扱われる研究領域全般にわたって、次の授業計画に従って講義形式で解説・説明する。

授業計画

1. 英語はいつどのようにイギリスで使われ始めたか：英語の起原
2. 時代の経過と共に英語自体がどのように変容していったか：古期英語 中期英語 近代英語 現代英語
3. 世界の各地に拡散した英語には、それぞれどのような特徴が見られるか：アメリカ英語、カナダ英語、オーストラリア英語、New Englishesなど
4. 英語の構造はどのように分析され説明されて来たか：英語の統語論
5. (1) ラテン語文法に基づく規範的伝統文法の考え方
6. (2) アメリカ構造言語学に基づく構造文法の考え方
7. (3) チョムスキー理論に基づく変形生成文法の考え方
8. 以上の他に英語学で取り扱われる研究領域にはどのようなものがあるか。
9. (1) 音韻論の研究領域
10. (2) 形態論の研究領域
11. (3) 意味論の研究領域
12. (4) 語用論の研究領域
13. (5) 文体論の研究領域
14. 200年以上にわたる日本の英語教育はどのように展開されて来たか。
15. 21世紀の日本にとって英語の学習がなぜ必要であり大切なのか。

授業の方法

板書を多用した講義形式の授業である。

準備学修

英語学で使われる専門用語を「英語学辞典」などで調べたことをすすめる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点は授業への出席状況を中心に評価する。

テキスト

プリント

参考図書

図書館の「英語学辞典」を活用すること。

留意事項

授業中に指示する。

教員連絡先

yyhattori1106@yahoo.co.jp

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語音声学			13717	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	選択	2				

授業の到達目標

自然な英語の音声を観察し、分析する／自然な英語に見られる音声変化を観察し、理解する／英語らしい発話を実践する
このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

Pronunciation I～IIIの授業で取り上げた英語の子音・母音、強勢、リズム、イントネーションなどの音声的特徴をより具体的、専門的に扱う。自然な英語が実際にはどのように聞こえるのかを観察し、頭で理解している音声と実際に聞こえる音声とが異なることを、理論・実践両面から確認する。あわせて、日本語の音声との共通点にも着目する。英語の発音を自分で分析できるようになること、またより相手に伝わりやすい英語の発話ができるようになることを目標とする。

授業計画

1. 導入
2. 音の脱落1)
3. 音の脱落2)
4. 子音と母音1)
5. 子音と母音2)
6. 語の連結1)
7. 語の連結2)
8. 復習
9. 文の区切りとリズム1)
10. 文の区切りとリズム2)
11. 音の変化1)
12. 音の変化2)
13. 綴りと発音1)
14. 綴りと発音2)
15. まとめ

授業の方法

実践練習と理論的説明とで進める。

準備学修

英語の音と日本語の音が異なることを認識していること／発音が不明瞭な単語がある際に辞書で確認をする習慣をつけておくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）、2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること、3) 欠席日に実施のquizは、翌授業日までの間に限り、受けることが可能（-20%）

テキスト

芝詩史著、『通じる英語の発音エクササイズ』（語研）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

発音に関する研究は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、クラスへの積極的参加はもちろん、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの発達・学習	EC		13721	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達過程を学習し、母語の習得過程から第二言語習得の効果的なあり方とは何かを考える。母語は自然に失敗することなく獲得されるが、第二言語は努力して学習しても、母語同様に習得するのが困難な場合が多く見受けられる。本授業では、赤ちゃん、子どものことばの発達過程を分析し、効果的な第二言語習得とは何かを考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

本授業前半においては、コミュニケーションの手段として使われる「ことば」とは何かについて、動物の伝達手段や赤ちゃんがことばを獲得していく母語習得の「学習」から、ことばの発達過程を考える。後半では、母語習得の「学習」と第2言語習得など「学習」のメカニズムの考察から、効果的な外国語学習法について考える。

授業計画

1. 動物の「ことば」
2. ことばの起源とことばの獲得
3. 赤ちゃんの「ことば」
4. ごっこ遊びと「社会的ことば」の発達
5. 絵本・童話が育てる子どもの「ことば」と感性
6. ことばの習得と臨界期
7. ことばの発達 まとめとプレゼンテーション
8. 言語のとらえ方と言語学習のとらえ方
9. 母語習得と第2言語学習
10. 言語習得のメカニズム
11. ことばの獲得とことばの喪失「言語の意義」
12. 言語学習に影響を与える要因
13. 外国語学習に成功する学習者「個人差」
14. 外国語学習に成功する学習者「動機付け」
15. ことばの発達と効果的な外国語学習法 「まとめ」

授業の方法

理論を理解した上で、ことばの発達と学習の実際をパワーポイントで主体的に紹介する。

準備学修

テキストの指定されたページは読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う。

テキスト

「教育支援の心理学」鈴木真雄、宇田光、谷口篤、石田靖彦、藤井恭子

参考図書

「外国語学習の科学」白井恭弘

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅠ	EC	13725	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

2011年度より全国の小学校で英語活動が必修化され、さらに、2013年度には、5、6年生小学校英語教科化、3年生から開始するなどの方向が打ち出された。1年生から英語活動を始めている市町村などもある。本授業では、児童英語教育に効果的な教授法をワークショップ形式で体験し、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導できる実践力を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

本授業では、児童英語教育に効果的な教授法について、ワークショップ形式で、

1. 発達過程を考えた児童期の英語教育のあり方を考え
2. 歌、チャンツ、TPR、絵本、ゲーム、クイズなど基本的な授業法を体験し、
3. 実際にこれらの授業法を使った活動のプレゼンテーションを行い

指導者として「授業ができる」資質を身につける。

授業計画

1. ガイダンス 児童英語教育の意義と目的
小学校英語活動・活動案作成のポイント
2. 小学校英語活動と『身近にある異文化共生』
3. ワークショップ(1)「歌・チャンツ」を取り入れた授業法
4. ワークショップ(2)「歌・チャンツ」プレゼンテーション
5. ワークショップ(3)「TPR」を取り入れた授業法
6. ワークショップ(4)「TPR」プレゼンテーション
7. ワークショップ(5)「ゲーム」を取り入れた授業法
8. ワークショップ(6)「ゲーム」プレゼンテーション
9. ワークショップ(7)「スキット」を取り入れた授業法
10. ワークショップ(8)「スキット」プレゼンテーション
11. ワークショップ(9)「絵本、物語を取り入れた授業」を考える
12. ワークショップ(10)「絵本、物語を取り入れた授業」プレゼンテーション
13. ワークショップ(11)「フォニックス、文字を取り入れた授業」を考える
14. ワークショップ(12)「フォニックス、文字を取り入れた授業」プ

レゼンテーション]

15. まとめと評価 「ワークシート・振り返りカード作成」

授業の方法

ワークショップで体験した授業法を、学生自身が、主体的に創造し、プレゼンテーションを行う。

準備学修

プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト

参考図書 「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅡ	EC	13729	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

前期で体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導に役立つ授業創りを考え、模擬授業をする。さらに、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、異なることばや文化・生活に自然にふれる楽しい活動を考える。授業では、発信型英語能力開発の一環として、

1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方を踏まえ、
2. 発達過程を考えた園児・小学生英語の授業創りを考え、
3. 授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行った後に、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)
「園児、低学年・中学年・高学年対象活動案作成」
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)
「絵カード・教具・ワークシート作成 発表準備」
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)
「活動案発表と模擬授業」
4. 小学校英語活動 観察実習(1)
5. 実習授業活動案作成(1)「教材研究」
6. 実習授業活動案作成(2)「教具・絵カード、ワークシート作成」
7. 実習授業活動案作成(3)「振り返りカード作成と評価」の観点
8. 実習授業活動案発表と模擬授業
9. 小学校現場での英語活動体験実習(2)
10. 実習授業活動案作成(4)「教材研究」
11. 実習授業活動案作成(5)「教具・絵カード、ワークシート作成」
12. 実習授業活動案作成(6)「振り返りカード作成と評価」の観点
13. 実習授業活動案発表と模擬授業
14. 小学校現場での英語活動体験実習(3)
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の支援に実際に現場で体験する。

準備学修

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅢ（実習）			13733	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	1				

授業の到達目標

2011年度より全国の小学校で英語活動が必修化され、さらに、2013年度には、2020年度から5、6年生小学校英語教科化、3年生から開始するなどの方向が打ち出されている。小学校英語指導者養成のキッズ・イングリッシュ・プログラムの最終段階として、学生自身が、英語活動・英語教育を、活動内容の企画、活動案・教具作成、模擬授業で練習した後、幼稚園や小学校現場で指導者として、実習体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考えます。

授業の概要

本授業では、キッズ・イングリッシュⅠ、Ⅱで学習した児童英語教育の理論と授業法、発達段階にふさわしい授業運営を、出前授業の形で、幼稚園・小学校現場で実習し、授業を体験する。この体験から、理論を踏まえた実践、かつ、実践から理論の再構築へと、理論と実践の融合を計り、児童英語学とは何かを体系的に考える。

実習計画

- ①授業案・教材教具を作成し、授業準備を行う。
- ②作成した授業案で自身が小学校現場で授業できるように、模擬授業で練習する。
- ③実習園・実習校の通常授業で、実習授業を行う。
- ④実習授業の結果を評価し、次の段階を目指す。

授業計画

1. 小学校英語活動実習授業計画作成と教材研究
2. 第1回 小学校英語活動実習授業活動案作成
3. 第1回 小学校英語活動実習授業準備
4. 第1回 小学校英語活動実習体験模擬授業
5. 第1回 小学校英語活動実習体験
6. 第2回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
7. 第2回 小学校英語活動実習体験模擬授業
8. 第2回 小学校英語活動実習体験
9. 第3回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
10. 第3回 小学校英語活動実習体験模擬授業
11. 第3回 小学校英語活動実習体験
12. 第4回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
13. 第4回 小学校英語活動実習体験模擬授業
14. 第4回 小学校英語活動実習体験

15.まとめと授業評価

授業の方法

理論、ワークショップでの授業法体験を活かし、自らが活動案を作成、実際小学校現場での英語活動を支援する

準備学修

教材研究、教材製作、模擬授業練習などを行っておく。

課題・評価方法

授業案、模擬授業、作成した教材教具、実習授業などを総合的に評価する

欠席について

参加型授業であるので必ず出席すること。

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂
アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅲ			13737	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する理論と教授法の基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

英語教育の第1目標である英語のコミュニケーション能力を、ほぼ日本語だけで日常生活を送る生徒たちに身につけさせるには、授業において、どのような創意工夫が必要であるかを、第1・第2言語習得や言語教育に関する様々な理論を踏まえながら、模擬授業やディスカッション等を通して考える。

授業計画

1. 英語教育の目標と学習指導要領
2. 第1言語習得と第2言語習得
3. 主な外国語教授法の流れ(1) 文法・翻訳法～ダイレクト・メソッド
4. 主な外国語教授法の流れ(2) オーディオ・リンガル・メソッド
5. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(1)
6. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(2)
7. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(3)
8. 授業の準備
9. 学習指導案の作成
10. 授業の工夫(1): Warm-upとreview、文法・文型の導入
11. 授業の工夫(2): 文法・文型の練習と発展活動
12. 授業の工夫(3): 語彙の導入と指導、本文の読解指導
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業のまとめ

授業の方法

講義、ワークショップ、DVD視聴、模擬授業、ディスカッションによって授業を進める。

準備学修

- ・GrammarⅠ～Ⅲを徹底的に復習するなどして、常に文法力の向上に努めること。
- ・中学校及び高等学校の学習指導要領を読んでおくこと。
- ・次回のテーマについて、テキストの該当箇所を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック〕(大修館)
土屋澄男(編著)他『新編 英語科教育法入門』(研究社)
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂)
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(開隆堂)
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、模擬授業、出席状況、授業への参加・貢献度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目(児童・中高)〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅳ			13741	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

英語科教育法Ⅰ～Ⅲで修得した英語教育に関する知識や指導技術を各々の模擬授業において実践する。そして、模擬授業における改善すべき点や指導上の困難点及びその解決方法等についてディスカッションを行い、教育実習での授業に備える。また、学習指導上の評価及び評価方法の一つであるテストについても学ぶ。

授業計画

1. 学習指導要領における各科目の目標と内容
2. 模擬授業の準備(1)
3. 模擬授業の準備(2)
4. 模擬授業の準備(3)
5. 模擬授業の準備(4)
6. 模擬授業の準備(5)
7. 評価とテスト(1)
8. 評価とテスト(2)
9. 模擬授業と授業観察(1)
10. 模擬授業と授業観察(2)
11. 模擬授業と授業観察(3)
12. 模擬授業と授業観察(4)
13. 模擬授業と授業観察(5)
14. 模擬授業と授業観察(6)
15. 模擬授業の総括、教育実習に向けて

授業の方法

DVDの視聴、ワークショップ、模擬授業を中心とする。各活動の後にはディスカッションを行う。

準備学修

- ・ 中学・高等学校の学習指導要領をよく読んでおくこと。

- ・ 英語科教育法Ⅰ～Ⅲの復習をよくしておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』(大修館)
 土屋澄男(編著)他『新編 英語科教育入門』(研究社)
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂)
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(開隆堂)
 必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・ 評価は、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業の観察・参加の記録、出席状況、日頃の学習態度を規準にして行う。
- ・ 毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目(児童・中高)〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
外国語教授法			13745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

2011年度、小学校英語活動が必修化され、2013年度には、5、6年生小学校英語教科化、3年生から英語活動を開始するなどの方向が打ち出された。本講義では、小学校、中学、高校、大学では、どんな授業法で英語教育がなされているのかを考察する。さらに今後の日本の英語教育のゴールを考え、小学校から中学校・高校への連携が図れる外国語「教授法」のあり方を考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

日本では、英語学習に相当な時間と労力を費やしている。英語がペラペラに使える人は多くはないが、日本語がペラペラに出来ない日本人はいない。外国語教育を成功させるための秘訣とは何か? 本授業では、小学校英語教科化を見据えた外国語教育のあり方そのものを考える。外国語教授法の理論と指導法の実践を学習し、指導者側における効果的な外国語教授法、そして、学習者側においては効果的な外国語学習法の理論と実践状況を学ぶ。

授業計画

1. 外国語授業法の歴史
2. 教授法の理論的背景と現代的意義(1)[Grammar-translation Method]
3. 教授法の理論的背景と現代的意義(2)[Oral Method][Oral Approach]
4. ディベート
5. 教授法の理論的背景と現代的意義(3)[Natural Approach]
6. 教授法の理論的背景と現代的意義(4)[Communicative Approach]
7. 教授法の理論的背景と現代的意義(5)[Task-Based Language Teaching]
8. 教授法の理論的背景と現代的意義(6)[CLIL]
9. ディベート
10. 英語教師の資質と能力「効果的な外国語教授法における指導者要因」
11. 学習者の特質「効果的な外国語学習者における学習者要因」
12. 小中連携 授業案作成
13. 模擬授業と評価

14. 指導・授業・評価の一体化
15. まとめ「効果的な外国語学習法を考える」

授業の方法

教授法の理論と実際の授業での応用から、理論と実践の融合を体験する

準備学修

テキストは読んでおくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業時に、講義内容に関するレポートを提出、模擬授業などプレゼンテーションを行い、評価の対象とするので、公欠などの連絡を必ずすること。

テキスト

英語科教育のフロンティア ―充実した実践を目指して― 青木昭六
 ISBN978-4-905493-03-7

参考図書

現代英語教授法総覧 田崎清忠編集責任者 大修館書店

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC入門 1			13801	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	1				

授業の到達目標

TOEICテスト400点到達を目指す。TOEIC攻略に必要な英語力（特にTOEIC必須単語）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につけることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

TOEICテスト400点到達を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。テストに最も出やすい事項の確認から始め、頻出の場面設定や語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。リスニング、リーディング両パートともバランス良く学習を進める。目標スコア達成のため、原則として単語テストを毎回実施する。授業計画については理解度を確かめながら柔軟に運用する。なお偶数年度と奇数年度はテキスト並びに授業計画を変更するので、2年連続の受講が可能である。

授業計画

1. ガイダンス、サンプル問題(解答・解説)
2. Lesson 1 文のはじめの5 Ws and 1Hを聴きとる！／単語テスト1
3. Lesson 2 be動詞直後の「動作」「状態」を写真中に確認／単語テスト2
4. Lesson 3 写真と矛盾した要素が1つでもあればその選択肢は誤り／単語テスト3
5. 進捗調整、復習／単語テスト4
6. Lesson 4 「許可」「依頼」「提案」は質問・応答の典型をセットで覚える／単語テスト5
7. Lesson 5 各問いかけごとの「よくある」「あり得ない」応答を押さえる／単語テスト6
8. Lesson 6 「意味」だけでなく「形」に注目！／単語テスト7
9. Lesson 7 「動作」と「状態」のちがいで正解を見抜く／単語テスト8
10. 進捗調整、復習／単語テスト9
11. Lesson 8 キーワードを探して正しい時制を見抜く／単語テスト10
12. Lesson 9 品詞を攻略しよう／単語テスト11
13. Lesson 10 to do形、-ing形、-ed形の使われるパターンを押さえる

／単語テスト12

14. 進捗調整、復習／単語テスト13

15. ミニ模試／単語テスト14

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの作業が中心

準備学修

・単語テストの準備をしっかりと行うこと。・授業中に指示された課題は必ずこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

TOEIC(R)TEST きほんのきほん（国際語学社刊）、TOEICテストに
でる単語600語（中経出版刊）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・ダウンロード音声を用いて確実に復習をすること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれも可）を必ず持参すること。スマホアプリ辞書の使用は事前に講師の許可を得、指示に従うこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC入門 2			13805	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	1				

授業の到達目標

TOEIC500点到達を目指す。TOEIC攻略に必要な英語力（特にTOEIC必須単語と読解力）の養成と問題への取り組み方、学習のコツを身につけることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

TOEIC入門1で習得した知識を元にし、さらにレベルの高いリスニング、リーディング問題に取り組み、問題形式に慣れる。単語テストを毎回実施する。授業計画については理解度を確かめながら柔軟に運用する。なお偶数年度と奇数年度はテキスト並びに授業計画を変更するので、2年連続の受講も可能である。

授業計画

1. Lesson 11 「音のひっかけ」に注意！／単語総まとめテスト1
2. Lesson 12 典型的な設問と3問の設問の流れを覚える／単語テスト15
3. Lesson 13 会話の全体構造を理解する／単語テスト16
4. Lesson 14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる／単語テスト17
5. 進捗調整・復習／単語テスト18
6. Lesson 15 典型的な問題文と答えのヒントとなるフレーズを攻略／単語テスト19
7. Lesson 16 Part7の頻出トピック・文書形式に慣れよう／単語テスト20
8. Lesson 17 代名詞のチェックポイントは2つ！／単語テスト21
9. Lesson 18 形容詞節のチェックポイントも2つ！／単語テスト22
10. 進捗調整・復習／単語テスト23
11. Lesson 19 関連語句は片方の語句がヒントとなる／単語テスト24
12. Lesson 20 接続詞系の問題は空所の後ろに「主語＋動詞」があるか確認／単語テスト25
13. 進捗調整・復習／単語テスト26
14. ミニ模試・解答解説－1／単語テスト27
15. ミニ模試・解答解説－2／単語総まとめテスト

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの作業が中心

準備学修

・単語テストの準備をしっかりと行うこと。・授業中に指示された課題は必ずこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

TOEIC TEST きほんのきほん（国際語学社刊）、TOEIC (R)テストに
でる単語600語（中経出版刊）※2冊とも春学期から継続使用する。

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・ダウンロード音声を用いて確実に復習をすること。・英和辞書（紙版、電子辞書、いずれも可）を必ず持参すること。スマホアプリ辞書の使用は事前に講師の許可を得、指示に従うこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（初等）		13809	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中田 尚美	選択	2			

授業の到達目標

保育・教育の専門家として必要な基礎的知識を身につけると共に、教職・保育職に就いてさまざまな問題に直面したとき、適切に判断し、行動することが出来るような資質を養成することを目的とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育の意義と教師（保育者）の役割や職務内容などについて学び、自らの進路に教職を選択することの可否を適切に判断することに資する各種の機会を提供する。
教職・保育職に対する理解を深めていくと共に、豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性等、良き教師（保育者）への意欲を高め使命感を持つことについても考える。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育とは何か……人間形成と教師（保育者）の役割
3. 教職の意義
4. 教職の歴史
5. 保育・初等中等教育と教員
6. 教師（保育者）に求められる資質と能力
7. 保育士の制度的位置づけ、教員の身分及び服務義務
8. 教員の職務について（1）
9. 教員の職務について（2）
10. 教育課程とは
11. 障害を受けている子どもの教育と課題
12. 開かれた保育所・幼稚園・学校づくり・地域社会との連携
13. 子どもと保護者・保育・教育の現状と課題
14. 優れた教師・魅力的な教師（保育者）を目指して
15. まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点

テキスト

長尾和英編『教職と人間形成』八千代出版

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育心理学	ET	13813	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

子どもの発達と心理的問題をどのように理解し、援助していくかについて学ぶ。とくに、児童・生徒の人間形成にかかわるさまざまな要因について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を目指す。

授業の概要

不登校やいじめなど子どもの問題行動をどのように理解し、対処すればよいのかを論じたのち、子どもの人格形成や自己理解、対人関係にかかわる心理学的問題をとりあげ、また学習指導と評価のあり方について論じる。最後に、発達障害をもつ子どもに対する理解や援助の仕方を学ぶ。

授業計画

1. 子どもの問題行動の理解と援助ー不登校
2. 子どもの問題行動の理解と援助ーいじめ
3. 子どもの問題行動の理解と援助ー虐待
4. 子どもの問題行動の理解と援助ー摂食障害・対人恐怖
5. 教師と児童生徒の人間関係
6. 家庭的背景の理解
7. 学級への適応
8. 発達観と教育
9. 人格の形成
10. 自己理解を育てる
11. 感情を育てる
12. 社会性と道徳性
13. 教育評価と学習指導
14. 発達障害の理解ーADHD、学習障害
15. 発達障害の理解ー自閉症、アスペルガー症候群

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修

これまで受けてきた家庭教育と学校教育について考えをまとめておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

参考図書

随時紹介する。

留意事項

授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。
小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 1	a		13817	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	2				

授業の到達目標

TOEIC 600点以上を取得するために必要な英語力（特にTOEIC必須単語と速読力）の習得、また解ける問題を見極め、確実に得点に結びつける技術の習得を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）の涵養を目指す。

授業の概要

公式問題集Vol.5を使用して問題練習を重ね、実際のTOEICテストに出題される問題のレベルに慣れていく。解ける問題とそうでない問題を選別する練習（TOEICは200問全てに100%の力を注ぐ必要はない）、知らない単語に行きあたっても文章の流れに沿って意味を推測する練習などを行うことによってTOEICに対する意識を根底から変え、目標スコアを目指す。授業計画については理解度を確かめながら柔軟に運用する。単語テストを原則として毎回実施する。なお偶数年度と奇数年度はテキスト並びに授業計画を変更するので、2年連続の受講が可能である。

授業計画

1. ガイダンス、【TEST 1 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策
2. Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト 1
3. Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト 2
4. Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト 3
5. Part 3 対策、Part 7（2つの文書）対策／単語テスト 4
6. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 5
7. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 6
8. 【TEST 2 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト 7
9. Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト 8
10. Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト 9
11. Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト 10

12. Part 3 対策、Part 7（2つの文書）対策／単語テスト 11
13. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 12
14. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 13
15. Part 7（2つの文書）対策／単語テスト 14

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの作業が中心。

準備学修

・単語テストの準備をしっかりと行うこと。・授業中に指示された課題は必ずこなすこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

TOEIC (R)テスト新公式問題集Vol.5（IIBC刊）、新TOEIC (R)テスト出る順で学ぶボキャブラリー990（講談社刊）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属のCDも用いて確実に復習すること ・英和辞書（紙版、電子辞書いずれも可）を持参すること。スマホアプリ辞書の使用は事前に許可を得、指示に従うこと

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 1	b		13817	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

今日TOEICの重要性はますます増えてきているため、スコアを伸ばすスキルを身に付けることが必要となってきた。このクラスではTOEICのテストで問題慣れし、課題や弱点を把握することを目指す。基本的な文法事項を再確認し、語彙力をつけながら、総合的に出題形式に慣れることに重点を置く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

テキストのユニットに沿って進めてゆく。毎回のユニットでは頻出ジャンルに則して全7パートのうち、3つか4つのパートに焦点が当てられている。該当パートのポイントを説明し、実践問題を解いたのちに解説をする。授業で学習した語彙は、毎週小テストに出題されるため、確実に語彙力を伸ばすことができる。この授業では国際性（Internationality）に重点を置く。

授業計画

1. introduction
2. UNIT 1 Shopping
3. UNIT 2 Daily Life
4. UNIT 3 Transportation
5. UNIT 4 Jobs
6. UNIT 5 Meals
7. UNIT 6 Communication
8. Review 1
9. UNIT 7 Fun
10. UNIT 8 Office Work
11. UNIT 9 Meeting
12. UNIT 10 Travel

13. UNIT 11 Finance
14. UNIT 12 Business
15. Review 2

授業の方法

テキストに沿って進めてゆく。

準備学修

必ず指定された箇所を予習してくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき、2点減点とする。

テキスト

First Time Trainer for the TOEIC TEST, CENGAGE Learning

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 2	a		13821	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	2				

授業の到達目標

TOEIC 700点以上を取得するために必要な英語力（特にTOEIC必須単語と速読力）の習得、また解ける問題を見極め、確実に得点に結びつける技術の習得を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）の涵養を目指す。

授業の概要

評判の高い「TOEICテスト究極の模試600問」を使用して問題練習を重ねる。試験中の時間管理の仕方、解くべき問題の見極めに気を配ることを意識しながら目標スコアを目指す。単語テストを原則として毎回実施する。なお授業計画については理解度を確かめながら柔軟に運用する。

授業計画

- 1.【TEST 1 使用】Part 3 対策、Part 5 対策
2. Part 4 対策、Part 5 対策／単語テスト 1 5
3. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 1 6
4. Part 2 対策、Part 7 (1つの文書) 対策／単語テスト 1 7
5. Part 3 対策、Part 7 (2つの文書) 対策／単語テスト 1 8
6. Part 7 (2つの文書) 対策／単語テスト 1 9
- 7.【TEST 2 使用】Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト 2 0
8. Part 4 対策、Part 5 対策／単語テスト 2 1
9. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 2 2
10. Part 2 対策、Part 7 (1つの文書) 対策／単語テスト 2 3
11. Part 3 対策、Part 7 (2つの文書) 対策／単語テスト 2 4
12. Part 7 (2つの文書) 対策／単語テスト 2 5
13. Test 1、Test 2 総復習／単語テスト 2 6
- 14.【TEST 3 使用】Listening 全パート／単語テスト 2 7
15. Reading 全パート／単語テスト 2 8

授業の方法

問題演習が中心

準備学修

・単語テストの準備をしっかりと行うこと。・授業中に指示された課題は必ずこなすこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

TOEIC (R)テスト究極の模試600問（アルク刊）、新TOEIC (R)テスト出る順で学ぶボキャブラリー990（講談社刊）※単語集は春学期から継続使用

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

テキスト付属のCDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれも可）を持参すること。スマホアプリ辞書の使用は事前に許可を得、指示に従うこと

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 2	b		13821	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

今日TOEICの重要性はますます増えてきているため、スコアを伸ばすスキルを身に付けることが必要となってきた。TOEIC 1に続き、このクラスではTOEICのテストで問題慣れし、課題や弱点を把握することを目指す。基本的な文法事項を再確認し、語彙力をつけながら、総合的に出題形式に慣れることに重点を置く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

テキストのLessonに沿って進めてゆく。毎回の授業ではListeningとReading各パートの注意事項の解説に重点がおかれる。授業で学習した語彙は、毎週小テストに出題されるため、確実に語彙力を伸ばすことができる。

授業計画

1. introduction
2. Lesson 1,2
3. Lesson 3,4
4. Lesson 5,6
5. Lesson 7,8
6. Lesson 9,10
7. Lesson 11,12
8. Review
9. Lesson 13,14
10. Lesson 15,16
11. Lesson 17,18
12. Lesson 19,20
13. Lesson 21,22
14. Lesson 23,24

15. Review

授業の方法

テキストに沿って、毎回Listening、Readingのパートを進めてゆく。

準備学修

必ず指定された箇所を予習してくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

Navigator for the TOEIC Test, Nan'un-Do

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEFL			13825	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

TOEFLの得点アップを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn(国際性)を養う。

授業の概要

特に英文読解とリスニングに焦点をあて基礎固めをする。試験ではかなりの長文を限られた時間内に読むことが要求されるため、辞書なしで長文を読み、大意を掴む練習を重ねる。リスニングに関しては、試験によく出される単語を中心にポキャブラリーを増やしていく。

授業計画

1. introduction : Skim & Scan Part 1
Listening 1
2. Skim & Scan Part 2
Listening 2
3. Chapter 1 Part 1
Listening 3
4. Chapter 1 Part 2
Listening 4
5. Chapter 2 Part 1
Listening 5
6. Chapter 2 Part 2
Listening 6
7. Chapter 3 Part 1
Listening 7
8. Chapter 3 Part 2
Listening 8
9. Chapter 4 Part 1
Listening 9
10. Chapter 4 Part 2
Listening 10
11. Chapter 5 Part 1
Listening 11
12. Chapter 5 Part 2
Listening 12
13. Chapter 6 Part 1

- Listening 13
14. Chapter 6 Part 2
Listening 14
15. Review
Listening 15

授業の方法

リーディング、リスニングともテキストに沿って進めてゆく。

準備学修

必ず指定された箇所を予習してくる。予習をしていない場合は授業に出席することはできない。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

Technical Skills for Extensive and Intensive Reading, EIHOSHA
TOEFL Short Listening Course, SEIBIDO

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論 (中等)	教職中等		13829	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
丸岡 幸一	選択	2				

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を歴史的な背景をふまえて、理解するとともに「道徳の時間の指導」のために必要な基本的事項の習得する。そして、実際にねらいにそった資料を選び、簡単な指導案を作成することができる。この授業ではKAISEIパーソナリティーのA(自律)とE(倫理)を目指す。

授業の概要

日本の道徳教育の変遷について概観し、そこから今日求められている道徳教育のあり方を考察するとともに、道徳教育の本質及び目標、外国の道徳教育の実情とわが国の道徳教育の比較などを取り上げ、道徳教育の理解を深める。そして、実際に「道徳の時間の指導」のために必要な、指導案の作成及び指導方法や評価についても取り上げ検討する。

授業計画

1. はじめに 一 道徳・道徳教育とは一
2. 道徳教育の歴史① 一 明治の道徳教育一
3. 道徳教育の歴史② 一 大正・昭和戦前の道徳教育一
4. 道徳教育の歴史③ 一 戦後の道徳教育一
5. 道徳教育の本質と目標
6. 道徳教育の内容
7. 道徳教育の全体構想と計画
8. 道徳の時間の指導① 一 年間指導計画の作成一
9. 道徳の時間の指導② 一 学習指導案の作成(その1)一
10. 道徳の時間の指導③ 一 学習指導案の作成(その2)一
11. 道徳の時間の指導④ 一 学習指導案の作成(その3)一
12. 道徳の時間の指導⑤ 一 学習指導の方法一
13. 道徳の時間の指導⑥ 一 道徳教育の評価一
14. 諸外国の道徳教育
15. まとめと道徳教育の今日的課題

授業の方法

講義を中心にディスカッションや発表(模擬授業)も取り入れる。

準備学修

自ら体験した道徳教育について思い返しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定等に準じる。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領解説 道徳編」(日本文教出版)
文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総則編」(東山書房)

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

教師をめざす学生として、新聞・テレビ等の教育関連報道に関心をもち、授業に臨むこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ		
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

日本経済の低迷、国際社会での存在感の低下など、日本を取り巻く国際社会は厳しさを増している。世界情勢を的確に把握し、グローバル社会で活躍できるグローバル人材として、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って異文化を理解・受容し、自文化を発信する力の育成を目指す。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI(国際性)を身につける。

授業の概要

本授業では、古今東西の日本と日本を取り巻く国際社会の文化を比較し、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

1. 比較文化論「世界の中の日本文化、日本の中の世界文化」
2. 「衣・風貌」文化比較 「ルイス・フロイスがみた日本と西洋」(1)
3. 「衣」文化比較 「民族衣装と風土」
4. 「食」文化比較「小麦文化と米文化」
5. プレゼンテーション(1)「世界の食文化」
6. 「住」文化比較 「日本の住居、西洋の住居」
7. 「住と自然」文化比較 「日本の庭・西洋の庭が示す自然観」
8. 「風呂とトイレと香りと化粧」文化比較 「フロイスがみた日本と西洋」(2)
9. プレゼンテーション(2)「旅」文化パンフ作成・発表
10. 「教育」古今東西文化比較
11. 「宗教・歴史」文化比較
12. 「芸能・音楽・文学」古今東西文化比較
13. 「結婚」文化比較
14. プレゼンテーション(3)比較文化課題発表
15. プレゼンテーション(3)比較文化課題発表

授業の方法

講義とプレゼンテーションによる参加型授業

準備学修

プレゼンテーションのパワーポイントを作成する

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定通り。参加型の授業を行うので欠席しないこと

テキスト

比較文化論 山口 修、齋藤和枝 世界思想社

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。ホスピタリティ産業では形のない商品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティの原点を理解し、どのように実践すればホスピタリティが顧客の購買意欲に結びつくのかを理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

ホスピタリティとサービスの違いを語源に遡り学びます。ホスピタリティマネジメントを実践する企業を事例に取り上げその本質を解説します。特に、ホテル産業やテーマパークの成功の秘密を紐解きます。それ以外にも注目すべき企業体の事例を取り上げます。

授業計画

1. ガイダンス
2. ホスピタリティとサービス
3. 野球部女子マネージャーのマネジメント
4. コトラーのマーケティング戦略・製品特性
5. コトラーのマーケティング戦略・マーケティングミックス
6. おとぎの国のマネジメント(ディズニールランドの秘密)
7. 日本を代表する2つのホテルマネジメント(帝国ホテル・ホテルオークラ)
8. 世界に名声を残すホテルとマネジメント(マリオット・リッツカールトン)
9. 日本の宿 THE旅館「加賀谷」のマネジメント
10. テーマの設定
11. テーマの設定
12. 発表
13. 発表
14. 差別化とコストリーダー
15. まとめ

授業の方法

講義と事例研究を中心に行われます。受講生はお互いに意見交換をし発表します。

準備学修

テキストを事前に一読すること。新聞のよく読むこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席者は減点対象とします。

テキスト

「事例でわかるホスピタリティ・サービス」日本能率マネジメントセンター

参考図書

適宜紹介

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス中国語			13832	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
王 媽	選択	2				

授業の到達目標

観光サービス業及び個人観光に必要な語彙と会話を学ぶ。中国の漢詩と文学作品の紹介を通じて、中国の文化・風俗習慣を広く理解していく。自己紹介が流暢にできるようにして、中国語の表現力とコミュニケーション能力を養う。

授業の概要

中国語の中の一つ大事な発音部分を繰り返し練習する。具体的な職場を想定し、仕事に役に立つ中国語を会話及び作文の形で習得する。異文化を深く理解するために、中国の文学名作を紹介し、中国の歌も一曲歌えるように挑戦する。中国語検定試験向けの指導を行う。

授業計画

1. 発音練習。職場対応練習：「関西空港 1」
2. 発音練習。職場対応練習：「関西空港 1」
3. 発音練習。職場対応練習：「関西空港 2」
4. 発音練習。職場対応練習：「関西空港 2」
5. 発音練習。職場対応練習：「旅行社」
6. 発音練習。職場対応練習：「旅行社」
7. 発音練習。職場対応練習：「旅行社」
8. 復習(単語、文法、会話練習)
9. 職場対応練習：「貿易会社」
10. 職場対応練習：「貿易会社」
11. 職場対応練習：「貿易会社」
12. 「自己紹介」・中国語検定試験問題の指導
13. 「自己紹介」・中国語検定試験問題の指導
14. 「自己紹介」・中国語検定試験問題の指導
15. 復習(聞き取り、読み取り、中国語表現)

授業の方法

まずは発音の指導を行う。次は語彙、文法と文型の説明をする。最後に読む練習と話す練習を行う。

準備学修

毎回の内容を復習すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定に従う。

テキスト

プリントを配布する。各自ファイリングして毎回持参すること。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			13833	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

マーケティングとは何か。現代社会はマーケティングの中で生活しているといっても過言ではない。観光マーケティング論では観光の商品特性を理解し多面的に考察する。商品の差別化、価格設定の意味、顧客と従業員そして経営者との関係など。講義を通して基本的なマーケティングの理解と他産業と異なる観光産業への理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)を養います。

授業の概要

観光マーケティング論ではマーケティングの基礎から学びます。その上でホスピタリティ&ツーリズム産業の戦略を事例とともに学びます。マクドナルドは商品の作り置き、一定時間が過ぎると廃棄していた。しかし、マクドナルドはそのスタイルを止めた。スターバックスの魅力はどこにあるのか。日本進出が続く外資ホテル。その戦略は。グローバルの世界戦略に動くホテル産業のビジネスモデルを知る。観光の今を学生の日常の体験を踏まえ講義は進められる。

授業計画

1. ガイダンス…何を学ぶのか
2. マーケティングとは
3. ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングの商品特性
4. 戦略計画におけるマーケティングの役割
5. マーケティング環境
6. マーケティング情報システム
7. マーケティングリサーチ
8. 市場細分化
9. ターゲット設定
10. ポジショニング
11. マーケティングミックス(製品)
12. マーケティングミックス(価格)
13. マーケティングミックス(流通)
14. マーケティングミックス(プロモーション)
15. まとめ

授業の方法

パワーポイントを使っ手の講義とグループでのディスカッションがあります。

準備学修

新聞の経済欄を読むこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は平常点に反映する。

テキスト

なし。資料配布します。

参考図書

コトラーのホスピタリティ&ツーリズムマーケティング(ピアソン・エデュケーション)/コトラーのマーケティング講義(ダイヤモンド社)

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

我が国の新国家戦略に位置づけられたのは観光立国である。この観光立国の中心となる産業が宿泊産業である。宿の誕生から現代のホテル産業までを理解する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を学ぶ。このクラスはKAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養います。

授業の概要

宿泊産業の歴史から始まる講義は「宿」からグランドホテル時代、近代産業としてのホテル業とすむ。そして、現代ホテル産業の組織及び経営などが多角的に講義される。宿泊産業の中心となるホテル業の入門講座である。

授業計画

1. ガイダンス…観光業における宿泊産業
2. ホテル産業史Ⅰ
3. ホテル産業史Ⅱ
4. ホテル産業史Ⅲ
5. 宿泊産業におけるカテゴリー
6. ホテルの組織と役割
7. 宿泊事業1
8. 宿泊事業2
9. 宿泊事業3
10. 料飲事業
11. バンケット事業
12. プライダル事業
13. ケータリング事業
14. 購買とFBCC
15. まとめ

授業の方法

講義を中心とするが、課題等でのディスカッションも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。

事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席はマイナス評価とする。

テキスト

「基本ホテル経営教本」柴田書店

参考図書

適宜紹介

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			13836	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

オープンスカイの進展で日本の航空行政も一層開かれてきた。今年の4月からは羽田空港は昼間の時間帯も長距離国際線が開設され一層集客力を増す事が期待されているが、一方で成田空港との共存の問題も存在する。日本で2012年から参入してきたLCCも今年で3年目に入り、お互いに選別されながら大手国内航空との競争も一層激化してきている。世界を見ると大手航空会社が一段とグローバル化を進める3大アライアンスもLCCとの大競争を各地で繰広げている。このような状況を把握し、ツーリズム産業の中核をなす航空業界の全体像と今日のツーリズムとの関係を考察する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

まずは社会基盤としての航空事業とツーリズムの関係を捉え、航空業界の歴史から航空会社の戦略と供にツーリズム産業での重要な役割を理解していく。その中でキーワードになる「規制緩和」を中心に世界の航空業界の動きをアメリカ、ヨーロッパ、アジアと日本の中でそれぞれ考察する。その上で世界の「グローバルアライアンス」・「LCC」の動向に注目し航空業界の現状を把握する。国際ハブ空港、航空業界のホスピタリティ・地球環境対策とツーリズムの関係も考察する。

授業計画

1. ガイダンス・航空事業とツーリズム
2. 社会基盤としての航空事業
3. アメリカの規制緩和とオープンスカイ政策
4. ヨーロッパの規制緩和とEU
5. アジアの規制緩和とASEAN
6. 日本の規制緩和とツーリズム
7. ローコスト航空会社(LCC)の誕生
8. 世界のLCCを調べる
9. グローバル・アライアンスを調べる
10. アジア・ゲートウェイ構想と国際ハブ空港
11. 国際ハブ空港とホスピタリティを調べる
12. 航空会社とブランド
13. 航空機の進化とツーリズム

14. 航空業界の地球環境対策を調べる
15. 航空ツーリズムのまとめ

授業の方法

講義を中心とするが学生への課題ではグループで討議し調べ発表の機会を設ける。

準備学修

世界の航空業界でのアライアンス・LCC・ツーリズムの動向などにいつも注目しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。

テキスト

特に指定しない。適宜プリントを配布する。授業内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

参考図書

『航空産業入門』(株)ANA総合研究所 2012
『日本の空を問う』伊藤元重・下井直毅 日本経済新聞出版

留意事項

授業中に指示する。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光フランス語			13837	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	2				

授業の到達目標

＜観光客としてフランスを旅行する＞ために最低限必要な知識と会話を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス基礎情報、衣食住を含むフランス人の日常生活、社会の動向、文化などフランス諸事情全般について書かれたテキストを講読し、関連項目のDVD鑑賞を行う。それらを通してフランスのイメージをより具体化する。要望があれば仏検4級の指導も行う。

授業計画

1. オリエンテーション、「フランス」
2. 「フランス」「パリ」
3. 「パリ」
4. 「カフェ」
5. 「学生生活」
6. 「パン、ワイン、チーズ」
7. 「ブルターニュ地方」
8. 「ブルターニュ地方」
9. 「プロヴァンス地方」
10. 「プロヴァンス地方」
11. 「アルザス地方」
12. 「アルザス地方」
13. 「世界に於けるフランス語」
14. 「世界に於けるフランス語」
15. フランス映画鑑賞(フランス語)

授業の方法

多彩なテーマについて書かれた関連資料の講読と学生の発表による。

準備学修

フランス語1～8の総復習は必須。また日頃からフランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

授業出席は必要不可欠。やむを得ない場合は必ず授業で進んだところまでの補習が必要である。

テキスト

bis Amicalement 駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

資料講読はフランス語でなされるため、履修に関してはフランス語7～8終了レベルのフランス語力が必要である。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

現代人間学部 観光ホスピタリティ学科
専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		15113	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究計画書の作成に向けて各自のテーマを決定し、文献、資料収集、調査などを毎回積み重ねながら、各自の最終の方向性を確立することを旨とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

7月中旬までに各自のテーマと研究計画を最終決定する。それまでの前半で必要な参考文献、資料の調査、収集を図りながら卒業研究スケジュールの全体行程表を作成する。後半で各自のテーマにそって現状を経過発表しながら同時に課題も発見し、最終的な方向性を確立していく。

授業計画

1. 演習Ⅲのガイダンス
2. 各自の研究テーマ・研究方法の討議・行程表の作成
3. 各自の研究テーマ・研究方法の討議・行程表の作成
4. 各自の研究テーマ・研究方法の討議・行程表の作成
5. 各自の研究テーマの参考論文、文献、資料の調査と課題の発見
6. 各自の研究テーマの参考論文、文献、資料の調査と課題の発見
7. 各自の研究テーマの参考論文、文献、資料の調査と課題の発見
8. 各自の研究テーマの参考論文、文献、資料の調査と課題の発見
9. 各自の研究テーマの参考論文、文献、資料の調査と課題の発見
10. 各自の研究テーマの筋書き・組み立ての発表と質疑応答
11. 各自の研究テーマの筋書き・組み立ての発表と質疑応答
12. 各自の研究テーマの筋書き・組み立ての発表と質疑応答
13. 各自の卒業研究計画書の提出・質疑応答
14. 夏期休業中における研究テーマの準備について
15. まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについての発表演習・質疑応答を中心にする。

準備学修

各自の研究テーマにそったトピックについての卒業研究論文・文献・資料・新聞記事を参考にし精読する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学則に準じる。

テキスト

各自の研究テーマに沿って適宜指示、推薦をする。

参考図書

各自の研究テーマに沿って適宜指示、推薦をする。

留意事項

主体的に各自が研究テーマを早期に設定し、参考文献、資料の収集を早めに始め、テーマの課題を把握して卒業研究計画書を提出する事。卒業研究計画書提出後はテーマの変更は不可。テーマの課題は夏期休業中に調査・研究する事。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		15113	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとして、ホスピタリティ産業の戦略的マーケティングを考えていく。受講生がこれまで取り上げたテーマをより探求する。（演習Ⅰ・Ⅱでの成果を踏まえ研究課題の全体像を描く）このクラスはKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養います。

授業の概要

個人テーマを中心に資料収集、レポートの作成、プレゼンテーションに取り組む。研究の進捗状況を踏まえ、積極的にフィールドワークを行い、ホスピタリティ産業の現状を認識する。

授業計画

1. ガイダンス及び研究計画の立案
2. 研究計画のスケジュールの発表
3. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
4. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
5. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
6. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
7. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
8. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
9. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
10. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
11. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
12. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
13. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
14. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
15. まとめ

授業の方法

各自の研究発表を中心に行います。

準備学修

新聞・雑誌などから情報収集を行う事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席者は必ず連絡すること

テキスト

なし

参考図書

適宜紹介

留意事項

積極的な授業参加を求める。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		15113	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	必修	2				

授業の到達目標

キーワード：「観光」「ホスピタリティ」「観光事業」
 学科のねらいである「tourism」「hospitality」に関する「調査」「研究」、これらに関わる実学研修の実施を通じて「おもてなし」時代に対応できる人材を育てる。

授業の概要

- 目標達成のため、
1. 「観光」「ホスピタリティ」に関する現代事情の学習。
 2. 観光・サービス事業の現状学習。
 3. これらについての「調査」「研究」「まとめ」「発表」
 4. 学外実地研修の実施
 5. 「卒業研究」の取り組み

授業計画

1. 「演習Ⅲ」の心構え、ガイダンス
2. 「観光」「ホスピタリティ」関連事業の現状把握①
3. 「観光」「ホスピタリティ」関連事業の現状認識②
4. 「観光関連事業」の「調査」「研究」「まとめ」について
5. 「個人研究課題」の発表・討論①
6. 「個人研究課題」の発表・討論②
7. 「個人研究課題」の発表・討論③
8. 「個人研究課題」の発表・討論④ および総評
9. 学外実地研修
10. 「卒業研究」の取り組み方について①
11. 「卒業研究」の取り組み方について②
12. 「卒業研究」の論題の設定①
13. 「卒業研究」の論題の設定②
14. 「卒業研究」のまとめ方について①
15. 「卒業研究」のまとめ方について②

授業の方法

「演習Ⅰ・Ⅱ」に引き続いて個人課題を設定し、「調査」「まとめ」「発表」「発言」力の向上を目指す。

準備学修

各授業のテキストなども参考に、就活にも応用できるように積極的に業界学習に努めること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

大学の規定に従う。

テキスト

『観光・旅行用語辞典』北川宗忠編、ミネルヴァ書房。

参考図書

『観光・旅の文化』北川宗忠著、ミネルヴァ書房。
 『観光 交流新時代』北川宗忠著、サンライズ出版。
 『現代の観光事業』北川宗忠、ミネルヴァ書房。

教員連絡先

kitagawa@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		15117	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

各自が行程表にそって進捗状況の発表と質疑応答を交え卒業研究を完成させるように指導する。卒業研究完成時には航空業界、ホスピタリティ産業、異文化理解とホスピタリティについての現状と課題をそれぞれが理解する事を目標とする。
 このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

各自の行程表にそって卒業研究を完成させるよう指導する。各自が研究テーマの経過発表をしながらゼミ生相互に情報も共有し、講評と質疑応答の中からテーマに対するアプローチの方法などをお互いに学び取る。途中で各自の中間発表を行い構成内容と最終の方向性を確認するが、主体的に卒業研究の完成に取り組んでいくことが望まれる。

授業計画

1. 演習Ⅳのガイダンス
2. 各自の研究テーマの経過発表と質疑応答
3. 各自の研究テーマの経過発表と質疑応答
4. 各自の研究テーマの経過発表と質疑応答
5. 各自の研究テーマの経過発表と質疑応答
6. 各自の研究テーマの中間発表と質疑応答
7. 各自の研究テーマの中間発表と質疑応答
8. 各自の研究テーマの構成内容の最終確認
9. 各自の研究テーマの構成内容の最終確認
10. 各自の研究テーマの構成内容の最終確認
11. 卒研ゼミ内暫定提出・構成内容の質疑応答・講評
12. 卒研の最終修正
13. 卒研の最終修正
14. 卒研の発表と講評
15. 卒研の発表と講評・まとめ

授業の方法

各自の卒研テーマの構成内容の経過発表と質疑応答・講評を交え、最終の卒業研究を完成させる。

準備学修

自分の研究テーマの経過発表時は各自でレジュメを用意する。各自の発表後の質疑応答での方向性の確認と修正を次の発表までに反映し準備する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学則に準じる。

テキスト

各自の研究テーマにそって適宜紹介する。

参考図書

各自の研究テーマにそって適宜紹介する。

留意事項

主体的に卒業研究テーマの完成に取り組む事。12月初めのゼミ内提出の完成に向けて参考文献と資料は早めに準備し精読していく事。各自の発表担当日の欠席は不可。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		15117	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとして、ホスピタリティ産業の戦略的マーケティングを考えていく。受講生がこれまで取り上げたテーマをより探求する。(演習Ⅰ・Ⅱでの成果を踏まえ研究課題の全体像を描く。このクラスはKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養います。

授業の概要

卒業研究を前提に個別テーマに取り組む。研究の進捗状況を発表し、検討会をおこなう。

授業計画

1. ガイダンス・研究テーマについて
2. 研究テーマについて
3. 個別研究の進捗状況の発表
4. 個別研究の進捗状況の発表
5. 個別研究の進捗状況の発表
6. 個別研究の進捗状況の発表
7. 個別研究の進捗状況の発表
8. 個別研究の進捗状況の発表
9. 個別研究の進捗状況の発表
10. 個別研究の進捗状況の発表
11. 個別研究の進捗状況の発表
12. 個別研究の進捗状況の発表
13. 個別研究の進捗状況の発表
14. 個別研究の進捗状況の発表
15. まとめ

授業の方法

各自の研究発表を中心に行います。

準備学修

新聞・雑誌などで情報収集

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席者は必ず連絡すること

テキスト

なし

参考図書

適宜紹介

留意事項

積極的な参加を求める。

教員連絡先

ichio@kaiasei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		15117	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	必修	2				

授業の到達目標

キーワード：「観光」「ホスピタリティ」「観光事業」
 学科のねらいである「tourism」「hospitality」に関する「調査」「研究」、これらに関わる実学研修の実施を通じて「おもてなし」時代に対応できる人材を育てる。

授業の概要

目標達成のため、

1. 「観光」「ホスピタリティ」に関する現代事情・問題点などの総括。
2. 学外実地研修の実施
3. 「卒業研究」の推進・まとめ・要旨発表・卒論発表

授業計画

1. 「演習Ⅳ」の心構え、ガイダンス
2. 「観光」「ホスピタリティ」関連業界の状況①
3. 「観光」「ホスピタリティ」関連業界の状況②
4. 学外実地研修①
5. 「卒業研究」のまとめⅠ-①
6. 「卒業研究」のまとめⅠ-②
7. 学外実地研修②
8. 「卒業研究」のまとめⅡ-①
9. 「卒業研究」のまとめⅡ-②
10. 学外実地研修③
11. 「卒業研究」の概要発表①
12. 「卒業研究」の概要発表②
13. 「卒業研究」の概要発表③
14. 「卒業研究」の概要発表④
15. 「演習Ⅰ～Ⅳ」の総括

授業の方法

「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に引き続いて、演習目標の総括をし、卒業研究の完成に向けた演習の実施。学生にとっては

準備学修

学生生活に有終の美を飾れるよう、悔いのない学習準備を心がけ

る。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

大学の規定に従う。

テキスト

『観光・旅行用語辞典』北川宗忠編、ミネルヴァ書房。

参考図書

『観光・旅の文化』北川宗忠著、ミネルヴァ書房。
 『観光 交流新時代』北川宗忠著、サンライズ出版。
 『現代の観光事業』北川宗忠編、ミネルヴァ書房。

教員連絡先

kitagawa@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

現代人間学部 心理こども学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

児童文学作品における「絵と言葉の力」に関する卒業研究を進めるために、文献や資料を読み、意見交換を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

教科書に掲載されたり、作家や出版社が子どもたちに読ませたい本として紹介したりしている作品を取り上げて分析する。また、児童文学の種類や選び方、絵と文章の読み方、作家と作品、読み聞かせの仕方等を学び、研究テーマの方向性を決めていく。

授業計画

1. オリエンテーション、児童書の種類と作品
2. 絵本の選び方、絵本づくり
3. 絵本とは何か①
4. 絵本とは何か②
5. 「もりのなか」の作品分析①
6. 「もりのなか」の作品分析②
7. 「おおかみと七ひきのこやぎ」の作品分析①
8. 「おおかみと七ひきのこやぎ」の作品分析②
9. 読み聞かせの仕方
10. 絵本作家と作品①
11. 絵本作家と作品②
12. 絵本作家と作品③
13. 「私が選んだ絵本」の発表と討議①
14. 「私が選んだ絵本」の発表と討議②
15. まとめ

授業の方法

書く活動とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

授業で検討する作品や作家について、事前に連絡するので、調べてまとめておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

松居直『絵本のよろこび』日本放送出版協会

参考図書

授業中に、随時紹介する。

留意事項

自分から進んで研究に取り組み、主体的に授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

授業で学んだことや実習体験の中で、特に興味関心をもったことを卒業研究に向けての「テーマ」探しとして確認・整理していく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

ゼミ生、担当教員との討議や発表を通して、卒業研究への具体的な方向性を明らかにする。

授業計画

1. はじめに
2. 演習の取り組みについて
3. 資料の輪読(1)
4. 資料の輪読(2)
5. 資料の輪読(3)
6. 資料の輪読(4)
7. 資料の輪読(5)
8. 資料の輪読(6)
9. ゼミ生の発表(1)
10. ゼミ生の発表(2)
11. ゼミ生の発表(3)
12. ゼミ生の発表(4)
13. ゼミ生の発表(5)
14. ゼミ生の発表(6)
15. まとめ

授業の方法

発表と討論を多く取り入れる。

準備学修

発表の際にはレジュメを用意すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	必修	2				

授業の到達目標

保育者になることを目指して、出来るだけ幼稚園や保育所のボランティアや行事に参加し、それらを通して各自のテーマを絞り、研究に取り組む。
このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

課題の図書を読み、その感想文を発表し合って、文章の表現力を高めていく。各自の興味・関心のある事柄や得意なことを生かして研究テーマを設定して取り組みを進める

授業計画

1. オリエンテーション
2. テキストを読んで子ども理解に努める ①
3. " ②
4. " ③
5. " ④
6. " ⑤
7. 課題図書の感想文を発表し、意見交換をして推敲する ①
8. " ②
9. " ③
10. " ④
11. " ⑤
12. " ⑥
13. 各自の研究テーマについて報告する ①
14. " ②
15. まとめ

授業の方法

まず文章の表現力向上に努める。幼稚園教育実習後、各自の興味・関心を踏まえてテーマを設定する

準備学修

課題の図書に限らず、出来るだけ多くの本を読破するように努める

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点とする。

テキスト

「育ての心（上）」 倉橋惣三著、フレーベル館

参考図書

必要に応じて提示、紹介する

留意事項

授業外、学外のボランティアや幼稚園行事に積極的に参加して学ぶようにされたい。

教員連絡先

okodes@docomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に施行を展開し、他者に表現できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自立）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

様々な心理臨床領域における心理学論文の研究事例を文献講読する。学生が各自、関連する分権を収集・要約・発表し、その研究方法や課題について話し合う中で、各自の卒業研究のテーマを見出す機会を設ける。要約文は各自毎回提出とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 全員での共通の文献講読 1
3. 全員での共通の文献講読 2
4. 全員での共通の文献講読 3
5. 各自で興味・関心のあるテーマについて話し合い、リサーチ・発表のためのまとめについて学ぶ
6. リサーチ・発表 1
7. リサーチ・発表 2
8. リサーチ・発表 3
9. リサーチ・発表 4
10. リサーチ・発表 5
11. リサーチ・発表 6
12. 各自の研究テーマ・研究法について発表 1
13. テーマ・研究法発表 2
14. テーマ・研究法発表 3
15. まとめ

授業の方法

教材とする研究論文を熟読することで、研究論文のスタイルについて学ぶ。また、自分の関心のあるテーマや研究法を探しながら、要約文を作成し、発表することで、論文作成に必要な姿勢を身につける。

準備学修

できるだけ多くの関連するテーマについての文献や論文を普段から集めて目を通す習慣をつける。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回の欠席につき5点、遅刻は2点の減点とする。欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

要約文は毎回の授業で提出とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究のテーマを設定するために、児童文学作品に関する文献や資料を分析し、意見交換を行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

様々なジャンルの児童文学作品や、作家に関する文献を講読し、登場人物の言動・生き方、作品の特徴、作家の経歴や考え方についての発表や討議を行い、各自の研究テーマを設定していく。

授業計画

1. 今後の研究の進め方について
2. 研究方法と内容の考察①
3. 研究方法と内容の考察②
4. 研究方法と内容の考察③
5. 研究方法と内容の考察④
6. 研究方法と内容の考察⑤
7. 研究方法と内容の考察⑥
8. 研究方法と内容の考察⑦
9. 研究方法と内容の考察⑧
10. 研究テーマについて
11. 研究方法と内容の考察⑨
12. 研究方法と内容の考察⑩
13. 研究報告と討議①
14. 研究報告と討議②
15. まとめ

授業の方法

書く活動とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

授業で検討する作品や作家について文献を読み、考えをまとめておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

演習Ⅰのテキストを継続して使用する。

参考図書

授業中に、随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために必要な文献・資料を収集し、読んでおくこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究のテーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

卒業研究のテーマを設定し、レポート作成、プレゼンテーション、討論などを通してテーマについての理解を深めていく。

授業計画

1. はじめに
2. 実習における学びについて報告・発表(1)
3. 実習における学びについて報告・発表(2)
4. 実習における学びについて報告・発表(3)
5. 研究計画・文献収集に関する指導(1)
6. 研究計画・文献収集に関する指導(2)
7. 研究計画・文献収集に関する指導(3)
8. 研究計画・文献収集に関する指導(4)
9. 論文の書き方(1)
10. 論文の書き方(2)
11. 研究発表(1)
12. 研究発表(2)
13. 研究発表(3)
14. 研究発表(4)
15. まとめ

授業の方法

発表や討論を多く取り入れる。

準備学修

図書館で自分の関心のあるテーマの文献を書架や端末で検索する習慣を身につけておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回の欠席につき2点減点。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	必修	2				

授業の到達目標

各自が研究したいテーマについて熟考し、意見交換をしながら、テーマを絞っていく。そして、テーマに沿って取り組み、討議を重ねて互いに学び合いながら研究を進めていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

保育現場における人的・物的・空間的などの環境の重要性を認識し、各自の興味・関心に応じたテーマを設定する。出来るだけボランティア活動に参加しその実践の中で学んでいく。

授業計画

- 1.オリエンテーション(演習Ⅱの進め方について共通理解をする)
- 2.各自のテーマに沿って今後の研究の進め方について話し合う
①
3. " ②
4. " ③
5. " ④
6. " ⑤
- 7.各自の研究について進捗状況を報告し、話し合う ①
8. " ②
9. " ③
10. " ④
11. " ⑤
- 12.卒業研究に向けての見通しを立てて関連する文献を収集し発表・討議する ①
13. " ②
14. " ③
- 15.まとめ

授業の方法

参考資料やビデオ視聴などを通してながら、各自のテーマに沿った研究が進められるようにする。

準備学修

新聞や文献から各自が取り組みたいと思うテーマに迫っていくようにされたい。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回の欠席につき5点の減点とする

テキスト

適宜配布する

参考図書

幼稚園教育要領解説 保育所保育指針

留意事項

演習の時間外、また学外での活動にも積極的に参加し、経験の幅を広げていくと共に豊かな人間性を培うよう努力してもらいたい。

教員連絡先

okodes@dokomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に施行を展開し、他者に表現できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自立）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.リサーチ発表1
- 3.リサーチ発表2
- 4.リサーチ発表3
- 5.リサーチ発表4
- 6.リサーチ発表5
- 7.リサーチ発表6
- 8.研究法・手続きについての話し合い1
- 9.研究法・手続きについての話し合い2
- 10.共同研究1
- 11.共同研究2
- 12.共同研究3
- 13.共同研究結果のまとめと発表
- 14.各自の研究計画の立案・発表
- 15.まとめ

授業の方法

論文のリサーチ・要約・発表の後、共同研究を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

準備学修

図書館などで、論文を検索し、集め、できるだけ多くの文献に目を

通す。また、必要な手続き（統計法など）を復習しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回につき、欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。5回以上の欠席で不合格となる。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

論文の要約文は毎週提出とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

3年次の演習の成果を踏まえ、テーマを決定し、卒業研究に取り組む。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

各自の研究テーマに沿って、研究計画を立て、必要な文献や資料の収集に取り組む。

授業計画

1. 卒業研究のテーマ設定について
2. 卒業研究の方法について(1)
3. 卒業研究の方法について(2)
4. 研究の報告と相互批評(1)
5. 研究の報告と相互批評(2)
6. 研究の報告と相互批評(3)
7. 研究の報告と相互批評(4)
8. 研究の報告と相互批評(5)
9. 研究の報告と相互批評(6)
10. 研究の報告と相互批評(7)
11. 研究の報告と相互批評(8)
12. 研究の報告と相互批評(9)
13. 研究の報告と相互批評(10)
14. 研究の報告と相互批評(11)
15. まとめ

授業の方法

発表と討論を多く取り入れる。

準備学修

研究テーマに関わる文献を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ内容からテーマを決定し、卒業研究を作成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

研究テーマに沿って、提出までの計画を立て、必要な文献や資料の収集に自主的に取り組み、卒業研究を進めていく。

授業計画

1. 演習の進め方
2. 卒業研究のテーマ
3. 研究報告と討議①
4. 研究報告と討議②
5. 研究報告と討議③
6. 研究報告と討議④
7. 研究報告と討議⑤
8. 研究報告と討議⑥
9. 研究報告と討議⑦
10. 研究報告と討議⑧
11. 研究の進め方①
12. 研究の進め方②
13. 研究の進め方③
14. 研究の進め方④
15. まとめと今後の取組

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

研究テーマに関連した文献・資料を読み、授業に備えること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点、遅刻は2点減点する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

研究テーマを念頭に置いて、文献・資料を自主的に収集すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	必修	2				

授業の到達目標

三年次の演習Ⅰ・Ⅱでの学習成果を踏まえ、自分の興味・関心のある事柄を選び、再度卒業研究のテーマの方向性を見極めて取り組む。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

各自の研究テーマにそって研究計画を立て、幼稚園や保育所へのボランティアや文献講読、インターネットでの検索など適切な方法で情報収集に努め、テーマへの学びが深まるようにする。

授業計画

1. 各自の研究テーマ・研究方法を確認する ①
2. " ②
3. " ③
4. ゼミ生間でテーマの確認と共通理解をする ①
5. " ②
6. " ③
7. 研究の進捗状況の報告と発表及び相互批評 ①
8. " ②
9. " ③
10. " ④
11. " ⑤
12. " ⑥
13. " ⑦
14. まとめと課題・今後の展望
15. まとめと課題・今後の展望

授業の方法

各自の報告と全体での討議を繰り返し、報告内容についての理解を深めていく。

準備学修

幼稚園や保育所へのボランティアや施設見学、行事参加などを積極的に行うこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席をする場合は必ず事前にその旨連絡をすること。

テキスト

「育ての心（上）」 倉橋惣三著、フレーベル館

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館
こども クマノミ出版

留意事項

研究テーマに関する文献・資料を自主的に収集するように努められたい。

教員連絡先

okodes@docomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に施行を展開し、他者に表現できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自立）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究法や分析の方法についても復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. リサーチ・発表・ディスカッション1
3. リサーチ2
4. リサーチ3
5. リサーチ4
6. 各自の研究の問題と目的について設定・発表
7. 各自の研究の研究法、調査、手続きについて進行報告、ディスカッション1
8. 進行報告2
9. 進行報告3
10. 調査報告1
11. 調査報告2
12. 調査報告3
13. 結果のまとめ方について1
14. 結果のまとめ方について2
15. 結果のまとめ方について3

授業の方法

文献研究、要約、発表、研究計画の作成、ディスカッション、研究法・手続きの理解、調査の実施。

準備学修

調査、研究に必要な文献を熟読しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回の欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。欠席5回で不合格とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

要約文や発表レジュメは毎週提出とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

各自の研究のテーマに沿って卒業研究を完成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

研究過程の発表や討論を重ねていくことで卒業研究の内容の理解を深め、卒業研究を完成していく。

授業計画

- 1.進捗状況の確認と発表(1)
- 2.進捗状況の確認と発表(2)
- 3.進捗状況の確認と発表(3)
- 4.進捗状況の確認と発表(4)
- 5.発表および討論(1)
- 6.発表および討論(2)
- 7.発表および討論(3)
- 8.発表および討論(4)
- 9.発表および討論(5)
- 10.卒業研究論文の修正(1)
- 11.卒業研究論文の修正(2)
- 12.卒業研究論文の修正(3)
- 13.卒業研究論文の修正(4)
- 14.卒業研究論文の修正(5)
- 15.まとめ

授業の方法

卒業研究のプレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修

研究のテーマに沿った文献や資料を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

各自の研究テーマに沿って文章を作成・推敲し、卒業研究を完成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

卒業研究を進めるために、全体指導や個別指導を行う。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成していく。

授業計画

- 1.今後の卒業研究の進め方
- 2.卒業研究の報告と討議①
- 3.卒業研究の報告と討議②
- 4.卒業研究の報告と討議③
- 5.卒業研究の報告と討議④
- 6.卒業研究の報告と討議⑤
- 7.卒業研究の報告と討議⑥
- 8.卒業研究の報告と討議⑦
- 9.卒業研究の報告と討議⑧
- 10.卒業研究の報告と討議⑨
- 11.卒業研究の推敲①
- 12.卒業研究の推敲②
- 13.まとめ
- 14.卒業研究の最終報告
- 15.卒業研究の最終報告

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

研究内容に関する自分の考えをまとめておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点、遅刻は2点減点する。

参考図書

研究テーマに沿った文献を適宜紹介する。

留意事項

自主的に卒業研究に取り組むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	必修	2				

授業の到達目標

各自が自分の設定した研究テーマを深く掘り下げ、その結果を卒業研究としてまとめる。このクラスではK A I S E I パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

各自の研究テーマにそって実施した幼稚園や保育所や施設での実践記録の分析や調査・文献等からの収集に努め、それらをまとめて演習の時間に発表する。討論や指導を受けてその内容を深め、卒業研究を作成する。

授業計画

1. 研究の進捗状況の確認
2. 研究の進捗状況の確認
3. 発表と討議
4. 発表と討議
5. 発表と討議
6. 発表と討議
7. 研究の修正とまとめ
8. 研究の修正とまとめ
9. 研究の修正とまとめ
10. 研究の修正とまとめ
11. 研究の報告と相互批評
12. 研究の報告と相互批評
13. 最終報告とまとめ
14. 最終報告とまとめ
15. まとめ

授業の方法

各自の報告と全体討議、個人指導を通して報告内容を深めていく。

準備学修

学内の図書館や機器を活用して文献を読んだり、情報収集に努めたりすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

一回の欠席につき5点減点とする

テキスト

必要に応じて提示・紹介する

参考図書

こども くまノミ出版
幼稚園教育要領解説

留意事項

積極的にそして真摯に取り組んでもらいたい。

教員連絡先

okodes@docomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		17113	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に施行を展開し、他者に表現できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自立）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させていく。

授業計画

1. 調査結果のまとめ方1
2. 調査結果のまとめ方2
3. 調査結果のまとめ方3
4. 結果報告1
5. 結果報告2
6. 結果報告3
7. 結果報告4
8. まとめと考察1
9. まとめと考察2
10. まとめと考察3
11. 研究の修正・発表1
12. 研究の修正・発表2
13. 研究の修正・発表3
14. 各自の最終報告とまとめ1
15. 各自の最終報告とまとめ2

授業の方法

卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修

秋学期開始までに調査を実施し、結果を簡単にまとめておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。欠席が5回以上で不合格となる。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目 < 専門基礎科目 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	必修	2				

授業の到達目標

人間の行動や心を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化しつつあるものとしてそれを捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

本講義では、人間の心というものが他者を含む環境との相互的にかかわりを通して発達していくことを、精神活動の成立と展開にとっての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、各時期における具体的な保育・教育実践の課題と関連付けて解説してゆく。

授業計画

1. 精神機能を発生的に把握するということ: 生物としての発生
2. 精神機能を発生的に把握するということ: 遺伝と環境
3. 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
4. 知的精神機能の発達: 感覚運動期1 (新生児期)
5. 知的精神機能の発達: 感覚運動期2 (乳幼児期)
6. 知的精神機能の発達: 前操作期1 (幼児期)
7. 知的精神機能の発達: 前操作期2 (幼児期)
8. 知的精神機能の発達: 具体的操作期 (学童期)
9. 知的精神機能の発達: 形式的操作期 (学童期・青年期以降)
10. 初期経験と発達: 野生児の例から
11. 対人関係と発達: 愛着、社会性、遊びの発達
12. 対人関係の発達: コミュニケーション能力の発達
13. 発達研究における生態学的視点
14. 発達における障害の位置づけと診断・療育
15. 人格としての生涯発達およびまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき3点の減点とし、欠席5回以上で不合格とする。

テキスト

川島一夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達—新しい発達心理学への招待—』 福村出版 2010

参考図書

佐藤眞子編 『人間関係の発達心理学 2 乳幼児期の人間関係』 培風館

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目 < 専門基礎科目 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論			17205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

- 1 保育所保育指針を学び、保育の全体的な構造を理解する。
 - 2 保育内容の歴史の変遷について学ぶ。
 - 3 子どもの発達の特徴を踏まえ観察や記録の観点を修得し、保育内容と子ども理解とのかわりについて学ぶ。
 - 4 養護と教育の一体性について具体的な保育実践につなげて理解する。
 - 5 保育の展開について具体的に学ぶ。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の理解を通して、子どもたちに体験させたい保育の内容について理解を深めていく。教育課程の意義、編成、指導計画について学ぶとともに、保育所保育の全体的な計画や保育の内容についても考慮し、乳幼児全体を視野に入れた保育内容について学習する。

授業計画

1. 保育の基本と保育内容
2. 保育の全体構造
3. 保育内容の歴史の変遷
4. 子どもの発達の特徴と保育内容
5. 個と集団の発達と保育内容
6. 保育における観察と記録
7. 養護と教育の一体化
8. 環境を通して行う保育
9. 遊びによる保育
10. 生活や発達の連続性に考慮した保育
11. 家庭、地域、小学校との連携
12. 保育の多様な展開1 乳児保育・長時間保育
13. 保育の多様な展開2 多文化共生の保育
14. 保育の多様な展開3 特別な支援を必要とする子どもの保育
15. まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表を多く取り入れる。

準備学修

「保育原理I」の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『新保育士養成講座12巻 保育内容総論』 全国社会福祉協議会

参考図書

授業時に指示する。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
性格心理学			17309	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
黒羽 カテリーナ	選択	2				

授業の到達目標

性格とは何かということ、性格の諸理論、性格の形成要因、性格の適正、および適応変化などの視点からとらえ、自分や他者についての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

人間の行動の仕方には個人差が存在するところから性格という言葉が生まれた。その複雑な個人差を測定する方法を知るとともに、性格はいかにして形成されるのか、性格を理解するための理論にはどのようなものがあるのか、さらには、性格から生じる不適応などの問題について学び、自分理解と他者理解の促進をはかる。

授業計画

- 1.はじめに:性格の定義・研究史
- 2.性格の諸理論
- 3.性格の類型論
- 4.性格の特性論
- 5.性格の発達I:性格形成の要因
- 6.性格の発達II:ライフサイクル論
- 7.家族関係と性格
- 8.人間関係と性格
- 9.文化と性格
- 10.適正とは
- 11.性格と病気
- 12.性格理解の方法I:バウム・テスト
- 13.性格理解の方法II:エゴグラム
- 14.性格理解の方法III:文章完成法テスト
- 15.総括

授業の方法

講義とペアまたはグループワークを中心とし、適宜心理検査を実施する。

準備学修

授業後の復習が必要である。

課題・評価方法

定期試験(50%)、小レポート(20%)、出席状況(15%)、授業後の感想文(15%)

欠席について

補填を希望する場合は、必ず申し出ること。

テキスト

プリントを使用する。

参考図書

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 『性格心理学への招待 自分を知り他者を理解するために』サイエンス社

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
感情心理学			17317	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標

感情が人間の生活においてどのような役割を果たしているかを再認識したうえで、感情のメカニズム、感情の発達、感情の障害・病理について考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

感情の喚起と脳のメカニズム、感情の主観的経験とその表出および理解、感情の調節に至るまでの過程を自らの体験と照らし合わせながら理解を深めていく。また、他者と同じ感情を分かち合う共感の過程について、さらには感情調節の障害とそれへの対応についても認識を深める。

授業計画

- 1.感情の意義と役割
- 2.感情喚起のメカニズム
- 3.情動的知能
- 4.感情の主観的経験
- 5.感情表出のメカニズム
- 6.他者の感情の認知・理解
- 7.共感のメカニズムとカウンセリング
- 8.感情の調節
- 9.感情経験と表出の発達
- 10.感情調節の発達
- 11.共感能力の発達
- 12.感情と言語
- 13.感情の障害と臨床(1)不安
- 14.感情の障害と臨床(2)うつと攻撃性
- 15.今後の研究課題

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修

自分の最近の感情生活についてふりかえっておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『共感と思いやりの心理—援助職をめざす人のために—』澤田瑞也他著、2013年、開成出版

参考図書

『感情の発達と障害—感情のコントロール』澤田 瑞也著、2009年、世界思想社

留意事項

授業の中で課す小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人格発達心理学			17321	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

人格の発達にとって、年齢によって変化する身体と社会的な諸関係、文化というものが重要な役割をはたすことについて、各発達段階ごとの課題や危機の理解をふまえた説明ができることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自立）とI（知性）とS（奉仕）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人間の心理的発達の特殊性は、文化を担った社会的環境の中で他者との関係を築き上げながら変化していくことにあると考えられる。また、その変化は、具体的な身体を有する人間と人間との各時期に応じた葛藤をはらんで展開するものであると考えられる。本講義では、主に精神の情動的側面の意義についての考察をふまえ、エリクソンの人格発達理論に依拠しながら、他者との関係性の発達としての人格発達について論じてゆく。

授業計画

1. オリエンテーション 人間の発達における常道のもつ本質的役割
2. 人格発達における対人関係の葛藤とその克服の意義
3. 自己未分化の世界における信頼関係：自己を映し出す鏡としての他者
4. 活動における自立性と自我の発生：自我の芽生えと対人的葛藤
5. 社会的役割関係への関心：幼児期における親世代との葛藤
6. 人格発達の躰き1（乳幼児期）
7. 規範性の世界への参入：学童期の同世代の仲間関係の中での自己
8. 自我同一性と同一性拡散：「私とは何か」という問いと進路選択
9. 人格発達の躰き2（学童期・青年期）
10. 成人他者との社会的関係の維持・発展：生活の共有関係における自己実現と妥協
11. 次世代（子ども）との安定した関係の構築：次世代を育てる関係の維持
12. 喪失体験と死を前にした人生の統合：過去経験の統合と受容
13. 人格発達の躰き3（成人期・老年期）
14. 人格発達を背後で支える自然・社会環境について
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、人間関係の様式やその危機に関する作業課題に毎回の授業で回答しながら学習をすすめる。

準備学修

発達の变化に着目できるように、前回の講義内容をよく念頭に入れて受講するようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

必要な文献は適宜紹介する。

参考図書

戸田まり・サトウタツヤ・伊藤美奈子 共著『グラフィック性格心理学』サイエンス社エリクソン、E.H. 『幼児期と社会 Ⅰ、Ⅱ』みすず書房

留意事項

講義内容を理解してゆく前提として、「発達心理学」を受講しておくことが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学			17325	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
津田 明子	選択	2				

授業の到達目標

臨床心理学の誕生から現在までの歴史の変遷を概観し、臨床心理学の中核を成す人格理論・発達理論について学習する。そしてさらに、臨床心理学の実際として、心理アセスメントと基本的な心理療法についても紹介し、最終的に臨床心理学的に人間を理解するという視点を獲得する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）について考えます。

授業の概要

本講義では、臨床心理学の歴史の変遷を概観し、その発展を支え、臨床心理学の基礎となった代表的な学者の考え方（人格理論・精神発達理論）を解説していく。また、実際の臨床場面において使われている心理アセスメントと基本的な心理療法についても紹介していく。そして、最終的に臨床心理学的観点から人間を理解するということについて学んでいく。

授業計画

1. 臨床心理学とは
2. 臨床心理学の歴史
3. こころのしくみとパーソナリティ①フロイトの考え方
4. こころのしくみとパーソナリティ②ユングの考え方
5. こころの発達理論①エリクソンの考え方
6. こころの発達理論②クラインの考え方
7. こころの発達理論③マラーの考え方
8. こころの発達理論④ウイニコットの考え方
9. 臨床心理学の実際—心理アセスメントについて
10. 臨床心理学の実際—心理療法とは
11. 心理療法①精神分析療法・分析心理学派
12. 心理療法②クライエント中心療法
13. 心理療法③森田療法・内観療法・遊戯療法
14. 心理療法④芸術療法・認知行動療法・家族療法
15. 総括

授業の方法

講義を中心とする。

準備学修

臨床心理学に関係すると思われる書籍で関心のあるものを1冊以上読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

実習などの特別な欠席を除き、1回の欠席につき、2点を減点する。

テキスト

特に決まったテキストは用いない。

参考図書

授業の中でその都度紹介する。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
認知心理学			17329	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

人間が身体と心を動員して環境に臨むなかで、それを知覚し、判断し、行動するシステムが機能することを、その成り立ちとともに解説し、人間が「環境内存在」であることの意味を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

見る、聞く、触れる、思考する、記憶するという人間の基本的な精神機能は、常に主体と環境との連続した循環的な反応の環のなかで実現している。人間が能動的かつ協同的な存在であるがゆえに、これらの基本的な機能は実現されているということを、心理学的システムとして理解し、その成り立ちについて、進化心理学的あるいは発生心理学的な視点から考察してゆく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 人間の知覚的特性: 視覚
3. 人間の知覚的特性: 聴覚
4. 人間の知覚的特性: 運動感覚と認知
5. 人間の知覚的特性: 空間知覚
6. 注意と記憶 1
7. 注意と記憶 2
8. イメージ処理
9. 言語と談話理解 1
10. 言語と談話理解 2
11. 推論と問題解決
12. 思考と言語 1
13. 思考と言語 2
14. 社会的認知
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相当した、感覚、知覚、文章記憶、意味表象、物語認知、出来事認知、日常の問題解決などについての課題に毎時間回答しながら学習をすすめる。

準備学修

心理学概論で学んだ感覚、知覚、記憶、思考などの基本的な概念をよく理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

必要な文献は適宜紹介する。

参考図書

末田啓二 編著 『心理学の最先端』2013 あいり出版 他適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理統計学			17337	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
須崎 暁世	選択	2				

授業の到達目標

統計の基本的な技法とその考え方を、心理学的な領域のデータを扱いながら、自ら活用できるような力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究の解析手法を支える統計学について、その理論的な意味について解説する。講義はできるだけ具体的データをもとに学生が扱いながら、記述統計から推測統計まで、その処理プロセスと統計手法個々の概念について学んでゆく。

授業計画

1. データの性質について: 変数と尺度水準
2. データの性質について: 尺度水準と変数変換
3. データの表現: ヒストグラムの作成
4. 代表値と散布度
5. 標準化とは何か
6. 相関係数とはなにか: 散布図・共分散
7. 相関係数とはなにか: 2変数の関係
8. 標本と母集団①
9. 標本と母集団②
10. 統計的仮説検定の考え方①
11. 統計的仮説検定の考え方②
12. ノンパラメトリックな検定: カイ二乗検定
13. 平均値の差の検定: t検定
14. データの分散と条件の比較: 分散分析の読み取り方
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、確率、変数の性質、データ分布、代表値算出、散布度算出、相関係数、カイ二乗検定、t検定などの具体的な計算や検定作業を行いながら学習を進める。

準備学修

記述統計の基本について、よく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出る事。

テキスト

山田剛史・村井潤一郎 2004 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

参考図書

石村貞夫 1993 すぐわかる統計解析 東京図書
 吉村寿夫 1998 本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
 田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
 南原風朝和 2002 心理統計学の基礎 有斐閣

留意事項

本講義は「統計学入門」を履修しておくことを前提として進める。講義では電卓を使用することがあるので準備しておくこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学基礎実験			17341	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から動機までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.知覚1—ミューラー・リヤー錯覚
- 3.知覚2—ミューラー・リヤー錯覚
- 4.認知・学習1—鏡映描写
- 5.認知・学習2—鏡映描写
- 6.レポートに関するコメント(1)
- 7.記憶と忘却1
- 8.記憶と忘却2
- 9.要求水準1
- 10.要求水準2
- 11.情報伝達1
- 12.情報伝達2
- 13.レポートに関するコメント(2)
- 14.イメージ測定
- 15.総合レポートの作成

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学修

平均値の求め方を復習しておく。レポートの書き方に慣れておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

2週で1セットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートが書けないことになる。

テキスト

なし

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理調査・データ処理法			17345	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
須崎 暁世	選択	2				

授業の到達目標

調査法の基本的な考え方を理解するとともに、それを実際に実施し、得られたデータを統計的な解析に持ち込んで評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

心理学研究のとりわけ調査法を中心に、統計的な手法を用いたデータ解析を取り入れた研究方法について学ぶ。論文など具体的な調査を参考にしつつ、調査の実施法を問題の設定、質問紙等の作成から、データの収集、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現に至るプロセスを実践的に学んでいく。

授業計画

- 1.調査研究の方法:実験法・検査法との比較1
- 2.調査研究の方法:実験法・検査法との比較2
- 3.調査研究の方法:質問紙調査法と面接調査法
- 4.調査法における心理尺度の構成
- 5.質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施法
- 6.質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の集計とデータ表現
- 7.質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の統計解析1
- 8.質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の統計解析2
- 9.質問紙の作成と調査およびデータ処理:解析結果の表現と解釈
- 10.報告作成上の留意点と書式
- 11.質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用1
- 12.質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用2
- 13.質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用3
- 14.質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用4
- 15.まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、質問紙の作成、調査の実施、統計などの具体的な手順を踏みながら学習を進める。

準備学修

心理統計学の基本的な用語や計算手法について、よく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出る事。

テキスト

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 1998 心理学マニュアル 質問紙法 北大書房

参考図書

田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版

留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシーⅡ」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人格発達障害論			17361	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

人格形成に影響を与える諸要因について学び、他者理解や自己理解、そして自己成長の手がかりとなる知識を得る。人格理論を学びながら、よりよい人間関係を築くための思いやりの心や共感性を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人格の発達と諸理論と、人格形成に影響を与える要因について、また、人格の成長を阻害する要因と、人格の障害とはどのようなことであるかについて理解を深める。また心理査定や心理療法の事例を通じて、「自分」や「他者」のこころを理解し、人格心理学の知識を今ゴンお人生や社会生活の中で活かしていけるように、演習等を交えながら、体験的に知識を身につける方法を学ぶ。

授業計画

1. 人格とは
2. 人格を知る方法(心理テスト)
3. 人格の発達について1
4. 人格の発達について2
5. 人格の発達について3
6. 人格形成に影響を与える要因について1
7. 人格形成に影響を与える要因について2
8. 人格の成長を阻害する要因について1
9. 人格の成長を阻害する要因について2
10. こどもの心の問題
11. 問題行動と性格
12. 不適応と病理(演習)1
13. 不適応と病理(演習)2
14. 不適応と病理(演習)3
15. 不適応と病理(演習)4

授業の方法

人格理論を復習後、心理査定の各自の結果と事例報告とを比較検討する。人格に影響する要因について実際のケース報告を元に討議する。人格の病理について演習を実施する。

準備学修

演習で与えられるテーマについて可能な限り多くの文献に目を通しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

鈴木乙史・佐々木正弘著 『人格心理学—パーソナリティと心の構造—』2006 河出書房新社

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習1（心理テスト法）			17373	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	1				

授業の到達目標

心理臨床現場（保健所、児童相談所、病院など）における幼児期の発達状況を捉え発達検査や心理判定の際に役立つ基本的な心理検査について知り、身につけることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

各心理検査の意図を理解し、各心理検査において検査場面を想定したロールプレイを行い、検査者と被検者のそれぞれを体験し、検査の実施方法や検査結果のまとめ方を学び、身につける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

1. はじめに：心理テスト概論・利用法
2. 東大式エゴグラム・CMI
3. YG性格検査
4. PFスタディ
5. PFスタディ・SCT
6. K式発達検査
7. K式発達検査
8. WISC知能検査
9. WISC知能検査
10. クレペリン作業検査
11. パウムテスト
12. 風景構成法
13. スクイグル法
14. スクイグル法・箱庭療法
15. 箱庭療法 総括

授業の方法

主に実習形式で行い、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

授業前に各心理検査についての基礎知識を得ておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

テキスト

その都度紹介する。

参考図書

その都度紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習2（カウンセリング法）		17377	Ⅲ	秋	20名
担当者名	区分	単位	特記事項		
津田 明子	選択	1			

授業の到達目標

講義から心理療法やカウンセリングについて基本的な知識を学んだ上で、様々な実習を行い、その体験の中で自身がどのように感じ、考えたか、自身のこころの動きをしっかりと見つめていく。そして、そこからカウンセリングにおける人間関係やカウンセラーに必要な姿勢について考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）について考えます。

授業の概要

心理療法、カウンセリングについての基本的な知識、特にカウンセラーとクライアントとの関係を中心に講義を行う。そしてその後、実習を通して「信頼感」、「共感」、「純粋性」などについて考える。さらには疑似ケースを使ったカウンセリング実習を行い、実際のカウンセラーとクライアントの心の動きやプロセス、カウンセラーに必要な姿勢などを自身の振り返りやカンファレンスから考えていく。自身がどのように感じ、考えるかを大事にし、授業を進めていく。

授業計画

- 1.心理療法とカウンセリングについて・自己紹介と他者紹介
- 2.信頼実習
- 3.心理療法における3つの代表的なアプローチ
- 4.心理療法における基本的態度
- 5.カウンセラークライアント関係
- 6.心理療法におけるプロセス
- 7.コミュニケーション実習①
- 8.コミュニケーション実習②
- 9.共感と純粋性
- 10.カウンセリング実習・振り返り①
- 11.カウンセリング実習・振り返り②
- 12.カウンセリング実習・振り返り③
- 13.カウンセリング実習・振り返り④
- 14.カウンセリング実習・振り返り⑤
- 15.カウンセリング実習・振り返り⑥・総括

授業の方法

講義と実習、その振り返りを中心とする。

準備学修

臨床心理学の授業の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

実習が中心のため、事前連絡なしの欠席は大幅な減点の対象とする。

テキスト

特になし

参考図書

その都度紹介する

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学文献講読1		17385	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

心理学研究をすすめるうえで基礎となる幅広い分野の実験論文や研究レビューの論文について、国内の文献を原典にあたりながら、読解をすすめてゆく。心理学的な視点で現象をみてゆく基本的な方法の習得と同時に、研究をすすめるうえでの文献参照および論文展開の方法についても同時に学んでゆく。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を目指す。

授業の概要

母親の育児態度・感情が子どもの心理的発達にどのような影響を与えていくかについての論文を講読する。発表者は割当てられた論文について、要点を簡潔にまとめたレジюмеを作成し、それに基づいて皆にわかるように説明していく。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(1)
- 3.母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(2)
- 4.母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(3)
- 5.母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(4)
- 6.母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(5)
- 7.母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読(1)
- 8.母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読(2)
- 9.母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読(3)
- 10.子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読(1)
- 11.子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読(2)
- 12.子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読(3)
- 13.母親の育児態度・感情の変化に関する論文の講読(1)
- 14.母親の育児態度・感情の変化に関する論文の講読(2)
- 15.今後の研究課題

授業の方法

ゼミ形式で行う。

準備学修

レジюмеの作り方と口頭発表の仕方について考えておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は発表の仕方を工夫すること。発表を聞く側は質問をし、また自分の意見、感想を記述すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育心理学	PC	17409	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

子どもの発達と心理的問題をどのように理解し、援助していくかについて学ぶ。とくに、児童・生徒の人間形成にかかわるさまざまな要因について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を目指す。

授業の概要

不登校やいじめなど子どもの問題行動をどのように理解し、対処すればよいのかを論じたのち、子どもの人格形成や自己理解、対人関係にかかわる心理学的問題を取りあげ、また学習指導と評価のあり方について論じる。最後に、発達障害をもつ子どもに対する理解や援助の仕方を学ぶ。

授業計画

1. 子どもの問題行動の理解と援助—不登校
2. 子どもの問題行動の理解と援助—いじめ
3. 子どもの問題行動の理解と援助—虐待
4. 子どもの問題行動の理解と援助—摂食障害・対人恐怖
5. 教師と児童生徒の人間関係
6. 家庭的背景の理解
7. 学級への適応
8. 発達観と教育
9. 人格の形成
10. 自己理解を育てる
11. 感情を育てる
12. 社会性と道徳性
13. 教育評価と学習指導
14. 発達障害の理解—ADHD、学習障害
15. 発達障害の理解—自閉症、アスペルガー症候群

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修

これまで受けてきた家庭教育と学校教育について考えをまとめておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

参考図書

随時紹介する。

留意事項

授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。
小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽1	①/②/③/④/⑤	17417	I	春	12人
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世／由井 敦子	選択	2			

授業の到達目標

幼児・児童が楽しみながら音楽活動を展開していくために、保育者・指導者として実践に必要な「音楽理論」「歌唱」「ピアノ演奏」の基礎的能力を習得することがねらいである。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

「音楽理論」については、コード習得のための理論を中心に、こどもの歌のコード伴奏が瞬時にまたスムーズにできることを目標に学習する。「歌唱」については、こどもの歌・小学校歌唱教材の楽曲研究を行いながら、明瞭な日本語で表情豊かに歌えるように演習する。「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を個人レッスンし、読譜力とピアノ技術の向上を目指す。その際、各自の進度に応じて定められている曲数を合格しなければならない。

授業計画

1. 楽典の基礎。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 楽典の基礎。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 楽典の基礎。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. 音遊び。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. コード奏演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. コード奏演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. コード奏演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. 発声とソルフェージュ。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. コード伴奏での弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
14. コード伴奏での弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. コード伴奏での弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法

授業の前半は音楽の基礎学習と実演をクラス全体で行い、後半で個人レッスンを行う。
授業外に補講としてピアノ個人レッスンの時間が設定されているので、できる限り受講すること。

準備学修

ピアノ譜(ト音記号とヘ音記号)の読譜ができることが望ましい。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」(YAMAHA MUSIC MEDIA) ピアノテキスト「Piano Lesson 60時間」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時提示する。

留意事項

入学時にピアノ経験を参考にクラス編成を行う。鍵盤楽器初心者の場合、次年度も受講が必要となる場合もある。
配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業時には、必ず爪を切っておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽2	①/②/③/④/⑤	17421	I	秋	12人
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世／由井 敦子	選択	2			

授業の到達目標

こどもの発達に応じた表現活動について研究し、そのために必要な音楽能力の向上を目指す。幼児・児童が楽しみながら音楽活動を展開していくために、「歌唱」「ピアノ演奏」の技能を高め、保育者・指導者としての知識を習得することがねらいである。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

弾き歌いは、楽曲にふさわしい伴奏型でコード奏ができるように演習する。また、子どもの身体表現活動を援助できるように、表情豊かなピアノ奏法を習得すると同時に、楽典も学習する。さらに、こどもの成長と発達を踏まえながら教材を研究し、表現活動の意味や活動内容について研究していく。

授業計画

1. コード復習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 調性について。弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 調性について。弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. コードの連結。弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. コード伴奏の演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. コード伴奏の演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. いろいろなコードネーム。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. 発声とソルフェージュ。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. こどもの発達と歌唱教材。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. こどもの発達と歌唱教材。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
14. 様々な表現活動について。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. 様々な表現活動について。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法

授業の前半で音楽の基礎学習と実演をクラス全体で行い、後半でピアノ個人レッスンを行う。授業外に補講としてピアノ個人レッスンの時間が設定されているので、できる限り受講すること。

準備学修

春学期に学習した楽典とコードの基礎知識を完全に習得しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」(YAMAHA MUSIC MEDIA)

ピアノテキスト「Piano Lesson 60時間」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時表提示する。

留意事項

必要に応じてクラス再編成を行う。

配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業の前には、必ず爪を切っておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC	17437	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子／箕野 聡子	選択	2			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。

このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とIn（国際性）とを養う。（福智 佳代子）（箕野 聡子）

授業の概要

（日本児童文学）近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。（箕野 聡子）

（西洋児童文学）児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。リズムカルな伝承詩・ナーサリーライム（マザーグース）、児童が主人公として体験できる夢と冒険のファンタジーの世界、歴史小説としても価値のある日常・家族を描いた作品などを取り上げる。（福智 佳代子）

授業計画

1. 巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」（箕野）
2. 小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルマーメイド」（箕野）
3. 浜田広介「泣いた赤鬼」とあまんきみこ「おにたのぼうし」（箕野）
4. 宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」（箕野）
5. 千葉省三「拾った神様」と映画「憑神」（箕野）
6. 坪田譲治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」（箕野）
7. 椋鳩十「山の太郎熊」と斉藤洋「ルドルフ ともだち ひとりだち」（箕野）
8. 松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいもうと」（箕野）
9. 日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム（マザーグース）の世界（福智）
10. 「ブラウン・ベア」エリック・カールの絵本の世界（福智）
11. プレゼンテーション「心に残った物語」読み聞かせ（福智）
12. 「不思議の国のアリス」ルイス・キャロルのファンタジーの世界（福智）
13. 「大草原の小さな家」少女が見た開拓者生活の自然と日常の世界（福智）
14. 「ガリバー旅行記」 J.スウィフト（福智）
15. 「星の王子様」アントワヌ・ド・サン・テグジュペリ（福智）

授業の方法

児童文学とされている作品の内容、作者と社会の背景などを理解し、その価値などを他者に自ら発信する。（福智 佳代子）
作品の講読と関係映像資料の鑑賞が中心となる。（箕野 聡子）

準備学修

作品をあらかじめ読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

大藤幹夫『展望日本の児童文学』（双文社）（箕野 聡子）
本田英明、桂宥子、小峰和子『英米児童文学』（ミネルヴァ書房）（福智 佳代子）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp(福智 佳代子)

mino@kaisei.ac.jp(箕野 聡子)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目 <こどもの生活世界>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
学習・発達論			17441	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

他の動物とは異なる人間の発達の特異性が、文化を学習してゆくという点にあることを、学習・発達理論の研究の歴史や人間の発達のプロセス、環境や状況による発達への影響、教育実践や臨床場面での課題について各自のサーチと演習を通じて説明できるようにすることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自立）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人間発達の歴史について、学習・発達の視点から考えてゆく。基礎的な学習理論について学び、発達と共に活性化される社会的活動に伴い、環境との相互作用の中で、学習の機会は更に増加する。その様子を基礎的な学習過程、社会的学習、言語や思考、遊びの発達について概観し、教育場面、臨床場面での応用に結び付けてゆく。また、ピアジェとヴィゴツキーの理論について比較検討する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 人間の学習・発達の歴史
3. 認知能力の変容 1
4. 認知能力の変容 2
5. 状況に埋め込まれた学習 1・社会的学習
6. 状況に埋め込まれた学習 2・問題解決
7. 思考と言語
8. 認知能力の変容 3
9. 「話し言葉」から「書き言葉」への移行
10. 発達と学習 1: 年齢期の問題をめぐって
11. 実習 1 学習を役立てるために 1
12. 発達と学習 2: 遊びの中の学習・人はなぜ学ぶのか
13. 精神発達の障害と学習: 臨床場面・教育現場での学習理論の応用
14. 発達をめぐるピアジェとヴィゴツキーの論争について
15. 総論

授業の方法

講義と単元内容に相応した学習や認知能力の発達に関するグループごとの演習課題の発表や個人での作業課題を毎時間行いながら学習を進める。

準備学修

演習形式の授業なので、担当するテーマについて各自・各グループごとにリサーチし、レジュメにまとめて発表できるよう準備を進めておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席で不合格とする。

テキスト

柏崎秀子編著 『教職ベーシック 発達・学習の心理学』2010 北樹出版

参考図書

学習心理学 理論と実践の統合をめざして

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目 <こどもの生活世界>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳幼児心理学			17445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
黒羽 カテリーナ	選択	2				

授業の到達目標

乳幼児期の心身の発達と運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・遊びの発達との関連をとらえ、乳幼児期の精神発達の要因について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

乳幼児期の理論や様々な研究をとりあげ、新生児や乳幼児が獲得する能力の豊かさや多様性についての知識を深めるとともに、乳幼児の心身両面にわたる発達のプロセスやメカニズムを理解し、その豊かさや多様性を育み、促進する大人のかかわりについて検討する。

授業計画

1. はじめに: 乳幼児心理学とは
2. 胎児の発達
3. 新生児の能力
4. 乳幼児の心の発達
5. 乳幼児期の発達I: 姿勢・運動
6. 乳幼児期の発達II: 認知
7. 乳幼児期の発達III: 知性とピアジェの発達理論
8. 乳幼児期の発達IV: 言葉
9. 乳幼児期の発達V: 社会性
10. 乳幼児期の自分についての理解
11. 乳幼児期の遊びの発達
12. 乳幼児の発達を支えるI: 子育て
13. 乳幼児の発達を支えるII: 親としての発達
14. 乳幼児の発達を支えるIII: 社会的問題
15. 発達の偏りと支援

授業の方法

講義とペアまたはグループワークを行う。

準備学修

授業のあとに復習が必要である。

課題・評価方法

定期試験（50%）、小レポート（20%）、出席（15%）、授業後の

感想文（15%）

欠席について

5回を超えた欠席は不合格とする。

テキスト

プリントを使用する。

参考図書

遠藤俊彦・佐久間路子・徳田治子・野田順子 『乳幼児のこころ 子育ての発達心理学』 有斐閣

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの発達・学習	PC	17461	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
東口 たまき	選択	2			

授業の到達目標

人間の個人的な基準をはっきり示すものの一つに「ことば」があげられる。その「ことば」を私たちは、どのように獲得してきたのか、子どもは、どのように「ことば」を身につけるのか、ことばの獲得は、生得的なものなのか経験的なものなのか、私たちの言語発達過程を様々な理論と最新の研究成果を通してみていく。また、特に子どもの言語発達の指導にも適用できる基礎知識を獲得することを目標とする。

授業の概要

「ことば」は、私たちのコミュニケーション手段として最も高度に構造化されたものである。何をテーマに学ぶにしても、何を説明するにしても、その手がかりとして必要となるのはやはり「ことば」である。「ことば」とは何か、私たちはそれによって何を表現し、どのように表現できているのか、また私たちは「ことば」によって何を認知しているのかなどを、子どもの前言語的なりとりの時期から、聴覚、構音機能、文法機能の獲得などについて、最近の研究成果を紹介しながら学んでいく。

授業計画

- 1.人間にとっての言語活動とは
- 2.言語獲得理論の動向
- 3.やりとりからことばへ
- 4.言語的音声の獲得1
- 5.言語的音声の獲得2
- 6.言語と認知(象徴機能の獲得)
- 7.語彙の獲得1
- 8.語彙の獲得2
- 9.文法の獲得1
- 10.文法の獲得2
- 11.養育放棄事例のことばの発達
- 12.障害児のことばの発達(視覚障害)
- 13.障害児のことばの発達(聴覚障害)
- 14.ことばの獲得を支えるもの

15.ことばの発達と学習のまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、テキストの購読とまとめの課題を行いながら学習を進める。

準備学修

テキストを事前・事後によく読んで講義の内容を自分なりに説明ができるように理解すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席についての補填を希望する場合は、必ず次週にその旨を申し出ること。
欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。
遅刻が3回で1回の欠席とする。

テキスト

小林春美 佐々木正人 編 『新・子どもたちの言語獲得』

参考図書

トマセロ,M.大堀壽夫・中澤恒子・西村義樹・本多啓訳 2006
心とことばの起源を探る：文化と認知 勤草書房

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ I	PC	17465	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

2011年度より全国の小学校で英語活動が必修化され、さらに、2013年度には、5、6年生小学校英語教科化、3年生から開始するなどの方向が打ち出された。1年生から英語活動を始めている市町村などもある。本授業では、児童英語教育に効果的な教授法をワークショップ形式で体験し、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導できる実践力を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

本授業では、児童英語教育に効果的な教授法について、ワークショップ形式で

1. 発達過程を考えた児童期の英語教育のあり方を考え
2. 歌、チャンツ、TPR、絵本、ゲーム、クイズなど基本的な授業法を体験し、
3. 実際にこれらの授業法を使った活動のプレゼンテーションを行い

指導者として「授業ができる」資質を身につける。

授業計画

1. ガイダンス 児童英語教育の意義と目的
2. 小学校英語活動と『身近にある異文化共生』
3. ワークショップ(1)「歌・チャンツ」を取り入れた授業法 キャロリン・グラハム
4. ワークショップ(2)「歌・チャンツ」プレゼンテーション
5. ワークショップ(3)「TPR」を取り入れた授業法
6. ワークショップ(4)「TPR」プレゼンテーション
7. ワークショップ(5)「ゲーム」を取り入れた授業法
8. ワークショップ(6)「ゲーム」プレゼンテーション
9. ワークショップ(7)「スキット」を取り入れた授業法
10. ワークショップ(8)「スキット」プレゼンテーション
11. ワークショップ(9)「絵本、物語を取り入れた授業」を考える
12. ワークショップ(10)「絵本、物語を取り入れた授業」プレゼンテーション
13. ワークショップ(11)「フォニックス、文字を取り入れた授業」を考える
14. ワークショップ(12)「フォニックス、文字を取り入れた授業」プ

プレゼンテーション

15.まとめと評価「ワークシート作成」

授業の方法

ワークショップで体験した授業法を、学生自身が、主体的に創造し、プレゼンテーションを行う。

準備学修

プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

専門分野科目 くこどもの生活世界	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュII	PC	17469	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

前期で体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導に役立つ授業創りを考え、模擬授業をする。さらに、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、異なることばや文化・生活に自然にふれる楽しい活動を考える。授業では、発信型英語能力開発の一環として、

1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方を踏まえ、
2. 発達過程を考えた園児・小学生英語の授業創りを考え、
3. 授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行った後に、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (1) [園児、低学年・中学年・高学年対象活動案作成]
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (2) [絵カード・教具・ワークシート作成 発表準備]
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (3) [活動案発表と模擬授業]
4. 第1回小学校英語活動観察実習
5. 実習授業活動案作成(1)『教材研究』
6. 実習授業活動案作成(2)『教具・絵カード、ワークシート作成』
7. 実習授業活動案作成(3)『振り返りカード作成と評価』の観点
8. 実習授業活動案発表と模擬授業
9. 第2回小学校英語活動支援体験実習
10. 実習授業活動案作成(4)『教材研究』
11. 実習授業活動案作成(5)『教具・絵カード、ワークシート作成』
12. 実習授業活動案作成(6)『振り返りカード作成と評価』の観点
13. 実習授業活動案発表と模擬授業
14. 第3回小学校英語活動支援体験実習(3)
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

準備学修

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目 くこどもの生活世界	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽3	①/②	17473	II	秋	16人
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

子どもたちが豊かな感性で音楽活動を楽しむことができるように、各自の音楽的技能を高める。また、現代の環境等に即した指導法や教材を研究し、子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることができる指導者を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を学ぶ。

授業の概要

コード伴奏で子どもの歌、生活の歌、季節の歌を、明瞭な日本語で表情豊かに弾き歌いができるように演習する。また、表現活動のためのピアノ曲を中心に、ピアノの個人レッスンをを行う。さらに、ピアノでできる音楽効果や変奏の技術を学び、場面に応じた音楽が提供できるよう演習する。他に、日本の音楽に親しむために和太鼓を学び、合奏する。

授業計画

1. 初等音楽1・2で習得したコードの復習と弾き歌いの演習。
2. 表現活動のねらいと内容。
3. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
4. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
5. 表現活動のためのピアノの個人レッスン
6. 和太鼓の打法と演奏。
7. 表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
8. 季節の歌、コード奏による弾き歌い
9. 身体表現を伴った子どもの歌の演習。
10. ピアノの特殊効果と変奏。
11. 場面に応じた音楽、編曲と実演。
12. 身体表現のための変奏の習得と発表。
13. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
14. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
15. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。

授業の方法

毎回個人で、あるいはグループで発表や演奏を行う。

準備学修

初等音楽1・2で習得したコードを理解し、瞬時にピアノで弾けるように練習しておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

『歌おう♪弾こう♪こどもとともに』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『マイレパートリー』（YAMAHA MUSIC MEDIA）

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

ほぼ毎回の授業時に提示される課題をして授業に臨むこと。初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽4	①/②	17477	Ⅲ	春	16人
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

子どもたちが豊かな感性で音楽活動を楽しむことができるように、各自の音楽的技能を高める。また、初等音楽3で学習した内容をもとに、実際に保育現場で役立つ音楽活動のシミュレーションを行い、幅広い表現活動ができる指導力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）と、A(自律) S(奉仕)を学ぶ。

授業の概要

表現のためのピアノ曲のレッスンの他に、ピアノのできる音楽効果や変奏の技術を学び、場面に応じた音楽が提要求できるよう演習する。また、コード奏による弾き歌いのレパートリーを増やし、歌唱指導の実践を行う。さらに表現の総括として、グループでオペレッタ、劇などの作品を仕上げる。

授業計画

1. 子どもと音楽概説。子どもの成長と音楽の関わりについて。
2. 明治時代以降の子どもの歌の変遷。
3. 季節の歌、コード奏による弾き歌い。
4. ピアノの特殊効果と変奏。
5. 場面に応じた音楽、編曲と実演。
6. 表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
7. 身体表現のための変奏の演習と発表。
8. 身体表現のための変奏の演習と発表。
9. 歌唱指導の実践。
10. 歌唱指導の実践。
11. 歌唱指導の実践。
12. さまざまな表現活動とそのまとめ。
13. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
14. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
15. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。

授業の方法

毎回個人で、あるいはグループで発表や実演を行う。

準備学修

バイエル終了以上の読譜力と楽典の基礎知識。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回につき3点減点。

テキスト

『歌おう♪弾こう♪こどもとともに』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『マイレパートリー』（YAMAHA MUSIC MEDIA）

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

ほぼ毎回の授業時に提示される課題をして授業に臨むこと。初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む) (初等)	教職小	17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

本授業では、現在、学校現場で生じている生徒や保護者が抱える問題に対する知識を身につけ、教育相談の在り方や進め方についての理解や考えを深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）およびS（奉仕）を目指す。

授業の概要

生徒をとりまく社会や家庭は急激に変化し、学校での教師による教育相談は、学習指導とともに、教師の重要な活動となっている。しかし、教育相談は教師が行うという点で、カウンセラーが行うカウンセリングの技法とは異なるカウンセリングマインドが必要となる。本授業では、現在、学校現場で生じているさまざまな問題に焦点をあて、それらの問題にかかわる生徒や保護者への理解と対応を深め、さらに、全体を通してカウンセリングの技法を学びながら、それらを教師としてどのように活用して教育相談を行うべきか、教師が行う教育相談の在り方や進め方についてより実践的な視点をもとに学習する。

授業計画

1. 教師のカウンセリングマインド(1)
2. 教師のカウンセリングマインド(2)
3. 保護者・子どもとの面談の基本(1)
4. 保護者・子どもとの面談の基本(2)
5. 生徒を指導する際の技術(1)
6. 生徒を指導する際の技術(2)
7. 教育相談の技法(1)
8. 教育相談の技法(2)
9. 子どもの発達段階に応じたつながり方(1)
10. 子どもの発達段階に応じたつながり方(2)
11. 発達障害のある子の理解とつながり方(1)
12. 発達障害のある子の理解とつながり方(2)
13. 子育てのサポートネットワーク(1)
14. 子育てのサポートネットワーク(2)
15. 困った親の理解とつながり方

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修

2年次までに「教育心理学」を履修しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『教師のための教育相談の技術』吉田 圭吾著、金子書房

参考図書

授業開始後、冊子を配布する（有料）。

留意事項

小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子育て支援と地域社会			17501	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	選択	2				

授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割がこれまでになく明確化される中で、保育士はどのような子育て支援ができるのか、保育所や地域社会での子育て支援に積極的に取り組んでいける実践力のある保育士を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を考える。

授業の概要

保育所保育指針の改定に伴い保育所における保育士の業務として保護者支援を行うことが明記された。子育て支援とは何か。保育士を目ざしている学生が、地域社会で取り組まれている様々な子育て支援の実状を知り、なぜ子育て支援が必要なのか、親子が求めている支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践の場にも積極的に参加し体験する。

授業計画

1. 子育て支援とは何か。保育者の役割と理解
2. 子育ての変化と子育て支援の必要性① 母子を取り巻く環境
3. 子育ての変化と子育て支援の必要性② 現代母親の精神的ストレスとその原因
4. 子育て支援事業について
5. 地域社会での子育て支援の取り組み
6. 地域の子育て支援の見学・参加①
7. 地域の子育て支援の見学・参加②
8. 保育所での子育て支援の取り組み 保育所の子育て支援の実際(ビデオ視聴)
9. 保育所の子育て支援の見学・参加
10. 父親の育児参加について
11. 育児アドバイスの仕方(グループ討議など)
12. 親子の遊びの実践
13. 親子の遊びの実践
14. 親子の遊びの実践
15. まとめ

授業の方法

講義と演習を中心とする。

準備学修

各種新聞に子育て支援についての記事が多く掲載されている。よく目を通して子育て支援に関心を持つこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実践を多く取り入れているので、1回欠席につき5点の減点とする。

テキスト

特に指定なし

参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
世界に学ぼう！子育て支援 汐見穂幸著

留意事項

親子の遊びや子育て支援現場で役立つ手づくりおもちゃなどの製作を随時取り入れる。受講者は子育て支援に関心のある保育士を自ざす者。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論			17505	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
加藤 雅典	選択	2				

授業の到達目標

阪神・淡路大震災では「ボランティア元年」とも表され、その後、わが国のボランティア活動が、幅広い分野で多様な参加層で増加している。激動期において突き動かされて活動に関わることばかりではなく、「好奇心」「得意なテーマ」「異集団の仲間」などを契機としてボランティア活動を体験し、これからの社会参加や社会貢献のあり方に繋げることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティ全体の視点から考える。

授業の概要

講義、討議、実践、プレゼンテーションを織り込みながら、主体的に参加のモチベーションを高めることを促す。「自分にとってボランティアは何か」「活動分野は」「ボランティアのあり方」など全員で考える。次に、歴史、基本理念、活動の実際などを理解したうえで実際の活動に参加する。活動体験のなかから、それぞれにとってのボランティアの意義や、今後の参加について深めていく。

授業計画

1. ボランティアって何？＝グループ討議＝
2. グループ発表
3. ボランティア活動のキーワードを見つける
4. 基本理念
5. 歴史
6. 地域での活動の実際
7. 社会福祉施設での活動の実際
8. ボランティアセンターの機能と役割
9. ボランティアセンターへの訪問学習
10. グループ発表
11. ボランティア活動の体験 (1)
12. ボランティア活動の体験 (2)
13. 活動体験を通じた振り返りと気づき
14. これからのボランティア活動(学生時代)
15. まとめ

授業の方法

ボランティア体験を基本姿勢として進める。グループディスカッションと発表(プレゼンテーション)を多く取り入れる。

準備学修

発表にむけた事前準備を指示することがある。また、グループでの準備作業が必要になることがある。

課題・評価方法

平常点(随時レポートの提出)とボランティア参加の実際

欠席について

原則として認めない

テキスト

特に指定はない

参考図書

特にはない。授業の都度資料などを配布する。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
図画工作	①/②	17509	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
黒岩 和子	選択	2			

授業の到達目標

子どもの人間形成と造形的な表現活動とのかわりについて知り、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」図画工作科のねらいを、演習・実習を通して理解し、図画工作科授業の指導ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

図画工作科に必要な表現方法や、材料・用具等の基礎・基本的なことから理解し、演習・実習を通して、創造することの意義や喜びを実感する。また、造形表現や鑑賞を通して、それぞれの表現のよさや美しさを味わうようにする。実際の指導に役立つ楽しい造形表現活動の授業をめざす。

授業計画

1. 図画工作科の目標と、子どもの描画表現の発達・特徴などについて
2. 線による様々な表現(線描における基本的なことから)
3. パスによる様々な表現(パス表現における基本的なことから)
4. 紙による様々な表現(紙表現の基本的なことから、のり・はさみの扱い方等)
5. 絵の具による様々な表現(ぼかし・にじみ・ドリッピング・スパッタリングと、水彩絵の具の扱い方等)
6. 絵の具による様々な表現(色の濃淡・混色・重色・タンボを使った表現と、水彩絵の具の扱い方等)
7. 絵の具による様々な表現(染め紙の基本的なことから)
8. 染め紙でつくる作品
9. 土粘土による表現(土粘土表現の基本的なことから造形表現)
10. 身近な材料を使った立体表現(ペットボトル等を使って)
11. 簡単な材料による版表現(紙版画・スチレン版の版づくりの基本的なことから)
12. 簡単な材料による版表現(紙版画・スチレン版の刷りの基本的なことから)
13. 折り紙の折り方の基本的なことから(星・桜・葉・カエル・オタマジャクシ・金魚・網・天の川等)
14. 段ボール紙の表現の基本的なことから(1)生活に役立つものをつくる

くる

15. 段ボール紙の表現の基本的なことから(2)生活に役立つものをつくる

授業の方法

講義と実技を中心とする。

準備学修

授業に必要な準備物を確認し、忘れないように持参すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業のはじめにその時間のねらい等の講義をすることと、様々な材料・用具体験をするため、遅刻・欠席をしないようにする。1回の欠席につき5点減点、1回の遅刻につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて、プリントを配付する。

参考図書

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」

留意事項

授業時に指示する。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育	①/②	17513	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹安 知枝	選択	2			

授業の到達目標

子どもの発達を理解し、運動機能や身体表現に関する知識・技術を学ぶ。そして子どもたちが運動遊び・表現運動を通じて、楽しく自然に仲間と交流し、また運動機能の向上もしていけるよう、指導方法を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

体づくり運動(体ほぐし・多様な動きをつくる運動遊び)、器械運動(マット運動・跳び箱・鉄棒など)、ボール運動(サッカー・バスケットボールなど)、陸上運動(ハードル・高跳び・リレーなど)、水泳(水遊び)、表現運動などの基本的な運動技術・知識を段階的に学び、子どもたちが安全に楽しく運動が行えるよう、指導方法を学ぶ。

授業計画

1. 体づくり運動①(体ほぐし・多様な動きをつくる運動遊び)
2. 体づくり運動②(体ほぐし・体力を高める運動)
3. ボール運動①(バレーボール・その他)
4. ボール運動②(サッカー・その他)
5. ボール運動③(バスケットボール・その他)
6. 陸上運動①(走法・ハードル走・その他)
7. 陸上運動②(幅跳び・高跳び・その他)
8. 陸上運動③(リレー系・その他)
9. 器械運動①(マット運動:前転・後転・その他)
10. 器械運動②(跳び箱運動・鉄棒運動)
11. リズム遊び
12. 表現運動
13. 水泳(水遊び・泳法・その他)
14. 保健
15. まとめ

授業の方法

ディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

ボール運動のルールを簡単に学習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

留意事項

体操服・運動靴、雨天時は体育館シューズを持参のこと。

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目 < とも関連科目 >	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職小	17521	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中田 尚美	選択	2			

授業の到達目標

1. 教育の意義、目的及び児童福祉との関わりについて理解する。
 2. 教育の思想と歴史の変遷について学ぶ。
 3. 教育の制度について学ぶ。
 4. 教育実践の取組みについて理解する。
 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育の意義や目的、児童福祉との関連性および歴史について学ぶとともに、教育の制度と実践原理および指導原理について理解する。生涯学習社会における教育のあり方について考え、現代の教育問題についても検討する。

授業計画

1. 教育の意義と作用
2. 教育の本質と教育目的
3. 教育思想の歴史的展開
4. 社会・文化と教育
5. 家庭教育の特質と機能
6. 学校教育の特質と組織
7. 社会教育と生涯教育
8. 福祉社会の形成とその担い手
9. 教育制度
10. 教育法規
11. 教育内容
12. 教育課程
13. 教育実践の基礎理論
14. 生涯学習社会と教育
15. 講義全体のまとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

戸江茂博編『教育原理』あいら出版

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目 < とも関連科目 >	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童家庭福祉		17526	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中植 満美子	選択	2			

授業の到達目標

現代を生きる子ども達の状況は、厳しい社会状況を反映し、大きく変化しつつある。社会の歪から子どもの発達を守り、健やかな成長を促すためには、社会、学校、家庭の三者教育のバランスのとれた教育と、それを積極的にバックアップする行政の取り組みの必要性が求められている。そうした状況下では、子育て支援や健全育成のためのより高度な専門的な知識を要求する「児童家庭福祉」の指導者としての資質が一層問われることになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）をベースにしてコミュニケーション能力を養う。

授業の概要

最近の児童を取り巻く社会環境も変容し、価値観も大幅に多様化するとともに、様々な問題群も統出してきた。児童が社会構成の一員として、大人社会にあっても常に暖かく迎えられるよう児童家庭の問題と児童福祉に対する正しい概念を身につけなければならない。そうしてどうすれば地域社会の保障と支援が行えるか、児童福祉の今日的課題をもう一度考察し、その有り態とその基本的な知識の習得、目的と方策を学ぶことになる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 子ども家庭福祉とは
3. 子ども家庭福祉のあゆみ
4. 子どもと家庭の支援活動指針としての子どもの権利条約
5. 子どもと家庭を支援する法律の体系
6. 子どもと家庭を支援する制度の体系
7. 子どもと家庭を支援する施設の体系
8. 子どもと家庭を支援する専門職
9. 子どもと家庭を支援する活動方法
10. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—虐待について
11. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—親子関係
12. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—非行
13. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—非行に関する今後の課題
14. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—保育
15. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—一人親家庭

授業の方法

講義のテーマや単元にに応じて作業課題を実施する。テーマについて、グループ討議し、発表する。またミニテストも実施する。

準備学修

できるだけ日常の新聞報道などで児童福祉に関する記事に目を通す。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点減点し、欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

庄司順一・鈴木力・宮島清 編 「子ども家庭支援とソーシャルワーク」2011 福村出版

参考図書

適時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈子ども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標

子どもが生きていく中で直面する様々なところの問題や障害を紹介し、それらへの対応や援助方法について具体的に学び、子どもが生きやすい環境のあり方を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を目指す。

授業の概要

子どもの情緒（感情）の問題や障害について、それらをどのように理解し、予防し、対応したらよいか考察する。また、子どもの発達障害として、ADHD、学習障害、自閉症、アスペルガー症候群をとりあげ、それらへの理解と支援の方法について解説する。

授業計画

1. 情緒障害とは
2. 愛着障害の理解と介入
3. 子どもの内在化障害の予防と対処—不安障害
4. 子どもの内在化障害の予防と対処—抑うつ障害
5. 子どもの内在化障害と感情調節
6. 子どもの外在化障害—攻撃性と反社会的行動—と感情調節
7. 子どもの外在化障害への介入と予防
8. 女子の内在化障害
9. 女子の外在化障害
10. 発達障害の理解と支援
11. ADHDをもつ子どもの理解と指導
12. 学習障害をもつ子どもの理解と指導
13. 自閉症児の理解と対応
14. アスペルガー症候群の子どもの理解と対応
15. 知的障害—ダウン症—の理解と指導

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修

2年次または3年次春学期に「感情心理学」を履修しておくことが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『感情の発達と障害—感情のコントロール』澤田 瑞也著、2009年、世界思想社

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（造形表現）	①/②		17601	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
黒岩 和子	必修	1				

授業の到達目標

幼児の人間形成と造形的な活動とのかわりについて理解し、造形的表現の保育内容について、演習を通して理解する。幼稚園教育要領・保育所保育指針の「表現」領域の内容を理解し、保育に活かすことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

幼児の発達と表現の変化、幼児の作品の見方を理解し、それぞれの作品のよさが分かるようにする。造形的な表現活動の分野における材料・用具・技法及び指導法について、演習を通して理解し、保育に活かすことができる。

授業計画

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の「表現」領域の内容と、幼児の絵画表現について
2. 幼児の造形遊びについて(新聞紙を使った表現を通して)
3. 幼児の造形遊びについて(ビニル袋を使った表現を通して)
4. 幼児の造形遊びについて(紙粘土を使った表現を通して)
5. 幼児の生活と表現活動(子どもが参加できる壁面制作1)
6. 幼児の生活と表現活動(子どもが参加できる壁面制作2)
7. 幼児の生活と表現活動(子どもが参加できる壁面制作3)
8. 幼児の造形遊びについて(お菓子の箱を使った表現)

授業の方法

講義と実技を中心とする。

準備学修

次時の造形表現活動の表し方を構想してこよう。授業に必要な準備物を確認し、忘れないように持参すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業のはじめにその時間のねらい等の講義をすることと、様々な材

料・用具体験をするため、遅刻・欠席をしないようにする。1回の欠席につき5点減点、1回の遅刻につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて、プリントを配付する。

参考図書

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」

留意事項

授業時に指示する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理 I			17605	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

- 1 保育の意義について理解する。
 - 2 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
 - 3 保育の内容と方法の基本について理解する。
 - 4 保育の制度・思想の歴史の変遷について理解する。
 - 5 保育の現状と未来について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的な知識を学ぶとともに、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。保育の社会的役割を検討し、保育の何たるかを学んでいきたい。

授業計画

1. 今なぜ保育なのかー保育原理を学ぶ意義について
2. 保育の語義と概念
3. 養護と教育の一体性
4. 「子育ての社会化」としての保育
5. 児童の権利と保育
6. 家庭・地域の子育て機能
7. 現代社会と子育て
8. 保育制度の成り立ち
9. 保育所・幼稚園の戦後史
10. 少子化の進行と保育所への期待
11. 保育内容の公的基準
12. 子どもの健康な生活と保育
13. 子どもの発達と遊び
14. 幼保関係の歴史
15. これからの保育所と幼稚園

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

戸江茂博編『保育原理』あいり出版
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館
「最新保育資料集2014」ミネルヴァ書房

参考図書

授業時に指示する。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (幼小)	教職幼小		17613	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

教育・保育の専門家として必要な基礎的知識を身につけると共に、教職・保育職に就いてさまざまな問題に直面したとき、適切に判断し、行動することが出来るような資質を養成することを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育の意義と教師（保育者）の役割や職務内容などについて学び、自らの進路に教職を選択することの可否を適切に判断することに資する各種の機会を提供する。
保育職・教職に対する理解を深めていくと共に、豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性等、良き教師（保育者）への意欲を高め使命感を持つことについても考える。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育とは何か……人間形成と教師(保育者)の役割
3. 教職の意義
4. 教職の歴史
5. 保育・初等教育と教員
6. 教師(保育者)に求められる資質と能力
7. 保育士の制度的位置づけ、教員の身分及び服務義務
8. 教員の職務について(1)
9. 教員の職務について(2)
10. 教育課程とは
11. 障害を受けている子どもの教育と課題
12. 開かれた保育所・幼稚園・学校づくり・地域社会との連携
13. 子どもと保護者、保育・教育の現状と課題
14. 優れた教師・魅力的な教師(保育者)を目指して
15. まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点

テキスト

長尾和英編『教職と人間形成』八千代出版

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育学原理			17617	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

本講義においては幼児教育の意義や目的、歴史について学び、幼児教育の原理について理解を深めるとともに、今日のわが国や世界における幼児教育の課題について考えたい。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

近代の幼児教育思想家たちをとりあげ、彼らの理論について学ぶ。さらに、今日のわが国の幼児教育の課題、世界の幼児教育の課題についても考察する。

授業計画

1. 幼児教育の意義
2. 西洋の教育思想と子ども観(1)
3. 西洋の教育思想と子ども観(2)
4. 西洋の教育思想と子ども観(3)
5. 西洋の教育思想と子ども観(4)
6. 日本の教育思想と子ども観(1)
7. 日本の教育思想と子ども観(2)
8. 日本の教育思想と子ども観(3)
9. わが国の幼児教育の課題(1)
10. わが国の幼児教育の課題(2)
11. わが国の幼児教育の課題(3)
12. 世界の幼児教育の課題(1)
13. 世界の幼児教育の課題(2)
14. 世界の幼児教育の課題(3)
15. 世界の幼児教育の課題(4)

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学修

「教育原理」の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

参考図書

必要に応じて適宜指示する。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育課程の研究			17621	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	選択	2				

授業の到達目標

幼児の心身の発達と生きる力の基礎の育成について理解を深め、幼児期の教育における教育課程の基本的な考え方を学ぶ。教育課程・保育課程に関する用語・知識として教育課程の原則等、基本的事項と指導計画の作成について習得する。このクラスでは、KAISEI I パーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

幼児が日々充実した園生活を送り、健やかに成長していくためには、しっかりとした教育課程・保育課程の編成のもと指導計画が作成され、それに基づいた環境構成や援助による教育実践が必要である。教育現場での実践例やDVD視聴等を通して、幼児の主体性と指導者の教育的意図のバランスを理解するとともに、指導案の作成と評価反省について学習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育課程と保育課程の意義と編成
3. 保育の「ねらい」及び「内容」
4. 指導計画(長期的・短期的)の作成と留意事項(1)
5. 指導計画(長期的・短期的)の作成と留意事項(2)
6. 長期の指導計画
7. 生活や遊びを通じた学びの過程(DVD視聴)1
8. 生活や遊びを通じた学びの過程(DVD視聴)2
9. 生活や遊びを通じた学びの過程(DVD視聴)3
10. 短期の指導計画
11. 週案作成の実際(1)
12. 週案作成の実際(2)
13. 日案作成の実際(1)
14. 日案作成の実際(2)
15. 評価と反省について

授業の方法

参考資料を配布し、それに沿って講義する。DVD視聴や実践演習をもとにグループで話し合い意見交流をして、互いに学び合えるようにする。

準備学修

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を読んでおく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき、2点の減点とする。

テキスト

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」

参考図書

「初等教育資料」文部科学省「幼稚園じほう」全国公立幼稚園長会「指導計画の作成と保育の展開」フレーベル館「指導と評価に生かす記録」チャイルド社

留意事項

各回のどの授業を欠席しても次回の授業の理解が困難になる。また配布資料も多いので欠席しないようにされたい。

教員連絡先

chgkj247@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論	教職小	17625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
都賀 純	選択	2			

授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、概観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、討論等を通して、その意味を論理的に考えていく。このクラスではK A I S E I パーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

学校現場では学習指導要領に基づき、独自の教育課程を、各学校の実情に応じて工夫して編成している。そして、この教育課程で日々の教育活動は行われている。現行の教育課程が編成された背景、子供の姿、日々工夫して取り組んでいる教師の姿をつなぐ中で、教育課程の大切さについて学んでいく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学習指導要領等の変遷の経緯
3. 現行学習指導要領の改善の方向性
4. 改訂の基本方針と改訂の要点
5. 教育課程の意義と法的裏付け
6. 教育課程編成の一般方針1
7. 教育課程編成の一般方針2
8. 内容の取り扱い
9. 授業時数等
10. 指導計画の作成
11. 教育課程実施上の配慮事項1
12. 教育課程実施上の配慮事項2
13. 教育課程実施上の配慮事項3
14. 教育課程編成上の手順と評価
15. 独自の教育課程編成

授業の方法

教育課程に対する学生の疑問を大切にし、その疑問について討議をする中で理解を深めていく。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき2点減点。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 総則編」 東洋館出版

留意事項

出席と授業態度を重視する。意欲を持って授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係		17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	必修	2			

授業の到達目標

幼児期における人間関係について理論的、実践的に学ぶ。子どもがおとなや仲間との人間関係を通じて、どのように人格を形成し、社会性を発達させていくのかについて認識を深める。また、仲間とのかわり目で生じる葛藤の解決や思いやり行動を高めるための保育者としての援助や指導のあり方を理解する。このクラスではKAISEI パーソナリティーのI（知性）とA（自律）を目指す。

授業の概要

現代の子どもの親子関係や仲間との関係の特徴を理解したうえで、親、保育士、教師として、どのように養育し、指導していけばよいかについて学ぶ。

授業計画

1. 現代のこどもの生活空間と生活時間
2. 保育者としての子どもへのかかわり方
3. 子どもの叱り方
4. けんかへの対応
5. 子どもの愛着関係についての理解
6. 子どもの自立と自律を育てる
7. 子どもの自己表現を育てる
8. 遊びを育てる(1)
9. 遊びを育てる(2)
10. 子どもの反社会的行動と非社会的行動
11. 子どもの道徳性と思いやりを育てる
12. 保育者としての親へのかかわり方
13. 自己認識と他者認識を深める(1)
14. 自己認識と他者認識を深める(2)
15. ストレスについての理解

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修

自分の日常的な人間関係のあり方と問題点をふりかえっておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『事例で学ぶ保育内容一人間関係』無藤隆監、岩立京子編、萌文書林

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石田 伸子	必修	2				

授業の到達目標

乳児期から幼児期にかけての言葉の発達の様相を各年齢ごとに詳述するとともに、親・保育者が子どもの言葉の発達を促す上で、どのような点に留意すべきか、とくに子どもとのかかわり方、ことばの環境設定のあり方について把握する。また各年齢・発達に即した具体的な教材などについて考え、実際幼児と関わる際に必要な実践方法について学ぶ。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

領域「言葉」は他の領域との関係が深く、生活や遊びのなかで、他の領域と密接に関連しながら子どもの育ちを支えている。このことを念頭に置いて、成長発達に欠かせない乳幼児の言葉の獲得の道筋を様々な角度から検証し、理解する。その上で、正しく発達を促す援助の基本の姿勢と知識を身につける。また、言葉の障害について、その理解と対応のあり方を論じる。

授業計画

1. 子どもの言葉と育ち
2. 領域「言葉」とはなにか
3. ことばはどのように育つのかーことばの発達①
4. ことばはどのように育つのかーことばの発達②
5. 子どものことばと保育者ーどう捉え、どう関わるか
6. 特別な配慮が必要な子どもとの関わり
7. 歌や触れあい遊びを楽しむ
8. 絵とことばの豊かな世界を楽しむー児童文化と内容ー①
9. 絵とことばの豊かな世界を楽しむー児童文化と内容ー②
10. 劇や物語を楽しむー児童文化と内容ー
11. お話し作り
12. 様々な方法でのお話しの発表
13. 想像やことばのリズムを楽しむー児童文化と内容ー
14. 教材選びと指導案
15. ごっこの世界から劇遊びへ

授業の方法

主に講義形式で進めるが、話し合いや演習を行う

準備学修

テキストを読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は成績評価に反映する

テキスト

『保育・教育ネオシリーズ・言葉』岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修 同文書院

留意事項

授業の中で行う話し合いや演習に積極的に取り組むこと

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護			17638	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	2				

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について概括します。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実際について理解を深めることを目標とします。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とします。

授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習します。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっています。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実際を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とします。

授業計画

1. 子どもの社会的養護
2. 日本における社会的養護のしくみ
3. 社会的養護に携わる専門職
4. 家庭支援の理論と実践
5. 児童虐待の現状と対応
6. 家庭的養護の理念と里親制度
7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
8. 児童養護施設の歴史と自立支援
9. 非行のある子どもの自立支援
10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護
11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護
12. 児童養護施設における子どもの権利擁護
13. 当事者から見た日本の社会的養護
14. 児童福祉施設職員に求められるもの
15. まとめ、質問タイム

授業の方法

講義を主としますが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状

について理解を深めます。また、双方向の授業ですから積極的に参加をしてください。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておいてください。

課題・評価方法

平常点50%、課題レポート30% 出席状況20%

欠席について

公欠以外の欠席は認めません。

テキスト

『保育現場で役立つ相談援助・相談支援』晃洋書房

留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をして下さい。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健ⅠA			17642	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小林 千代	選択	2				

授業の到達目標

保育現場では疾病や障害を抱えた多様な子どもも入所しており、子どもの保健・安全の領域が重視されている。心身の健やかな成長を見守り援助していくために、子どもの特性を把握し、発育・発達についての知識を習得し、子どもを取り巻く家庭や社会環境などにも目を向け総合的に判断できる力量を形成する。このクラスではK A I S E I パーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

命の誕生から身体発育・生理機能・運動機能・精神機能についての知識を習得し、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義や、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また子どもの疾病の特徴を知り、その予防とその対応について学ぶ。また子どもの心の健康とその課題について家庭・専門機関・地域との連携についても学ぶ。

授業計画

1. 子どもの健康と保育の意義①生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
2. こどもの健康と保育の意義②子どもの健康概念と健康指標・地域における保健活動と児童虐待
3. 子どもの発育・発達①生物としてのヒトの成り立ち
4. 子どもの発育・発達②身体発育
5. 子どもの発育・発達③生理機能の発達
6. 子どもの発育・発達④生理機能の発達
7. 子どもの発育・発達⑤運動機能の発達
8. 子どもの発育・発達⑥運動機能の発達
9. 子どもの発育・発達⑦精神機能の発達
10. 子どもの発育・発達⑧精神機能の発達
11. 子どもの精神保健①子どもの生活環境と精神保健
12. 子どもの精神保健②子どもの心の健康とその課題
13. 環境および衛生管理並びに安全管理①保育環境整備と衛生管理
14. 環境および衛生管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理
15. まとめ

授業の方法

主に講義形式で進める。

準備学修

日頃から子どもの発育・発達に関心をもつ。感染症の発症や流行に関する情報を身近なこととして捉える。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

子どもの保健Ⅰ 佐藤益子編著 ならみ書房

参考図書

国民衛生の動向（財）厚生統計編 授業時に適時紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健Ⅱ	①/②		17646	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小林 千代	選択	1				

授業の到達目標

乳幼児期の基本的な生活への援助の仕方、保育現場で起こりうる子どもの疾病とその予防、救急時の対応や事故防止、安全管理に関する知識や技術を習得し実践力を身につける。保育における保健活動を理解し子どもの個別対応と集団全体の健康と安全・衛生管理について理解する。このクラスではK A I S E I パーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。また、子どもの基本的な生活への関わりや援助の仕方、子どもの疾病とその予防および事故防止や応急処置、救急救命法など演習や実習をとおして実践力を身につける。

授業計画

1. 保育における保健活動①保健計画の作成と活用
2. 保育における保健活動②健康の取り組みの実践。成長・発達の観察と測定
3. 子どもの保健と環境①子どもの健康増進と望ましい保育環境
4. 子どもの保健と環境②子どもの生活習慣と心身の健康
5. 子どもの保健と環境③子どもの発達援助と保健活動
6. 子どもの疾病と適切な対応①感染症の予防と対策
7. 子どもの疾病と適切な対応②個別の配慮を必要とする子どもへの対応
8. 事故防止および健康管理・安全管理①けがや急な病気への対応の基本と救急法
9. 事故防止および健康管理・安全管理②子どもに起きやすい事故の応急処置
10. 事故防止および健康管理・安全管理③子どもの救急救命法
11. 事故防止および健康管理・安全管理④保育における看護
12. 事故防止および健康管理・安全管理⑤災害への備えと危機管理
13. 心とからだの健康問題と地域保健活動①子どもの養育環境と心の健康問題
14. 心とからだの健康問題と地域保健活動②心とからだの健康づくりと地域保健活動
15. まとめ

授業の方法

講義および演習と実習

準備学修

日頃から衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも注意を払う。

課題・評価方法

平常点40% 定期試験60% 平常点は授業態度および出席状況、レポートの評価

欠席について

原則として欠席は認めない。

テキスト

子どもの保健Ⅱ 佐藤益子 編著 ならみ書房 必要時プリント配布

参考図書

授業時に適時紹介する。

留意事項

演習や実習しやすい衣服を着用して出席する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの食と栄養			17650	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
河田 貴子	選択	2				

授業の到達目標

子どもの食と栄養の基本的理論を体系的に理解した上で、実践の場で理論をどのように活用していくかを自ら考え、的確に捉えて実際の保育に役立つような実践力を身につける。なお、子どもの発育・発達と、食と栄養の特性を理解し、子どもの成長や発達に応じた適切な食生活とは何かを習得する。食育基本法を理解し食育における養護と教育の一体性についての学びを深め、それぞれの環境における食生活の支援ができるようにする。

授業の概要

乳幼児期は食生活の基礎が形作られる時期であり、子どもが健康に過ごすためには日々の食生活の果たす役割が重要である。そのために、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。食育の基本と内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。など心身の成長・発達が急速に進む乳幼児期の食生活や栄養について総合的・多角的な視野を持ちつつ多くの基礎的知識を習得する。

授業計画

- 1.子どもの健康と食生活の意義
- 2.子どもの発育・発達と食生活 身体発育・精神・運動機能発達と食生活
- 3.栄養に関する基本的知識(1)
- 4.栄養に関する基本的知識(2)
- 5.子どもの発育・発達と食生活(1) 妊娠期(胎児期)の食生活
- 6.子どもの発育・発達と食生活(2) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
- 7.子どもの発育・発達と食生活(3) 幼児期の心身の発達と食生活①
- 8.子どもの発育・発達と食生活(4) 幼児期の心身の発達と食生活②
- 9.子どもの発育・発達と食生活(5) 学童期・思春期の心身の発達と食生活
- 10.子どもの発育・発達と食生活(6) 生涯発達と食生活

- 11.食育の基本と内容(1)
- 12.食育の基本と内容(2)
- 13.家庭や児童福祉施設における食事と栄養
- 14.特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1)
- 15.特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2)

授業の方法

講義および演習を中心とする

準備学修

食について日頃より自分自身の身近な課題として関心を持ち、食環境全般にわたって世の中の状況に目を向け、情報収集するなどの姿勢を持って学習する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

『子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養』 編者：堤ちはる・土井正子 萌文書林
随時、資料・プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

kawata@kaisei.ac.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（身体表現）	①/②		17653	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	必修	1				

授業の到達目標

幼児期の発達段階を理解し、「豊かな感性や表現する力を養う」「創造性を豊かにする」活動（リズム遊びや表現）を通して幼児が心と身体を解放し、楽しみながら自分なりに表現できるような指導方法を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

身体表現は幼児の心と身体を解放し、創造性を引き出す大切な活動である。幼児の発達段階を理解し、興味・関心を探り、表現につなげていける感性と指導力を身につける必要がある。そのため保育者自身が表現を楽しむことが大切である。身体を自由に動かし、創造的な表現ができるよう、身体表現の基本を理論と実技で学習していく。

授業計画

- 1.保育所保育指針・幼稚園教育要領の「表現」についての理解
- 2.乳幼児にとって、身体表現のもつ意味についての理解
- 3.生活および発達段階に即した動き
- 4.基本的な動き
- 5.模倣表現・手具を使った表現
- 6.リズム楽器の活用
- 7.物語を題材にした表現・発表会のための創作ダンス
- 8.発表、発表作品の評価・まとめ

授業の方法

ディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

普段から身体を動かしておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う

留意事項

第2講義より、2号館体育室で行う。体操服・体育館シューズ持参のこと。

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小		17657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清水 篤	選択	2				

授業の到達目標

小学校での「授業づくり」について、教育方法、学習指導の基礎理論と技術の習得を目指す。

1. 授業づくりについての理論と方法を理解する。
2. 授業づくりにおける子ども・教師・教材の相互関係について理解し、授業づくりの実際について構想できるようにする。
3. グループワーク等を通して、専門職としての教師の授業力・実践力を高める。
4. このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

教育課程論、単元組織論、目標評価論、学習支援論、教師教育論等を視点にして、「よい授業」の姿を追求する。そのために、単元構想・学習活動・発問・板書など、子どもの「学び」を支える教師の具体的な働きかけを視点にして考察する。なお、本講座は、学校教育における教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）について、学校現場での多くの事例を通して、より実践的に探究する。

授業計画

1. 授業づくりの基礎理論・専門職としての教師(授業とは何か・教師の力量としての授業力 今井鑑三の実践)
2. 教育方法論の歴史的展開・授業における子どもの学び(兵庫の先達に学ぶ; 芦田恵之助・及川平治・東井義雄)
3. 教育課程の変遷・学力問題と授業づくりの課題(学習指導要領の変遷と教育実践・教育課程の意義)
4. 学習理論の変遷・教育目標・教育内容の設定(教授理論の系譜・系統学習と問題解決学習)
5. 学習指導の具体的方法①(教材開発と授業の構想・子ども・教師・教材)
6. 学習指導の具体的方法②(学習形態の工夫・授業設計の手順・子どもの変容)
7. 学習指導の具体的方法③(学習指導案の作成・単元構想・目標の明確化・学習活動)
8. 学習指導の具体的方法④(発問・板書・机間指導・ノート指導)
9. 学習指導の具体的方法⑤(学級編成・生活指導と授業・褒めること

と叱ること)

10. 学習指導の具体的方法⑥(特別なニーズを持つ子どもへの対応)
11. 学力と教育評価(学習評価の目的と方法・教育評価を生かした授業づくり)
12. 情報化と教育(情報化社会と学校教育・情報メディアと学習指導・情報機器の活用法)
13. 授業分析のワークショップ①(授業研究の方法・学校現場の授業実践記録の考察と意見交流)
14. 授業分析のワークショップ②(授業研究の方法・学校現場の授業実践記録の考察と意見交流)
15. 現代の教育の動向と教育実践(PISA調査に見る今後の教育実践の方向性と課題)

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

・シラバスをもとにして、参考図書等で予習をし、各自1～2の「質問事項」を持って授業に参加する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う。

テキスト

随時、資料プリントを配布する。各自ファイリングして毎回持参すること。

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領』
田中耕治『よくわかる授業論』(ミネルヴァ書房)
佐藤学『教育方法学』(岩波書店)
大澤真幸『電子メディア論』(新曜社)

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

国語科の目標と内容・指導計画・学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容・方法・授業の構造・指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科書教材の指導計画の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業の内容、座席等についてのガイダンス
2. 国語と国語科
3. 国語科の目標と内容
4. 各学年の目標と内容①
5. 各学年の目標と内容②
6. 各学年の目標と内容③
7. 各学年の目標と内容④
8. 文学的な文章の指導
9. 伝統的な言語文化の指導
10. 指導計画の作成と内容の取扱い
11. 学習指導案①
12. 学習指導案②
13. 模擬授業①
14. 模擬授業②
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストを読み、各学年の目標と内容を把握しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社

参考図書

必要に応じて、授業中随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度(準備や提出物含む)を重視する。国語科の指導法を学ぼうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等社会科指導法			17665	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清水 篤	選択	2				

授業の到達目標

1. 「小学校学習指導要領 社会」の目指す理念や目標を理解することができる。
2. 「小学校学習指導要領 社会」の変遷と、いま求められている社会科学力について理解することができる。
3. 具体的な資料を用いた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。
4. 社会の出来事に関心を持つことができる。
5. このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

これまでの「小学校学習指導要領 社会」の変遷を概観しながら、現行の「小学校学習指導要領 社会」に基づき、教育内容と指導法を考察し、教材研究の方法や学習指導法、評価方法の習得を目指す。グループワークとして、事例研究や模擬授業、教材研究の発表の場を設定する。さらに、学習者の視点に立った実践的な学びを展開することで、教師としての授業力・実践力を高める。

授業計画

1. オリエンテーション:社会科とは何か、小学校社会科の成立と変遷
2. 「小学校学習指導要領 社会」の構成と内容(学習指導要領改訂と授業づくり①)
3. 「小学校学習指導要領 社会」の構成と内容(学習指導要領改訂と授業づくり②)
4. 社会科教育の今日的課題:社会科の目標と内容、生活科・総合的な学習の時間との関係
5. 社会科の教材研究と授業の構想①(資料の活用と教材化)
6. 社会科の教材研究と授業の構想②(授業の仕組みと展開)
7. 社会科の教材研究と授業の構想③(学習指導案の書き方と授業の見方・評価)
8. 地域学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)
9. 地域学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)
10. 地理的学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)
11. 地理的学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)

12. 歴史的学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)
13. 歴史的学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)
14. 公民的学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)
15. 公民的学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

- ・『小学校学習指導要領解説 社会編』を熟読する。
- ・日々、新聞の社会・政治・経済・文化欄を読み、教材化を構想する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』平成20年8月 東洋館出版社
適宜、資料プリントを配布する

参考図書

参考図書は、適宜必要に応じて紹介する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等算数科指導法			17669	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
都賀 純	選択	2				

授業の到達目標

算数科の教育内容と目標、及び指導法について習得する。子供の心理と発達に関する専門的な知識と技能を習得しつつ、指導過程や指導法の工夫、ポイントについて学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

算数科の学習内容の系統性、各領域の特製について学ぶ。各学年の教材から子供のつまずきやすい内容や教師の指導上の留意点についても学びを深めていく。現場の実践とつなぎながら、ディスカッション、演習等で深めていく。

授業計画

1. オリエンテーション・算数科の目標
2. 子供になって授業を受けてみよう
3. 実践事例と「授業展開のポイント」
4. 実践事例と「授業作りの留意点」
5. 実践事例と「導入の工夫」
6. 実践事例と「算数的活動」
7. 実践事例と「教材の工夫」
8. 実践事例と「学び合い高め合い」
9. 指導案を書いてみよう
10. 実践と「言語活動の充実」
11. 実践と「分かるできる」
12. 実践と「内容の系統性」
13. 実践と「今求められている学力」
14. 実践と「単元を見通したデザイン」
15. 実践と「ふりかえり」

授業の方法

講義と共に、学生相互のディスカッション、模擬授業などの活動を大切にしていく。

準備学修

テキストを一読しておくこと。出された課題には前向きに取り組むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき2点減点

テキスト

「小学校学習指導要領解説 算数編」 東洋館出版

留意事項

出席と授業態度を重視する。意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等理科指導法			17673	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
東内 則子	選択	2				

授業の到達目標

小学校理科の教科目標及び指導方法を修得すること。授業作りの基礎となる知識の習得。さらに、応用力、実践力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領（理科）の教科目標及び学年目標・指導の在り方を把握する。生物・人体・気象を中心に具体的な内容を取り上げ知識力を養う。さらに、授業実践での活用例や配慮事項についての応用力を養う。

授業計画

1. 理科授業についてのオリエンテーション 顕微鏡のつくりと使い方
2. 植物の分類 植物のつくりとはたらき(1)
3. 植物のつくりとはたらき(2) 動物の分類
4. セキツイ動物の分類 昆虫の体
5. 人体『消化と吸収』
6. 人間の肺のはたらき 呼吸
7. ヒトの感覚器官と神経系
8. 生物のふえかた(1) 生物のふえかた(2)
9. 植物の成長の仕組み 生物の生殖
10. 生物どうしのつながり(食物連鎖) 水中の生き物
11. 水蒸気と雲(1) 水蒸気と雲(2)
12. 水蒸気と雲(3) 天気とその変化(1)
13. 天気とその変化(2) 天気とその変化(3)
14. 天気とその変化(4) 大気の動きと気象(1)
15. 小学校学習指導要領(理科)

授業の方法

自然や生命について、興味・関心を持てるよう具体的な事例を多く取り上げ、自作の資料で講義をしていく。

準備学修

小・中学校の理科の内容を思い出しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を越える欠席は、不合格とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 理科編」（平成20年8月版）

留意事項

理科学習が楽しいと感じられるよう、具体事例を上げながら授業を進めていきたい。興味関心を持って授業に望んで欲しい。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等生活科指導法			17677	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

生活科創設の経緯・背景を理解し、生活科の目標と内容を把握する。また、指導計画の作成や学習指導の在り方について実践を通して学び、生活科の授業づくりの基礎を培うことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

小学校生活科の学習指導要領や授業例から、どのように学習内容が構成され、指導が進められているのかを考察する。また、生活科の指導案作成や模擬授業等を通して、実践力を育成していく。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. 生活科創設の理由と意義
3. 生活科の目標と内容①
4. 生活科の目標と内容②
5. 生活科の目標と内容③
6. 指導計画と学習指導①
7. 指導計画と学習指導②
8. 生活科の授業①
9. 生活科の授業②
10. 生活科の授業③
11. 生活科の授業④
12. 生活科の授業づくり①
13. 生活科の授業づくり②
14. 模擬授業
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストを読み、各学年の目標と内容を把握しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』日本文教出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備や提出物含む）を重視する。生活科の指導法を学ぼうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職小		17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
都賀 純	選択	2				

授業の到達目標

特別活動の意義や役割、具体的な実践例を学ぶ中で、子供の人間関係、望ましい集団活動の在り方について専門的な知識と技能を習得していく。このクラスはKAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握すると共に、目標や内容を明らかにし、理解を深めていく。学校現場が抱えている課題を学生と共有したい。学生には子どもを見つめる教師としての温かい眼を養ってほしい。講義の中に、ディスカッションや演習を組み込み、共に考えていきたい。

授業計画

1. オリエンテーション・特別活動の概要等、
2. 学習指導要領からみた特別活動のポイント
3. 学級活動の指導内容と事例研究(1)(総論、学級や学校の生活づくり)
4. 学級活動の指導内容と事例研究(2)(学級や学校の生活づくり)
5. 学級活動の指導内容と事例研究(3)(係活動・当番活動)
6. 学級活動の指導内容と事例研究(4)(日常の生活や学習への適応及び健康安全)
7. 児童会活動の指導内容と事例研究(1)(代表委員会)
8. 児童会活動の指導内容と事例研究(2)(児童会集会活動)
9. 児童会活動の指導内容と事例研究(3)(委員会活動)
10. クラブ活動の指導内容と事例研究
11. 学校行事の指導内容と事例研究(1)(総論、儀式的行事)
12. 学校行事の指導内容と事例研究(2)(文化的行事、健康安全・体育的行事)
13. 学校行事の指導内容と事例研究(3)(遠足・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事)
14. 異年齢活動、評価の指導内容と事例研究
15. 学級経営、生徒指導との関連(今、学校現場で)

授業の方法

講義と演習（ロールプレイ、ディスカッション、プレゼンテーション）を合わせて、創造的思考力を養う。

準備学修

テキストを一読しておくこと。出された課題には前向きに取り組むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき2点減点する。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 東洋館出版社

留意事項

出席と授業態度を重視する。特別活動の意義や指導法を学ぼうとする意欲と主体性をもって、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼・小）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子／大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園でのボランティア活動等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

1. 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
2. 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
3. 社会性や対人関係能力(職場、保護者・地域との人間関係の構築等)についての講義・グループ討議
4. 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
5. 保育計画案・学級経営案の作成
6. 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
7. 学校園現場の見学・調査①
8. 学校園現場の見学・調査②
9. 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
10. 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
11. 模擬授業と討議①
12. 模擬授業と討議②
13. 事例研究とロールプレイング①
14. 事例研究とロールプレイング②
15. 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、自分の考えをまとめておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、文部科学省『小学校学習指導要領』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究 I	教職幼	17689	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
作 美代子	選択	1			

授業の到達目標

教育実習とは何か、幼稚園に勤務する教師の仕事とは何かなど、教育実習に参加するために必要な心構えや準備を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

1週間の観察・指導実習に向けて、実習の目的や意義、人権教育や教育実習の心構えについて学ぶ。実習記録のとり方や記録の仕方、部分実習の指導案の書き方を学び書けるようになる。

授業計画

1. 教育実習の概要、意義と目的について
2. "
3. 1週間の観察・参加実習園の選択と決定
4. 先輩の体験発表並びにアドバイス
5. 人権教育について
6. 3週間の実習依頼の仕方と手順・心得について
7. 記録のとり方・書き方について
8. 教育実習記録（I）の記入について
9. 実習に当たっての注意点・留意点について
10. 礼状作成
11. 1週間の観察・参加実習の成果や課題を話し合う
12. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けての教材作成
13. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けての教材作成
14. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けての教材作成
15. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けての教材作成

授業の方法

配布プリントを中心に1週間の観察・参加実習について学び、意欲的に実習に参加できるようにする。実習後は幼稚園から返却された実習記録や評価を基に個人指導を行う。

準備学修

幼稚園教育要領を読んで、5領域のねらいや内容を把握しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

一回の欠席につき、10点の減点とする

テキスト

「幼稚園教育実習」 建帛社

参考図書

毎回、内容に応じたプリントを配布する

留意事項

実習に支障を来すことのないようにするための指導なので、原則として一回の欠席も認められないので、留意すること。やむを得ない理由がある場合はその旨を事前に申し出ること。

教員連絡先

okodes@dokomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職小	17697	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹安 知枝	選択	1			

授業の到達目標

介護等の体験（特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間）によって、教員としての資質を十分に高められるよう事前準備をおこなうことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）・A（自律）・S（奉仕）・E（倫理）を考える。

授業の概要

「個人の尊厳と社会連携の理念」を深め、介護等体験特殊法が制定された主旨を理解する。特別支援学校や福祉施設のしくみとそれぞれの対象者について知る。また、身体的介護、車いすを利用している人などへの介助知識・留意点について学び、安全におこなえるよう指導する。

授業計画

1. 介護施設とは
2. 介護の心構えと実際
3. 高齢者の心と体
4. 認知症・身体障害を伴う高齢者の介護
5. 特別支援学校について①
6. 特別支援学校について②
7. まとめ
8. 介護等体験のための諸注意

授業の方法

映像とテキストの内容を中心に行う。

準備学修

社会福祉施設と特別支援学校について、テキストを読み簡単に理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

2回以上欠席すると不可となる。（特例欠席は除く）

テキスト

『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会
『よくわかる社会福祉施設 第3版』全国社会福祉協議会

留意事項

この科目は、小学校教諭1種免許状・中学校教諭1種免許状を取得しようとする学生のみ、履修することができる。（上記以外の学生は、履修することができない）

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究Ⅱ	教職幼	17705	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
作 美代子	選択	1			

授業の到達目標

1 週間の実習成果を活かして、更に充実した本実習が出来るように、実習に必要な課題を確認すると共に、教材研究に取り組み実習の成果を確かなものにしていく。
本実習後は幼稚園教諭となるにふさわしい自分を目指して取り組むこのクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

1週間の実習園からの評価を基に自分の課題を明確にし、本実習に向けて意欲的に取り組むことが出来るようにする。
実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例を基に教材研究などを具体的に学ぶ。
指導実習後は幼稚園教諭になるにふさわしい自分を目指して、課題の克服に努める。

授業計画

1. 指導実習幼稚園へのオリエンテーション依頼の電話の掛け方などについて
2. 本指導実習に向けての教材研究をし指導案の作成に取り組む
3. "
4. "
5. 絵本の読み聞かせや歌唱指導について
6. "
7. 実習園のオリエンテーションを受ける
8. 実習園の教育理念や教育目標・指導方法を学ぶ
9. 本実習に向けての教材研究をし、指導案の作成に取り組む
10. "
11. 実習記録の書き方などを再確認する
12. 本実習についての注意点や留意事項について
13. 礼状を作成する
14. 実習園の指導と評価に基づいて反省と省察を行い、課題を明確にする
15. まとめ

授業の方法

1週間の観察・指導実習の経験や反省・課題を基に意欲的に実習に取り組むことが出来るよう、教材研究や教材作成を通して学ぶ。

り組むことが出来るよう、教材研究や教材作成を通して学ぶ。

準備学修

1週間の実習記録や担当教諭からの指導を振り返り、自分の課題を明確にしておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回の欠席につき10点の減点とする

テキスト

教育実習Ⅰに同じ
随時プリントを配布する

参考図書

「幼児理解と評価」 文部科学省

留意事項

資格を取得するための実習である。遅刻は勿論のこと、1回の欠席も認められないので、留意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に必ず申し出ること。

教員連絡先

okodes@dokomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論（幼小）	教職幼小PC	17713	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
大岸 啓子	選択	2			

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責についての理解を深める。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
2. 教育制度の歴史と発展①
3. 教育制度の歴史と発展②
4. 子どもの権利と人権
5. 教育制度を学ぶ意義①
6. 教育制度を学ぶ意義②
7. 教育法①
8. 教育法②
9. 教育の目的と目標
10. 義務教育の制度
11. 教育の機会均等
12. 教職員の制度
13. 教育行財の制度
14. 社会教育の制度
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

復習テストを適宜実施する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	必修	2				

授業の到達目標

現代の諸事情により生活スタイルが変容していることを踏まえ、乳幼児の「健康」を守ることの必要性を感じとり、幼児期に身につけるべき、心と身体の健康に関する内容を理解すること。また、実際に身体を動かすことの楽しさ・心地良さを体験し、幼児の発達に応じた運動遊びの指導方法を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

領域「健康」は、「健全な心と身体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う」領域である。毎日の生活において、満足感をもって楽しく充実して過ごすには健康が基本となり、生活上すべての活動の基本である。基本的な生活習慣におけるの自立への指導から、健康な身体づくり・健康管理・安全教育など、心身ともに健康な生活を送るためには何が必要であるかを理解し、子どもの発達段階を踏まえて学習する。

授業計画

1. 健康の意義と乳幼児の健康
2. 子どもの身体の発達
3. 身体の発達と運動能力
4. 安全の指導
5. 領域「健康」と保育の計画
6. 3～5歳児の運動遊びの実際と指導のポイント
7. 運動遊びの指導方法①(伝承遊び・日常生活物を活用した遊び)
8. 運動遊びの指導方法②(移動遊具を用いた遊び)
9. 運動遊びの指導方法③(固定遊具を用いた遊び)
10. 自然遊びの指導方法
11. 0～2歳児の動きと生活
12. 0～2歳児の身辺自立・生活習慣の獲得
13. 0～2歳児の遊び
14. 3～5歳児の生活習慣の獲得
15. 保育者の役割・まとめ

授業の方法

ディスカッションを取り入れる。

準備学修

幼稚園教育要領・保育所保育指針の「健康」の解説をよく読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

テキスト

演習 保育内容 健康 河邊貴子編著 建帛社

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館

留意事項

運動遊びの指導方法①～③では、体操服・体育館シューズ・新聞紙を持参のこと。場所はその都度連絡する。

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・環境			17721	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	必修	2				

授業の到達目標

幼児を取り巻く様々な環境（物的・心理的）に目をむけ、環境が成長発達に影響することが理解でき、その時期にふさわしい環境の構成あるいは、環境の取り入れ方が分かるようになる。幼児に影響を与える人的環境としての保育者が大きな存在となる。自ら進んで自然に目をむけ、豊かな感性を身につけ、また現代社会の環境問題にも関心を持って取り組めるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

幼稚園教育要領の領域「環境」に「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と述べられている。幼児にとって身近な環境は、心身の発達や人間らしい心を培うだけでなく、知的好奇心を誘う魅力的な存在でもある。幼児のときから人間を取り巻く環境に目を向けさせ、きれいな環境作りに関心を持たせるためには、どう取り組めば良いのか。日常生活の中での環境についての理解を深める。

授業計画

1. 領域「環境」の意味
2. 領域「環境」のねらいと内容
3. 自然・季節とのかかわりにおける子どもの育ち
4. 教室を出て実際体験する
5. グループでの話し合いと発表
6. 子どもの育ちに関わる現代の生活環境とその課題①
7. 子どもの育ちに関わる現代の生活環境とその課題②
8. 環境へのかかわり方の発達
9. 子どもの活動を引き出す保育環境
10. 物や生き物とのかかわりにおける子どもの育ち
11. 地域社会・施設とのかかわりにおける子どもの育ち
12. 情報環境・文化財とのかかわりにおける子どもの育ち
13. 数量・図形への興味と関心の育ち
14. 文字・標識への興味と認識の育ち
15. 子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割・保育計画

授業の方法

講義を中心にし、内容に沿ったDVD視聴や事例の中から、グルー

プで話し合ったり意見発表を多く取り入れる。

準備学修

日ごろから身近な環境に目を向け、疑問や問題意識を持つように心がけておく。
テキストを読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席数は成績評価に反映する。

テキスト

シードブック 保育内容 「環境」第2版 榎沢良彦・入江礼子編著 建帛社

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育指導法			17725	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	選択	2				

授業の到達目標

「幼稚園教育要領」にある幼稚園教育の基本について理解し、保育内容や指導の実際について体験を通して学びながら、保育者として自ら考え、創意・工夫して保育を展開する実践力を身につけていく。この科目では、KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成をめざす。

授業の概要

発達や学びの連続性及び幼稚園での生活と家庭などでの生活の連続性に配慮し、幼児の心身の健やかな育成をはかる教師としての指導性が求められている。幼稚園教育の基本を理解することをもとに、幼稚園におけるいろいろな遊びや活動について、指導実践力の習得をめざす。

授業計画

1. オリエンテーション・幼稚園教育の役割(幼児期の特性・幼稚園の生活・幼稚園の役割)
2. 幼稚園教育の基本(環境を通して行う教育・幼児期にふさわしい生活の展開・遊びを通じた総合的な指導)
3. 教師の役割(幼児理解・教材研究・計画的な環境構成・多様な指導力)
4. 保育内容の指導の実際①<基本的な生活習慣の育成・安全教育>
5. 保育内容の指導の実際②<誕生会・園外保育>
6. 保育内容の指導の実際③<自然を取り入れた活動>
7. 小学校教育との円滑な接続(遊びから学びへ)
8. 家庭や地域社会との連携(保護者との良好な関係づくりに向け)
9. 保育内容の指導の実際④<絵本選び・絵本の読み聞かせ>
10. 保育内容の指導の実際⑤<ペープサートを作って演じてみよう>
11. 保育内容の指導の実際⑥<ペープサートを作って演じてみよう>
12. 保育内容の指導の実際⑦<パネルシアターを作って演じてみよう>
13. 保育内容の指導の実際⑧<パネルシアターを作って演じてみよう>
14. 子育て支援と預かり保育(幼稚園における教育活動として)

15. 幼稚園教育の現状と今後

授業の方法

講義、実技演習、グループディスカッション。毎回、歌遊びや手遊び、言葉遊びなどを取り入れ、実践力へつなげる。

準備学修

「幼稚園教育要領解説」の熟読。保育参観等の機会を得て保育の実際を経験しておく。

課題・評価方法

実技演習40% レポート30% 平常点30%

欠席について

1回の欠席につき2点減点とする。

テキスト

「幼稚園教育要領解説」文部科学省

参考図書

「初等教育資料」文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」文部科学省「幼稚園じほう」全国国公立幼稚園長会

教員連絡先

chgkj247@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児指導論(カウンセリングを含む)			17729	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石田 伸子	必修	2				

授業の到達目標

- ・ 幼児理解に基づく援助・指導や環境構成の意義と教師の役割についての理解を深める。
- ・ 幼児の心身の発達の道筋を理解し、それぞれの発達課題に即した適切な援助・指導のあり方を学ぶ。
- ・ カウンセリングマインドの内容を理解し、カウンセリングマインドの姿勢で幼児を受け入れ、幼児の理解者として、幼児の遊びの指導者として、心の拠り所となれる保育者の役割を理解する。
- ・ このクラスはKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を考える。

授業の概要

教育とは、子どもの遊びを触発し、それを援助・組織して、子どもたちの発達を促す営みである。幼児教育を担う者にとって重要なのは、幼児の心身の発達や興味や関心を適切にとらえ、それに応じた、具体的な環境を整えることで自発的、能動的な活動を引き出すことが基本となる。幼児一人ひとりが、喜びと充実感を伴った学びの体験をし、成長する喜びを実感しながら発達に必要な体験を積み重ねていけるようなが援助や指導の方法を知ることが大切である。本講義では、幼児を援助・指導するということの本質について、カウンセリングマインドの姿勢を通して、具体的な事例を挙げながら解釈する。

授業計画

1. 幼児指導の基本
2. 環境を通しての教育
3. 遊びを通しての教育
4. 幼児の主体性の育成
5. 保育者の役割
6. 遊びのなかの学びを育む保育①
7. 遊びのなかの学びを育む保育②
8. 保育形態による幼児の育ちと保育者の役割
9. 保育における評価
10. 小学校教育との関連
11. 家庭や地域との連携
12. 保育におけるカウンセリングマインドの基本的な心構え
13. 基本的な生活習慣の育ちを支援する

14. 子どもの健やかな育ちを支援する
15. 園生活に困難を抱える子どもを支援する

授業の方法

教科書を中心に、事例を多く取り入れ講義を進める。意見を発表したり、グループ討議をする中から、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする

準備学修

テキストを読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は成績評価に反映する

テキスト

新保育ライブラリ「幼児教育の方法」 小田豊・青井倫子編著 北大路書房

参考図書

保育カウンセリングマインドへの招待 富田久恵・杉原一昭編著 北大路書房

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽科指導法			17733	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

小学校音楽科の教育課程に関する知識・技能及び指導力を身につけることを目的とする。今日的教育課題である意欲・興味・関心といった意識の向上を促しつつ、幅広い音楽活動の指導ができる指導者の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

概説として、『小学校学習指導要領（音楽）』の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を習得する。特に明治以降の音楽教育について考察を深め、これからの音楽教育についてのディスカッションも行う。実践としては、歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習を行い、音楽の基礎知識を習得しながら各自の音楽技能を高めていく。さらに、模擬授業や音楽会のための計画、発表を行うことにより指導力を身につけ、子どもの豊かな音楽表現を引き出せる指導法を研究する。

授業計画

- 1.『小学校学習指導要領(音楽)』の概説
- 2.『小学校学習指導要領(音楽)』の概説
- 3.楽典の基礎。ピアノ演習
- 4.リコーダーの理解と合奏
- 5.いろいろな楽器の理解と奏法
- 6.合奏教材の研究と演習
- 7.歌唱教材の研究と演習
- 8.指揮法の基礎と指導の演習
- 9.鑑賞教材の研究 西洋音楽の理解
- 10.日本の伝統音楽の理解
- 11.日本の音楽教育の歴史とこれからの課題についての考察
- 12.日本の音楽教育の歴史とこれからの課題についての考察
- 13.音楽科指導計画と学習指導案
- 14.音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習
- 15.音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習

授業の方法

項目ごとに、講義を行ってから個人であるいはグループで演習や研究発表を行う。

準備学修

バイエル終了程度の読譜力と楽典の基礎知識。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき3点減点

テキスト

小学校学習指導要領音楽編

参考図書

教育芸術社『小学校の音楽1～6』

留意事項

グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等図画工作科指導法			17737	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
黒岩 和子	選択	2				

授業の到達目標

学習指導要領の「A表現」・「B鑑賞」領域と、「共通事項」の内容・評価方法を理解し、美術教育の問題点を理解した上で、図画工作科の授業を組み立てることができる。また、各学年の目標や内容の構成、材料の扱い方を理解し、指導するために必要な基礎的知識・技術を習得し、実践的な指導力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

図画工作科の指導内容や指導方法、評価等について講義を行う。また、造形遊びをする・絵に表す・工作に表す・立体に表す・鑑賞する等の実践例をもとに授業分析を行い、制作を通して各学年の指導技術や指導のポイントを学ぶ。

授業計画

- 1.図画工作科の目標及び内容の構成、各領域・及び「共通事項」の内容について
- 2.第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価について(1)
- 3.第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価について(2)
- 4.第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価について(3)
- 5.第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価について(4)
- 6.第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価について(5)
- 7.第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価について(1)
- 8.第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価について(2)
- 9.第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価について(3)
- 10.第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価について(4)
- 11.第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価について(1)
- 12.第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価について(2)
- 13.第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価について(3)
- 14.第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価について(4)
- 15.第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価について(5)

授業の方法

講義とディスカッション、実技を中心とする。

準備学修

次の授業にかかわる構想を立ててくる。授業に必要な準備物を確認し、忘れないように持参する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業のはじめにその時間のねらい等の講義をすることと、様々な材料・用具体験をするため、遅刻・欠席をしないようにする。1回の欠席につき5点減点、1回の遅刻につき2点減点とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

出席と授業態度(準備や提出物等を含む)を重視する。図画工作科の指導法を学ぶ意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等家庭科指導法			17741	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

小学校における家庭科教育に必要な実践的指導力を身につける。現代社会の要請や小学生の発達段階・生活実態をふまえた家庭科の授業づくりができるようする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

小学校家庭科教育のために必要な学習指導の理論、知識、技術を学ぶ。現代社会の要請をとらえ、小学生の発達段階や生活実態をふまえた家庭科の教材開発を行う。小学校教育における家庭科の位置づけだけでなく、変動する経済・社会との関連で、家庭科教育のあり方を考えていく。

授業計画

1. 家庭科教育の本質
2. 家庭科教育の目標
3. 家庭科教育の内容
4. 家庭科教育の学習指導
5. 家庭科教育の指導計画 1
6. 家庭科教育の指導計画 2
7. 家庭科教育の評価・家庭科教育の施設設備
8. 家庭科の担当教師
9. 諸外国における家庭科教育
10. 家庭科教育における実践的研究
11. 模擬授業 1
12. 模擬授業 2
13. 模擬授業 3
14. 家庭科教育の課題と展望
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、ディスカッションと模擬授業をとり入れる。

準備学修

高等学校までの家庭科を復習する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

教師養成研究会・家庭科教育学部会編著『小学校家庭科教育研究』学芸図書

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』
必要に応じて授業中に指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育科指導法			17745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	選択	2				

授業の到達目標

小学校体育の目標や内容を基に、実際の指導に即した具体的な指導計画の立案、指導方法の習得等、実践的な指導力を育成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

小学校体育に関する基本的な考え方を理解し、発達段階に応じた指導の方法を学ぶ。具体的には、体育の特徴・目標・内容・計画・評価等について学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 体育授業を実践していくために
3. 子どもの心と体と体育
4. 体育の目標と体育授業の特徴
5. 体育の内容と学習過程
6. 体育授業の指導計画
7. 体育授業の考え方・進め方①
8. 体育授業の考え方・進め方②
9. 体育授業の考え方・進め方③
10. 体育授業の考え方・進め方④
11. 体育授業の考え方・進め方⑤
12. 体育授業の考え方・進め方⑥
13. 体育授業の計画と評価①
14. 体育授業の計画と評価②
15. まとめ

授業の方法

ディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

『小学校学習指導要領解説 体育編』をよく読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 体育編」東洋館出版社

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

授業時に指示する。

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職小		17749	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	選択	2				

授業の到達目標

道徳教育を、人間の生き方そのものが問われる全人格的な教育として捉え、人と人との関わりの中でどのように生きる事がより豊かなのか、道徳的価値に関する感覚及びそれに基づいた態度をどのように育成できるのかを、教育の現場において子どもに指導できる能力を育成することを目指している。
このクラスではK A I S E I パーソナリティのE（倫理）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

道徳教育の意義・目的・方法などを理解した上で、学校における道徳教育及び道徳の授業について具体的・実践的に学んでいく。道徳教育の今日的課題について検討すると共に、絵本・学習指導要領なども活用しながら実践的・多面的に学んでいく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 生きる力と道徳性の芽生えについて
3. 道徳教育年間指導計画について
4. 道徳と道徳教育（主として自分自身に関すること）
5. "（主として自分自身に関すること）
6. "（主として他の人とのかかわりに関すること）
7. "（主として他の人とのかかわりに関すること）
8. "（主として集団や社会とのかかわりに関すること）
9. "（主として集団や社会とのかかわりに関すること）
10. "（主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること）
11. "（主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること）
12. 教材の開発と発表（絵本講読や絵本づくり）
13. "
14. "
15. まとめ

授業の方法

小学校学習指導要領に従って道徳教育の目標や内容・基本的配慮事項などを学ぶ。児童の発達段階にあった教材を発表し合って学ぶ。

準備学修

自分の生活の中から教材となるような事柄に目を向け、教材開発に努める。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき2点の減点とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 道徳編」

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

教材となる事柄が身近に存在している。常に問題意識をもって主体的に取り組むようにされたい。

教員連絡先

okodes@docomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論	教職小		17753	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清水 篤	選択	2				

授業の到達目標

1. 学校現場における生徒指導・進路指導の内容と課題を理解する。
2. 課題解決に向けて、実践的な指導力を身につける。
3. 小・中・高校の教員としての資質・能力を高める。
4. このクラスではK A I S E I パーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

急激な社会変化や格差社会の拡大のなかで、生徒をめぐる環境について多くの課題が指摘されている。一方、学校現場でもいじめや不登校、学級崩壊などの生徒指導の問題や自分の進路をつかめない生徒の問題等、課題が山積している。授業では、『生徒指導提要』に基づき、生徒の気持ちを大切に生徒指導・進路指導のあり方を考察する。また、生徒指導・進路指導に関する基礎知識を理解し、実践的な指導力を身につけることを目指す。

授業計画

1. オリエンテーション(生徒指導の現状・生徒指導の意義と役割)
2. 適応と発達(適応と適応機制・発達の理論・青年期の発達)
3. 生徒理解(生徒理解の方法と留意点)
4. 学校運営と生徒指導(問題行動・生徒指導体制)
5. 生徒指導と法制度(懲戒と体罰)
6. 生徒指導と教育相談(教育相談と進路指導・カウンセリング)
7. 生徒指導と学級(ホームルーム)経営
8. 生徒指導と学習指導(教科指導と道徳指導・特別活動と生徒指導)
9. 生徒指導の今日的課題①(暴力行為・非行・性非行と性被害・薬物乱用)
10. 生徒指導の今日的課題②(不登校・中途退学・いじめ)
11. 生徒指導の今日的課題③(スウェーデンのいじめ対策・いじめエクスサイズ)
12. 生徒指導と特別支援教育
13. 開発的生徒指導
14. 生徒指導と危機管理
15. 教職科目としての生徒指導論

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

- ・文部科学省『生徒指導提要』を熟読する。
- ・テレビ、新聞等の報道を通して、児童生徒にかかわる社会・教育時事に関心を持つ。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う。

テキスト

授業の中で、適宜紹介する。

参考図書

文部科学省『生徒指導提要』
本田由紀『「家庭教育」の隘路—子育てに脅迫される母親たち』
楠本恭久・藤田圭一編著『新生徒指導論12講』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健 I B			17762	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小林 千代	選択	2				

授業の到達目標

「子どもの保健 I A」の子どもの心身の発育・発達について学習したことを踏まえて、保育者に必要とされる子どもの保健分野をより深めるために、子どもの疾病とその予防方法および適切な対応、保育における環境および衛生管理並びに安全管理について理解する。また施設における子どもの心身の健康および安全の実施体制についても理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

子どもはさまざまな面で未熟で、事故発生の危険性や感染症に罹ることが多い。日々子どもの心身の健康を守り、健康増進に努め順調な発育・発達を促すことは、保育する上で最も基本的な要件である。「子どもの保健 I A」で学んだ基本的な知識を理解したうえで、子どもの感染症や病気に対する予防や処置、事故に対する応急処置の仕方について学ぶ。また、集団生活の場での保健活動や母子保健に関する行政の関わりや法制度の現状について学ぶ。保育者自身の心身の健康管理についても学ぶ。

授業計画

1. 子どもの病気と保育①子どもの病気の特徴
2. 子どもの病気と保育②子どもの健康状態の把握
3. 子どもの病気と保育③主な症状の見方と対応
4. 子どもの病気と保育④子どもの病気の予防と対応
5. 子どもの病気と保育⑤子どもによく見られる疾患(イ.感染症)
6. 子どもの病気と保育⑥子どもによくみられる疾患(ロ.感染症)
7. 子どもの病気と保育⑦子どもによくみられる疾患(ハ.感染症以外の疾患)
8. 子どもの病気と保育⑧子どもによくみられる疾患(ニ.感染症以外の疾患)
9. 子どもの病気と保育⑨障害のある子どもたち
10. 環境および衛生管理並びに安全管理①保育環境整備と保健
11. 環境および衛生管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理
12. 健康および安全の実施体制保育現場における事故防止および安全対策並びに危機管理
13. 保育所と家庭の連携

14. 母と子どもの保健
15. まとめ

授業の方法

主に講義形式で進める

準備学修

日頃から子どもの発育・発達に関心を持つ。子どもに関する情報や感染症の流行などについて、新聞や報道など身近なこととして捉える。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

子どもの保健 I 佐藤益子編著 ななみ書房 必要時プリント配布

参考図書

国民衛生の動向(財)厚生統計協会編 授業時に適時紹介する。

留意事項

受講条件として「子どもの保健 I A」を履修した者

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護内容			17766	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1				

授業の到達目標

現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育・保護していく機能は脆弱化してきている。「家庭養護」だけでは子どもの養育が困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となってきた。地域社会をも含めた施設養護の本質と機能を理解し、施設養護の内容と実際、養護施設における援助技術について、実践的活動事例を通して施設養護観を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とします。

授業の概要

児童福祉施設に入所・利用している子どもたちの背景には多様で複雑な状況がある。それらの子どもたちの心身の成長や発達を保障し援助するための具体的な知識・技能を習得する。また、里親制度についての現状と今後の展望についても理解する。さらに、社会福祉専門職として、これらの児童に対する社会的支援の必要性についても理解する。

授業計画

1. オリエンテーション
児童の社会的養護の理念と概念
2. 施設における子どもの社会的養護
施設養護の特質と機能
3. 施設における子どもの社会的養護
施設養護の流れ、入所前後・退所前後のケア
4. 施設養護の職員
児童福祉施設援助者としての人間性と専門性
5. 社会的養護の実際施設における生活リズムと日課
衣食住の基礎的ニーズの充足
6. 社会的養護の実際
しつけ、学習指導、余暇生活
7. 社会的養護の実際
学校教育や地域社会との連携、自立支援
8. 社会的養護における支援の計画と内容
個別支援計画作成の留意点と作成事例
9. 虐待問題と児童養護
増加する児童虐待の要因と課題

10. 虐待問題と児童養護
家庭・施設の実態と児童虐待、児童虐待への対応
11. 今後の課題と展望
施設の小規模化と地域とのかかわり、社会的養護の課題と展望
12. 施設養護の実際
児童養護施設、知的障害児施設
13. 障害児、その保護者へのへの支援
事例からの考察
14. 社会福祉専門職としての保育士の役割
15. まとめ

授業の方法

VTR、DVDなどの事例を多く取り上げて、双方向の授業とします。積極的な参加を求めます。また、指定教科書はありませんが、ノートはしっかり取ってください。

準備学修

児童虐待、障害児などの社会問題に対して、関心を深めておいてください。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

理由のある欠欠以外は、認めません。

テキスト

『保育現場で役立つ相談援助・相談支援』晃洋書房

留意事項

将来、児童養護等社会福祉施設関係での就職を希望する人は、ぜひ受講してください。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
相談援助			17770	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1				

授業の到達目標

授業を通して、ソーシャルワークの歴史、また個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）、ケアマネジメントを中心とした直接援助技術および間接援助技術の理論と実践方法を学び、アセスメント・計画策定実施・評価までの援助過程を展開できる基礎知識・技術を習得することを旨とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を考える。

授業の概要

少子化や核家族化が進行するなど子ども・家族を取り巻く環境の変化を背景として、子育てにかかわるニーズは多様かつ複雑化している。このような社会的変化を背景に、保育士には、子どもへの保育に加えて、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）を用いながら相談援助を展開していくソーシャルワーカーとしての役割が期待されている。

本科目は「保育相談支援」と相互関連科目であり、相談援助を展開する際に必要となる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法を身につけることを目的としている。

授業計画

1. 社会福祉援助技術の体系と歴史①
2. 社会福祉援助技術の体系と歴史②
3. 社会福祉援助技術の体系と歴史③
4. 社会福祉援助技術の体系と歴史④
5. 人間関係と自己理解 ①
6. 人間関係と自己理解 ②
7. 人間関係と自己理解 ③
8. 人間関係と自己理解 ④
9. 社会福祉専門職の価値・倫理 ①
10. 社会福祉専門職の価値・倫理 ②
11. 社会福祉専門職の価値・倫理 ③
12. 社会福祉専門職の価値・倫理 ④
13. 事例研究 ①
14. 事例研究 ②
15. まとめ

授業の方法

VTR,DVD等で現状の社会福祉場面を理解し、専門職の役割とその意義について理解する。

準備学修

子どもに関わる日常の社会的事例について、関心を深めること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

公欠以外は認めない。

テキスト

『保育における相談援助・相談支援』西尾祐吾 監修 安田 誠人・立花直樹編、晃洋書房

留意事項

対人援助技術は、これからの保育士には必要なものである。関心を深めること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育相談支援			17772	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1				

授業の到達目標

本科目では、子どもの最善の利益に焦点をあてながら保育相談支援の基本となる「価値と倫理」について理解した上で、事例検討を通して保育所等児童福祉施設における保育相談支援の実践について学んでいく。本科目を通して、子どもや保護者を取り巻く環境（社会的側面）へのアプローチも含めた多角的視野から根拠（evidence）に基づいた保育相談支援を展開していく能力の習得を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とします。

授業の概要

「相談援助」で取り上げる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法をふまえた上で、保育所等児童福祉施設における保育相談支援について理解し、多岐にわたる生活問題を抱えた児童や保護者に対して多角的・総合的な支援を展開できる力を身につけることを目的としている。

また、社会福祉専門職である保育士として求められる相談支援場面に必要な知識と技術についても理解する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. コミュニケーション技法 ①
3. コミュニケーション技法 ②
4. コミュニケーション技法 ③
5. 面接技法 ①
6. 面接技法 ②
7. 面接技法 ③
8. 面接技法 ④
9. コミュニティーワーク①
10. コミュニティーワーク②
11. コミュニティーワーク③
12. 事例研究 ①
13. 事例研究 ②
14. 事例研究 ③
15. まとめ

授業の方法

VTR,DVD等で現状の保育相談支援場面について、理解を深めます。

また、双方向の授業ですから、積極的な参加を求めます。

準備学修

日常から子どもに関わることに関心を持ってください。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

公欠以外は認めません。

テキスト

『保育における相談援助・相談支援』西尾祐吾 監修 安田 誠人・立花直樹編、晃洋書房

留意事項

保育士に求められる対人援助技術の意義について、しっかり考える機会としてください。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家庭支援論			17774	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族の機能、家庭の意義と役割、子育て家庭の現状とそれを取り巻く社会的・経済的状況を理解する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制を理解する。ニーズに応じた多様な支援の展開と関連機関との連携を考えることができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養うとともにK（思いやり）を考える。

授業の概要

まず「現代家族関係論（2年次配当）」の復習も兼ねて、家族の機能、家庭の意義や役割について学ぶ。次に、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制や支援方法等について解説し、ニーズに応じた多様な支援や関連機関との連携を考える。

授業計画

1. 家庭の意義と役割
2. 家庭支援の必要性と保育士等が行う家庭支援の原理
3. 現代の家庭における人間関係
4. 地域社会の変容と家庭支援
5. 男女共同参画社会とワークライフバランス
6. 子育て家庭の支援体制
7. 子育て支援施策・次世代育成支援施策
8. 子育て支援サービスの概要
9. 保育所入所児童の家庭への支援
10. 地域の子育て家庭への支援
11. 要保護児童及びその家庭に対する支援
12. 子育て支援における関連機関との連携
13. 諸外国における子育て支援
14. 子育て支援サービスの課題
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、子育て支援についてのプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

家族や家庭生活についての基本的テキストを読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

小田豊ほか『家庭支援論』北大路書房

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を先に履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育			17777	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	選択	2				

授業の到達目標

乳児期（3歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。なお健やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の具体的な事例を通して実践力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

わが国における乳児保育の歴史の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を把握しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実態を理解し、乳児の保育にあたる保育者としての専門的な能力を身につけられるようにする。

授業計画

1. 乳児保育とは 乳児保育はなぜ必要か
2. 乳児保育の理念と歴史の変遷
3. 乳児の保育と思春期への育ち
4. 愛されて育つということの意味
5. 胎児の世界と謎
6. 乳児期の発達
7. 乳児期の生活と保育
8. 乳児の環境と人間関係
9. 乳児期の保育課程と指導計画
10. 保育の記録と評価の方法
11. 伸びやかさを育てる遊びと保育
12. 乳児期の児童文化と遊び
13. 地域における子育て支援
14. さまざまな発達の考え方
15. 乳幼児健診による早期発見・早期療育と保育の役割

授業の方法

講義と演習を中心とする。

準備学修

日常生活の中で目にする乳児の生活や遊び・保護者との関わりの様子を関心を持って見る。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

新時代の保育双書 乳児保育 (株)みらい 大橋貴美子編

参考図書

乳児保育の基本 責任編集 汐見稔幸・小西行郎・榊原洋一 フレーベル館

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
東口 たまき	選択	2				

授業の到達目標

障がい児を理解するためだけでなく、彼らを取り巻く人々にもそれぞれの障がい理解をもらうための保育論です。障害の歴史、障害の理解、障がい児の支援方法、障がい児のご家庭の支援方法など、様々な教育、支援ができる保育者育成を目指します。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を考えます。

授業の概要

様々な困難をもつ障がい児がいるクラスの集団的保育だけでなく、それぞれ子どもに合ったオーダーメイドの個別的保育ができるようにいくつかの理論を使って保育方法、支援方法を学びます。また、臨床現場における発達相談の事例を取り上げ、実際、保育者として相談を受けた時にどのように相談に応じればいいのかも学びます。

授業計画

1. 障害の歴史
2. 身体障害について
3. 発達障害について①
4. 発達障害について②
5. その他の障害について（映画にみる障がい者とその支援）
6. 障がい児と感覚統合運動①
7. 障害児と感覚統合運動① 乱暴な子どもについて
8. 障害児と感覚統合運動② 落ち着きのない子どもについて
9. 障害児と感覚統合運動③ 大人しい子どもについて
10. TEACCH プログラムについて
11. 発達相談とその対応 ① 事例研究
12. 発達相談とその対応 ② 事例研究
13. 発達相談とその対応 ③ 事例研究
14. 発達検査について
15. 障がい児、障がい者の理解と実践

授業の方法

始めは講義中心で、障害特性など障害の知識を得てもらいます。その後、様々な事例や発達相談などの事例を取り上げ、講義で得た知識を使って解決方法を学生さんに考えてもらいます。

準備学修

例えば、日ごろから、障害のある方々だけでなく、ご老人や妊婦の方々に公共交通機関では席を譲るなど、自分をその相手の立場に置き換えてみてください。人を大切にすることをいつももつことがこの講義の準備です。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

原則として欠席は認めません。また、3回の遅刻は、1回の欠席扱いとします。

テキスト

『障害児保育』 編者：大場幸夫 柴崎正行編 serise15
ミルネヴァ書房

参考図書

授業中に紹介します。

留意事項

障がい児や障がい者に関わるボランティアに参加されたら、レポートを提出してください、評価の対象にします。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小		17785	Ⅲ	集	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	1				

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に際して必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例を通して、小学校教師の様々な仕事について学び、教育実習に備える。

授業計画

1. オリエンテーション 小学校教育実習を受ける前に
2. 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
3. 実習中の心得①
4. 実習中の心得②
5. 児童や教職員との接し方
6. 実習記録の書き方①
7. 模擬授業
8. 実習記録の書き方②

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

模擬授業の教科と単元を指定するので、指導案を作成しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

原則として欠席は認めない。欠席した場合は10点減点し、遅刻は3点減点する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して、参加すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導A		17811	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中田 尚美	選択	2			

授業の到達目標

保育実習の意義・目的を理解し自らの課題を明確化する。実習を円滑に進めていくための知識や技術を習得し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習をより効果的に行う。このクラスでは、KWASEIパーソナリティのS（奉仕）を考える。

授業の概要

児童福祉施設の機能や保育士の役割、子どもの生活と援助の仕方について理解する。実習学習を通して実習の意義・目的・内容・方法・心構え・実習記録の書き方について学ぶ。また事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業計画

1. 実習の意義・目的の理解
2. 実習の方法の理解
3. 実習の心構え
4. 実習施設の理解(1)
5. 実習施設の理解(2)
6. 実習における観察・記録・評価のしかたの理解
7. 実習に関する諸手続
8. 事後指導における実習の総括と今後の課題の明確化

授業の方法

ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

各自が実習施設について事前調査をし、施設の特徴や内容などわかる範囲で把握しておく。

課題・評価方法

授業出席・事前指導レポート・諸手続き・事後指導レポート・実習報告書提出等、保育実習1・2・3の総合評価とする。定期試験は実施しない。

欠席について

原則として欠席は認めない。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導A			17811	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	選択	2				

授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容をを理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのS(奉仕)を考える。

授業の概要

保育実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習Ⅰ」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

授業計画

1. 保育所実習の意義・目的・概要について理解する
2. 保育所実習Ⅰ・Ⅱの実習の方法について理解し実習生としての心構えを持つ
3. 実習の内容と課題を明確化する
4. 保育所実習のありかたを学ぶ「はじめての保育実習」の体験DVDを観る
5. 実習保育所について理解する
6. 保育課程・指導計画・デイリープログラムについて再認識し理解を深める
7. 実習における観察実習・部分実習の実習記録の書き方について理解する
8. 実習に関する事務手続きについて把握する(検便・健康診断等も含む)
9. 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方について理解する
10. 保育内容実践(遊びの指導)
11. 保育内容実践(遊びの指導)
12. 保育内容実践(遊びの指導)
13. 保育内容実践(遊びの指導)
14. 実習に際しての留意事項
15. 事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

各自が実習保育所について特徴や保育のとりくみ、立地条件など事前に情報の把握をしておく。

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

原則として欠席は認めない。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など)

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導B			17820	IV		
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	選択	1				

授業の到達目標

保育実習ⅠAを通して得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を旨として学習し、十分とは言えないが実践能力を養い保育実習Ⅱに取りくむことができたものとする。K A I S E I パーソナリティのS（奉仕）を考える。

授業の概要

保育実習ⅠAで修得した知識をもとに、保育実習Ⅱでは現場での保育実践を念頭に置き、指導案や保育実践に取りくめるように、必要な知識や技術を学ぶ。

授業計画

1. 保育実習ⅠAについて自己評価・報告・個人面談
2. 保育実習Ⅱの意義・目的を理解する
3. 保育実習Ⅱに関する事務手続き・検便日程・書類等の配布と指導
4. 実習個人票の作成・オリエンテーション日程について
5. 実習指導案の作成
6. 実習指導案に基づいた保育内容の確認・保育実践に向けての教材づくり
7. 保育実践に向けての教材づくり
8. 保育実習Ⅱ
9. 保育実習Ⅱ
10. 事後指導における実習の総括（報告書作成）と自己評価
11. 今後に向けて 就職に向けての課題等

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

各自が実習保育所について特徴や保育のとりくみ、立地条件など事前に情報の把握しておく。

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

原則として欠席は認めない。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など)

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

現代人間学部 英語観光学科・英語キャリア学科

教職に関する科目

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (中等)	教職中等		14101	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

教育の専門家として必要な基礎的知識を身につけると共に、教職に就いてさまざまな問題に直面したとき、適切に判断し、行動することが出来るような資質を養成することを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育の意義と教師の役割や職務内容などについて学び、自らの進路に教職を選択することの可否を適切に判断することに資する各種の機会を提供する。
教職に対する理解を深めていくと共に、豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性等、良き教師への意欲を高め使命感を持つことについても考える。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.教育とは何か……人間形成と教師の役割
- 3.教職の意義
- 4.教職の歴史
- 5.初等中等教育と教員
- 6.教師に求められる資質と能力
- 7.教員の身分及び服務義務
- 8.教員の職務について(1)
- 9.教員の職務について(2)
- 10.教育課程とは
- 11.障害を受けている子どもの教育と課題
- 12.開かれた学校づくり・地域社会との連携
- 13.子どもと保護者、教育の現状と課題
- 14.優れた教師・魅力的な教師を目指して
- 15.まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点

テキスト

長尾和英編『教職と人間形成』八千代出版

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理 (中等)	教職中等		14115	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

- 1 教育の意義、目的及び児童福祉との関わりについて理解する。
 - 2 教育の思想と歴史的変遷について学ぶ。
 - 3 教育の制度について学ぶ。
 - 4 教育実践の取組みについて理解する。
 - 5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育の意義や目的、児童福祉との関連性および歴史について学ぶとともに、教育の制度と実践原理および指導原理について理解する。
生涯学習社会における教育のあり方について考え、現代の教育問題についても検討する。

授業計画

1. 教育の意義と作用
2. 教育の本質と教育目的
3. 教育思想の歴史的展開
4. 社会・文化と教育
5. 家庭教育の特質と機能
6. 学校教育の特質と組織
7. 社会教育と生涯教育
8. 福祉社会の形成とその担い手
9. 教育制度
10. 教育法規
11. 教育内容
12. 教育課程
13. 教育実践の基礎理論
14. 生涯学習社会と教育
15. 講義全体のまとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

戸江茂博編『教育原理』あいり出版

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職中等		14143	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人	選択	2				

授業の到達目標

教育方法の研究、教育課程、子ども理解、指導方法、教育評価について理解し、授業の設計技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を学び、計画力、想像力を養います。さらに模擬授業によってK(思いやり)を醸成させます。

授業の概要

学校教育の理念に基づいて、教育課程、教育を実践するための方法や知識及びその技術を学ぶ。

授業計画

1. 教育方法学の歴史
2. カリキュラム論
3. 学習指導要領について
4. 教育課程と教科外の授業(道徳・総合的な学習の時間、特別活動)の役割
5. 教科書と学校教育の関係
6. 授業の構造について
7. 学校における集団学習の方法(組織、年間計画、指導体制)
8. 教育技術論
9. 情報教育の内容と構成について
10. 授業の方法と実践
11. 学力と教育評価について
12. 特別支援教育について
13. 模擬授業による実践と考察1(道徳)
14. 模擬授業による実践と考察2(特別活動・総合的な学習の時間)
15. まとめ

授業の方法

毎回レジメを配布し、講義を行います。授業中にロールプレイ等を実施し、レポートを作成してもらいます。

準備学修

小学校・中学校学習指導要領解説(総則)を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

参考図書

授業中に、その都度紹介します。

留意事項

授業中のレポート、感想文等を毎回提出してもらいます。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職中等		14147	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	選択	1				

授業の到達目標

介護等の体験(特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間)によって、教員としての資質を十分に高められるよう事前準備をおこなうことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)・A(自律)・S(奉仕)・E(倫理)を考える。

授業の概要

「個人の尊厳と社会連帯の理念」を深め、介護等体験特殊法が制定された主旨を理解する。特別支援学校や福祉施設のしくみとそれぞれの対象者について知る。また、身体的介護、車いすを利用している人などへの介助知識・留意点について学び、安全におこなえるよう指導する。

授業計画

1. 介護施設とは
2. 介護の心構えと実際
3. 高齢者の心と体
4. 認知症・身体障害を伴う高齢者の介護
5. 特別支援学校について①
6. 特別支援学校について②
7. まとめ
8. 介護等体験のための諸注意

授業の方法

映像とテキストの内容を中心に行う。

準備学修

社会福祉施設と特別支援学校について、テキストを読み簡単に理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

2回以上欠席すると不可となる。(特例欠席は除く)

テキスト

『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会

『よくわかる社会福祉施設 第3版』全国社会福祉協議会

留意事項

この科目は、小学校教諭1種免許状・中学校教諭1種免許状を取得しようとする学生のみ、履修することができる。(上記以外の学生は、履修することができない)

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等	14185	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
清水 篤	選択	2			

授業の到達目標

1. 特別活動の内容と方法について理解する。
2. 学校及び学級集団における自主的・主体的活動の形成とそれを通してのルールづくり等について学ぶ。
3. 集団を通して、個性の尊重、他者との協力・協力の力について理解する。
4. 「社会に参画する力を育てる特別活動」の意義を理解する。
5. このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養う。

授業の概要

「特別活動とは何か」について、中学校・高等学校におけるその歴史、目的、内容、活動領域を理論的・実践的に考察する。教育課程における特別活動の理念と実際を把握するとともに、その目標や内容を明らかにし、理解を深める。また、教育計画全体における特別活動の位置づけについて知り、学級活動・生徒会活動・学校行事等について実際的な学習を進めていく。さらに、特別活動の考え方や、実際の取り組みを学ぶことを通して、中学校・高等学校で特別活動に取り組む際に求められる力量（実践力・指導力）を習得する。

授業計画

1. オリエンテーション:学校の教育活動における特別活動・特別活動の歴史の変遷
2. 学校教育と特別活動:教育課程の構造と特別活動の役割
3. 特別活動の内容と実践①:特別活動の目標・方法原理と意義
4. 特別活動の内容と実践②:各活動 学級(ホームルーム)活動の目標と内容
5. 特別活動の内容と実践③:各活動 生徒会活動と特別活動
6. 特別活動の内容と実践④:各活動 学校行事と特別活動
7. 特別活動の内容と実践⑤:各活動 部活動の目標と内容
8. 特別活動の今日的課題①:特別活動の特質と課題
9. 特別活動の今日的課題②:「総合的な学習の時間」と特別活動
10. 特別活動の今日的課題③:教科指導と特別活動
11. 特別活動と生徒指導の実際(学級崩壊・いじめ・不登校)
12. 特別活動の指導計画の作成と模擬授業①(学級(ホームルーム)指導)

13. 特別活動の指導計画の作成と模擬授業②(部活動)
14. 特別活動における学校安全と危機管理
15. 特別活動の充実と発展(全体的な指導体制の確立と学級・学年経営)

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

・『中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編』を熟読する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う。

テキスト

授業の中で、適宜紹介する。

参考図書

- ・文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編』ぎょうせい
- ・『新しい特別活動指導論』高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論	教職中等	14189	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
堀 正人	選択	2			

授業の到達目標

中・高等学校の教育課程は学習指導要領で規定されていることを学びます。この教育課程の原理を知り、カリキュラム編成の基礎を習得します。このクラスではKAISEIパーソナリティ-I(知性)を養い、プレゼン等の過程でK(思いやり)の諸能力を生かします。

授業の概要

教育課程の原理を理解し、公的な性格を有する学習指導要領を学びます。さらに歴史的な変遷や諸外国との制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察します。仕上げは模擬的に教育課程の編成を試みます。

授業計画

1. はじめに、教育課程とは
2. 教育課程に関する法律について
3. 教育課程の歴史Ⅰ
4. 教育課程の歴史Ⅱ
5. 各学校における教育課程(幼稚園、小学校)
6. 各学校における教育課程(中学校)
7. 各学校における教育課程(高等学校、特別支援学校)
8. 総合的な学習の時間と教育課程について
9. 教育課程の編成と評価
10. 学校種間の連携・部活動と教育課程
11. 地域社会の連携と教育課程
12. 諸外国の教育課程(米・欧)、教育課程の模擬編成(その1)
13. 諸外国の教育課程(中・韓)、教育課程の模擬編成(その2)
14. 教育課程模擬編成のプレゼンテーション
15. まとめ

授業の方法

講義を中心とし、発表も取り入れます。

準備学修

学習指導要領(総則)を一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席回数で減点します。

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領(総則編)」ぎょうせい

留意事項

レポート、発表、ロールプレイ等を行います。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論 (中等)	教職中等	14199	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
大岸 啓子	選択	2			

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責についての理解を深める。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
2. 教育制度の歴史と発展①
3. 教育制度の歴史と発展②
4. 子どもの権利と人権
5. 教育制度を学ぶ意義①
6. 教育制度を学ぶ意義②
7. 教育法①
8. 教育法②
9. 教育の目的と目標
10. 義務教育の制度
11. 教育の機会均等
12. 教職員の制度
13. 教育行政の制度
14. 社会教育の制度
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

復習テストを適宜実施する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職実践演習 (中・高)	EC	14214	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子/惣谷 美智子	選択	2			

授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、及びB(倫理)を養う。

授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である(1)使命感・責任感・資質に関する知識、(2)社会性や対人関係能力、(3)教科の指導力について十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業で確認していく。また、実際の現場を見学することで、修得した知識・技能がどのように活用されているかをまとめる。

授業計画

1. イントロダクション—これまでの学習と振り返りについて(1)～講義
2. 教師としての使命感や責任感、資質について(1)～講義
3. 教師としての使命感や責任感、資質について(2)～グループ討論
4. 教師としての社会性や対人関係能力について(1)～講義とグループ討論
5. 教師としての社会性や対人関係能力について(2)～ロールプレイング
6. 生徒の理解や学級経営について(1)～討論
7. 生徒の理解や学級経営について(2)～グループ討論
8. 学級経営案の作成とグループ討論
9. 学校現場の見学(1)～見学・調査
10. 学校現場の見学(2)～教職経験者の講話とグループ討論
11. 教科の指導力について(1)～講義
12. 教科の指導力について(2)～グループ討論
13. 教科の指導力について(3)～模擬授業とその振り返り
14. 資質能力の確認まとめ(1)～小論文とアンケート
15. 資質能力の確認まとめ(2)～講評

授業の方法

講義の後、グループ討論を行う。ロールプレイング、模擬授業も行う。

う。

準備学修

「教育実習の研究」をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

適宜、ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

常に熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp (惣谷)、onoreiko@kaisei.ac.jp (小野)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論	教職中等		14217	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人	選択	2				

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学びます。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）の基礎となる協調性や実行力を養い、事例研究の実践でK（思いやり）も考えます。

授業の概要

教科書（文部科学省「生徒指導提要」）を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や児童生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、進路指導・キャリア教育を生徒指導の視点から考察する。

授業計画

1. 生徒指導の意義と原理(集団指導、個別指導の方法原理)
2. 学校運営と生徒指導
3. 教育課程と生徒指導1(教科、道徳教育)
4. 教育課程と生徒指導2(総合的な学習の時間、特別活動)
5. キャリア教育(進路指導)と生徒指導
6. 生徒の心理と生徒理解
7. 学校における生徒指導体制(組織、年間計画、指導体制)
8. 教育相談の進め方(カウンセラー、専門機関)
9. 生徒指導の進め方(支援体制、関係機関との連携)
10. 生徒指導における教職員の役割
11. 進路指導における生徒指導
12. 課題別生徒指導
13. 生徒指導に関する法制度
14. 事例研究1
15. 事例研究2、まとめ

授業の方法

レジュメに従って授業を行う。また、配布した生徒指導資料をもとに事例研究を行い考察をする。

準備学修

生徒指導提要（文部科学省編）、13歳のハローワーク（村上龍著）を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後の講義終了時に届け出る。

テキスト

文部科学省 編「生徒指導提要」教育図書

参考図書

村上龍 著「13歳のハローワーク」幻冬社

留意事項

授業中にレポート、感想文等を提出してもらいます。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む) (中等)	教職中等		14221	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標

本授業では、現在、学校現場で生じている生徒や保護者が抱える問題に対する知識を身につけ、教育相談の在り方や進め方についての理解や考えを深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）およびS（奉仕）を目指す。

授業の概要

生徒をとりまく社会や家庭は急激に変化し、学校での教師による教育相談は、学習指導とともに、教師の重要な活動となっている。しかし、教育相談は教師が行うという点で、カウンセラーが行うカウンセリングの技法とは異なるカウンセリングマインドが必要となる。本授業では、現在、学校現場で生じているさまざまな問題に焦点をあて、それらの問題にかかわる生徒や保護者への理解と対応を深め、さらに、全体を通してカウンセリングの技法を学びながら、それらを教師としてどのように活用して教育相談を行うべきか、教師が行う教育相談の在り方や進め方についてより実践的な視点をもとに学習する。

授業計画

1. 教師のカウンセリングマインド(1)
2. 教師のカウンセリングマインド(2)
3. 保護者・子どもとの面談の基本(1)
4. 保護者・子どもとの面談の基本(2)
5. 生徒を指導する際の技術(1)
6. 生徒を指導する際の技術(2)
7. 教育相談の技法(1)
8. 教育相談の技法(2)
9. 子どもの発達段階に応じたつながり方(1)
10. 子どもの発達段階に応じたつながり方(2)
11. 発達障害のある子の理解とつながり方(1)
12. 発達障害のある子の理解とつながり方(2)
13. 子育てのサポートネットワーク(1)
14. 子育てのサポートネットワーク(2)
15. 困った親の理解とつながり方

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修

2年次までに「教育心理学」を履修しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『教師のための教育相談の技術』吉田 圭吾著、金子書房

参考図書

授業開始後、冊子を配布する（有料）。

留意事項

小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究	教職中	14229	IV	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子	選択	1			

授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びE（倫理）を養う。

授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、本学と提携した実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を巡回し、研究授業等の指導にあたる。

授業計画

1. 教育実習の目的、教育実習の心構え、実習前の準備
2. 教育実習の展開
3. 教育実習の内容(1)
4. 教育実習の内容(2)
5. 教育実習の実際(1)
6. 教育実習の実際(2)
7. 授業の評価と実習のまとめ
8. 教育実習事後指導

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

- ・テキストの『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』の第1・2章、及び『新しい時代の英語科教育の基礎と実践』の第19章を読んでおくこと。
- ・中学校・高等学校の学習指導要領をもう一度よく読むこと。
- ・毎回、テキストの当該箇所（前時に指示）を読んで授業に臨むこと。

- ・英語科教育法I～IVの内容をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の10%とし、欠席は1回につき20点減点する。遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』（大修館）
 JACET教育問題研究会『新しい時代の英語科教育の基礎と実践—成長する英語教師を目指して—』（三修社）
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
 必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、レポート、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけでなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

索 引

- ・ シラバス索引 (科目コード順) P. 317
- ・ シラバス索引 (五十音順) P. 324

H26年度 シラバス索引 (科目コード順)

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
共通科目				
キリスト教入門	11101	竹田 文彦	I	139
聖書概論	11105	石丸 脩子	I	139
キリスト教海外研修	11109	尾崎 秀夫	I	140
聖書と現代	11113	竹田 文彦	II	140
キリスト教と文化	11117	尾崎 秀夫	III	141
基礎演習 I	11201	各学科教員	I	141
基礎演習 II	11205	各学科教員	I	142
海星学 I	11206	各学科教員	II	142
海星学 II	11207	各学科教員	II	143
人間学 1	11209	尾崎 秀夫	I	143
人間学 2	11213	岡村 祥子	III	144
キャリアデザイン入門	11301	箕野 聡子	I	144
文学入門	11309	箕野 聡子	I	145
情報活用の基礎知識	11313	埴岡 忠清	I	145
心理学概論	11317	中植 満美子	I	146
統計学入門	11321	埴岡 忠清	I	146
ジェンダー論	11325	浅井 由美	I	147
日本国憲法	11329		I	147
健康科学	11333	竹安 知枝	I	148
健康スポーツ 1	11337	竹安 知枝	I	148
日本文化史	11353	箕野 聡子	II	149
簿記会計学	11357	埴岡 忠清	II	149
現代家族関係論	11365	浅井 由美	II	150
社会福祉論	11369	加藤 雅典	I	150
人権教育論	11373	丸岡 幸一	II	151
社会科学概論	11377	尾崎 秀夫	II	151
家政学概論	11381	浅井 由美	II	152
日本語表現法	11401	大岸 啓子	I	152
日本語表現法	11401	箕野 聡子	I	153
日本語文章構成法	11405	箕野 聡子	II	153
情報リテラシー 1	11501	米田 里香／武田 春美	I	154
情報リテラシー 2	11505	武田 春美／米田 里香	I	154
オフィス情報処理 1	11509	米田 里香／武田 春美	II	155
オフィス情報処理 2	11513	米田 里香	II	155
英語 1	11601	入江 和子／千葉 奈乙江	I	156
英語 2	11605	千葉 奈乙江／釜須 久夫	I	156
英語 3	11609	平野 真理子／入江 和子	I	157
英語 4	11613	入江 和子／千葉 奈乙江	I	157
英語 5	11617	Angus HALL	II	158
英語 5	11617	L' Shawn M. HOWARD	II	158
英語 6	11621	惣谷 美智子	II	159
英語 6	11621	L' Shawn M. HOWARD	II	159
英語 6	11621	Angus HALL	II	160
英語 7	11625	L' Shawn M. HOWARD	II	160
英語 7	11625	Angus HALL	II	161
英語 8	11629	惣谷 美智子	II	161
英語 8	11629	L' Shawn M. HOWARD	II	162

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
英語 8	1 1 6 2 9	Angus HALL	Ⅱ	162
フランス語 1	1 1 6 3 3	平田 淳子	Ⅰ	163
フランス語 2	1 1 6 3 7	平田 淳子	Ⅰ	164
フランス語 3	1 1 6 4 1	平田 淳子	Ⅰ	165
フランス語 4	1 1 6 4 5	平田 淳子	Ⅰ	166
フランス語 5	1 1 6 4 9	平田 淳子	Ⅱ	166
フランス語 6	1 1 6 5 3	平田 淳子	Ⅱ	167
フランス語 7	1 1 6 5 7	平田 淳子	Ⅱ	167
フランス語 8	1 1 6 6 1	平田 淳子	Ⅱ	168
中国語 1	1 1 6 6 5	坂口 文馨	Ⅰ	168
中国語 2	1 1 6 6 9	沈 竑	Ⅰ	169
中国語 2	1 1 6 6 9	沈 竑	Ⅰ	169
中国語 3	1 1 6 7 3	坂口 文馨	Ⅰ	170
中国語 4	1 1 6 7 7	沈 竑	Ⅰ	170
中国語 5	1 1 6 8 1	坂口 文馨	Ⅱ	171
中国語 6	1 1 6 8 5	沈 竑	Ⅱ	171
中国語 7	1 1 6 8 9	坂口 文馨	Ⅱ	172
中国語 8	1 1 6 9 3	沈 竑	Ⅱ	172
専門科目 (英語観光学科・英語キャリア学科)				
演習 I	1 3 1 0 1	小野 礼子	Ⅲ	175
演習 I	1 3 1 0 1	石原 敬子	Ⅲ	175
演習 I	1 3 1 0 1	有村 理	Ⅲ	176
演習 I	1 3 1 0 1	一尾 敏正	Ⅲ	176
演習 II	1 3 1 0 5	小野 礼子	Ⅲ	177
演習 II	1 3 1 0 5	石原 敬子	Ⅲ	177
演習 II	1 3 1 0 5	有村 理	Ⅲ	178
演習 II	1 3 1 0 5	一尾 敏正	Ⅲ	178
演習 III	1 3 1 0 9	石原 敬子	Ⅳ	179
演習 III	1 3 1 0 9	小野 礼子	Ⅳ	179
演習 IV	1 3 1 1 3	石原 敬子	Ⅳ	180
演習 IV	1 3 1 1 3	小野 礼子	Ⅳ	180
Oral Communication I	1 3 2 0 1	L' Shawn M. HOWARD	Ⅰ	181
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Angus HALL	Ⅰ	181
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Maidhc Ó CATHAIL	Ⅰ	182
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Angus HALL	Ⅰ	182
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Maidhc Ó CATHAIL	Ⅰ	183
Oral Communication II	1 3 2 0 5	L' Shawn M. HOWARD	Ⅰ	183
Reading/Writing I	1 3 2 1 0	L' Shawn M. HOWARD/Maidhc Ó CATHAIL	Ⅰ	184
Reading/Writing I	1 3 2 1 0	平野 真理子	Ⅰ	184
Reading/Writing II	1 3 2 1 4	L' Shawn M. HOWARD/Maidhc Ó CATHAIL	Ⅰ	185
Reading/Writing II	1 3 2 1 4	平野 真理子	Ⅰ	185
Grammar I	1 3 2 2 5	Maidhc Ó CATHAIL/小野 礼子/平野 真理子	Ⅰ	186
Grammar II	1 3 2 2 9	Maidhc Ó CATHAIL/平野 真理子/小野 礼子	Ⅰ	186
Pronunciation I	1 3 2 3 3	石原 敬子	Ⅰ	187
Pronunciation II	1 3 2 3 7	石原 敬子	Ⅰ	187
Oral Communication III	1 3 2 4 1	L' Shawn M. HOWARD	Ⅱ	188
Oral Communication III	1 3 2 4 1	Angus HALL	Ⅱ	188
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	Angus HALL	Ⅱ	189
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	L' Shawn M. HOWARD	Ⅱ	189

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
Reading/WritingⅢ	1 3 2 5 0	惣谷 美智子	Ⅱ	190
Reading/WritingⅢ	1 3 2 5 0	L' Shawn M. HOWARD	Ⅱ	190
Reading/WritingⅢ	1 3 2 5 0	Angus HALL	Ⅱ	191
Reading/WritingⅣ	1 3 2 5 4	惣谷 美智子	Ⅱ	191
Reading/WritingⅣ	1 3 2 5 4	L' Shawn M. HOWARD	Ⅱ	192
Reading/WritingⅣ	1 3 2 5 4	Angus HALL	Ⅱ	192
Grammar Ⅲ	1 3 2 6 5	平野 真理子/惣谷 美智子	Ⅱ	193
Pronunciation Ⅲ	1 3 2 6 9	石原 敬子/L' Shawn M. HOWARD	Ⅱ	194
観光英語Ⅰ	1 3 2 7 0	入江 和子/平野 真理子	Ⅰ	195
観光英語Ⅱ	1 3 2 7 1	平野 真理子/入江 和子	Ⅰ	195
ホスピタリティ精神論	1 3 2 7 2	石丸 脩子	Ⅰ	196
日本文化論	1 3 2 7 3	箕野 聡子	Ⅱ	196
翻訳・通訳論入門	1 3 3 0 1	平野 真理子	Ⅱ	197
Small Group Communication	1 3 3 0 5	L' Shawn M. HOWARD	Ⅱ	197
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	L' Shawn M. HOWARD	Ⅲ	198
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	Angus HALL	Ⅲ	198
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	Angus HALL	Ⅲ	199
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	L' Shawn M. HOWARD	Ⅲ	199
Academic Reading/Writing 1	1 3 3 1 8	L' Shawn M. HOWARD	Ⅲ	200
Academic Reading/Writing 1	1 3 3 1 8	Maidhc Ó CATHAIL	Ⅲ	200
Academic Reading/Writing 2	1 3 3 2 2	L' Shawn M. HOWARD	Ⅲ	201
Academic Reading/Writing 2	1 3 3 2 2	Maidhc Ó CATHAIL	Ⅲ	201
Public Speaking and Oral Interpretation	1 3 3 3 3	Angus HALL	Ⅲ	202
Academic Reading 3	1 3 3 3 7	Maidhc Ó CATHAIL	Ⅳ	202
Academic Reading 3	1 3 3 3 7	Angus HALL	Ⅳ	203
Academic Writing 3	1 3 3 4 1	Maidhc Ó CATHAIL	Ⅳ	203
Academic Writing 3	1 3 3 4 1	Angus HALL	Ⅳ	204
Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	Angus HALL	Ⅳ	204
Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	L' Shawn M. HOWARD	Ⅳ	205
ことばと社会	1 3 4 0 5	小野 礼子	Ⅱ	205
異文化理解	1 3 4 0 9	有村 理	Ⅱ	206
英米文学入門	1 3 4 1 3	入江 和子	Ⅰ	206
ことばの意味・文化	1 3 4 1 7	服部 幸正	Ⅱ	207
Japanese Culture	1 3 4 2 5	L' Shawn M. HOWARD	Ⅱ	207
観光概論	1 3 4 2 6	北川 宗忠	Ⅰ	208
国際観光交流論	1 3 4 2 7	青木 幹生	Ⅰ	208
手話コミュニケーションⅠ	1 3 4 2 8	若生 茂嗣/岩橋 博子	Ⅱ	209
手話コミュニケーションⅡ	1 3 4 2 9	若生 茂嗣/岩橋 博子	Ⅱ	209
環境ツーリズム論	1 3 4 3 0	有村 理	Ⅱ	210
観光事業総論	1 3 4 3 1	一尾 敏正	Ⅱ	210
観光と世界遺産	1 3 4 3 2	有村 理	Ⅱ	211
観光文化地理論	1 3 4 3 3	釜須 久夫	Ⅱ	211
観光ビジネス実務論	1 3 4 3 4	一尾 敏正/有村 理	Ⅱ	212
韓国語入門Ⅰ	1 3 4 3 5	宋 京珠	Ⅱ	212
韓国語入門Ⅱ	1 3 4 3 6	宋 京珠	Ⅱ	213
企業研究	1 3 4 4 0	有村 理/一尾 敏正	Ⅱ	213
海外ツーリズム研修	1 3 4 4 5	一尾 敏正/有村 理	Ⅱ	214
児童文学	1 3 5 0 1	福智 佳代子/箕野 聡子	Ⅱ	215
Cross-cultural Communication	1 3 5 0 5	L' Shawn M. HOWARD	Ⅲ	216
English/American Culture	1 3 5 1 3	L' Shawn M. HOWARD	Ⅲ	216

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
英米文学研究	13521	惣谷 美智子	Ⅲ	217
女性と社会	13525	浅井 由美	Ⅲ	217
American Studies in U. S. A.	13529		I	218
Australian Studies in Australia	13537		I	218
Canadian Studies in Canada	13539		I	219
Business English I	13605	青木 幹生	Ⅱ	219
Business English II	13609	青木 幹生	Ⅱ	220
ビジネス翻訳	13621	檜本 雄三	Ⅲ	220
国際マネジメントと英語	13625	青木 幹生	Ⅲ	221
インターンシップ1	13631	有村 理／一尾 敏正／平田 淳子	Ⅲ	221
児童英語教育概論	13701	福智 佳代子	I	222
英語科教育法 I	13705	惣谷 美智子	I	222
英語科教育法 II	13709	惣谷 美智子	Ⅱ	223
英語学概論	13713	服部 幸正	Ⅱ	223
英語音声学	13717	石原 敬子	Ⅱ	224
ことばの発達・学習	13721	福智 佳代子	Ⅱ	224
キッズ・イングリッシュ I	13725	福智 佳代子	Ⅱ	225
キッズ・イングリッシュ II	13729	福智 佳代子	Ⅱ	225
キッズ・イングリッシュ III (実習)	13733	福智 佳代子	Ⅲ	226
英語科教育法 III	13737	小野 礼子	Ⅲ	226
英語科教育法 IV	13741	小野 礼子	Ⅲ	227
外国語教授法	13745	福智 佳代子	Ⅲ	227
TOEIC 入門 1	13801	和泉 有香	I	228
TOEIC 入門 2	13805	和泉 有香	I	228
教職概論 (初等)	13809	中田 尚美	I	229
教育心理学	13813	澤田 瑞也	I	229
TOEIC 1	13817	和泉 有香	Ⅱ	230
TOEIC 1	13817	平野 真理子	Ⅱ	230
TOEIC 2	13821	和泉 有香	Ⅱ	231
TOEIC 2	13821	平野 真理子	Ⅱ	231
TOEFL	13825	平野 真理子	Ⅱ	232
道徳教育指導論 (中等)	13829	丸岡 幸一	Ⅲ	232
比較文化論	13830	福智 佳代子	Ⅲ	233
ホスピタリティ・マネジメント	13831	一尾 敏正	Ⅲ	233
ビジネス中国語	13832	王 嬌	Ⅲ	234
観光マーケティング論	13833	一尾 敏正	Ⅲ	234
宿泊事業論	13835	一尾 敏正	Ⅲ	235
航空ツーリズム論	13836	有村 理	Ⅲ	235
観光フランス語	13837	平田 淳子	Ⅲ	236
専門科目 (観光ホスピタリティ学科)				
演習 III	15113	有村 理	Ⅳ	239
演習 III	15113	一尾 敏正	Ⅳ	239
演習 III	15113	北川 宗忠	Ⅳ	240
演習 IV	15117	有村 理	Ⅳ	240
演習 IV	15117	一尾 敏正	Ⅳ	241
演習 IV	15117	北川 宗忠	Ⅳ	241
専門科目 (心理こども学科)				
演習 I	17101	大岸 啓子	Ⅲ	245

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
演習Ⅰ	17101	中田 尚美	Ⅲ	245
演習Ⅰ	17101	作 美代子	Ⅲ	246
演習Ⅰ	17101	中植 満美子	Ⅲ	246
演習Ⅱ	17105	大岸 啓子	Ⅲ	247
演習Ⅱ	17105	中田 尚美	Ⅲ	247
演習Ⅱ	17105	作 美代子	Ⅲ	248
演習Ⅱ	17105	中植 満美子	Ⅲ	248
演習Ⅲ	17109	中田 尚美	Ⅳ	249
演習Ⅲ	17109	大岸 啓子	Ⅳ	249
演習Ⅲ	17109	作 美代子	Ⅳ	250
演習Ⅲ	17109	中植 満美子	Ⅳ	250
演習Ⅳ	17113	中田 尚美	Ⅳ	251
演習Ⅳ	17113	大岸 啓子	Ⅳ	251
演習Ⅳ	17113	作 美代子	Ⅳ	252
演習Ⅳ	17113	中植 満美子	Ⅲ	252
発達心理学	17201	中植 満美子	Ⅰ	253
保育内容総論	17205	中田 尚美	Ⅰ	253
性格心理学	17309	黒羽 カテリーナ	Ⅰ	254
感情心理学	17317	澤田 瑞也	Ⅱ	254
人格発達心理学	17321	中植 満美子	Ⅱ	255
臨床心理学	17325	津田 明子	Ⅱ	255
認知心理学	17329	中植 満美子	Ⅱ	256
心理統計学	17337	須崎 暁世	Ⅱ	256
心理学基礎実験	17341	澤田 瑞也	Ⅱ	257
心理調査・データ処理法	17345	須崎 暁世	Ⅱ	257
人格発達障害論	17361	中植 満美子	Ⅲ	258
臨床心理学実習1 (心理テスト法)	17373	中植 満美子	Ⅲ	258
臨床心理学実習2 (カウンセリング法)	17377	津田 明子	Ⅲ	259
心理学文献講読1	17385	澤田 瑞也	Ⅲ	259
教育心理学	17409	澤田 瑞也	Ⅰ	260
初等音楽1	17417	南 夏世／由井 敦子	Ⅰ	261
初等音楽2	17421	南 夏世／由井 敦子	Ⅰ	262
児童文学	17437	福智 佳代子／箕野 聡子	Ⅱ	263
学習・発達論	17441	中植 満美子	Ⅱ	264
乳幼児心理学	17445	黒羽 カテリーナ	Ⅱ	264
ことばの発達・学習	17461	東口 たまき	Ⅱ	265
キッズ・イングリッシュⅠ	17465	福智 佳代子	Ⅱ	265
キッズ・イングリッシュⅡ	17469	福智 佳代子	Ⅱ	266
初等音楽3	17473	南 夏世	Ⅱ	266
初等音楽4	17477	南 夏世	Ⅲ	267
教育相談(カウンセリングを含む) (初等)	17497	澤田 瑞也	Ⅲ	267
子育て支援と地域社会	17501	渋谷 美智	Ⅲ	268
ボランティア論	17505	加藤 雅典	Ⅰ	268
図画工作	17509	黒岩 和子	Ⅰ	269
初等体育	17513	竹安 知枝	Ⅱ	269
教育原理	17521	中田 尚美	Ⅱ	270
児童家庭福祉	17526	中植 満美子	Ⅱ	270
情緒・学習障害の心理	17537	澤田 瑞也	Ⅲ	271
保育内容の研究・表現 (造形表現)	17601	黒岩 和子	Ⅰ	271
保育原理Ⅰ	17605	中田 尚美	Ⅰ	272

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
教職概論 (幼小)	17613	中田 尚美	I	272
幼児教育学原理	17617	中田 尚美	II	273
幼児教育課程の研究	17621	佐原 信江	II	273
教育課程論	17625	都賀 純	II	274
保育内容の研究・人間関係	17629	澤田 瑞也	II	274
保育内容の研究・言葉	17633	石田 伸子	II	275
社会的養護	17638	佐々木 勝一	II	275
子どもの保健 I A	17642	小林 千代	II	276
子どもの保健 II	17646	小林 千代	II	276
子どもの食と栄養	17650	河田 貴子	II	277
保育内容の研究・表現 (身体表現)	17653	竹安 知枝	II	277
教育方法論	17657	清水 篤	II	278
初等国語科指導法	17661	大岸 啓子	II	278
初等社会科指導法	17665	清水 篤	II	279
初等算数科指導法	17669	都賀 純	II	279
初等理科指導法	17673	東内 則子	II	280
初等生活科指導法	17677	大岸 啓子	II	280
特別活動論	17681	都賀 純	II	281
保育・教職実践演習 (幼・小)	17686	作 美代子 / 大岸 啓子	IV	281
教育実習の研究 I	17689	作 美代子	II	282
介護等の体験(事前指導)	17697	竹安 知枝	II	282
教育実習の研究 II	17705	作 美代子	III	283
教育経営論 (幼小)	17713	大岸 啓子	III	283
保育内容の研究・健康	17717	竹安 知枝	III	284
保育内容の研究・環境	17721	渋谷 美智	III	284
幼児教育指導法	17725	佐原 信江	III	285
幼児指導論 (カウンセリングを含む)	17729	石田 伸子	III	285
初等音楽科指導法	17733	南 夏世	III	286
初等図画工作科指導法	17737	黒岩 和子	III	286
初等家庭科指導法	17741	浅井 由美	III	287
初等体育科指導法	17745	竹安 知枝	III	287
道徳教育指導論	17749	作 美代子	III	288
生徒指導論	17753	清水 篤	III	288
子どもの保健 I B	17762	小林 千代	III	289
社会的養護内容	17766	佐々木 勝一	III	289
相談援助	17770	佐々木 勝一	III	290
保育相談支援	17772	佐々木 勝一	III	290
家庭支援論	17774	浅井 由美	III	291
乳児保育	17777	渋谷 美智	I	291
障害児保育	17782	東口 たまき	II	292
教育実習指導 (小学校)	17785	大岸 啓子	III	292
保育実習指導A	17811	中田 尚美	III	293
保育実習指導A	17811	渋谷 美智	III	294
保育実習指導B	17820	渋谷 美智	IV	295
教職に関する科目				
教職概論 (中等)	14101	中田 尚美	I	299
教育原理 (中等)	14115	中田 尚美	II	299
教育方法論	14143	堀 正人	II	300
介護等の体験(事前指導)	14147	竹安 知枝	II	300

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
特別活動論	14185	清水 篤	Ⅱ	301
教育課程論	14189	堀 正人	Ⅱ	301
教育経営論 (中等)	14199	大岸 啓子	Ⅲ	302
教職実践演習 (中・高)	14214	小野 礼子／惣谷 美智子	Ⅳ	302
生徒指導論	14217	堀 正人	Ⅲ	303
教育相談(カウンセリングを含む) (中等)	14221	澤田 瑞也	Ⅲ	303
教育実習の研究	14229	小野 礼子	Ⅳ	304

H26年度 シラバス索引 (五十音順)

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
A Academic Reading 3	1 3 3 3 7	Maidhc Ó CATHAIL	IV	202
Academic Reading 3	1 3 3 3 7	Angus HALL	IV	203
Academic Reading/Writing 1	1 3 3 1 8	L' Shawn M. HOWARD	III	200
Academic Reading/Writing 1	1 3 3 1 8	Maidhc Ó CATHAIL	III	200
Academic Reading/Writing 2	1 3 3 2 2	L' Shawn M. HOWARD	III	201
Academic Reading/Writing 2	1 3 3 2 2	Maidhc Ó CATHAIL	III	201
Academic Writing 3	1 3 3 4 1	Maidhc Ó CATHAIL	IV	203
Academic Writing 3	1 3 3 4 1	Angus HALL	IV	204
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	L' Shawn M. HOWARD	III	198
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	Angus HALL	III	198
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	Angus HALL	III	199
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	L' Shawn M. HOWARD	III	199
American Studies in U.S.A.	1 3 5 2 9		I	218
Australian Studies in Australia	1 3 5 3 7		I	218
B Business English I	1 3 6 0 5	青木 幹生	II	219
Business English II	1 3 6 0 9	青木 幹生	II	220
C Canadian Studies in Canada	1 3 5 3 9		I	219
Cross-cultural Communication	1 3 5 0 5	L' Shawn M. HOWARD	III	216
D Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	Angus HALL	IV	204
Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	L' Shawn M. HOWARD	IV	205
E English/American Culture	1 3 5 1 3	L' Shawn M. HOWARD	III	216
G Grammar I	1 3 2 2 5	Maidhc Ó CATHAIL/小野 礼子/平野 真理子	I	186
Grammar II	1 3 2 2 9	Maidhc Ó CATHAIL/平野 真理子/小野 礼子	I	186
Grammar III	1 3 2 6 5	平野 真理子/惣谷 美智子	II	193
J Japanese Culture	1 3 4 2 5	L' Shawn M. HOWARD	II	207
O Oral Communication I	1 3 2 0 1	L' Shawn M. HOWARD	I	181
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Angus HALL	I	181
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Maidhc Ó CATHAIL	I	182
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Angus HALL	I	182
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Maidhc Ó CATHAIL	I	183
Oral Communication II	1 3 2 0 5	L' Shawn M. HOWARD	I	183
Oral Communication III	1 3 2 4 1	L' Shawn M. HOWARD	II	188
Oral Communication III	1 3 2 4 1	Angus HALL	II	188
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	Angus HALL	II	189
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	L' Shawn M. HOWARD	II	189
P Pronunciation I	1 3 2 3 3	石原 敬子	I	187
Pronunciation II	1 3 2 3 7	石原 敬子	I	187
Pronunciation III	1 3 2 6 9	石原 敬子/L' Shawn M. HOWARD	II	194
Public Speaking and Oral Interpretation	1 3 3 3 3	Angus HALL	III	202
R Reading/Writing I	1 3 2 1 0	L' Shawn M. HOWARD/Maidhc Ó CATHAIL	I	184
Reading/Writing I	1 3 2 1 0	平野 真理子	I	184
Reading/Writing II	1 3 2 1 4	L' Shawn M. HOWARD/Maidhc Ó CATHAIL	I	185
Reading/Writing II	1 3 2 1 4	平野 真理子	I	185
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	惣谷 美智子	II	190
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	L' Shawn M. HOWARD	II	190
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	Angus HALL	II	191
Reading/Writing IV	1 3 2 5 4	惣谷 美智子	II	191
Reading/Writing IV	1 3 2 5 4	L' Shawn M. HOWARD	II	192

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
Reading/WritingIV	1 3 2 5 4	Angus HALL	II	192
S Small Group Communication	1 3 3 0 5	L' Shawn M. HOWARD	II	197
T TOEFL	1 3 8 2 5	平野 真理子	II	232
TOEIC 1	1 3 8 1 7	和泉 有香	II	230
TOEIC 1	1 3 8 1 7	平野 真理子	II	230
TOEIC 2	1 3 8 2 1	和泉 有香	II	231
TOEIC 2	1 3 8 2 1	平野 真理子	II	231
TOEIC入門1	1 3 8 0 1	和泉 有香	I	228
TOEIC入門2	1 3 8 0 5	和泉 有香	I	228
い 異文化理解	1 3 4 0 9	有村 理	II	206
インターンシップ1	1 3 6 3 1	有村 理/一尾 敏正/平田 淳子	III	221
え 英語1	1 1 6 0 1	入江 和子/千葉 奈乙江	I	156
英語2	1 1 6 0 5	千葉 奈乙江/釜須 久夫	I	156
英語3	1 1 6 0 9	平野 真理子/入江 和子	I	157
英語4	1 1 6 1 3	入江 和子/千葉 奈乙江	I	157
英語5	1 1 6 1 7	Angus HALL	II	158
英語5	1 1 6 1 7	L' Shawn M. HOWARD	II	158
英語6	1 1 6 2 1	惣谷 美智子	II	159
英語6	1 1 6 2 1	L' Shawn M. HOWARD	II	159
英語6	1 1 6 2 1	Angus HALL	II	160
英語7	1 1 6 2 5	L' Shawn M. HOWARD	II	160
英語7	1 1 6 2 5	Angus HALL	II	161
英語8	1 1 6 2 9	惣谷 美智子	II	161
英語8	1 1 6 2 9	L' Shawn M. HOWARD	II	162
英語8	1 1 6 2 9	Angus HALL	II	162
英語音声学	1 3 7 1 7	石原 敬子	II	224
英語科教育法I	1 3 7 0 5	惣谷 美智子	I	222
英語科教育法II	1 3 7 0 9	惣谷 美智子	II	223
英語科教育法III	1 3 7 3 7	小野 礼子	III	226
英語科教育法IV	1 3 7 4 1	小野 礼子	III	227
英語学概論	1 3 7 1 3	服部 幸正	II	223
英米文学研究	1 3 5 2 1	惣谷 美智子	III	217
英米文学入門	1 3 4 1 3	入江 和子	I	206
演習I	1 3 1 0 1	小野 礼子	III	175
演習I	1 3 1 0 1	石原 敬子	III	175
演習I	1 3 1 0 1	有村 理	III	176
演習I	1 3 1 0 1	一尾 敏正	III	176
演習I	1 7 1 0 1	大岸 啓子	III	245
演習I	1 7 1 0 1	中田 尚美	III	245
演習I	1 7 1 0 1	作 美代子	III	246
演習I	1 7 1 0 1	中植 満美子	III	246
演習II	1 3 1 0 5	小野 礼子	III	177
演習II	1 3 1 0 5	石原 敬子	III	177
演習II	1 3 1 0 5	有村 理	III	178
演習II	1 3 1 0 5	一尾 敏正	III	178
演習II	1 7 1 0 5	大岸 啓子	III	247
演習II	1 7 1 0 5	中田 尚美	III	247
演習II	1 7 1 0 5	作 美代子	III	248
演習II	1 7 1 0 5	中植 満美子	III	248
演習III	1 3 1 0 9	石原 敬子	IV	179

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
演習Ⅲ	13109	小野 礼子	Ⅳ	179
演習Ⅲ	15113	有村 理	Ⅳ	239
演習Ⅲ	15113	一尾 敏正	Ⅳ	239
演習Ⅲ	15113	北川 宗忠	Ⅳ	240
演習Ⅲ	17109	中田 尚美	Ⅳ	249
演習Ⅲ	17109	大岸 啓子	Ⅳ	249
演習Ⅲ	17109	作 美代子	Ⅳ	250
演習Ⅲ	17109	中植 満美子	Ⅳ	250
演習Ⅳ	13113	石原 敬子	Ⅳ	180
演習Ⅳ	13113	小野 礼子	Ⅳ	180
演習Ⅳ	15117	有村 理	Ⅳ	240
演習Ⅳ	15117	一尾 敏正	Ⅳ	241
演習Ⅳ	15117	北川 宗忠	Ⅳ	241
演習Ⅳ	17113	中田 尚美	Ⅳ	251
演習Ⅳ	17113	大岸 啓子	Ⅳ	251
演習Ⅳ	17113	作 美代子	Ⅳ	252
演習Ⅳ	17113	中植 満美子	Ⅲ	252
お オフィス情報処理 1	11509	米田 里香／武田 春美	Ⅱ	155
オフィス情報処理 2	11513	米田 里香	Ⅱ	155
か 海外ツーリズム研修	13445	一尾 敏正／有村 理	Ⅱ	214
外国語教授法	13745	福智 佳代子	Ⅲ	227
介護等の体験(事前指導)	17697	竹安 知枝	Ⅱ	282
介護等の体験(事前指導)	14147	竹安 知枝	Ⅱ	300
海星学Ⅰ	11206	各学科教員	Ⅱ	142
海星学Ⅱ	11207	各学科教員	Ⅱ	143
学習・発達論	17441	中植 満美子	Ⅱ	264
家政学概論	11381	浅井 由美	Ⅱ	152
家庭支援論	17774	浅井 由美	Ⅲ	291
環境ツーリズム論	13430	有村 理	Ⅱ	210
観光英語Ⅰ	13270	入江 和子／平野 真理子	Ⅰ	195
観光英語Ⅱ	13271	平野 真理子／入江 和子	Ⅰ	195
観光概論	13426	北川 宗忠	Ⅰ	208
観光事業総論	13431	一尾 敏正	Ⅱ	210
観光と世界遺産	13432	有村 理	Ⅱ	211
観光ビジネス実務論	13434	一尾 敏正／有村 理	Ⅱ	212
観光フランス語	13837	平田 淳子	Ⅲ	236
観光文化地理論	13433	釜須 久夫	Ⅱ	211
観光マーケティング論	13833	一尾 敏正	Ⅲ	234
韓国語入門Ⅰ	13435	宋 京珠	Ⅱ	212
韓国語入門Ⅱ	13436	宋 京珠	Ⅱ	213
感情心理学	17317	澤田 瑞也	Ⅱ	254
き 企業研究	13440	有村 理／一尾 敏正	Ⅱ	213
基礎演習Ⅰ	11201	各学科教員	Ⅰ	141
基礎演習Ⅱ	11205	各学科教員	Ⅰ	142
キッズ・イングリッシュⅠ	13725	福智 佳代子	Ⅱ	225
キッズ・イングリッシュⅠ	17465	福智 佳代子	Ⅱ	265
キッズ・イングリッシュⅡ	13729	福智 佳代子	Ⅱ	225
キッズ・イングリッシュⅡ	17469	福智 佳代子	Ⅱ	266
キッズ・イングリッシュⅢ(実習)	13733	福智 佳代子	Ⅲ	226
キャリアデザイン入門	11301	箕野 聡子	Ⅰ	144

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
教育課程論	17625	都賀 純	Ⅱ	274
教育課程論	14189	堀 正人	Ⅱ	301
教育経営論 (中等)	14199	大岸 啓子	Ⅲ	302
教育経営論 (幼小)	17713	大岸 啓子	Ⅲ	283
教育原理	17521	中田 尚美	Ⅱ	270
教育原理 (中等)	14115	中田 尚美	Ⅱ	299
教育実習指導 (小学校)	17785	大岸 啓子	Ⅲ	292
教育実習の研究	14229	小野 礼子	Ⅳ	304
教育実習の研究Ⅰ	17689	作 美代子	Ⅱ	282
教育実習の研究Ⅱ	17705	作 美代子	Ⅲ	283
教育心理学	13813	澤田 瑞也	Ⅰ	229
教育心理学	17409	澤田 瑞也	Ⅰ	260
教育相談(カウンセリングを含む) (初等)	17497	澤田 瑞也	Ⅲ	267
教育相談(カウンセリングを含む) (中等)	14221	澤田 瑞也	Ⅲ	303
教育方法論	14143	堀 正人	Ⅱ	300
教育方法論	17657	清水 篤	Ⅱ	278
教職概論 (初等)	13809	中田 尚美	Ⅰ	229
教職概論 (中等)	14101	中田 尚美	Ⅰ	299
教職概論 (幼小)	17613	中田 尚美	Ⅰ	272
教職実践演習(中・高)	14214	小野 礼子/惣谷 美智子	Ⅳ	302
キリスト教海外研修	11109	尾崎 秀夫	Ⅰ	140
キリスト教と文化	11117	尾崎 秀夫	Ⅲ	141
キリスト教入門	11101	竹田 文彦	Ⅰ	139
け 健康科学	11333	竹安 知枝	Ⅰ	148
健康スポーツ1	11337	竹安 知枝	Ⅰ	148
現代家族関係論	11365	浅井 由美	Ⅱ	150
こ 航空ツーリズム論	13836	有村 理	Ⅲ	235
国際観光交流論	13427	青木 幹生	Ⅰ	208
国際マネジメントと英語	13625	青木 幹生	Ⅲ	221
子育て支援と地域社会	17501	渋谷 美智	Ⅲ	268
ことばと社会	13405	小野 礼子	Ⅱ	205
ことばの意味・文化	13417	服部 幸正	Ⅱ	207
ことばの発達・学習	13721	福智 佳代子	Ⅱ	224
ことばの発達・学習	17461	東口 たまき	Ⅱ	265
子どもの食と栄養	17650	河田 貴子	Ⅱ	277
子どもの保健ⅠA	17642	小林 千代	Ⅱ	276
子どもの保健ⅠB	17762	小林 千代	Ⅲ	289
子どもの保健Ⅱ	17646	小林 千代	Ⅱ	276
し ジェンダー論	11325	浅井 由美	Ⅰ	147
児童英語教育概論	13701	福智 佳代子	Ⅰ	222
児童家庭福祉	17526	中植 満美子	Ⅱ	270
児童文学	13501	福智 佳代子/箕野 聡子	Ⅱ	215
児童文学	17437	福智 佳代子/箕野 聡子	Ⅱ	263
生徒指導論	14217	堀 正人	Ⅲ	303
社会科学概論	11377	尾崎 秀夫	Ⅱ	151
社会的養護内容	17766	佐々木 勝一	Ⅲ	289
社会的養護	17638	佐々木 勝一	Ⅱ	275
社会福祉論	11369	加藤 雅典	Ⅰ	150
宿泊事業論	13835	一尾 敏正	Ⅲ	235
手話コミュニケーションⅠ	13428	若生 茂嗣/岩橋 博子	Ⅱ	209

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
手話コミュニケーションⅡ	13429	若生 茂嗣／岩橋 博子	Ⅱ	209
障害児保育	17782	東口 たまき	Ⅱ	292
情緒・学習障害の心理	17537	澤田 瑞也	Ⅲ	271
情報活用の基礎知識	11313	埴岡 忠清	Ⅰ	145
情報リテラシー 1	11501	米田 里香／武田 春美	Ⅰ	154
情報リテラシー 2	11505	武田 春美／米田 里香	Ⅰ	154
女性と社会	13525	浅井 由美	Ⅲ	217
初等音楽 1	17417	南 夏世／由井 敦子	Ⅰ	261
初等音楽 2	17421	南 夏世／由井 敦子	Ⅰ	262
初等音楽 3	17473	南 夏世	Ⅱ	266
初等音楽 4	17477	南 夏世	Ⅲ	267
初等音楽科指導法	17733	南 夏世	Ⅲ	286
初等家庭科指導法	17741	浅井 由美	Ⅲ	287
初等国語科指導法	17661	大岸 啓子	Ⅱ	278
初等算数科指導法	17669	都賀 純	Ⅱ	279
初等社会科指導法	17665	清水 篤	Ⅱ	279
初等図画工作科指導法	17737	黒岩 和子	Ⅲ	286
初等生活科指導法	17677	大岸 啓子	Ⅱ	280
初等体育	17513	竹安 知枝	Ⅱ	269
初等体育科指導法	17745	竹安 知枝	Ⅲ	287
初等理科指導法	17673	東内 則子	Ⅱ	280
人格発達障害論	17361	中植 満美子	Ⅲ	258
人格発達心理学	17321	中植 満美子	Ⅱ	255
人権教育論	11373	丸岡 幸一	Ⅱ	151
心理学概論	11317	中植 満美子	Ⅰ	146
心理学基礎実験	17341	澤田 瑞也	Ⅱ	257
心理学文献講読 1	17385	澤田 瑞也	Ⅲ	259
心理調査・データ処理法	17345	須崎 暁世	Ⅱ	257
心理統計学	17337	須崎 暁世	Ⅱ	256
す 図画工作	17509	黒岩 和子	Ⅰ	269
せ 性格心理学	17309	黒羽 カテリーナ	Ⅰ	254
聖書概論	11105	石丸 脩子	Ⅰ	139
聖書と現代	11113	竹田 文彦	Ⅱ	140
生徒指導論	17753	清水 篤	Ⅲ	288
そ 相談援助	17770	佐々木 勝一	Ⅲ	290
ち 中国語 1	11665	坂口 文馨	Ⅰ	168
中国語 2	11669	沈 竑	Ⅰ	169
中国語 2	11669	沈 竑	Ⅰ	169
中国語 3	11673	坂口 文馨	Ⅰ	170
中国語 4	11677	沈 竑	Ⅰ	170
中国語 5	11681	坂口 文馨	Ⅱ	171
中国語 6	11685	沈 竑	Ⅱ	171
中国語 7	11689	坂口 文馨	Ⅱ	172
中国語 8	11693	沈 竑	Ⅱ	172
と 統計学入門	11321	埴岡 忠清	Ⅰ	146
道徳教育指導論	17749	作 美代子	Ⅲ	288
道徳教育指導論 (中等)	13829	丸岡 幸一	Ⅲ	232
特別活動論	17681	都賀 純	Ⅱ	281
特別活動論	14185	清水 篤	Ⅱ	301
に 日本国憲法	11329		Ⅰ	147

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
日本語表現法	11401	大岸 啓子	I	152
日本語表現法	11401	箕野 聡子	I	153
日本語文章構成法	11405	箕野 聡子	II	153
日本文化史	11353	箕野 聡子	II	149
日本文化論	13273	箕野 聡子	II	196
乳児保育	17777	渋谷 美智	I	291
乳幼児心理学	17445	黒羽 カテリーナ	II	264
人間学1	11209	尾崎 秀夫	I	143
人間学2	11213	岡村 祥子	III	144
認知心理学	17329	中植 満美子	II	256
は 発達心理学	17201	中植 満美子	I	253
ひ 比較文化論	13830	福智 佳代子	III	233
ビジネス中国語	13832	王 嬌	III	234
ビジネス翻訳	13621	檜本 雄三	III	220
ふ フランス語1	11633	平田 淳子	I	163
フランス語2	11637	平田 淳子	I	164
フランス語3	11641	平田 淳子	I	165
フランス語4	11645	平田 淳子	I	166
フランス語5	11649	平田 淳子	II	166
フランス語6	11653	平田 淳子	II	167
フランス語7	11657	平田 淳子	II	167
フランス語8	11661	平田 淳子	II	168
文学入門	11309	箕野 聡子	I	145
ほ 保育・教職実践演習(幼・小)	17686	作 美代子／大岸 啓子	IV	281
保育原理I	17605	中田 尚美	I	272
保育実習指導A	17811	中田 尚美	III	293
保育実習指導A	17811	渋谷 美智	III	294
保育実習指導B	17820	渋谷 美智	IV	295
保育相談支援	17772	佐々木 勝一	III	290
保育内容総論	17205	中田 尚美	I	253
保育内容の研究・言葉	17633	石田 伸子	II	275
保育内容の研究・環境	17721	渋谷 美智	III	284
保育内容の研究・健康	17717	竹安 知枝	III	284
保育内容の研究・人間関係	17629	澤田 瑞也	II	274
保育内容の研究・表現(身体表現)	17653	竹安 知枝	II	277
保育内容の研究・表現(造形表現)	17601	黒岩 和子	I	271
簿記会計学	11357	埴岡 忠清	II	149
ホスピタリティ精神論	13272	石丸 脩子	I	196
ホスピタリティ・マネジメント	13831	一尾 敏正	III	233
ボランティア論	17505	加藤 雅典	I	268
翻訳・通訳論入門	13301	平野 真理子	II	197
よ 幼児教育学原理	17617	中田 尚美	II	273
幼児教育課程の研究	17621	佐原 信江	II	273
幼児教育指導法	17725	佐原 信江	III	285
幼児指導論(カウンセリングを含む)	17729	石田 伸子	III	285
り 臨床心理学	17325	津田 明子	II	255
臨床心理学実習1(心理テスト法)	17373	中植 満美子	III	258
臨床心理学実習2(カウンセリング法)	17377	津田 明子	III	259

